

長 崎 大 学

原研創設25周年記念誌

長崎大学医学部

原爆後障害医療研究施設



原 研 正 面



原 研 側 面

目 次

はじめに	1
25周年に寄せて	3
原研の沿革と展望	6
部門紹介	
異常代謝部門	9
放射線生物物理学部門	14
病態生理学部門	18
後障害治療部門	22
先天異常部門	27
発症予防部門	36
原研創設25周年記念講演会記録	41
業績	53
現有機器	191
職員録	193

は じ め に

太平洋戦争の末期、1945年8月9日に長崎市松山上空500米で炸裂したプルトニウム原子爆弾によって長崎市の約半分である浦上地区を中心とした地域が焼滅し、約15万人におよぶ人々が死傷した。爆発によっておこる人体への影響として爆風や家屋の倒壊、硝子片などによる物理的障害と、高度の熱線による火傷の他、それまでの兵器にはなかった多量の放射線放出による影響があった。眼にみえない放射線は表皮を通し人体内部の諸臓器に達し、さまざまな異常をもたらすが、それは徐々に現れ、また長期にわたって観察される。人体におよぼすこのような影響の広範囲な観察は当然のことながら、人類には未経験のことであり未知の分野が多く、新しい医学として極めて重要な意義があった。いうまでもなく、単なる数十万を数える広島、長崎の被爆者の観察に止らず、後障害としてみられる異常、疾病の出現の機序や病態の解明の為には関連する基礎医学の研究によらねばならず、それらの研究にむしろ重点がおかれた。

昭和37年に本学医学部に原爆後障害医療研究施設が設置され、これらの分野に対する長崎大学医学部としての組織的な研究が開始された。原研の6部門が揃ったのは昭和42年であったが、創設から数えて四半世紀が過ぎたことになる。6部門のなかで、異常代謝部門のほかは既に二代目の教授に代っている。初代教授以来、それぞれの部門で努力し、積み重ねられてきた多くの業績は貴重な学問的資料として社会的にも役立ってきたけれども、それらを総合して解析し、それを土台として新たな研究方向を共同体として開拓する為の考察の時期がきているように思われる。

社会的情勢からみると、原子力を利用する平和産業の発展はチェルノブイリ事故にみられるような事故発生の危険を無視できないし、多量の地球上の核兵器備蓄のある実状は万が一の核爆発の際の人体に対する短期、長期の影響とその措置に対する医学的知識を必要とするものと考えられる。

広島、長崎によって得られた原爆放射線による長期の人体影響の系統的研究の成果はその基礎となるもので、他に類をみることができない。

以上のような社会的意義の重要性も鑑み、直接被爆者の最低年令層が漸く癌年令層にさしかかった今日、さらに未解決の問題を探っての研究展開を意図して原研の業績整理を中心とした記念誌発行を企画した。

本誌が長崎大学医学部の業績の一部として価値あるものであると同時に、本施設における研究の前進の新たな礎となり、また関係各分野に有用な資料として残るものであることを披歴するものである。

本誌の出版に当たり、関係各施設の方から御祝いと御鞭撻の御言葉を賜り、また資金の面で御援助をいただいたことに対し深甚の謝意を表す次第である。

昭和 63 年 6 月

長崎大学医学部

原爆後障害医療研究施設

施設長 市丸 道人

25 周年によせて

長崎大学名誉教授

岡 島 俊 三

原研の 25 周年と聞いて、4 分の 1 世紀が過ぎ去ったのかと一寸驚きに似た感じがする。短いようで長い 25 年であろうか。

私は創立の翌年、昭和 38 年に赴任して、昭和 60 年の停年まで、研究生活の大半をここで送ったことを思えば感無量のものがある。それまで全く原爆とは関係のない仕事をして来た者にとって、原爆後障害医療研究施設という特定の研究テーマを看板にしているところに職を奉じたからには、何かそれ相応の研究をしなければならぬという、とまどい、不安、あせりみたいなものを感じた。

創設当時は窮屈な研究環境にあり、やがて新研究棟に移った頃も、決して研究条件に恵まれていたとは言えず、夢中で、手さぐりで、できることなら何にでもとびついて悪戦苦闘を重ね、失敗だらけの 22 年間であったが、大過もなく過すことができたのは、私共の自由な研究を許し、温く見守って下さった大学当局、先輩、同僚の方々のおかげであり、さらに研究室員、学外の関係当局、被爆者、一般市民からのご協力とはげましによるものであり感謝にたえない。

原研の主任研究者も若い 2 代目に交替しつつあり、そういう意味では大きな節目の時代、脱皮の時期ともいえよう。

原爆後障害研究というものも、被爆者の年齢構成から考えて、あと 25 年が勝負となろうかと思う。次の 50 周年を迎えるまでに、新しい idea と approach で独創性と個性に富んだユニークな研究施設へと発展を続け、わが国ばかりでなく世界における先駆的な役割を果されんことを期待してやまない。

25 周年に寄せて

長崎大学名誉教授

西 森 一 正

1962 年原研最初の異常代謝部門が誕生し、6 番目の部門が設立されたのが 1967 年で、原 研の建物が竣工したのがその翌年である。この間、各部門は医学部のあちこちの部屋の間借りで、随分不自由な生活をした。

広島は、早く研究所になり医学部から独立したが、長崎は施設のままで、色々の苦勞があった。原研は医学部と差別はしないが区別をするなどと教授会でも言明する人もいた。

とくに本学の場合は原研の部門増に医学部講座の補強を意図する傾向にあったため、原研の在り方も微妙であった。例えば病態生理部門の発足に当たっても、各大学から優秀な候補者が多く私は停年近い松岡教授の後を継ぐべきものと言われ、候補には入っていなかったが、教授選考委員会から後になって候補に加えられ、三谷学部長から、原爆については他大学からでは様子がわからない。無理を承知でお願いすると言われた。教授就任に当っては「病理学第三講座のつもりでやってほしい。従って講義も剖検も三分の一受け持ってほしい」とのことであった。二十二年間の主任生活で私はその在り方に終始したが、すべての部門が同じとは言えなかった。

6 部門中既に 3 名の教授が他界されたことは残念なことであった。とくに故朝長教授とは原研の将来像について色々の構想を相談し被爆者の激減する時期を考え合わせ、血液学に関する研究所を夢みていた。当時朝長教授は血液学者として実力、名声ともにトップレベルにあったからである。私は血液そのものの専門家ではないので、血液を入れる血管でこれに加わろうなどと話していた。

われわれ退官後の各部門が大いに充実し、研究の成果をあげていることは嬉しいことであるが、原研の将来については文部省の意向、社会的背景などその対応は決してやさしいものではないように思われる。近距離被爆の数少ない生き残りとして私にとって原研は宿命的職場であったかも知れない。

25 周年に寄せて

(財)放射線影響協会

理事長 熊取 敏之

長崎大学医学部附属原爆後障害医療研究施設が創立 25 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

昭和 20 年 8 月に広島・長崎で爆発した原子爆弾による惨害の大きさ、犠牲者の多さは、当時、人類の経験したことのなかったものでした。特に原爆放射線は長年月にわたって人体に影響を及ぼすことが考えられ、その研究の重要性が広く認識された結果、長崎大学医学部に本施設が設立されたものと思います。被爆当時長崎には、名門長崎医大がありましたが、原爆により、多数の教官、学生を失われ、また、多くの施設や機器の損失に見舞われました。その廃墟の中から立ち上って、大学全体としても各界に多大の貢献をされていますが、その先鋒あるいは中核として本施設の方々が活躍されましたことに敬意を表したいと思います。

核兵器の残酷さは申すまでもありませんし、核兵器の廃絶を願わない者はいないと思います。また、原爆被爆によって亡くなれた方々には心から御冥福をお祈りし、原爆の悲惨な体験をされた方々には同情の念を禁じ得ません。しかし、一方では、私達医学者は原爆の後障害を最後まで根気よく見守る義務があると思いますが、これには冷静な科学者の眼をもって行う必要があるでしょう。このためには本研究施設が被爆された方々について、多方面からの診療や調査研究を続け、それによって得られた結果が重要な意義を持つものと思われれます。

原爆後障害医療の研究には各方面、とり分け放射線影響研究所等の研究施設や地元医師会等との協力が不可欠と思われますが、鎖国時代にも対外的に門戸を開いていた長崎の恵まれた環境の下で、本研究施設が今後益々発展されることを心から祈念する次第です。

原研の沿革と展望

原子爆弾後障害医療研究施設

施設長 市 丸 道 人

昭和 37 年、長崎大学医学部に原子爆弾後障害医療研究施設が設置された。最初に異常代謝部門ができ、昭和 38 年、放射線生物物理学部門、昭和 39 年、病態生理学部門、昭和 40 年、後障害治療部門、昭和 41 年先天異常部門、昭和 42 年発症予防部門の 6 部門が次々と設置され、原爆後障害研究の態勢が整った。現在の研究施設の建築は昭和 43 年 8 月に起工されて、昭和 44 年 3 月に竣工をみたのである。それまでは假住まいで研究を続けてきた 6 部門が、同じ建物のなかで研究ができる形ができあがった。異常代謝部門の初代教授として小池正彦教授が赴任されてより、放射線生物物理学部門に岡島俊三教授、病態生理学部門に西森一正教授、後障害治療部門に故朝長正允教授、先天異常部門に故塩見敏男教授、発症予防部門に故山下一邦教授がそれぞれ選出された。それぞれの教室は初代教授の専門分野の豊かな学識と経験を基にして意慾的にユニークな原子爆弾後障害研究のテーマに取り組み、多くの業績をあげるとともに専門分野において医学部の研究と教育、または診療に貢献してきたのである。既に不幸にして初代 6 教授のうち、3 人の教授が他界されており、原研としては真に残念なことであったが、朝長教授の後任として市丸が、塩見教授の後任として新川詔夫教授が選出され、研究の続行に従事した。山下教授の後には珠玖洋教授がついだが、間もなく珠玖教授は新設の腫瘍医学講座に移られ、その後任については現在選考中である。また、岡島、西森両教授は数々の業績を残して停年退官され、それぞれ、奥村寛教授、関根一郎教授が後をつがれた。その間、原研関連施設として原爆被災学術資料センター、ヒューマンカウンタ、中性子発生装置が医学部内に設置され、原子爆弾後障害研究に重大な役割りを占めていることを申し添えておきたい。

さて、原研の展望であるが、第 1 に原研というのは広島大とともに二つしかない研究施設であり、人類にとって未経験であった原爆の人体におよぼす障害の様相が極めて広範囲で致死率が高く、被爆後の病態に従来の医学では律しきれない不明な部分が多く、それらの解明のために設置されたと解される。原爆特有の障害の主た

る部分は放射線全身照射の影響と考えられ、細胞に与えた障害が如何なる異常として後に出現するかであり、多年に亘って影響は続くと思われた。現実に白血病をはじめ、種々のがん発生の増加が最も重大な影響として把握され、これは今尚、続いている。人におけるこの観察は他に類を見ず、白血病だけでも数々の新しい事実を明らかにした。比較的初期には影響なしとされた或種のがんが、時代とともに有意の増加をみたのもある。これらの悪性疾患はその種類によって発生の時期を異にし、頻度も被爆時の年齢によっても違いを見せた。またそれぞれの放射線量による域値も異っている。同条件の被爆者であってもすべてが発病するとは限らず、放射線を最初の原因としても発病に関与する多くの因子の関与が想定されるが、それらについては尚、不明の点が多い。

このように現在までに得られた影響はやっと事実として把握された段階であり、これが今後どうなるのかという答は出ていない。いうまでもなくこの答は今後の観察によって得られるものである。また得られた事実に対して、何故かの答もない。これに対する答は単に被爆者に止まらず、研究対象を広げた基礎的研究によって得られる。

一方、このような医学分野は既存の医書には体系づけられたものとしては殆んど存在しない。平和時においてもチェルノブイリのような原子力事故によって、広島、長崎と同様のことがおこる時代であるし、地球上に備蓄された多くの核兵器を考慮すれば、広島、長崎によって得られた医学的経験のもつ意義は重大である。すなわち、原子病学といえる医学の分野は体系的確立を迫られている学問分野である。最年少の被爆者が40才を越えるようになった今後の注意深い観察が必要であるとともに、得られた事実の科学的うらづけを行うこと、また、被爆直後から現在、将来を含めた人体への影響を学問として体系づけることが要求されるであろう。そのためには被爆直後から蓄えられた膨大な資料を現在の各分野の新しい医学的視野で見直すことも必要と思われる。見のがされている重要な部分が必ずあるはずである。また、その為の資料センターが設置されたのである。要するに貴重な体験に基くこれらの医学は未だ十分に活用されているとは言い難いのである。

原爆問題は社会的意義も大きなものがあり、真の原爆の影響に対する種々の問いかけに科学的に解答を行う社会的責務もある。

以上述べたような見地から本記念誌の果す役割りは真に重大である。

部 門 紹 介

異常代謝部門

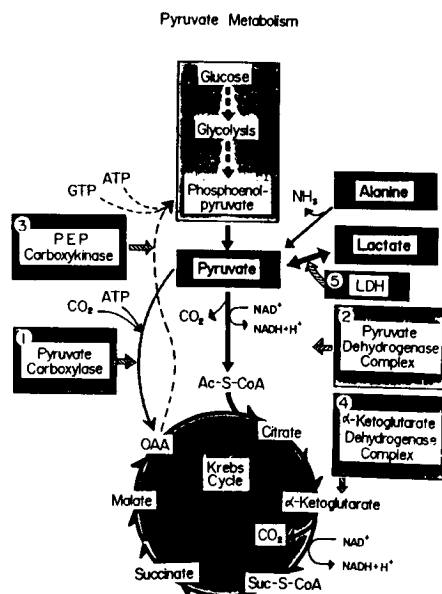
(原研異常)

当部門は昭和 37 年原爆後障害医療研究施設の第一号部門として開講され、初代教授である小池正彦教授を中心にして活発に研究活動を行なっています。

被爆者の血清・尿を検査材料として臨床生化学的に調べると同時にタンパク質や酵素に関する最先端技術を巾広く導入し、エネルギー代謝並びに物質代謝の担い手である酵素や機能タンパク質を指標にして酵素化学的並びにタンパク化学的側面から原爆後障害の発症要因を探ると共に、加齢に伴って発現することが見出された M 型免疫グロブリン (IgM) の増量、解糖系酵素アイソザイムを指標にした発癌機構及び遺伝的酵素欠損によって起こされ、慢性酸血症を呈する先天性代謝異常症の発症機序を解析し、原爆後障害発症の本態を解明し、原爆後遺症の治療方針確立に寄与することを目標にして研究を推進してきた結果、国内外で高く評価される数多くの成果を挙げることが出来、また愛知学院大歯学部（生化学）早川太郎教授、宮崎医大（衛生学）濱田稔教授、鹿児島大医学部（内科学）田中信行教授を始めとして全国に巣立った同門は臨床並びに基礎医学の各分野の第一線で目覚ましい活躍を続けています。

当部門の第一の研究課題である被爆者の加齢に伴って IgM が増量する機構の本態、次いで発癌の本態、重度難病である先天性代謝異常症の病因の解明には蛋白化学的・酵素化学的・遺伝生化学的研究では接近できず、遺伝子レベルでの解析が不可欠と判断した。そこで、生命の基本単位である細胞のエネルギー産生のダイナモに相当するミトコンドリアに局在するピルビン酸脱水素酵素複合体をターゲットとして、その分離、構造、機能と活性制御機構を解明し、次に本複合体を構成する三種の成分酵素遺伝子 (cDNA) の分離に取組み、先ず本複合体反応の初段階反応に与る第一の成分のチアミン酵素遺伝子の分離に成功し、その塩基配列を決定した。次いで、染色体上の局在、ゲノム遺伝子の分離に着手し、順次得られるこれらの成果を手掛かりとして原爆後障害発症要因の解明をバイオテクノロジーの最先端技術

を導入し推進中である。



研究内容

1. 原爆被爆者の加齢に関する研究

原爆被爆者と対照群として非被爆者の静脈血は、ヘパリン採血し、直ちに血清を遠心分離し、尿は採取後使用時まで -20°C に保存し、実験に供した。

検査項目—尿：17-oxosteroids量及び17-hydroxycorticosteroids量，血清：総タンパク質量，Albumin量，Globulin量，免疫グロブリン量(IgG, IgA, IgM)，血清タンパク質分画パターン及び乳酸脱水素酵素活性値。

結果—各年齢層に於ける被爆者群と対照群の尿中17-oxosteroids/17-hydroxysteroids比，血清の総タンパク質量，Albumin量，Globulin量，A/G比，免疫グロブリン中IgG量，IgA量，血清タンパク質分画パターン及び乳酸脱水素酵素活性値に有意差は認められなかった。免疫グロブリン中IgMは，被爆者の加齢に伴って統計的有意差をもって増量していることが判明した。しかし，何故IgMのみに産生異常が出現するのかについては全く不明で，今後IgMの遺伝子レベルでの増量機序の解明が不可欠であると考えられる。

2. 細胞のがん化機序の解明

エネルギー代謝の主経路である嫌氣的解糖系の鍵酵素である乳酸脱水素酵素とホスホフルクトキナーゼのアイソザイムを指標にして、発がんまでの全過程を追跡し易いヒト子宮筋、筋腫、肉腫、及び頸部癌組織をモデルとして選んだ。

(1) 乳酸脱水素酵素

ヒト正常子宮筋及び病態型組織ホモジネートの遠心上清をエタノール分画、硫安分画、リン酸カルシウムゲル吸着、DEAE-セルロース及びヒドロキシアパタイトカラムクロマトグラフィーを繰り返して5型のアイソザイムを分離・精製した。

各アイソザイム含量、沈降常数と拡散常数から計算された分子量、SH含量、熱安定性及びNAD還元速度等の正常と病態型との蛋白化学的、酵素化学的比較研究を行ない、子宮筋の腫瘍化と平行して活性発現に必要な高次構造形成遅延に伴う三次元構造異常を認めたが発癌の本態の解明にまでは至らなかった。

(2) ホスホフルクトキナーゼ

ヒト子宮筋及び筋腫組織からトリス緩衝液、Mg-エタノール分画、pH5.5沈殿、加熱処理、硫安分画及びATP-セファロースアフィニティーカラムクロマトグラフィー等を併用して分離・精製した。

正常子宮筋酵素は筋肉型の α サブユニットの四量体、筋腫酵素は筋肉型の α サブユニット2個と肝臓型の β サブユニット2個がハイブリッドした四量体構造で、活性発現していることをつきとめ、その反応動力学解析を行なった。

3. 哺乳動物 α -ケト酸脱水素酵素複合体

解糖系、クエン酸(TCA)回路及び脂肪酸の β 酸化系の分岐点に位置するピルビン酸及びTCA回路の中間体である α -ケトグルタル酸の酸化的脱炭酸分解を触媒するピルビン酸脱水素酵素複合体(PDC)及び α -ケトグルタル酸脱水素酵素複合体(OGDC)はチアミン、リボ酸、フラビンを補酵素とする3種の成分酵素が合目的的に分子集合して構築され機能発現している分子量数百万の巨大な酵素複合体である。

両複合体をブタ心筋ミトコンドリア画分からプロタミン分画により一元的に分画し、更にPDCは超遠心沈殿、リン酸カルシウムゲルクロマト、硫安分画により、OGDCはトリトンX-100処理、リン酸カルシウムゲルクロマト、硫安分画により

高純度標品を得る方法を確立した。両複合体は尿素又は塩酸グアニジン存在下ゲルろ過用カラムを用い HPLC で収率よく短時間に活性を保持した 3 成分酵素を解離、分画することに成功した。また、分離した 3 成分酵素を複合体中の含量比率で混合するだけで会合が起こり、元の機能をもった複合体が再構成されることを発見した。次いで両複合体、成分酵素及び再構成複合体の構造、酵素化学的、蛋白化学的、物理的諸性質、サブユニット構造及び活性制御機構を明らかにした。

成分酵素の一つであるフラビン酵素をヒト肝臓からも分離し、性質を明らかにしたが、ヒト臓器から精製された本酵素の唯一の報告として世界中で引用されている。

生直下子ブタ肝・心よりグアニジンイソシアネート法、次いでオリゴ (dT) セルロースカラムクロマト法で mRNA を精製し、家兎網状赤血球溶血液を用いる無細胞合成系で翻訳させると、各成分酵素の前駆体が証明されるところから、前駆体はミトコンドリアへ移行しプロセッシングを受けて成熟型になるものと推定した。

次いで、各成分酵素合成を制御する遺伝子 (cDNA) のクローン化に取組み、 λ gt11 に組込まれたヒト HeLa 細胞 cDNA ライブラリーから免疫化学的スクリーニング法でチアミン酵素を構成している α 及び β サブユニット (鎖) の部分 cDNA を分離し、これをプローブとして包皮繊維芽細胞 cDNA ライブラリーからハイブリダイゼーション法で完全長の両鎖 cDNA を分離し全塩基配列を決定した。引続き両鎖ゲノム遺伝子のクローン化と構造解析を推進している。

4. 先天性代謝異常症の本態の解明

1970 年代の始めから慢性の酸血症 (高ピルビン酸・高乳酸血症) を伴い、進行性の知能・運動・神経障害を主症状とする先天性代謝異常症が報告されるようになり、その主病因としてピルビン酸代謝関連酵素の欠損が挙げられるようになったことから、全国の医育機関、診療機関から 300 余症例の生検・剖検例の白血球、臓器・組織及び培養細胞の欠損酵素活性診断依頼を受けるようになった。先ず mg オーダーの超微量試料中の活性測定を可能にするため 9 種類のピルビン酸代謝関連酵素の超微量活性測定法を確立し、8 例のピルビン酸脱水素酵素欠損症を発見した。

欠損症患者の臓器粗抽出液を SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動後ニトロセルロース膜に Western ブロットし、抗ピルビン酸脱水素酵素家兎抗体と反応させ、 $[^{125}\text{I}]$ プロティン A で検出すると正常のバンドは検出されず、免疫反応の弱い

正常より分子量の大きい新生バンドが検出され、酵素タンパク質合成上、遺伝子レベルでの異常（酵素欠失）が起きていることが示唆された。

分枝鎖アミノ酸の代謝異常症である楓糖尿症や酸血症の確定診断・経過追跡・治療方針確立のため、超微量の血清・尿中の7種類の α -ケト酸の迅速定量法を確立した。すなわち α -ケト酸をオルトフェナジンジアミンと縮合させ蛍光性のキノキサリン誘導体化し、逆相カラムを用いHPLCでアイソクラティック溶出する定量法を開発し、国際的に評価され、医療の最前線から問合せをうけている。

放射線生物物理学部門

(原研放射)

原爆放射線の人体への影響を解明するには、物理的な側面と生物学的な側面と両方から行なう必要がある。昭和 38 年に着任された岡島俊三初代教授は主に物理的な側面の研究を開始され、放射線測定の確立と、放射性セシウムやプルトニウムの原爆放射性降下物の測定、放射性ユーロピウムの測定や歯と貝ボタンの ESR (電子スピン共鳴) 信号測定による原爆線量の再評価に力を注がれた。この研究は法村俊之講師(現:産業医科大学助教授)及び巽純子助手(現:京都大学医学部助手)によって補佐された。放射線の生物学的側面の研究は大河原重之講師(現:開業)のトロトラストによる放射線の影響、青山喬助教授(現:滋賀医科大学教授)による放射線加令の研究など細胞からマウス、ヒトにまで及ぶ幅広い研究、熱田襄助手による酵母菌を用いた誘導酵素合成に対する放射線効果の研究が続けられた。昭和 61 年からは 2 代目の奥村寛教授が引継ぎ、昭和 62 年に新しく着任した小松賢志講師と児玉靖司助手によって物理面と生物面を分担し、吉田正博技官および島崎達也技官とともに原爆放射線測定及び発癌の機構を含む放射線生物学の生物物理学研究が進められている。

研究内容

1. 原爆放射性降下物の分布

原爆爆発の後、爆心地から東 3 km 離れた西山地区に黒い雨とともに放射性降下物が集中的に降ちた。1969 年(原爆後 24 年)西山地区の住民の体内に含まれる放射性降下物セシウムを測定すると一般人の 2 倍あった。しかし 1981 年の測定では、一般人との差はなかった。西山地区の土壌及び農作物(玉ネギ、カボチャ、ナスビ、

キュウリなど）に含まれる放射性降下物セシウムを測定すると、やはり2倍の量が認められた。また長崎原爆はプルトニウム核爆発によるものであるので、プルトニウムが散布されている可能性がある。プルトニウムはアルファ線しか放出しないので、セシウムと比べ測定が困難であるが、土壌及び農作物からプルトニウムを化学的に抽出し、真空中で測定した。一般地域と比較して、西山地区のプルトニウム量は10倍あった。

以上の結果より、現在でも原爆による放射性降下物は検出されたが、微量であるため、人体にその放射線による影響はないと思われる。

2. 原爆線量の再評価

原爆放射線の影響を調べる場合には、被曝した放射線量を正確に求めることが必要である。ごく最近までは1965年に推定されたT65D（1965年暫定線量）を用いてきた。しかし、この線量推定は正確でないことが明らかとなり、日米で再検討されることとなった。アメリカの研究者は電子計算機による理論計算を行なったのに対し、我々は2つのテーマについて実測値により線量の再評価を行なった。1つは、原爆中性子線によって誘導された岩石中の放射性ユーロピウムの測定である。我々は、爆心地附近の河川の石垣が被爆当時のままに保存されていることに注目し、岩石中の放射性ユーロピウムの測定を行い、中性子線量を推定した。第2のテーマは、被爆者の歯や貝ボタンのESR（電子スピン共鳴）測定である。被曝放射線量に応じてESR信号が増すことから、被爆者の放射線被曝線量を求めた。

3. 放射線及び化学物質の癌誘発に及ぼす諸因子

全身一様に放射線被曝したとしても発生する癌は各組織にわたって一様ではなく、発生しやすい組織と発生しにくい組織がある。これは癌誘発に及ぼす多くの因子が生体内にあり、それが各組織によって異なることを示す一例であろう。放射線あるいは化学物質によって細胞に生じた損傷が複雑な段階を経て組織レベルの癌に発展していく。我々はより単純な細胞レベルでの癌化（Cell Transformation）を取り上げて、それらに及ぼす諸因子を解明し、発癌のリスクを推定するとともに、癌抑制の基礎資料を得ることを目的としている。具体的には、①C3H10T1/2細胞を使って中性子など各種放射線の発癌性、②環境中や生体内に存在する癌抑制あ

るいは促進物質の検索，③ハイパーサーミアのような新癌治療法における副作用としての発癌性，④癌化に至る損傷から細胞の回復能力，⑤高発癌性，高放射線感受性として知られるアタキシア・テランジュクタシア細胞の致死及び発癌機構などである。

4. 放射線発癌過程における染色体変異

放射線により細胞の癌化が誘発されることはよく知られた事実であるが，初期損傷から悪性形質に至る過程は複雑であり，未だ解明されていない部分が数多く残されている。培養細胞を用いた試験管内発癌実験系は，この複雑な発癌過程を細胞レベルでの形質変化として捉えることのできる利点を有することから，今日，発癌過程を分子レベルで解明するための有力な手段として用いられている。我々は，この試験管内発癌実験系を用いて，細胞遺伝学的な側面から発癌のプロセスを解析してきた。即ち，細胞にX線を照射し，その後に出現する悪性形質獲得細胞を分離して染色体構成を詳細に分析し，細胞が癌化する過程でどのような染色体変異が生じているかを調べてみた。その結果，癌形質の発現に関与する特異的な染色体変異を見いだした。これを手がかりに，さらに詳細な核型の検討を現在進めている。

5. 低線量放射線による生体刺激効果

「微量放射線は生体にとって有益である」という放射線のホルミシス（生体刺激）効果は，従来からの放射線生物学の常識を一変させるインパクトを与えている。最近，この現象を学問的に追究し，解明しようという機運が盛り上がってきており，我々も，低線量のX線をマウスに照射して，実験的に放射線のホルミシス効果を検証する試みをしている。極低線量の放射線に対して感度の高い生体反応系が存在することは確認したので，この系を用いて今後研究を進める。放射線ホルミシスに関する研究は，放射線生物学でも全く新しい分野であり，今後の研究の進展が大いに期待されているものである。

6. 高温処理による細胞致死効果

高温処理（ハイパーサーミア）は癌治療の新しい手段としてその効果が期待される。高温処理はそれ単独で，癌細胞に対して致死効果が認められるとともに，放射

線照射あるいは抗癌剤投与と併用すると、それらの効果を増強する。C3Hマウス乳癌由来培養系FM3A細胞を用い、40℃～46℃の温度範囲で細胞致死効果を解析した。温度上昇とともに致死効果は増したが、42.5℃を境として温度上昇による致死効果の増加が小さくなった。X線照射および抗癌剤と高温処理との併用時の増感効果の温度依存性を調べた。高温処理単独と同様に42℃～42.5℃に変曲点のある増感効果の温度上昇がみられた。高温処理と超音波照射との併用の増感効果も調べた。上記結果より、高温処理を他の治療法との併用は増感効果があり、癌治療の成績向上に貢献すると考えた。

7. 放射線安全取扱管理

放射線とラジオアイソトープの利用は基礎医学研究にとって欠くことのできないものである。それらの利用にあたって放射線障害を生じさせない利用方法と管理が必要となる。我々は各々の研究目的にあった放射線装置及びラジオアイソトープ利用施設の維持・保守方法を開発し、放射線の安全取扱管理の確立に努力している。具体的には、放射線装置については200 kV X線装置、14 MeV 中性子発生装置、ホールボディカウンタであり、ラジオアイソトープについてはRIセンターと協同行なっている。また医学部内に設置されている教育研究用X線装置に対しても管理に協力している。

病態生理学部門

(原研病理)

病態生理学部門の歩みは、昭和 39 年 8 月に原研施設第 3 番目の部門として開設したことに始まる。初代教授には、当時本邦血管病理の第一人者であった故松岡茂教授に師事されていた西森一正第二病理学教室助教授が就任された。西森教授御自身学生実習中に被爆され九死に一生を得られた被爆者であることは、運命的な結び付きを感じさせる。西森教授は在任中、長崎地区原爆被爆者の剖検、生検資料の整理収集を体系づけられ、病理疫学的な貴重なデータを数多く残された。現在もこの研究課題は当部門の最優先課題として、本学原爆被災学術センター病理部門との協力のもとに続けられている。また、西森教授は腎臓病学、血管病理学の分野でも第一人者として活躍された。

当部門の創設・発展には初代重松助教授をはじめ、津田助教授、関根助教授、岸川助教授（センター病理部門）の甚力のほか、多くの先輩方の努力を忘れることはできない。

部門開設 24 年が経ち、第二代目教授として関根助教授が昇任、西森教室の厳しさの中にもリベラルな雰囲気や重んじる伝統が受け継がれ、新しい教室づくりの途にある。関根教授は、学内外の研究者との交流を深め幅広い研究を目指している。現在の医局員構成は、関根教授以下、助手 3 名、大学院生 3 名、文部技官 2 名、研究補助員 4 名の総勢 13 名よりなる。教室の仕事は、人体病理、実験病理、教育の三者からなる。一般病理は、病理解剖と手術・生検材料の検索が中心で、医学部附属病院の病理解剖及び、国立長崎中央病院、国立嬉野病院、健保諫早病院、十善会病院、春回会井上病院、聖フランシスコ病院などの関連病院の病理検査を行っている。

研究テーマは、1)原爆被爆後障害の病理疫学的調査、2)放射線障害の病理学的研究—とくに放射線誘発癌について—、3)自律神経とストレスに関する病理・病態生理学的研究を柱とし、その他にも独創的なテーマに取り組んでいる。ストレスに関する研究は、西森教授のユニークな“心因性ストレスと血管病変”のテーマに基す

るところがある。

教室の公式スポーツは、昼休みのレクリエーションとしてフリーテニスが、教室員の健康維持、且つラボランチンの美容のために賑やかに行われている。

研究内容

当部門研究内容の主柱は3項目に大別される。

1)原爆被爆者後障害の病理学的研究：とくに病理解剖例を用いて、2)放射線障害：とくに発癌に関する病理形態学的研究、3)ストレスと自律神経：とくに自律神経機能異常ラットを用いての病態生理学且つ病理形態学的研究である。

1. 原爆被爆者後障害の病理学的研究：とくに病理解剖例を用いて

研究目的：原爆被爆者には種々の後障害が生じることが指摘されている。特に発癌は最重要事項である。原爆投下5年にして被爆者に白血病の急増をみ、近年に至って甲状腺、乳腺、唾液腺、胃、肺等に生ずる種々の臓器癌の発生率の高いことが疫学的に明らかにされつつある。長崎大学および主要関連病院では戦後約15,000体に及ぶ病理解剖がなされ、その剖検記録と標本が保存されている。これらより被爆者例を抽出、被爆と発癌の関連を病理・疫学的に明らかにすること、また被爆者に生じるその他の後障害の実態を病理形態学的に明らかにすることを主目的とする。

現況と展望：長崎地区における全病理解剖例記録は現在本学原爆被災学術資料センター病理部との協力のもとにコンピューターに整理収納されつつある。これ迄に悪性腫瘍をはじめ種々の疾患につき、剖検例をもとに被爆者と非被爆者の差異につき病理学的に検討を行ってきた。種々の悪性腫瘍で発生率の増加が確認または推定されたが、その他の疾患については明確な差異は把握されていない。今後とも研究を続行し、被爆者の悪性腫瘍をはじめその他後障害の実態を検討し、将来に対して記録を残す必要があろう。

2. 放射線障害、とくに発癌、また放射線誘発腫瘍に関する病理形態学的研究

研究目的：放射線のヒトに対する発癌性は上記の如く原爆被爆者において、旧くは放射線科診療者等職業的被曝者に、また放射線治療対象者に知られているが、大腸腺癌における腺腫の如く、いかなる前癌変化を基盤として癌が発生していくか全く知られていない。当部門では上記剖検材料をもとに、また放射線治療者における腫瘍発生症例の生検・手術材料をもとに放射線誘発癌の発生機序を形態学的に明らかにしたい。

現況と展望：放射線とヒト発癌の関連の形態学的機序解明のために、放射線照射と腫瘍発生の因果関係が一番明確と思われる放射線治療歴のある患者に腫瘍発生をみた云わゆる放射線誘発腫瘍症例を、剖検例及び長崎腫瘍組織登録委員会の生検・手術症例より抽出し、臨床的資料とともに、病理学的検討のためのパラフィンブロック等を収集している。

これ迄に長崎地区の全剖検例の中で重複癌例を抽出、検索した結果7例の放射線誘発癌症例を見出し、病理学的見地から報告した。さらに1973年～1984年に長崎腫瘍組織登録委員会に登録された腫瘍及び腫瘍様病変約64,000件の臨床病理学的検索結果、良性また悪性の放射線誘発腫瘍計32例を見出し報告した。

また骨盤内悪性腫瘍放射線治療後の直腸・結腸粘膜の組織学的検索を行い、所謂通常大腸癌が腺腫を母体として発生するとされるのに対して、放射線誘発癌はそれと異なった粘膜変化を背景として発生する可能性を論じた発表を行っている。

収集した病理検索材料を用いて、免疫組織化学はじめ種々の組織学的研究手技を用いて、放射線による発癌の背景変化、いわゆる前癌病変、さらに誘発癌の形態学的特性の研究に応用し、且つまた放射線誘発癌の予知に役立つ組織変化の把握に務めたい。

3. ストレスと自律神経：とくに自律神経機能異常ラットを用いての病態生理学また病理形態学的研究

研究目的：現代高度化社会においては種々のストレスが人間健康に様々な侵襲を与えているとされる。これらストレスに対して生体組織が反応する場合、そこにおける自律神経の関与は、下垂体・副腎系と並び、重要である。しかしながら、自律神経とストレスの関係を探る適当なモデル動物は未だ開発されていない。当部門ではストレスが身体に与える影響をみる実験法として水浸拘束胃潰瘍を用いている。

遺伝性高血圧モデルとして頻用されている高血圧自然発症ラット (SHR) また視床下部性肥満モデルとして利用されている Monosodium glutamate (MSG) ラットに水浸拘束を負荷したところ、SHR には胃潰瘍は発生せず、MSG ラットには高度の胃潰瘍が発生することが解った。胃のカテコールアミン・アセチルコリン含有量の測定により、SHR が交感神経亢進モデル、MSG ラットが副交感神経亢進モデルであることが判明した。これらのラットを用いて自律神経異常状態が生体形態に及ぼす影響、またストレスへの対応の機構を探ろうと検討している。

現況と展望：SHR、MSGラットの自律神経異常を基盤とした形態学的差異、またストレスに対する対応の違いを各臓器別に検討している。

後障害治療部門

(原研内科)

原研内科は原研6部門のなかで臨床部門として昭和40年に開設された。初代教授として故朝長正允教授が広島大学より赴任された。

教授は本学出身であり、内科の創設に当たって、原爆後障害の研究と同時に、血液内科としての内容充実に意欲的な研究・診療を始められたが、昭和46年、志半ばにして他界された。

昭和47年、後任として市丸道人教授が就任され今日に至っているが、現教職員41名、研究補助員11名よりなり、既に教室出身で第一線で活躍中の医師も約30名に達している。

教室は当初、旧附属病院の旧眼科病棟の1、2階に住み、診療、研究が開始されたが、病院の改築に伴って、1時旧高北病棟の仮隅を経て、昭和44年、現在地に居を定めた。

現附属病院11階に40ベッドをもって、主として造血器疾患の診療をおこなっているが、研究テーマとして次のようなものがあげられる。

原爆被爆者の白血病、前白血病、再生不良性貧血、骨髓腫、悪性リンパ腫、皮膚癌など各種造血器疾患や一部のがんなどの発生状況、病型等を調査して原爆放射線との関係について検討するとともに、免疫学的細胞表面形質、組織化学、DNA解析、細胞遺伝学、細胞機能等の方法を手段としてこれらの疾患の病態研究を展開してきた。一方、本来の使命である白血病、悪性リンパ腫などの治療について多剤併用化学療法を中心に免疫療法、随伴する各種感染症対策など治療面の成績向上を目指し臨床研究を行ってきた。レトロウイルス(HTLV-I)の感染者から発症する成人T細胞白血病(ATL)の研究も一つのテーマである。

最近における被爆者皮膚がんの増加傾向、被爆者白血病の見直し等とともに被爆者染色体異常の意義など、今なおみられる前白血病的異常とともに後障害研究に残された問題も多く、白血病治療の確立や、放射線やウイルスによる発癌機序の解明

にも取り組んでいる。

研究内容

1. 原爆白血病の研究

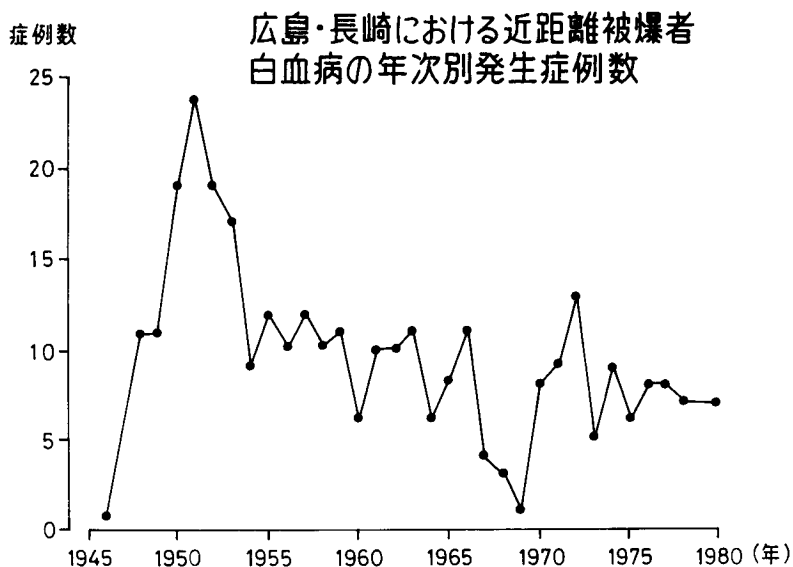
原爆白血病は放射線全身一回照射を受けた人の長期にわたる影響としての白血病発生状況を明らかにした。最大の発生が被爆後5～6年目にみられたが、発生率は低下したものの現在も完全に終息したとは言い難い。とくに広島での近距離被爆者からの発生がみられる。

被爆者白血病は急性、慢性型ともに明らかに被曝線量と発生率が関連しており、被爆の影響は明らかである。慢性骨髄性白血病（CML）は被爆者白血病として特に特徴的でその発生は広島に多い。

多くの被爆者のなかに前白血病的異常もみいだされ、染色体異常の保有率が高い。

被爆者白血病の発生が被爆時年齢に強い関連があることも判明した。

近年のFAB分類によつての再検討により被爆者白血病に病型的特徴があることも判明しつつあり、被爆者白血病と二次性白血病、自然発生白血病との差異についても検討中である。



2. 成人T細胞白血病の研究

成人T細胞白血病(ATL)は、ヒトにおいて初めてウイルスとの関連が証明された悪性腫瘍である。当科におけるATLの研究の歴史は昭和40年代後半、リンパ球にT cell, B cellが発見された頃にさかのぼる。当時はT細胞性白血性悪性リンパ腫としてとらえ、その特異な病態に注目していた。HTLV-Iの発見以来、現在までに当科において行われた研究成果は、1. 病型分類の確立、病型による治療反応性の差の証明、2. 家族集積性の証明、3. HTLV-Iキャリアの県内分布状況調査、4. ATL家系内のキャリア頻度の確定、5. ATL細胞のin vitro機能の証明、6. ATLの特異的染色体異常の発見、7. HTLV-Iの経口感染の証明、8. HTLV-Iの経母乳感染の証明、9. 母乳停止によるHTLV-I感染阻止実験の開始、10. Pre-ATLの存在の証明などである。

今後は、ATLの治療法の確立、HTLV-IキャリアのATL発症機序の解明が最大の研究課題である。



写真 1

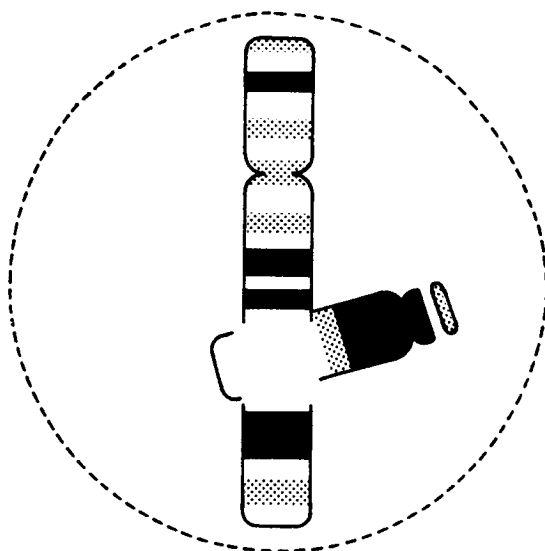
3. 造血幹細胞の研究

Till と McCulloch による造血幹細胞 (Stem Cell) の存在証明にはじまる実験血液学の確立は、この 20 年間に白血病や再生不良性貧血等が Stem Cell Disease であることをあきらかにした。原研内科においてもコロニー形成による幹細胞測定法を確立し病態解明を行ってきた。高線量被爆者に現在なお残る染色体異常が幹細胞において生じることをあきらかにし、原爆放射線による白血病誘発が幹細胞を標的として生じる可能性に理論的根拠をあたえた。また前白血病状態である Myelodysplastic Syndrome が幹細胞に生じたクローン性造血障害であることを証明した。現在正常クローンとの生物学的差異を利用した治療を開発すべく努力している。コロニー形成法は白血病細胞の造血因子に対する反応性を研究する上で必須のものである。遺伝子工学的に大量生産される造血因子を実際に白血病の治療に応用する段階にきており、治療成績の向上が期待されている。

4. 染色体の研究

DNA の担荷体である染色体の研究は、白血病をはじめとする各種悪性腫瘍の発癌機構を解明する手段として、ますます重要視されてきている。当教室における染色体研究は、通常染色法から分染法へと染色体技術革新が展開されている最中に開始された。勿論わが国では、血液疾患の病態解明に染色体分染法を取り入れた最初の教室の 1 つでもある。以来、血液疾患を中心とした研究成果が数多く報告され、その主要内容を列記すると以下のごとくである。1. 被爆者白血病症例の染色体異常と白血病発生機序に関する考察、2. 成人 T 細胞白血病の特異的染色体異常としての 14q11 異常の発見と発生機序に関する考察、3. 造血幹細胞コロニーの性状、4. 各種白血病型における染色体異常の特異性、5. 各種白血病における染色体異常と予後との関連、6. 被爆者皮膚癌の増加を示唆した皮膚培養細胞の染色体異常。

今後の染色体研究の方向性としては、染色体異常と癌遺伝子発現との関連を中心に、被爆者白血病をはじめとして各種悪性腫瘍における発癌機構の解明に努力してゆきたい。



5. 白血病の治療研究

被爆者に多く発生した白血病の研究に始まった原研内科の白血病に対する取り組みは、究極的には白血病の治療をもたらし治療法の確立を目指している。化学療法による急性白血病の治療成績は年々向上し、少数例ながら10年以上の完全寛解例も出つつある。しかし7～9年目にしての再発例が見られる等、楽観できる段階にはない。化学療法に加えて骨髄移植を導入すべきかの検討も急務となってきた。またひとつの施設における年間経験例数の少ないことからくる我国特有の隘路を開き、昭和62年から名古屋大学、日本大学、熊本大学、大阪成人病センター、広島日赤病院等の14施設と共同の治療プロトコルを、成人急性白血病についてスタートさせた（Japan Leukemia Study Group）。今後数百例単位での治療成績の分析にもとづいて治療法を改良しつつ、造血因子等の新しい理念もとり入れて行く態勢が整った。

先天異常部門

(原研遺伝)

本部門は、放射線被爆の遺伝的影響あるいは先天異常に対する影響を主として基礎医学的立場から研究することを目的に、原研の第5番目の研究部門として昭和41年4月に設置された。初代主任は広島大学より迎えられた塩見敏男教授である。以後吉川勲助教授、綾木歳一助手と共にショウジョウバエを実験モデルとして、その遺伝子に対する環境変異原の効果を研究してこられたが、志し半ばにして昭和58年に急逝された。昭和59年に現新川詔夫教授が後任として着任してからは、教室の研究は従来の実験動物における研究グループと、課題をヒトに拡大した研究グループ（陣野吉弘助手、松本正助手）の両輪をもって現在に至っている。

研究内容

1. ヒト染色体異常研究グループ

(1) 「de novo 染色体構造異常の発生機構に関する研究」(阿部京子, 原田直樹, 新川詔夫) : de novo 構造異常は親の配偶子形成過程で発生すると考えられている。数的異常の大半は母成熟分裂時の不分離に起因するのに対し、構造異常は父の成熟分裂過程で発生するとする仮説を検証するために、当教室で先に開発した高精度分染と QFQ-RFA 二重分染法 (Kamei et al, 1986) を応用し、患者染色体異型性を両親のそれと比較検討して親起源を追求した。追求した、生存可能なヒト de novo 構造異常は全て父配偶子形成過程で発生していることがわかった。

(2) 「18トリソミーの発生機構に関する研究」(近藤達郎, 外木秀文, 阿部京子, 原田直樹, 新川詔夫) : No. 18 には染色体異型などの遺伝マーカーがないことから18トリソミーの親起源は不明であった。本教室において Prealbumin

(PAL) 遺伝子座位が 18q11-12.1 と同定した (Jinno et al, 1986) のを契機に, PAL 遺伝子の RFLP をマーカーにして, 18 トリソミーの起源を追求し, 5 例の内 3 例は母成熟分裂での不分離によると結論した (Kondoh et al, 1988)。

(3) 「制限酵素を用いた染色体異型性の研究」(阿部京子, 原田直樹, 新川詔夫) : ある制限酵素で標本上の染色体を直接切断すると, Cバンドに相当する部分が異型性を示すことが最近判明した。制限酵素の種類によって異型を示す染色体が異なる可能性を追求するため, また従来不完全であった所見を確実にするための研究を現在行っている。

2. 分子遺伝学研究グループ

(1) Glycerol kinase (GK) 遺伝子の単離 (松本正, 近藤達郎, 広田哲也, M. C. Wapenaar, 新川詔夫) : 複合型 GK 欠損症という特異な疾患は GK 欠損の他に, それぞれ原因が無関係と思われる症状 (先天性副腎低形成, 筋 dystrophy, 精神遅滞) を合併する。本邦に存在する 6 家族中 5 家族における分子遺伝学的研究により, 患者全例が, 程度はそれぞれ異なるが, X 染色体短腕 p21.1 付近の広範な DNA 欠失を示すことが判明した。この欠失部分には Duchenne 筋 dystrophy (DMD) 遺伝子の一部も含んでいた (Matsumoto et al, 1988)。示唆的な 1 症例はその欠失近位断端は既知のクローン化 DNA であり, この断片を出発点にすれば欠失遠位断片も単離でき, X 染色体 library 及び染色体 walking によって欠失全体の DNA 単離が可能である。欠失部分にはそれぞれの症状の原因遺伝子が存在するので, これらを単離する研究を開始した。この Strategy は近年開発された Reverse Genetics のそれである。

(2) 「21-水酸化酵素 (21-OH) 欠損症の分子遺伝学的研究」(近藤達郎, 新川詔夫) : 11 発端者の 21-OH 遺伝子の変異構造を分析した。遺伝子欠失は 1 例, 遺伝子変換は 2 例, 遺伝的複合個体は 5 例であった。点突然変異は遺伝子診断が困難であると予想されるため, 正常日本人集団における診断に有用な新しい DNA 多型 (RFLP) を探索し, その頻度を算出した (近藤, 1988)。この結果を利用して, 5 家族における出生前診断を試み, 3 胎児の診断に成功した (Matsumoto et al, 1988)。

(3) 「Prader-Willi 症候群 (PWS) の分子遺伝学的研究」(亀井勉, 浜辺淳一,

新川詔夫) : PWS の原因は不明であるが、一部の患者に 15q11.2 欠失を認める。PWS 遺伝子の単離をめざし、まず全ての患者に 15q12 由来の DNA に相当するゲノム DNA 欠失が存在するか、およびその欠失範囲の同定を試みた。15q11.2 の腕内欠失例は全てその近傍の DNA 欠失を示し、欠失を伴う t(15; 15) の 2 例には欠失がない。inv dup(15p) が付加した例の遺伝子コピー数は 1 で欠失を示した。この結果を基に PWS 遺伝子単離の第 2 段階、即ち欠失断端を知るため、PFG 法で更に検討している。

(4) 「Beckwith-Wiedemann 症候群 (BWS) の分子遺伝学的研究」(外木秀文, 新川詔夫) : BWS が monogenic な疾患であることは既に証明したが (Niikawa et al, 1986), 遺伝子単離をめざし研究を開始した。遺伝子座について論争があるので、遺伝子単離の第 1 段階たる mapping を行うために、染色体異常を偶然にもつ本邦患者全例を集積して、11p13-p15 に座位がある遺伝子の量効果を検討している。

(5) 「DMD 及び Becker 筋 dystrophy (BMD) の分子遺伝学的研究」(杉野茂人, 藤下敏, 新川詔夫) : 日本人 DMD 患者における変異遺伝子構造を DMD-cDNA を用いて検討し、25-30% に遺伝子欠失を認めた。欠失のない家族の診断に利用するため、Xp21.2 付近の種々の DNA 配列における RFLPs を探索しその頻度を明らかにした。この結果から、日本人患者及び保因者診断における最も効率的な診断プロトコールを作成した。

(6) 「女性 DMD の遺伝に関する研究」(杉野茂人, 新川詔夫) : 女性 DMD の遺伝様式についての X 連鎖と常染色体劣性遺伝両仮説を検討するために、本邦に存在する 23 患者を X 連鎖プローブを用いて連鎖を検討している。現在まで検討した 3 例中 2 例は X 連鎖であり、1 例は常染色体遺伝を疑わせたので、抗 dystrophin 抗体を用いて Western blotting で、不活化 X 現象を methylation と酵素切断の観点から検討している。

(7) 「種々の遺伝子病の出生前および早期診断法確立の研究」(松本正, 近藤達郎, 浜辺淳一, 広田哲也, 杉野茂人, 藤下敏, 新川詔夫) : DMD, BMD, 21-水酸化酵素欠損症及び LDL 受容体欠損症について検討し、実際の出生前・早期診断例を集積した。

(8) 「原爆被爆者の癌遺伝子 RFLPs に関する研究」(新川詔夫, 松本正, 亀井

勉, 近藤達郎, 浜辺淳一) : 被爆者 24 人と正常人 96 名中での癌遺伝子 EGFR 及び INT2 の RFLPs の出現頻度を検討した。EGFR-HindⅢ では 10/ 5 kb の, BamHI では 7. 1/ 2. 8 kb の多型を検出し, 正常人での rare allele (5 kb) (2. 8 kb) の頻度はそれぞれ 0. 08 と 0. 45 であった。INT2-BamHI および TaqI での RFLPs の rare allele の頻度は 0. 25 と 0. 49 であった。被爆者での EGFR-HindⅢ の 10 kb のホモ接合体は 18 人, 10/ 5 kb のヘテロ接合体は 6 人であり, 他の RFLPs も同様に一般集団と差はなかった。

3. 臨床遺伝研究グループ

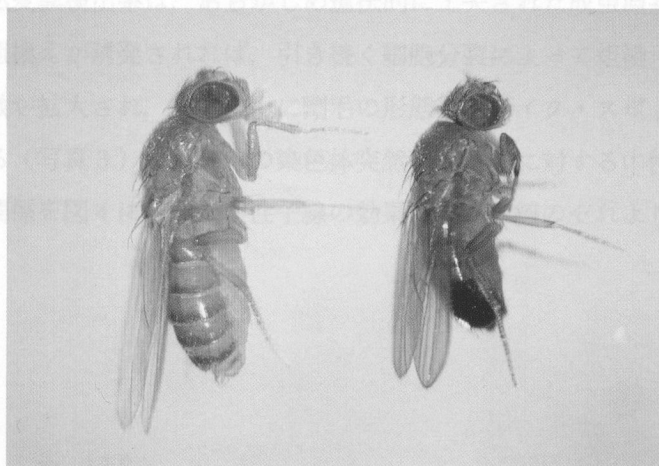
「新しい遺伝子疾患の確立の研究」(新川詔夫, 松本正, 近藤達郎, 外木秀文, 杉野茂人) : Kabuki make-up 症候群の 62 例を国内外から集積し臨床像を明らかにし, その原因として偽常染色体優性遺伝説を提唱した (Niikawa et al, 1988)。その他, 二三の新しい遺伝子病を発見し発表した (Tonoki et al, 1988)。

4. 突然変異誘発機構研究グループ

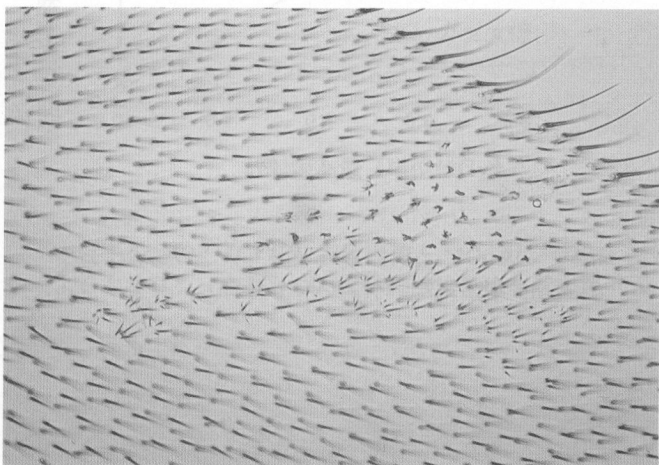
放射線やある種の化学物質は生命活動を維持している根元的物質 -DNA (デオキシリボ核酸)- に損傷を与える。DNA 分子は細胞の核の中にあり, 遺伝情報を担い生殖細胞 (精子や卵子) を通して, 子供に伝達されると共に, 体を構成している体細胞中では, その生命体の代謝活動の情報を提供している。DNA 分子に傷が生じると子孫の生存に影響を与えるような遺伝的突然変異に至ったり, 正常な代謝活動を妨げたり, 細胞を悪性に変えたり (癌化), 老化の速度を早めたりする。原爆放射線によって生じたヒトの DNA 分子への損傷がどのような遺伝的影響をもたらすかを明らかにするため, ヒトと同じ高等真核生物であり, 遺伝的に最もよく分析されているキイロショウジョウバエ (写真 2) を用いて, DNA 損傷が固定した遺伝的变化である突然変異遺伝子になるメカニズムを研究し, 放射線や化学物質の遺伝的影響を継世代 (親の被爆による子孫への影響) と被爆世代のレベルについて研究している。

(1) 「キイロショウジョウバエの生殖および体細胞レベルにおける放射線の突然変異誘発機構」(吉川勲, 綾木歳一) : 放射線は線質の種類やエネルギーによって, 与える生物効果が異なる。原爆放射線は主としてガンマ線と中性子線が含まれ

ている。 ^{60}Co からの核分裂放射線を原爆放射線モデルとして、精原細胞における男性致死突然変異および幼虫内にある成虫原基細胞における染色体突然変異について、中性子の生物効果比(RBE)を解析している。男性致死突然変異検出系は、生殖細胞における遺伝的変化を調べるのに最も優れた系の1つである。また、体細胞の突然変異検出系は、あらゆる遺伝的に正常な成虫原基細胞のどれか1つに誘発された突然変異が、引き続く細胞分裂によって増殖された染色体をもつ細胞に伝達される。両方の検出系は、放射線誘発突然変異としてみられる系である(写真3)。染色体突然変異に対する中性子とガンマ線の線量効果関係を図4に示す。中性子誘発突然変異はガンマ線よりかなり大きい。

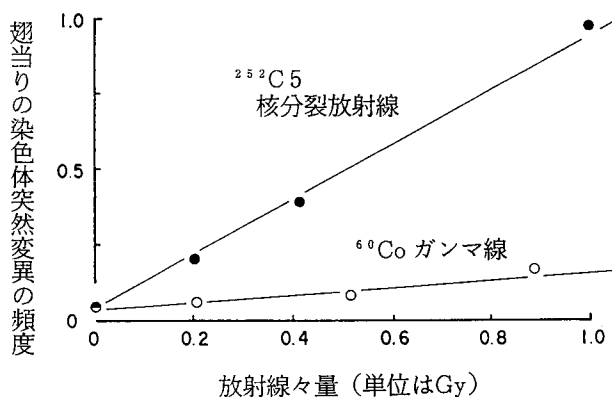


高等動物の遺伝的現象を調べるために適したキイロショウジョウバエ



(2)「キイロシ」 放射線によって誘発された剛毛の変異
 「キイロシ」は「キイロシ」における化学変異誘発の突然変異誘発機構」(吉川勲、波木敏一) 現代の生活環境ではヒトは多種多様な化学物質に曝される。化学物質の中には放射線と同様にDNA分子に損傷を与え突然変異を誘発するものがある。この機構を解析するためには、正確な体内曝露

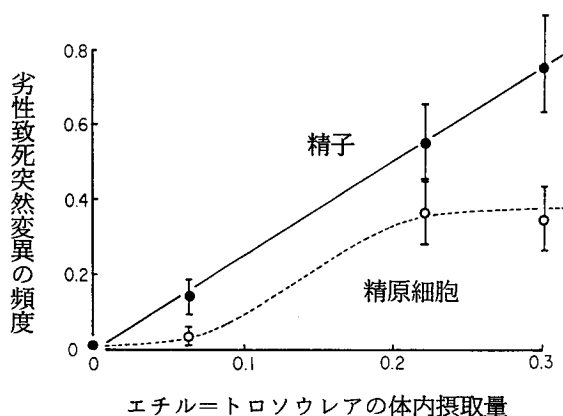
ている。 ^{252}Cf からの核分裂放射線を原爆放射線のモデルとして、精原幹細胞における劣性致死突然変異および幼虫内にある成虫原基細胞における染色体突然変異について、中性子の生物効果比 (RBE) を解析している。劣性致死突然変異検出系は、生殖細胞における遺伝的变化を調べるのに最も優れた系の1つである。また、体細胞の突然変異検出系は、あらかじめ遺伝的に工夫された成虫原基構成細胞のどれか1つに組換えが誘発されれば、引き続く細胞分裂によって組換えられた染色体をもつ細胞数が拡大され、成虫の上に剛毛の形態のモザイク・スポットとしてみられる系である (写真3)。体細胞の染色体突然変異誘発に対する中性子とガンマ線の線量効果関係を図4に示す。中性子線の効果はガンマ線のそれよりもかなり大きい。



中性子を含む ^{252}Cf 核分裂放射線と ^{60}Co ガンマ線によるキイロショウジョウバエ体細胞染色体突然変異

(2) 「キイロショウジョウバエの生殖および体細胞レベルにおける化学変異原の突然変異誘発機構」(吉川勲, 綾木歳一): 現代の生活環境ではヒトは多種多様な化学物質に曝される。化学物質の中には放射線と同様に DNA 分子に損傷を与え突然変異を誘発するものがある。この機構を解析するためには、正確な体内摂取量

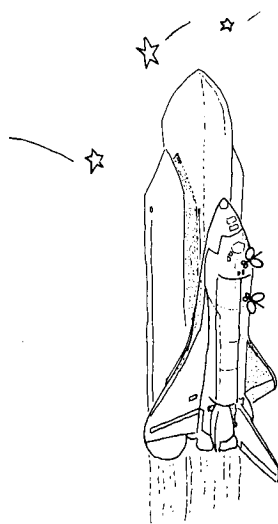
に立脚した突然変異誘発量の測定が重要である。化学物質の体内摂取量をラジオアイソトープを利用して測定する方法を確立すると共に、アルキル化剤の DNA 分子損傷について解析している。ショウジョウバエ精原幹細胞と精子の劣性致死突然変異量とアルキル化剤（エチルニトロソウレア）の体内摂取量との関係は図 5 に示すように、互いに異なった反応を示している。精原幹細胞は生じた DNA 分子の傷を修復していると考えられる。



アルキル化剤エチルニトロソウレアによるキョウジョウバエ生殖細胞（精原細胞と精子）の劣性致死突然変異

（３）「宇宙放射線の遺伝的影響」（吉川勲，綾木歳一）：宇宙環境には高エネルギー放射線があり，その生物効果は大きいと考えられている。ヒトが宇宙空間に滞在すると，必然的にこの種の放射線に被曝する。1991年に予定されている宇宙開発事業団のスペースシャトル打ち上げ実験に際し，ショウジョウバエを宇宙空間に送り，前述の染色体突然変異を指標として，宇宙放射線の遺伝的影響を評価する。突然変異は非常に稀な事象であるから，統計的な確度をもって評価するためには大量の検出可能標的が必要である。幼虫・成虫共約 1 mg のショウジョウバエは 1 枚

の翅に 32,000 の細胞が存在し，個々の細胞から生じる剛毛の形態変化を調べるこ
とによって，低線量域の遺伝的影響を検出できる格好の生物材料である。



発症予防部門

(原研生理, 原研免疫)

広島、長崎に投下された原子爆弾によって、市民の多数に種々の急性および慢性障害を招来した。それ以来、発生する後障害の研究調査が行なわれてきた。急性期においては、火傷や中枢神経系・消化器系・造血系の障害が次々と現われ、放射能も線量の多いほど早期の障害で死亡した。このうち急性障害としてもっとも低い線量で起こったのは、造血系や消化器系の障害で、これを生き延びえた人々は一応急性の危機を脱している。急性期を脱した人々は生体における障害回復機構の働きで、ある程度修復されたと考えられるが、現今では、その後の障害として発癌や放射線白内障などが指摘されており、また他方では、一見他覚的所見のないいわゆる不定愁訴を訴える人がかなり多い。

後障害をとりまく諸問題の解明を企図として、当部門では当初「内分泌腺の機能におよぼす放射線の影響」というテーマで、動物を用いた実験的研究で基礎的考察を行なってきた。その後免疫学教室への移行により、「発癌の機構」の研究テーマで放射線照射による発癌性の増加、あるいは免疫機能におよぼす障害について検討を行なっている。

研究内容

1. 放射線の内分泌腺におよぼす影響

(1) 間脳-下垂体-副腎皮質系 頭部に放射線(200~1000R)を受けた場合、下垂体-副腎皮質系では、その視床下部中枢が、放射線のある線量以上により一過性の刺激興奮をしたとしても、それは時間的経過とともに、外来刺激(ヒスタミンやアセチルコリン)に対する反応性は減弱するものと思われる。

(2) 中枢神経-副腎髄質系 通常副腎髄質ホルモン分泌の中枢は視床下部および延髄にあるといわれているので、頭部に放射線を照射し、カテコールアミンの分泌動態を観察した。頭部に比較的低線量(200 および 800 R)の放射線を受けた場合、直接的効果はほとんど見られないが、その後分泌中枢の外来刺激(インシュリン)に対する反応性はかなり低下するものと思われる。

(3) 間脳-下垂体-精巣系 頭部に放射線(200~1000 R)を照射すると精巣からのホルモン分泌はほとんど変化なく、かえって抑制的に働くことが分かった。精巣局所への照射(200~800 R)では、照射後4時間まではほとんど変化はみられなかった。しかし、1~6日後では、軽度のホルモンの分泌増加が観察された。この分泌増加はその後しだいに減少し、約1ヶ月後には照射前のレベル以下に減少した。

(4) 子宮脱落膜形成におよぼす放射線の影響とホルモンの防護効果 シロネズミへの全身照射(100~600 R)では、ある程度の脱落膜形成の抑制がみられたが、局所照射では、線量に比例して抑制効果があり、照射量と抑制効果との間には直接的な関係がみられた。また、放射線による脱落膜形成の抑制がプロゲステロンの量的関係においてその障害を修復できるかどうかを調べたが、プロゲステロン2 mgによる脱落膜形成効果に対し放射線抑制作用は、200 Rの場合4 mgを投与すると修復することができるし、400~600 R照射の場合では10~20 mgで標的のものをマスクすることができると判断された。

2. 放射線の発癌および免疫機能におよぼす影響

長期にわたる原爆被爆者の追跡調査結果は、被爆者集団における発癌性の増大を示唆している。放射線照射実験動物における多くの発癌実験の結果もこれを裏付けている。原爆被爆における癌発症の増加は、個体内の各種体細胞における発癌のリスクそのものの増大による可能性と、癌細胞に対する監視機構(とりわけ免疫学的監視機構)の破綻の結果によるものが考えられる。

近年の分子生物学の進歩により、発癌は癌遺伝子の活性化、あるいはそれらの質的、量的な変化としてとらえることができるようになった。そこで次の研究課題で研究を行なっている。

(1) 種々の被爆条件下で、癌患者と癌遺伝子の変化を検討し非被爆者のそれと

比較することにより、被爆発癌における癌遺伝子の関与を明らかにする。

（２）動物モデルを用いて放射線による癌化の機構を明らかにすべく、放射線誘発白血病に対する生体の免疫抵抗性（抗腫瘍性）について解析する。これらの白血病における腫瘍特異抗原を検索し、これに対する生体の免疫反応を明らかにすることにより、生体の抗腫瘍性のメカニズムを検討する。

関連施設

1. X線装置

放射線の生物効果を調べるにはX線を用いることが一般的である。この200kVX線装置は、細胞致死効果、発癌効果、突然変異誘発効果を調べるために、培養細胞、ショウジョウバエ、マウス、ラットに照射するために利用されている。また脳視床下部の破壊の影響をみるためのウサギ照射やヒト輸血時の不活性化のために血液照射されている。昭和47年以来使用されてきた装置は、昭和63年に更新された。

2. 中性子照射装置

原爆放射線には γ 線と中性子線が含まれている。 γ 線の生体へ与える影響はX線とほぼ同じであるが、中性子線はX線よりも効果が大きい。その中性子線の生体へ与える影響を究明するためにこの装置は昭和46年に設置されて以来用いられる。中性子線の発生原理は重陽子線を加速し、トリチウムターゲットに衝突させることによりエネルギー14MeVの中性子線が発生する。現在までに、中性子線量の測定法の確立のため、また培養細胞やショウジョウバエの生物効果を調べるために利用されてきた。

3. ヒューマンカウンタ

体内の微量の放射性物質を測定するためにヒューマンカウンタを用いる。外部からの放射線を遮蔽するために厚さ20cmの鉄室の中で、また放射線測定感度を高めるため直径20cmのNaI結晶検出器2個で測定される。この装置は昭和43年に設置されて以来、原爆被爆者、高血圧症患者、筋ジストロフィ患者の測定に用いられてきた。また健康人の体内カリウムを測定することによる筋肉量の推定にも応用されている。さらに事故によって放射性物質を誤って吸引した時にも測定し事故処理に使用される。

原研創設25周年記念講演会記録

昭和63年6月11日

於：パークサイドホテル



市丸施設長挨拶



来賓（左より、西森名誉教授、岡島名誉教授、松田医学部長、熊取放射線影響協会理事長）



川津祐介氏へ感謝状進呈

挨拶

長崎大学医学部長
松田 源治

長崎大学医学部附属原爆後障害医療研究施設におかれましては、昭和 37 年に創設されて以来、多数の輝かしい業績を残されまして、この度、創設 25 周年記念行事を挙行されますことは、誠に御目出度く、心からお祝い申し上げますとともに、同研究施設の全ての方々のこれまでに御努力に対して、深く敬意を表するものでございます。さらに、この研究施設の発展に対して、終始変わらない御協力および御支援を賜りました関係各位に対して、厚く感謝申し上げます。

周知の如く、長崎は昭和 20 年 8 月、広島に次いで、第二の原爆被爆都市として、他の都市と比較することのできない深刻な体験をしました。それ以来、当時の長崎医科大学、続いて、現在の長崎大学医学部は長崎における原爆後障害の医療と研究の中心の一つとして、活発に活動してきました。

そして、昭和 37 年には、関係各位の献身的な御尽力により、広島大学原爆放射能医学研究所に続いて、この長崎大学医学部附属原爆後障害医療研究施設が発足し、その中の異常代謝部門が設置されました。次いで、放射線生物物理学部門（原研放射）、病態生理学部門（原研病理）、後障害治療部門（原研内科）、先天異常部門（原研遺伝）および発症予防部門（原研免疫）が毎年 1 部門ずつ、増設されて、昭和 42 年には、6 部門を有する堂々たる研究施設に発展しました。さらに、昭和 44 年には、研究棟も完成し、研究も飛躍的に進展して、広島大学原爆放射能医学研究所、放射線影響研究所、放射線医学総合研究所その他と並んで、世界における原爆後障害の医療および研究の中心として、注目されるに至っております。

この研究施設において進められている研究は、非常に多岐にわたり、原爆後障害医療研究の発症機序、疫学、病態などの研究とともに、それに関連した遺伝、免疫などの研究を、個体レベル、細胞レベルさらに分子レベルで進められておりまして、原爆後障害の治療および予防に大きく貢献するものと思われます。さらに、これらの研究を進めることにより、広く生物界における生命現象の本態にも迫り得るもの

と期待されております。

今や、半核の声はこの地球上に満ちております。しかしながら、この地球上には、膨大な核兵器が蓄積され、多数の原子力発電所あるいは原子力船が存在しています。従って、これらによる放射線障害の危険性が常に憂慮されています。原爆症は決して過去のものではなく、現在から将来にわたって、研究されるべき、重要な課題と思われます。このような観点から、この原爆後障害医療研究施設の重要性は今後益々、増大するものと信じています。御研究施設の創設 25 周年を心からお祝い申し上げますとともに、今後の益々の御発展を心からお祈り致しまして、私のお祝いの言葉に代えさせていただきます。

原研の沿革

(財)放射線影響研究所

西森 一正

人類がはじめて受けた原爆の災害で地元の長崎医科大学は文字通り壊滅したので医療機関としての役目はほとんど出来なかった。大村、嬉野、針尾の海軍病院が主な被爆者収容場所となった。九大、熊本大、宇部医専（現山口大学医学部）が長崎に医師団を派遣し、直後の医療、調査が行なわれた。

医学、工学、理学などの総合的調査機関は文部省学術研究会議が設置した「原子爆弾災害調査研究特別委員会」で1945年9月14日に発足した。各分野の専門家は困難な状況下で調査を行ない、膨大な資料を集め、「原子爆弾災害調査報告書」を刊行したがこれは総括編、および第1分冊、第2分冊合せて1,769ページに及び詳細なもので1951年6月に完成した。

終戦直後の吾国は国の存亡も危ぶまれる状態で戦災者に対する援護の出来る余力はなかった。原爆災害についての調査研究も占領軍司令部から発表についての検閲を命ぜられるようになり、原爆災害についての調査研究を積極的行なう者がすくなくなった。

次第に国の回復が進むにつれて原爆被爆者の国に対する援護を要請する訴えが大きくなり、1957年「原子爆弾被爆者の医療等に関する法律」が公布され、国による被爆者援護対策が開始された。

広島、長崎両被爆地にある広島大学、長崎大学に高度な学術的施設の設立を望む声が多くなり、調査研究のみでなく放射線による障害の基礎的研究と被爆者の医学的研究や被爆者の健康管理を目的とする研究施設が創設されることになった。

まず、1958年広島大学医学部に「原子放射能基礎医学研究施設」が発足し、年々部門増設が行なわれ、1961年4部門で「放射能医学研究所」とし、医学部から独立して大学の附置研究所となり、其後部門増により10部門の完備した研究所に発展して現在にいたっている。

長崎大学での発足はおくれ、1962年「原爆後障害医療研究施設」が創立され、

初年度に異常代謝部門が誕生し、小池正彦教授が就任した。其後1年に1部門が増設された。

- | | | |
|--------------|--------|--------|
| 1. 異常代謝部門 | 1962 年 | 小池正彦教授 |
| 2. 放射線生物物理部門 | 1963 年 | 岡島俊三教授 |
| 3. 病態生理部門 | 1964 年 | 西森一正教授 |
| 4. 後障害治療部門 | 1965 年 | 朝長正允教授 |
| 5. 先天異常部門 | 1966 年 | 塩見敏男教授 |
| 6. 発症予防部門 | 1977 年 | 山下一邦教授 |

朝長教授死去の後任に市丸道人教授、塩見教授の死去の後任に新川詔夫教授、山下教授死去の後任には免疫を内容とする部門に変更し、その主任に珠玖 洋教授が就任したが、医学部腫瘍学講座の新設に伴い移籍し、現在教授選考中であり、岡島、西森教授停年退官後は奥村 寛、関根一郎教授がそれぞれ就任した。

広島大学では附置研究所であり、長崎大学では医学部の研究施設であり、大学での機構が異なるが研究の目的は同じ性格のものである。研究所と研究施設にはそれぞれ一長一短があり、長崎でも研究所にすべきとの意見が強く長年に亘って文部省に働きかけたが、諸種の事情から遂に研究所の実現を見ないまま現在にいたっている。

世界唯一の被爆国である日本の原爆被災に関する調査研究は国のレベルでの完備した施設が必要であるとの観点から、理学、医学、社会学などを中心とした研究所の設立を日本学術会議は東京に渉外、事務局をおき、広島、長崎に研究調査の研究所を置く「原水爆被災学術資料センター」として立案し、日本学術会議の採択後、1971年秋、政府に実現を勧告したが実現を見なかった。

被爆者の高齢化にともなう悪性腫瘍を主とする疾病の増加と、被爆者が激減する時期の将来に対し、原爆後障害医療研究施設がどのように対処すべきか、既に考慮すべき時期にあると思う。しかも原爆被災資料は将来に亘って広く活用利用されるよう整備されることも肝要である。

原爆と放射線

長崎大学名誉教授

岡島 俊三

原子爆弾は通常火薬による爆弾とは違ったいくつかの特徴がある。すなわち爆発力がケタ違いに強力なこと、また強力な発生エネルギーに伴って生ずる熱線によって、かなり遠方まで火災や人体に火傷をひきおこすことである。しかし何と云っても大きな特徴は通常爆弾ではみられない放射線の発生である。

爆発と同時に透過力の強い放射線（ガンマ線や中性子線）を放出し、また中性子線によって爆心地附近の大地が誘導放射能により一面に放射性物質と化したり、いわゆる“死の灰”と呼ばれる核分裂生成物の落下により広い範囲の地上で長期間放射線の照射を受けることになる。

以下この原爆の放射線について、主として長崎の原爆を念頭において解説を試みることにする。

原爆の放射線は便宜のため二種類に分類される。すなわち初期放射線と残留放射線である。通常爆発後1分を境にして、それ以内に爆発に伴って地上に影響を与える主としてガンマ線と中性子線を初期放射線と呼ぶ。これに対して1分以後の放射線を残留放射線と呼んでいる。

残留放射線として問題になるのは、フォールアウト（fallout）すなわち核分裂生成物が地上に落下して放射されるアルファ、ベータ、ガンマ線と、爆心地附近で初期放射線である中性子線が地上に照射されて発生した誘導放射能から放射されるベータ、ガンマ線等である。

1. 初期放射線

（a）ガンマ線

長崎の原爆で人体に最も大きな影響を及ぼしたものはガンマ線である。このガンマ線は種々の発生の仕方をするが、最も重要なのは爆発後の火球の中に含まれる核分裂生成物から放射される遅発ガンマ線である。遅発というのは爆発後0.2秒から

1分以内に放射されるからである。しかし大部分は1秒以内に放射される。これにつづくガンマ線の発生源は中性子が空気、大地に衝突して発生するもので10 μ 秒以内に放射されほとんど即時と考えてよい。

これらガンマ線の量は、最近の線量再評価の結果(D S 86)、長崎では爆心地から1 kmの距離で783 rad、2 kmで12.7 radである。

(b) 中性子線

地上に達する中性子の主なものは、核分裂の際に発生した中性子すなわち即発中性子が大部分で、核分裂生成物から発生する、いわゆる遅発中性子の寄与は少ないとされている。

その量は長崎では爆心地から1 kmで14.3 rad、2 kmで0.03 radと推定され、ガンマ線に比してほとんど無視できる程少量である。

2. 残留放射線

(a) 放射性降下物

長崎ではプルトニウムの核分裂生成物が微粒子として爆発後空中高く吹き上げられ、当時3 mの西風によって、その一部分が東方約3 kmの西山水源池附近に黒い雨と共に集中的に落下している。核分裂生成物の放射能は時間 t とともに $t^{-1.2}$ に従って減衰する。したがって原爆2～3月後に行われた放射能の測定値をもとに計算によって放射線量の評価が可能である。その結果は爆発後1時間から無限時間まで、地上1 mの位置での積算線量は、西山の最も放射能の強い数ヘクタールの地域で、20～40 Rである。西山住民の個人について、その人の原爆後2～3日間の行動記録があれば、個人の被曝線量を推定することができる。

(b) 誘導放射能

爆心地附近で地上に到達した中性子が、土壌や建物などにあたって、それらを放射性物質に変化させる。種々の放射性物質が生じ、それらはそれぞれ個有の半減期で減衰する。爆発2～3月後の放射能の実測値から放射線量の推定ができる。爆発直後から無限時間まで爆心地で地上1 mの積算線量は、長崎で30～40 Rと推定される。

地上での放射能の強さは時間と共に急速に減少するし、爆心地から離れても急激に減少する。爆心地から350 m離れると半減する。早期入市者の被曝線量はその人

の爆心地附近での行動状況が判明すれば計算によって推定することが可能である。

第五福竜丸の被爆からチェルノブイリ事故まで

(財)放射線影響協会

熊取 敏之

1986年4月26日未明、ソ連チェルノブイリ原子力発電所4号炉に発生した事故は、それによって放出された放射性核種の量と汚染範囲の広さ、また、急性放射線障害者を200名以上出したことからみて、平時の放射線事故としては最大のものと言える。その影響は大きく、今日にまで各方面に後遺症とも言うべき現象がみられている。事故は何によらず、その処理を適切にし、かつ、将来の事故防止に備えるようにしなければならない。かかる観点から幾つかの事故を振り返ってみたい。

1. 第五福竜丸の被曝

1954年3月1日午前3時50分頃、太平洋ビキニ環礁で米国による水爆実験（17メガトン）が行われ、それによって生じたfalloutによって、爆発点から約170 km東北東に位置して操業中の第5福竜丸乗組員23名が放射線障害を受けた。2週間の航海後帰国したが、全員「急性放射能症」として収容された。被曝様式は、 γ 線の全身照射（2週間で1.7～6.9 Gy）、 β 線による皮膚被曝、および体内被曝である。白血球最低数は2,000/ μ L未満5名、2,000台13名、3,000台5名で、 γ 線量と逆比例している。骨髓も数名には低形成像が著明であった。精子数も激減したが、2年後から回復し、永久不妊は見られなかった。放射線白内障は見られていない。末梢リンパ球の染色体異常率は正常人に比べて高度である。

福竜丸乗組員と同時に、マーシャル群島住民239名、米国人28名もfalloutによる障害を受けた。この事件によって、放射能による環境汚染や人体影響が広く世界の人々の関心を呼び、1955年の「原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）」の設立に連なっている。また、我が国でも放射線影響の系統的研究の必要性が認められ、関連の研究所や大学講座の新設が行われた。一方、原爆被爆者の医療にも関心と呼ぶ引き金となっている。さらに、放射線防護に関する諸法令の制備も行われるようになった一つの契機と言える。

2. イリジウム被曝事故

1971年9月、千葉県のA造船所内で、非破壊検査を担当していたB会社の作業員の不注意から、 ^{192}Ir 192.4 GBqの線源を落とし、それを別の下請け労務者が拾って持ち帰り、偶々来合せた同僚5人と共に被曝した。3日後、紛失に気付いたB社から届け出があり、搜索の結果、その8日後持ち帰った者の家の庭から発見された。6人の被曝者は全身被曝線量として最小0.15 Gy、最大1.5 Gy程度であった。3名は手掌に2.6～9.0 Gy、この中1名は臀部に30～90 Gyの局所被曝があった。1.5 Gy（あるいはそれ以上）の被曝を推定された患者は、被曝後32～34日には、白血球数800/ μL となった。感染予防を主とした治療により全員回復した。局所の皮膚傷害は保存的治療を主としたが、臀部の傷害は外科的手術によって治療した。

本例は作業員の不注意によって生じた事故であるが、B社には厳重な処分がとられた。

科学技術庁ではその後も放射線防護に注意しているが、1975年以降に届けられた「放射線障害防止法」関係の事故例は次の如くである。

(1) 非破壊検査関係被曝，紛失，盗難事件	3件
(2) 医療機関の診療用放射性同位元素紛失事件	11件
(3) 大学，研究所等被曝，汚染，紛失事件	8件
(4) 輸送途中盗難事件	1件
(5) その他	7件

これで見ると、医療機関の線源管理の不備が多いように思われる。しかし、幸いなことには、人体傷害は皆無と言ってよい。

3. チェルノブイリ原発事故

チェルノブイリ原発事故については、医療に関してはソ連から国際原子力機関へ報告書が出されている。急性放射線障害として病院に収容されたのは200名を越えた。このうち医療の中心となったモスクワ第6病院へは115名収容された。ここでは27名死亡したが、皮膚障害が主な死因と考えられた者は19名、胃腸管障害は2名、骨髄障害が主因と見られたのは6名であった。急性障害者の治療は、日常の医療行為で、既に驗され、使用されている方法が用いられた。骨髄移植や胎児幹細胞移植も試みられた。前者は13名中2名生存、後者は6名全員死亡した。

ソ連の事故は甚だ遺憾であるが、事故後の医療は迅速かつ適切であったと思う。
我が国ではこのような事故は発生しないと思われるが、放射線事故の潜在的可能性
が存在する限り、現実に適した対策を持つ必要があると考える。

業 績

異常代謝部門 (原研異常)

1. ピルビン酸脱水素酵素 (EC. 1. 2. 4. 1) 及び 2-オクソグルタル酸脱水素酵素 (EC. 1. 2. 4. 2)
小池正彦
酵素ハンドブック (赤堀監修) 朝倉書店, pp. 96-99, 1966
2. On the interpretation of the multiple forms of mammalian lipoamide dehydrogenase
Hayakawa, T., Sakurai, Y., Aikawa, T., Fukuyoshi, Y. and Koike, M.
Flavins and Flavoproteins (Ed. Yagi, K.) University of Tokyo press, Tokyo, pp. 99-106, 1968
3. Mammalian α -keto acid dehydrogenase complexes
Koike, M.
Proceedings of the International Symposium on Vitamins and Nutrition (The Journal of Vitaminology Vol. 14, Supplementary Number) Kyoto, pp. 86-97, 1968
4. タンパク質分子の電子顕微鏡学的研究における試料作製手技
小池正彦, 小池吉子, 末松 正
生物物理化学研究法 (今堀, 野田, 坪井編) I 巻 朝倉書店, pp. 170-193, 1969
5. 補酵素としてのビタミンB1の生理作用及びリボ酸の生化学
小池正彦, 早川太郎
新ビタミン学 (日本ビタミン学会編) pp. 163-169 及び pp. 449-451, 1969
6. Purification and properties of lipoamidase
Koike, M. and Suzuki, K.
Methods in Enzymology 18A (Ed. McCormick, D. B., Wright, L. D.) Academic Press, New York, pp. 292-298, 1970
7. Purification and properties of lipoamide dehydrogenase from pig heart α -keto acid dehydrogenase complexes
Koike, M. and Hayakawa, T.
Methods in Enzymology 18A (Ed. McCormick, D. E., Wright, L. D.) Academic Press, New York, pp. 298-307, 1970
8. 複合酵素系の反応機構
小池正彦, 浜田 稔
酵素の反応機構 (殿村, 山崎, 中村編) 朝倉書店, pp. 251-278, 1971
9. Preparation of calcium phosphate gel deposited on cellulose
Koike, M. and Hamada, M.
Methods in Enzymology (Ed. Jacoby, W. B.) Academic Press, New York, pp.

339-342, 1971

10. 複合体酵素の研究法— α -ケト酸の酸化的脱炭酸
小池正彦, 浜田 稔
医化学実験法講座 II B—代謝及び酵素 II (和田編) 中山書店, pp. 280-287, 1972
11. Structure and action mechanism of α -keto acid dehydrogenase multienzyme complex
Koike, M., Hamada, M., Koike, K., Tanaka, N., Otsuka, K. and Suematsu, T.
Molecular Mechanisms of Enzyme Action (Ed. Ogura, Y., Tonomura, Y., Nakamura, T.) University of Tokyo Press, Tokyo, pp. 187-215, 1972
12. 酵素とくに酵素複合体の超微細構造
小池正彦
医学, 生物学のための応用電子顕微鏡学—総編 (山田ら編)
医歯薬出版, pp. 410-417, 1973
13. 脱吸着剤による精製法
小池正彦, 平岡忠和, 浜田 稔
生化学実験講座—酵素研究法 (上) (日本生化学会編) 東京化学同人, pp. 299-308, 1975
14. チアミンの補酵素作用
小池正彦, 浜田 稔
生化学実験講座—ビタミンと補酵素 (上) (日本生化学会編) 東京化学同人, pp. 99-117, 1975
15. リポ酸
小池正彦, 小池吉子
生化学実験講座—ビタミンと補酵素 (下) (日本生化学会編) 東京化学同人, pp. 481-501, 1975
16. Lipoic acid
Koike, M. and Koike, K.
Metabolism of sulfur compounds, Metabolic Pathway, IIIrd Edition (Ed. Greenberg, D. M.), Vol. VII Academic Press, New York, pp. 87-99, 1975
17. α -ケト酸デヒドロゲナーゼ複合体
小池正彦, 小池吉子, 浜田 稔
生化学実験講座—エネルギー代謝と生体酸化 (上) (日本生化学会編) 東京化学同人, pp. 190-204, 1976
18. Reaction mechanism of the complexed and uncomplexed lipoamide dehydrogenases in pig heart 2-oxoglutarate dehydrogenase multienzyme complex
Koike, M. and Koike, K.
Flavins and Flavoproteins (Ed. Singer, T. P.) Elsevier, Amsterdam, pp. 473-477, 1976
19. Purification and function of α -keto acid dehydrogenases in the mammalian multi-

enzyme complexes

Koike, M., Hamada, M., Koike, K., Hirashima, T. and Nakaula, Y.

Thiamin (Ed. Gubler, C. J., Fujiwara, M., Dreyfus, P. M.) John Wiley & Sons, New York, pp. 5-18, 1976

20. 多酵素複合体の構造, 形成および機能発現

小池正彦, 小池吉子

蛋白質の分子集合と機能 (浜口, 小池, 徳重編) 学会出版センター, pp. 151-178, 1979

21. ビタミンと補酵素-リポ酸

小池吉子, 小池正彦

生化学データブック (日本生化学会編) 東京化学同人, pp. 1258-1259, 1979

22. 複合酵素

小池正彦, 小池吉子

現代化学 18 生体物質の構造と機能 (下) (成田耕造編) 岩波書店, pp. 321-342, 1980

23. チアミンの生化学的機能

小池正彦, 小池吉子

ビタミン学 (II) (日本ビタミン学会編) 東京化学同人, pp. 39-50, 1980

24. リポ酸

小池正彦, 小池吉子

ビタミン学 (II) (日本ビタミン学会編) 東京化学同人, pp. 601-614, 1980

25. Preparation, characterization and application of immobilized lipoamide dehydrogenase

Koike, M., Koike, K., Tanabe, S. and Ichinose, H.

Flavins and Flavoproteins (Ed. Yagi, K., Yamano, T.) Japan Scientific Societies Press, Tokyo, pp. 551-555, 1980

26. アセチルコエンザイム A 外 9 項目

小池正彦, 小池吉子

医科学大辞典 (武見ら編) 講談社, 1 巻 pp. 119-120, 1982

27. α -ケトグルタル酸デヒドロゲナーゼ外 6 項目

小池吉子, 小池正彦, 平岡忠和

臨床酵素ハンドブック (馬場ら編) 講談社サイエンティフィック, p. 323, 1982

28. 2-ヒドロキシグルタレートデヒドロゲナーゼ外 15 項目

小池吉子, 小池正彦

酵素ハンドブック (上代ら編) 朝倉書店, p. 69, 1982

29. アコニット酸ヒドラターゼ外 24 項目

小池吉子, 小池正彦

生化学辞典 (宇井ら編) 東京化学同人, p. 9, 1984

30. Cell-free biosynthesis of lipoamide dehydrogenase

Koike, K., Tsuji, A., Urata, Y., Moriyasu, M. and Koike, M.

- Flavins and Flavoproteins (Eds. Bray, R. C., Engel, P. C., Mayhew, S. G.) Walter de Gruyter, Berlin-New York, pp. 803-806, 1984
31. 酵素によるチアミンニリン酸の定量法
小池吉子
ビタミン学実験法 (II) 水溶性ビタミン (日本ビタミン学会編) 東京化学同人, pp. 85-92, 1985
32. ビタミンB1代謝異常検査法
小池吉子
ビタミン学実験法 (II) 水溶性ビタミン (日本ビタミン学会編) 東京化学同人, pp. 105-111, 1985
33. リボ酸および関連化合物の定量法
小池正彦, 小池吉子
ビタミン学実験法 (II) 水溶性ビタミン (日本ビタミン学会編) 東京化学同人, pp. 406-435, 1985
34. Novel separation of the component enzymes of pig heart pyruvate dehydrogenase complex by high-performance liquid chromatography
Koike, M., Urata, Y., Koike, K., Tsuji, A. and Moriyasu, M.
Thiamin Pyrophosphate Biochemistry, Vol. II, CRC Press, pp. 37-43, 1988
35. Enzymatic studies of the genetic defect of pyruvate dehydrogenase in chronic pyruvic and lactic acidemia
Koike, K.
Thiamin Pyrophosphate Biochemistry, Vol. II, CRC Press, pp. 105-113, 1988
36. Isolation and properties of pyruvate and α -ketoglutarate dehydrogenation complexes from pig heart muscle
Hayakawa, T., Muta, H., Hirashima, M., Ide, S., Okabe, K. and Koike, M.
Biochem. Biophys. Res. Commun., 17: 51-56, 1964
37. α -ケト酸酸化酵素群による α -ケト酸の酸化的脱炭酸機構について
小池正彦, 早川太郎, 平島正泰
蛋白質, 核酸, 酵素, 10: 545-551, 1965
38. Effect of various bivalent cations and chelating agents on the oxidative decarboxylation of α -keto acids
Hayakawa, T., Hirashima, M., Hamada, M. and Koike, M.
Biochem. Biophys. Acta 128: 574-576, 1966
39. Mammalian α -keto acid dehydrogenase complexes, I. Isolation, purification and properties of pyruvate dehydrogenase complex of pig heart muscle
Hayakawa, T., Hirashima, M., Ide, S., Hamada, M., Okabe, K. and Koike, M.
J. Biol. Chem., 241: 4696-4699, 1966

40. ブタ心筋ピルビン酸脱水素酵素群の研究
早川太郎
生化学, 39: 102-108, 1967
41. ヒト正常子宮及び子宮腫瘍組織の乳酸脱水素酵素に関する研究
岡部桂一郎
生化学, 39: 291-300, 1967
42. ヒト肝臓より精製したリポアミド脱水素酵素に関する研究
井手 聰
ビタミン, 35: 436-443, 1967
43. ヒト赤血球およびその精製ヘモグロビンとビタミンB誘導体, とくに Thiamin tetrahydrofuryldisulfide との反応
浜田 稔, 早川太郎, 山口哲二, 小池正彦
ビタミン, 35: 474-484, 1967
44. Lipoamide dehydrogenase from human liver
Ide, S., Hayakawa, T., Okabe, K. and Koike, M.
J. Biol. Chem., 242: 54-60, 1967
45. Mammalian α -keto acid dehydrogenase complexes, II. An improved procedure for the preparation of 2-oxoglutarate dehydrogenase complex from pig heart muscle
Hirashima, M., Hayakawa, T. and Koike, M.
J. Biol. Chem., 242: 902-907, 1967
46. Mammalian α -keto acid dehydrogenase complexes, III. Resolution and reconstitution of the pig heart pyruvate dehydrogenase complex
Hayakawa, T. and Koike, M.
J. Biol. Chem., 242: 1356-1358, 1967
47. Immunochemical relationship among pig heart lipoamide dehydrogenase
Hayakawa, T., Aikawa, T., Otsuka, K. and Koike, M.
J. Biochem. (Tokyo), 62: 396-397, 1967
48. Purification and comparative properties of human lactate dehydrogenase isozymes from uterus, uterine myoma and cervical cancer
Okabe, K., Hayakawa, T., Hamada, M. and Koike, M.
Biochemistry, 7: 79-90, 1968
49. 赤血球膜の物質輸送—特に Thiamine allyltetrahydrofuryldisulfide の血球内移行に関して—
山田佑子
日本小児科学会雑誌, 73: 806-814, 1969
50. ブタ心筋ピルビン酸および2-オクソグルタル酸脱水素酵素群の基質特異性と反応解析
神崎 保
生化学, 41: 15-20, 1969

51. ブタ心臓チアミンピロホスホキナーゼの研究
浜田 稔
生化学, 41: 837-849, 1969
52. Effect of thiamine triphosphate on α -keto acid dehydrogenase complexes and pyruvate dehydrogenase
Hamada, M.
J. Vitaminol., 15: 325-326, 1969
53. Interpretation of the multiple forms of pig heart lipoamide dehydrogenases
Sakurai, Y., Hayakawa, T., Fukuyoshi, Y. and Koike, M.
J. Biochem. (Tokyo), 65: 313-315, 1969
54. Phenazine methosulfate-linked oxidative decarboxylation of pyruvate by pig heart pyruvate dehydrogenase complex
Hayakawa, T. and Koike, M.
J. Biochem. (Tokyo), 65: 645-648, 1969
55. Mammalian α -keto acid dehydrogenase complexes, IV. Substrate specificities and kinetic properties of the pig heart pyruvate and 2-oxoglutarate dehydrogenase complexes
Kanzaki, T., Hayakawa, T., Hamada, M., Fukuyoshi, Y. and Koike, M.
J. Biol. Chem. 244: 1183-1187, 1969
56. Mammalian α -keto acid dehydrogenase complexes, V. Resolution and reconstitution studies of the pig heart pyruvate dehydrogenase complex
Hayakawa, T., Kanzaki, T., Kitamura, T., Fukuyoshi, Y., Sakurai, Y., Koike, K., Suematsu, T. and Koike, M.
J. Biol. Chem., 244: 3660-3670, 1969
57. 酵素複合体特にブタ心筋ピルビン酸脱水素酵素酵素群の電子顕微鏡的観察
牟田博夫
J. Electron Microscopy, 19: 32-40, 1970
58. ブタ心筋 2-オクソグルタル酸脱水素酵素群の研究
平島正泰
ビタミン, 42: 86-74, 1970
59. ニワトリ眼球の乳酸脱水素酵素アイソザイムの動態に関する発生学的研究
山口哲二
日本眼科学会報, 71: 177-186, 1970
60. キシリトールの赤血球膜の透過
山田佑子, 山田 久, 浜田 稔
日本小児科学会雑誌, 74: 533-538, 1970
61. ブタ心筋リポアミド脱水素酵素の多様型の研究

桜井征彦

生化学, 42: 726-736, 1970

62. 複合酵素

小池正彦

化学増刊, 42: 75-101, 1970

63. Mammalian α -keto acid dehydrogenase complexes, VI. Nature of the multiple forms of pig heart lipoamide dehydrogenase

Sakurai, Y., Fukuyoshi, Y., Hamada, M., Hayakawa, T. and Koike, M.

J. Biol. Chem., 245: 4453-4462, 1970

64. ほ乳動物の α -ケト酸脱水素酵素群の研究

小池正彦

ビタミン, 43: 1-12, 1971

65. 含硫ビタミンの作用 (B) - チアミンとリボ酸の生化学

小池正彦, 浜田 稔

代謝, 8: 804-812, 1971

66. Resolution and reconstitution of pig heart 2-oxoglutarate dehydrogenase complex

Koike, K., Tanaka, N., Hamada, M., Otsuka, K.,

Suematsu, T. and Koike, M.

J. Biochem. (Tokyo), 69: 1143-1147, 1971

67. 酵素複合体の構造と機能 - 特にブタ心筋 α -ケト酸脱水素酵素を中心に -

小池正彦

生化学, 44: 47-61, 1972

68. Mammalian α -keto acid dehydrogenase complexes, VII. Resolution and reconstitution of the pig heart 2-oxoglutarate dehydrogenase complex

Tanaka, N., Koike, K., Hamada, M., Otsuka, K., Suematsu, T. and Koike, M.

J. Biol. Chem., 247: 4043-4049, 1972

69. ブタ心筋リボ酸サクシニル転移酵素の研究

田中信行

生化学, 41: 1034-1045, 1973

70. ブタ心筋 2-オキソグルタル酸脱水素酵素の研究

小池吉子

生化学, 46: 325-335, 1974

71. Mammalian α -keto acid dehydrogenase complexes, VIII. Properties and subunit composition of the pig heart lipoate succinyltransferase

Tanaka, N., Koike, K., Otsuka, K., Hamada, M., Ogasahara, K. and Koike, M.

J. Biol. Chem., 249: 191-198, 1974

72. Mammalian α -keto acid dehydrogenase complexes, IX. Properties and subunit com-

- position of the pig heart 2-oxoglutarate dehydrogenase
 Koike, K., Hamada, M., Tanaka, N., Otsuka, K., Ogasahara, K. and Koike, M.
 J. Biol. Chem., 249: 3836-3842, 1974
73. Experimental infection with mycoplasma pneumoniae in the young hamster: Location of ferritin-labeled antibody binding to infective tissue
 Hara, K., Izumikawa, K., Kinoshita, I., Ota, M., Ikebe, A., Koike, M. and Hamada, M.
 Tohoku J. Exp. Med., 114: 315-337, 1974
74. ブタ心筋リポ酸アセチル転移酵素の研究
 大塚欽一
 長崎医学会雑誌, 50: 69-81, 1975
75. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究 (予報)
 岡島俊三, 青山 喬, 法村俊之, 西森一正, 山下一邦, 塩見敏男, 市丸道人, 浜田 稔
 第15回原子爆弾後障害研究会講演集: 217-221, 1975
76. A kinetic study of the α -keto acid dehydrogenase complexes from pig heart mitochondria
 Hamada, M., Koike, K., Nakaula, Y., Hiraoka, T., Koike, M. and Hashimoto, T.
 J. Biochem. (Tokyo), 77: 1045-1056, 1975
77. Purification, properties and subunit composition of pig heart lipoate acetyltransferase
 Hamada, M., Otsuka, K., Tanaka, N., Ogasahara, K., Koike, K., Suematsu, T., Hirashima, T. and Koike, M.
 J. Biochem. (Tokyo), 78: 187-197, 1975
78. 長崎大学における原爆後障害医療研究の現状と展望 (1, 3)
 小池正彦, 岡島俊三, 山下一邦, 西森一正
 医学の歩み, 99: 583-586, 694-698, 1976
79. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究
 岡島俊三, 青山 喬, 法村俊之, 西森一正, 塩見敏男, 山下一邦, 市丸道人, 浜田 稔
 広島医学, 29: 217-221, 1976
80. Effect of guanidine hydrochloride on the holo and apoenzyme of pig heart lipoamide dehydrogenase
 Ogasahara, K., Koike, K., Hamada, M. and Hiraoka, T.
 J. Biochem. (Tokyo), 79: 819-823, 1976
81. Interaction of hydrophobic probes with the apoenzyme of pig heart lipoamide dehydrogenase
 Ogasahara, K., Koike, K., Hamada, M. and Hiraoka, T.
 J. Biochem. (Tokyo), 79: 967-975, 1976

82. Properties and subunit structure of pig heart pyruvate dehydrogenase
Hamada, M., Hiraoka, T., Koike, K., Ogasahara, K., Kanzaki, T. and Koike, M.
J. Biochem. (Tokyo), 79: 1273-1285, 1976
83. Structure, assembly and function of mammalian α -keto acid dehydrogenase complexes
Koike, M. and Koike, K.
Advances in Biophysics (Ed. M. Kotani), 9: 187-227, 1976
84. ブタ心筋ピルビン酸デヒドロゲナーゼの精製と性質に関する研究
平岡忠和
ビタミン, 51: 161-171, 1977
85. 水溶性ビタミン欠乏症の比較生物学
小池正彦, 田辺雋一
代謝, 14: 233-242, 1977
86. 糖代謝とその制御—乳酸脱水素酵素
小池正彦, 浜田 稔
蛋白質, 核酸, 酵素, 22: 1690-1698, 1977
87. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究
岡島俊三, 小池正彦, 西森一正, 塩見敏男, 山下一邦, 市丸道人, 法村俊之
長崎医学会雑誌, 53: 240-243, 1978
88. ヒト子宮筋およびその筋腫組織の酵素化学的研究特にホスホフルクトキナーゼの精製とそのサブユニット組成について
一瀬 宏
長崎医学会雑誌, 54: 65-78, 1979
89. ブタ肝2-オキソグルタル酸脱水素酵素の精製と諸性質に関する研究
田辺 雋一
長崎医学会雑誌, 54: 79-91, 1979
90. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究
岡島俊三, 宮島純子, 市丸道人, 小池正彦, 小池吉子, 山下一邦, 塩見敏男, 中村 剛, 森 弘行, 法村俊之
長崎医学会雑誌, 55: 716-721, 1980
91. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究
岡島俊三, 法村俊之, 市丸道人, 小池正彦, 山下一邦, 塩見敏男, 中村 剛, 森 弘行
広島医学, 33: 379-400, 1980
92. Structure, function and inherited defect of 2-oxo acid dehydrogenase multienzyme complexes
Koike, M., Koike, K. and Hiraoka, T.
Biochemical Society Transactions, 9: 6-7, 1981

93. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究
岡島俊三, 宮島純子, 市丸道人, 小池吉子, 山下一邦, 塩見敏男, 中村 剛, 森 弘行
広島医学, 35: 389-392, 1982
94. 高アンモニア血症を伴ったピルビン酸脱水素酵素欠損症(激症型)の1例
松尾雅文, 大北和彦, 橋本 卓, 竹峰久雄, 伊藤 宏, 小池吉子, 小池正彦
日本小児科学会雑誌, 86: 214-219, 1982
95. ビタミンB1定量法 2. 酵素による TPP の測定法
小池吉子, 小池正彦
ビタミン, 56: 665-673, 1982
96. The density and distribution of intramembrane particles in erythrocytes from persons with muscular dystrophies
Bodurtha, J., Hiraoka, T., Koike, K., Koike, M., Mori, K., Hazama, R.,
Hoshino, T. and Nagasawa, M.
Tohoku J. Exp. Med., 136: 373-377, 1982
97. Biochemical properties of mammalian 2-oxo acid dehydrogenase multienzyme complexes and clinical relevancy with chronic lactic acidosis
Koike, M. and Koike, K.
Ann. N. Y. Acad. Sci., 376: 225-235, 1982
98. 出生直後より13ヶ月に亘り経過を追えたプロピオン酸血症の1例
松尾雅文, 小南 隆, 長坂みはる, 竹峰久雄, 久原とみ子, 松本 勇, 成沢邦明,
多田哲也, 小池吉子, 小池正彦
日本小児科学会雑誌, 87: 1619-1625, 1983
99. ビタミンB1
小池正彦, 小池吉子
ビタミン, 58: 525-533, 1984
100. Fluorescent analysis of α -keto acids in serum and urine by high-performance liquid chromatography
Koike, K. and Koike, M.
Anal. Biochem., 141: 481-487, 1984
101. Mitochondrial encephalomyelopathy with lactate pyruvate elevation and brain infarctions
Kuriyama, M., Umezaki, H., Fukada, Y., Osame, M., Koike, K.,
Tateishi, J. and Igata, A.
Neurology, 34: 72-77, 1984
102. 高速液体クロマトグラフィーによる血清・尿中 α -ケト酸の微量蛍光定量法
小池吉子
日本小児科学会雑誌, 89: 151-158, 1985

103. ビルビン酸脱水素酵素欠損による高乳酸・高ビルビン酸血症の一症例
前田令子, 梅津亮二, 穴倉啓子, 大沢真木子, 鈴木暘子, 福山幸夫, 小池吉子
日本小児科学会雑誌, 89: 246-260, 1985
104. CT スキャンにて白質全体の低吸収域を認めたビルビン酸脱水素酵素部分欠損の 1 例 (第 1 報)
木村晶子, 京谷征三, 松島昭広, 入道秀樹, 小池吉子
脳と発達, 17: 357-362, 1985
105. Fatal case of pyruvate dehydrogenase deficiency
Matsuo, M., Ookita, K., Takemine, H., Koike, K. and Koike, M.
Acta Paediatr. Scand., 74: 140-142, 1985
106. ネフローゼ症候群を合併したミトコンドリア脳筋症の 1 例
田中恵子, 上野光博, 渥美哲至, 深川光俊, 小池吉子
臨床神経学, 26: 1190-1196, 1986
107. 高速液体クロマトグラフィーによるビルビン酸脱水素酵素複合体を構築する 3 種の成分酵素の迅速・分離法の開発に関する研究
浦田芳重
長崎医学会雑誌, 61: 41-47, 1986
108. Rapid and simple procedure for three component enzymes of pig heart 2-oxoglutarate dehydrogenase complex
Moriyasu, M., Koike, K., Urata, Y., Tsuji, A. and Koike, M.
J. Nutr. Sci. Vitaminol., 32: 33-40, 1986
109. Biochemical studies in mitochondrial encephalomyopathy
Goda, S., Ishimoto, S., Goto, I., Kuroiwa, Y., Koike, K., Koike, M., Nakagawa, M., Reichmann, H. and Dimauro, S.
J. Neurol. Neurosurg. Psychiatry 50: 1348-1352, 1987
110. ビルビン酸脱水素酵素 E₁ 異常症
小池吉子, 浦田芳重
蛋白質, 核酸, 酵素, 33: 663-665, 1988
111. Cloning and sequencing of cDNAs encoding α and β subunits of human pyruvate dehydrogenase
Koike, K., Ohta, S., Urata, Y., Kagawa, Y. and Koike, M.
Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 85: 41-45, 1988

放射線生物物理学部門 (原研放射)

[著 書]

1. 放射線治療における ^{60}Co ガンマ線および高エネルギー X 線の吸収線量の標準測定法
岡島俊三 (分担)
(日本医学放射線学会物理部会編) 通商産業研究社, 1972
2. 放射線物理学
岡島俊三 (分担)
新放射線医学 (尾関巳一郎, 松浦啓一編) 南山堂, pp. 1-44, 1973
3. 放射線生物学
青山 喬 (分担)
新放射線医学 (尾関巳一郎, 松浦啓一編) 南山堂, pp. 45-81, 1973
4. 放射線治療における高エネルギー電子線の吸収線量の標準測定法
岡島俊三 (分担)
(日本医学放射線学会物理部会編) 通商産業研究社, 1974
5. 組織の分離と再構成ならびに追補, 単一化の方法, その他細胞一般
青山 喬
生理学研究法 (須田 勇, 畠山一平編) 医学書院, 1975
6. がん治療の細胞動態
奥村 寛
細胞周期 (日本動物学会編) 東京大学出版会, pp. 217-233, 1976
7. Heat sensitivity of rat skin
Y. Okumura and H. S. Reinhold
Cancer Therapy by Hyperthermia and Radiation (Ed. by C. Streffer) Urban & Schwarzenberg, Baltimore, pp. 220-221, 1978
8. 物理的破壊
岡島俊三 (分担)
広島, 長崎の原爆災害 (広島市・長崎市原爆災害誌編集委員会編) 岩波書店, pp. 1-57, 1979
9. 医学放射線物理学
岡島俊三
南山堂, 1980
10. Physical aspects of destruction
Shunzo Okajima
Hiroshima and Nagasaki. The Physical, Medical and Social Effects of the Atomic

Bombings (The Committee for the Compilation of Materials on Damage Caused by the Atomic Bombs in Hiroshima and Nagasaki) Iwanami Shoten, Tokyo, pp. 21-87, 1981

11. 放射線量

岡島俊三

放射線科要点整理, 問題演習(上)(西岡清春, 亘理 勉, 中沢 虫, 山崎統四郎編) 金原出版, 1983

12. Mechanism of hyperthermic damage and its repair on cell level

Y. Okumura and S. Okajima

Fundamentals of Cancer Therapy by Hyperthermia, Radiation and Chemicals. (Ed. by E. Kano) Mag Bros. Inc., Tokyo, pp. 149-157, 1983

13. 原子爆弾の物理的破壊

岡島俊三(分担)

長崎原爆被災誌 第4巻 学術編(長崎市役所編), 1-78, 1984

14. 温熱(加温)療法

奥村 寛

放射線医学大系 第35巻 放射線生物学・病理学(松浦啓一, 他編) 中山書店, pp. 120-132, 1984

15. Activation energy of synergistic effect of irradiation and anti-cancer drugs in combination and with Hyperthermia

Yutaka Okumura and Shunzo Okajima

Hyperthermic Oncology (Ed. by Tadayoshi Matsuda and M. Kikuchi) The Japanese Society of Hyperthermic Society, Tokyo, 1984

16. Radiosensitization

Yutaka Okumura

Hyperthermia and Biology: Radiosensitization by Hyperthermia (Ed. by Tsutomu Sugahara, Mitsuyuki Abe and Tsutomi Kagiya) Japan Radiosensitization Research Association (Kyoto), pp. 50-56, 1985

17. ESR dosimetry using human tooth enamel

Junko Tatsumi

ESR Dating and Dosimetry

IONICS (Tokyo), pp. 397-405, 1985

18. The thermotolerance induced in a short period and a drug which modifies the thermotolerance

Yutaka Okumura

Progress in Hyperthermic Oncology (Ed. by S. Egawa)

Shinohara Publ. Inc. (Tokyo), pp. 94-95, 1986

19. 温熱の生物効果

奥村 寛

癌と温熱療法 (末樹恵一, 阿部光幸編) メジカルビュー社, pp. 24-30, 1987

20. 癌の温熱効果: 組織レベル, 放射線治療と温熱療法の併用

奥村 寛

新編癌・温熱療法 (柄川 順編) 篠原出版 (東京), pp. 121-127, 137-144, 1987

21. Enhancement of Thermal Killing by Ultrasound Exposure

Yutaka Okumura

Hyperthermic Oncology '86 in Japan (Ed. by Y. Onoyama)

Mag Bros Inc., Tokyo, 269-270, 1987

[論 文]

1. 往時における本邦のX線従事員の被曝線量の推定

北畠 隆, 岡島俊三

日本医学放射線学会誌, 23: 1151-1158, 1964

2. 一般住民における放射線照射歴の調査

北畠 隆, 森田皓三, 古賀佑彦, 岡島俊三

日本医学放射線学会誌, 23: 1282-1287, 1964

3. 本邦往時の良性疾患に体するX線治療の線量の推定

北畠 隆, 岡島俊三

日本医学放射線学会誌, 23: 1288-1298, 1964

4. ^{60}Co 遠隔照射法の研究, ^{60}Co 線量分布の測定

岡島俊三

日本医学放射線学会誌, 25: 174-179, 1964

5. ^{60}Co 遠隔照射法の研究, 新しい可変絞り照射法の工夫

岡島俊三, 青木吉和

日本医学放射線学会誌, 25: 180-182, 1964

6. A statistical study on human cancer induced by medical irradiation

Shinji Takahashi, Takashi Kitabatake, Masaru Watanabe, Yoshihiko Ko ga, Tadashi Miyakawa, Hisao Yamashita, Motosaburo Yasuyama, Susumu Hibino, Masasumi Miyakawa, Shunzo Okajima, Hiromu Kaneda, Hiromu Tachiiri, Yasuro Anno and Hideo Irie

Nippon Acta Radiologica, 23: 1510-1530, 1964

7. A survey on history of prior medical irradiation in general population of Japan

- Takashi Kitabatake, Isao Onuma, Kozo Morita, Sukehiko Koga and Shunzo Okajima
Nagoya J. Med. Sci., 27: 105-111, 1964
8. Estimation of radiotherapeutic dose given for radiotherapy of benign disease in the past Japan
Takashi Kitabatake, Shunzo Okajima
Nagoya J. Med. Sci., 27: 112-118, 1964
 9. 医療用放射線による発癌の調査研究
岡島俊三
長崎医学会誌, 40: 652-661, 1965
 10. トロトラストの被曝吸収線量の推定
大河原重之, 岡島俊三, 阿部建男
長崎医学会雑誌, 40: 662-665, 1965
 11. 長崎地区残留放射能の測定
岡島俊三, 大河原重之, 阿部建男
長崎医学会誌, 40: 668-670, 1965
 12. Thorotrast 肝癌の一症例及びその娘核種の代謝の研究
大河原重之
長崎医学会雑誌, 40: 169-175, 1965
 13. 体内沈着放射性物質 (Thorotrast) と発癌について
大河原重之, 井藤美和子, 平野弥英子
長崎医学会雑誌, 40: 598-602, 1965
 14. Statistical study on thorotrast-induced cancer of the liver
Shinji Takahashi, Shinji Takahashi, Takashi Kitabatake, Shoichi Yamagata, Tadashi Miyakaka, Motosaburo Masuyama, Takesaburo Mori, Toshihiko Tanaka, Susumu Hibino, Masazumi Miyakawa, Hiromu Kaneda, Shunzo Okajima, Kihachiro Komiyama, Yoshihiko Koga, Tadashi Adachi and Tadashi Hashizume
Tohoku J. exp. Med., 87: 144-154, 1965
 15. トロトラストによる肝癌発生に関する統計的研究
高橋信次, 北畠 隆, 山形敏一, 宮川 正, 増山元三郎, 森 武三郎, 田中利彦, 日比野 進, 宮川正澄, 金田 弘, 岡島俊三, 小見山喜八郎, 橋詰 雅, 足立 忠, 古賀良彦, 橋本義雄, 桜木四郎
日本医学放射線学会誌, 25: 1135-1143, 1966
 16. ^{60}Co 遠隔照射法の研究, 原体照射法における線量分布
岡島俊三, 佐久間貞行
日本医学放射線学会誌, 25: 1199-1207, 1966
 17. Thorotrast 注入マウス体内の ThO_2 とその娘核種の代謝及び人体内臓器の被曝吸収線量の推定

- 大河原重之
長崎医学会雑誌, 41: 37-55, 1966
18. Thorotrast の研究 (第 1 報) 使用時の thorotrast の性質
大河原重之
日本医学放射学会雑誌, 25: 1182-1188, 1966
19. Thorotrast の研究 (第 2 報) 臓器内沈着 thorotrast の activity の測定
大河原重之
日本医学放射学会雑誌, 25: 1189-1195, 1966
20. Thorotrast の研究 (第 3 報) 化学定量法による Th の排泄量及び臓器内分布量の決定
大河原重之
日本医学放射学会雑誌, 25: 1196-1200, 1966
21. Thorotrast の研究 (第 4 報) 臓器内生成娘核種の排泄
大河原重之
日本医学放射線学会雑誌, 25: 1201-1207, 1966
22. Thorotrast の研究 (第 5 報) 放射線学的方法による ThO₂ の体内分布及び排泄量の決定
大河原重之
日本医学放射線学会雑誌, 25: 1208-1212, 1966
23. Thorotrast の研究 (第 6 報) Thorotrast による障害について
大河原重之
日本医学放射線学会雑誌, 25: 1213-1230, 1966
24. Thorotrast の研究 (第 7 報) Thorotrast による発癌について
大河原重之
日本医学放射線学会雑誌, 25: 1231-1237, 1966
25. 広島・長崎原爆の物理的考察, 爆風および熱輻射について
岡島俊三
広島医学, 20: 63-65, 1967
26. The effects of X-irradiation on the rat behavior
Shunzo Okajima, Joe Atsuta
J. Radiat. Res., 8: 141-146, 1967
27. The effects of anaesthesia on saccharin aversion of rats to radiation to exposure
Shunzo Okajima, Joe Atsuta
J. Radiat. Res., 8: 147-151, 1967
28. ⁶⁰Co 遠隔照射法におけるロイコ化合物溶液による容積線量の測定
岡島俊三, 計屋慧実
日本医学放射線学会誌, 28: 64-67, 1968
29. マウス L 細胞に対する S. Adchnon の放射線防禦効果
青山 喬, 細川はるみ

薬物療法, 2: 83-84, 1969

30. Growth of Yoshida sarcoma in the thymus
Hidetoshi Miyawaki and Takashi Aoyama
Arch. Jap. Chir., 38: 667-671, 1969
31. The effect of X-irradiation on the activation and induction of rat liver tryptophan pyrrolase by substrate and hormone
Joe Atsuta, Shunzo Okajima
J. Radiat. Res., 9: 110-111, 1968
32. The effect of X-irradiation on RNA synthesis during tryptophan pyrrolase induction in rat liver
Joe Atsuta, Shunzo Okajima
J. Radiat. Res., 9: 135-140, 1968
33. Modification of the effect of ultra-violet irradiation by a nutritive condition on the induced formation of catechol oxygenase in *Pseudomonas effusa*
Joe Atsuta, Shunzo Okajima, et al.
Int. J. Radiat. Biol., 14: 515-525, 1968
34. Modification of the effect of ultra-violet irradiation by a nutritive condition on RNA-synthesis during the induction of catechol oxygenase in *Pseudomonas effusa*
Joe Atsuta, Shunzo Okajima
Int. J. Radiat. Biol., 14: 527-538, 1968
35. Sensitivity to ultraviolet light of RNA synthesis under different culture conditions in *Pseudomonas effusa*
Joe Atsuta, Shunzo Okajima
Radiat. Res., 37: 636-652, 1969
36. 長崎西山地区住民の放射性降下物の影響調査
岡島俊三, 塩見敏男, 法村俊之, 阿部建男, 吉永春馬, 竹下健児, 安徳重敏,
Walter J. Russell, 藤田正一郎, 鎌石昇太郎, 河本定久
広島医学, 23: 1026-1029, 1970
37. 新しい研究所の姿を求めて
青山 喬, 吉川 勲, 法村俊之, 河原田正晴
放射線生物研究, 5: 395-402, 1970
38. 長崎西山地区住民の放射性降下物の影響調査 (第2報)
岡島俊三, 法村俊之, 塩見敏男, 吉永春馬, 竹下健児, 安徳重敏, Walter J. Russell,
藤田正一郎, 鎌石昇太郎, 河本定久
広島医学, 24: 1106-1112, 1971
39. 拡大撮影管球の解像力検査
岡島俊三

- 臨床放射線, 16: 40, 1971
40. 放射線治療における ^{60}Co ガンマ線および高エネルギー X 線の吸収線量の標準測定法
岡島俊三, 安徳重敏, 入船寅二, 尾内能夫, 加藤義雄, 川島勝弘, 小西圭介, 白貝彰宏,
竹下健児, 都丸禎三, 橋詰 雅, 平岡 武, 星野一雄, 松沢秀夫
日本医学放射線学会誌, 31: 723-772, 1971
 41. ^{131}I 投与後におけるラット体内分布に関する研究
鄭 添銓
長崎医学会雑誌, 46: 71-81, 1971
 42. 長崎西山地区住民の放射性降下物の影響調査——検診結果について——
河本定久, Walter J. Russell, 藤田正一郎, 鍊石昇太郎, 岡島俊三, 法村俊之,
塩見敏男, 吉永春馬, 竹下健児, 安徳重敏
長崎医学会誌, 47: 215-225, 1972
 43. 長崎西山地区住民の放射性降下物の影響調査——放射能測定について——
岡島俊三, 塩見敏男, 法村俊之, 吉永春馬, 竹下健児, 安徳重敏, Walter J. Russell,
藤田正一郎, 鍊石昇太郎, 河本定久
長崎医学会誌, 47: 226-231, 1972
 44. 長崎西山地区住民の放射性降下物の影響調査——染色体について——
塩見敏男, 岡島俊三, 法村俊之, 吉永春馬, 竹下健児, 安徳重敏, Walter J. Russell,
藤田正一郎, 鍊石昇太郎, 河本定久
長崎医学会誌, 47: 232-237, 1972
 45. 放射線晩発障害の基礎的研究, マウス運動機能と迷路学習による放射線加令促進現象の解析
青山 喬, 吉川 勲, 法村俊之, 岡島俊三
長崎医学会雑誌, 47: 238-242, 1972
 46. Early morphological changes in the cortical medullary thymocytes of the rat after whole-body irradiation (I) Electron-microscope observations
Takashi Aoyama, Yoshio Kawamoto, Iwao Furuta and Teruo Kondo
Int. J. Radiat. Biol., 21: 545-558, 1972
 47. Early morphological changes in the cortical and medullary thymocytes of the rat after whole-body irradiation (II) Quantitative investigation
Takashi Aoyama, Shunzo Okajima
Radiat. Res., 55: 379-386, 1973
 48. 長崎大学原爆医学資料センターにおける原爆被爆者集団の基本票設定とその利用計画について
中村 剛, 岡島俊三, 塩見敏男, 青山 喬, 吉川 勲, 法村俊之
広島医学, 27: 581-583, 1974
 49. Whole-Body Counter の研究 (第 1 報) 測定感度の均一化について
岡島俊三, 法村俊之

日本医学放射線学会誌, 34: 169-178, 1974

50. 放射線治療における高エネルギー電子線の吸収線量の標準測定法
岡島俊三, 安徳重敏, 入船寅二, 尾内能夫, 加藤義雄, 川島勝弘, 小西圭介, 白貝彰宏,
竹下健児, 都丸禎三, 橋詰 雅, 平岡 武, 星野一雄, 松沢秀夫
日本医学放射線学会誌, 34: 179-185, 1974
51. 長崎原爆の影響——西山地区残留放射能の測定——
法村俊之, 久保 剛, 岡島俊三
放射線生物研究, 9: 46, 1974
52. 医用非密封線源による汚染防止対策, ヒューマンカウンタによる汚染チェック
法村俊之
放射線生物研究, 9: 50, 1974
53. Maze-learning ability of young and mature ddY mice and Mus masclus molosinus
M mice
Takashi Aoyama and Toshiyuki Norimura
Acta Med. Nagasaki., 17: 17-26, 1974
54. 長崎原爆の影響——西山地区残留放射能の測定——
法村俊之, 久保 剛, 岡島俊三
第15回原子爆弾後障害研究会講演集: 1-6, 1975
55. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究(予報)
岡島俊三, 青山 喬, 法村俊之, 西森一正, 山下一邦, 塩見敏男, 市丸道人, 浜田 稔
第15回原子爆弾後障害研究会講演集: 21-25, 1975
56. 放射線による加齢促進の研究: X線頭部照射によるマウス迷路学習能の年令依存性変化
法村俊之, 青山 喬, 岡島俊三
放射線生物研究, 10: 110, 1975
57. 老化の指標——形態的, 生理的指標の評価
青山 喬
放射線生物研究, 10: 68-70, 1975
58. Dual effects of thymic substance(s) on growth of cultured mammalian cells
Takashi Aoyama, Kuriko Kihara and Kazumi Nishiguchi
Exptl. Cell Res., 93: 427-437, 1975
59. Modification effects of the substance derived from mouse thymus on radiosensitivity
of cultured mammalian cells
Takashi Aoyama, Kuriko Kihara and Kazumi Nishiguchi
Radiat. Res., 59: 80-91, 1975
60. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究
岡島俊三, 青山 喬, 法村俊之, 西森一正, 塩見敏男, 山下一邦, 市丸道人, 浜田 稔
広島医学, 29: 217-221, 1976

61. 被曝線量の推定に関連して——体内放射能量
岡島俊三
広島医学, 29: 288-293, 1976
62. Necessity of glycolysis for recovery from ultraviolet killing of *Saccharomyces cerevisiae*
Joe Atsuta, Shunzo Okajima
Radiat. Res., 65: 550-557, 1976
63. Relationship between sensitivity to ultraviolet light and budding in yeast cells of different culture ages
Joe Atsuta, Shunzo Okajima
Radiat. Res., 65: 558-565, 1976
64. Effects of X irradiation on respiratory control and P/O ratio in isolated rat liver mitochondria having different respiratory control ratios
Joe Atsuta, Shunzo Okajima
Radiat. Res., 66: 427-432, 1976
65. 長崎西山地区の残留放射能の調査研究
岡島俊三, 法村俊之, 久保 剛
長崎医学会誌, 51: 140-142, 1976
66. 長崎大学における原爆後障害研究における現状と展望 (1)
小池正彦, 岡島俊三
医学のあゆみ, 99: 583-586, 1976
67. 長崎大学における原爆後障害研究における現状と展望 (3)
山下一邦, 岡島俊三, 西森一正
医学のあゆみ, 99: 694-698, 1976
68. 本邦における上部消化管および尿路の X 線検査の実態
北畠 隆, 黒川茂樹, 酒井邦夫, 栗冠正利, 竹内正七, 新妻伸二, 堀越 寛, 御園生圭輔,
橋詰 雅, 館野之男, 西岡清春, 斉藤達雄, 古屋儀郎, 高橋信次, 古賀佑彦, 木戸長一郎,
松浦啓一, 岡島俊三
日本医学放射線学会雑誌, 36: 527-541, 1976
69. 生体条件からみた至適拡大撮影法
綾川良雄, 奥村 寛
日本医学放射線学会雑誌, 36: 148-58, 1976
70. Effect on single and fractionated X-irradiation on maze learning ability of mice
Takashi Aoyama, Toshiyuki Norimura, Tsuyoshi Nakamura and Isao Yoshikawa
J. Radiat. Res., 17: 82-91, 1976
71. Comparison of the manifestation of radiation-induced lethal damage in in vitro and in vivo systems
Yutaka Okumura

Gann, 67: 577-583, 1976

72. 放射線技師の健康管理と老化現象の問題——明日の健康のために、微量放射線とのかかわりあい——

菅原 努, 外村 晶, 土屋武彦, 青山 喬, 岡島俊三, 山本洋一
日本放射線技師会雑誌, 24: 3-34, 1977

73. Kinetics of tumor cell death by hyperthermic treatment and X-ray irradiation

Yutaka Okumura

Gann, 68: 837-840, 1977

74. ThO₂による決定臓器吸収線量の推定に関する基礎的研究

(Thorotrast 注入ラット体内の ²³²Th とその娘核種の崩壊率比)

法村俊之

長崎医学会雑誌, 52: 25-38, 1977

75. Kinetics of preneoplastic epithelia of the intestinal mucosa Induced in buffalo rats by oral administration of N, N'-2, 7-Fluorenylenebisacetamide

Seiji Yamada, Masao Ito, Takeo Nagayo and Yutaka Okumura

Gann, 68: 805-811, 1977

76. 健康管理手当受給者の診療内容の疫学的研究——資料作成及び一般特徴に関する中間報告——

細野千春, 戸田隆義, 中村 剛, 猪俣真理子, 森 弘行, 岡島俊三

広島医学, 31: 429-431, 1978

77. 長崎大学医学部原爆被災学術資料センターにおけるデータベース作成の計画について

岡島俊三, 中村 剛, 細野千春, 猪俣真理子, 森 弘行

広島医学, 31: 432-435, 1978

78. 広島, 長崎の残留放射能について

橋詰 雅, 岡島俊三, 河村正一, 竹下健児, 田中栄一, 西村耕一, 田中 仁, 丸山隆司, 山田広明, 吉沢康雄

広島医学, 31: 455-458, 1978

79. 昭和50年度後期精密検査受診者の検査成績について

森 弘行, 中村 剛, 細野千春, 猪俣真理子, 岡島俊三, 森川 章

広島医学, 31: 472-475, 1978

80. Radioactive fallout effects of the Nagasaki atomic bomb

Shunzo Okajima, Kenji Takeshita, Shigetoshi Antoku, Toshio Shiomi,

Walter J. Russell, Shoichiro Fujita, Haruma Yoshinaga, Shotaro Neriishi,

Sadahisa Kawamoto, Toshiyuki Norimura

Health Phys., 34: 621-633, 1978

81. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究

岡島俊三, 小池正彦, 西森一正, 塩見敏男, 山下一邦, 市丸道人, 法村俊之

- 長崎医学会誌, 53: 240-243, 1978
82. 長崎大学医学部における原爆被爆者診療記録データベースの現状
岡島俊三, 中村 剛, 猪俣真理子, 森 弘行, 近藤久義, 深堀三八子
長崎医学会誌, 53: 250-257, 1978
83. 昭和 45～50 年度の長崎市における原爆被爆者の死因統計
猪俣真理子, 中村 剛, 森 弘行, 近藤久義, 戸田隆義, 岡島俊三
長崎医学会誌, 53: 258-262, 1978
84. 昭和 49～51 年度の長崎市における精密検査受診被爆者の検査成績の統計
森 弘行, 中村 剛, 猪俣真理子, 近藤久義, 戸田隆義, 岡島俊三, 森川 章, 豊田成樹
長崎医学会誌, 53: 263-268, 1978
85. 低レニン本態性高圧症の全身カリウム量に関する研究, 特にレニン・アンジオテンシン・
アルドステロン系, 循環血漿量との関連について
鈴木 伸, 土井 豊, 田崎俊介, 青井 渉, 倉持衛夫, 橋場邦武, 法村俊之, 岡島俊三
日本内科学会誌, 67: 1522-1528, 1978
86. ガンマカメラによるシンチグラムの像形式の過程——量子性からみた図形認識の限界——
光田秀雄, 奥村 寛
日本医学放射線学会雑誌, 38: 879-887, 1978
87. ^{111}In -oxine, ^3H -thymidine によるマウス二重標識リンパ球の生体内分布
芝田千恵子, 塩飽徳行, 大泉幸雄, 前沢 博, 奥村 寛, 鈴木 豊, 辻 公美, 母里知之
RADIOISOTOPES, 28: 431-436, 1978
88. Nutritional depletion of the established stationary phase during growth of mouse
mammary carcinoma cells in suspension culture
Yutaka Okumura
Gann, 69: 389-393, 1978
89. Estimation of cell cycle parameters by the cumulative method
Yasunori Obata and Yutaka Okumura
Strahlentherapie, 154: 117-121, 1978
90. Changes in cell population of Ehrlich ascites tumor by irradiation
Norimoto Tanaka, Yutaka Okumura and Koichi Murakami
Strahlentherapie, 154: 503-505, 1978
91. Heat sensitivity of rat skin
Yutaka Okumura and H. S. Reinhold
Europ. J. Cancer, 14: 1161-1166, 1978
92. r i d i t 法による定量解析
奥村 寛
医学のあゆみ, 111: 668-670, 1979
93. 空間的線量分布に関連して, A. 個人別線量分布の具体化と精度

奥村 寛

日本医学放射線学会雑誌, 39: 1207-1212, 1979

94. Post-irradiation kinetics of the C3H/He mouse mammary carcinoma as regards tumor volume regrowth time and cell loss
Norimoto Tanaka, Chikao Tanabe, Yutaka Okumura and Koichi Murakami
Strahlentherapie, 155: 58-62, 1979
95. Hyperthermia の医学生物学的基础
奥村 寛
放射線生物研究, 15: 32-47, 1980
96. 長崎における原爆の放射性降下物の影響調査
岡島俊三, 竹下健児, 安徳重敏, 塩見敏男, Walter. J. Russell, 藤田正一郎, 吉永春馬, 鎌石昇太郎, 河本定久, 法村俊之
広島医学, 33: 70-81, 1980
97. 長崎市における被爆者定期健康診断の検査成績統計 (第2報)
森 弘行, 中村 剛, 三根真理子, 近藤久義, 岡島俊三, 森川 章, 豊田成樹
広島医学, 33: 327-329, 1980
98. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究
岡島俊三, 法村俊之, 市丸道人, 小池正彦, 山下一邦, 塩見敏男, 中村 剛, 森 弘行
広島医学, 33: 397-400, 1980
99. 昭和45~51年度の長崎市における原爆被爆者の死因統計
三根真理子, 中村 剛, 森 弘之, 近藤久義, 深堀三八子, 岡島俊三, 森川 章, 豊田成樹
広島医学, 33: 401-403, 1980
100. 長崎市原爆被爆者の長崎原爆病院内科入院記録の統計的解析
近藤久義, 中村 剛, 森 弘之, 三根真理子, 岡島俊三, 千布光三郎
広島医学, 33: 404-406, 1980
101. 長崎原爆中性子線の ^{152}Eu による推定
岡島俊三, 久保 剛, 榎本義雄, 法村俊之, 高田実弥
広島医学, 33: 414-416, 1980
102. Changes with age in swimming performance of X-irradiated mice
Toshiyuki Norimura, Takashi Aoyama, Isao Yoshikawa and Shunzo Okajima
Exp. Geront., 15: 25-32, 1980
103. 死因別定期検診成績の解析
森 弘行, 中村 剛, 三根真理子, 近藤久義, 岡島俊三, 森川 章, 豊田成樹
長崎医学会誌, 55: 607-611, 1980
104. 長崎原爆病院内科入院患者の定期検診成績の統計的解析
近藤久義, 中村 剛, 森 弘之, 三根真理子, 岡島俊三, 千布光三郎
長崎医学会誌, 55: 624-627, 1980

105. 長崎西山地区におけるプルトニウム調査
岡島俊三, 相川由美子, 久保 剛
長崎医学会誌, 55: 712-715, 1980
106. 原爆被爆者の加令現象に関する研究
岡島俊三, 宮島純子, 市丸道人, 小池正彦, 小池吉子, 山下一邦, 塩見敏男, 中村 剛,
森 弘行, 法村俊之
長崎医学会誌, 55: 716-721, 1980
107. 長崎市における原爆被爆者の死因統計
岡島俊三, 三根真理子, 中村 剛, 森 弘行, 近藤久義, 深堀三八子, 森川 章, 豊田成樹
長崎医学会誌, 55: 851-859, 1980
108. 長崎市における原爆被爆者の死因ならびに死亡率の解析
三根真理子, 中村 剛, 森 弘行, 近藤久義, 岡島俊三
日本公衆衛生誌, 28: 337-342, 1981
109. 細胞レベルの高温処理の影響
奥村 寛
癌の臨床, 27: 1419-1423, 1981
110. The elastic constant of tissue in the body estimated from computerized tomography
and ultrasonography ---Theoretical analysis ---
Sadayuki Sakuma, Yutaka Okumura, Ken Ohara and Takeo Ishigaki
Nagoya J. Med. Sci., 44: 41- 46, 1981
111. ^{152}Eu による長崎原爆中性子束推定
岡島俊三, 宮島純子, 島崎達也, 榎本義雄, 高田実弥
広島医学, 35: 331-333, 1982
112. 長崎西山地区の放射性降下物の影響調査 --- 残留放射能の追跡調査 ---
岡島俊三, 宮島純子, 森本勲夫, 河本定久, 石丸寅之助
広島医学, 35: 334-336, 1982
113. 長崎市原爆被爆者の死因並びに死亡率の解析 (第2報)
三根真理子, 中村 剛, 森 弘行, 近藤久義, 深堀三八子, 岡島俊三, 森川 章, 豊田成樹
広島医学, 35: 363-365, 1982
114. 被爆者の死因別検査成績の解析
森 弘行, 中村 剛, 三根真理子, 近藤久義, 深堀三八子, 岡島俊三, 豊田成樹, 森川 章
広島医学, 35: 366-368, 1982
115. 被爆者定期検診における検査値の個体及び集団変動幅について
近藤久義, 中村 剛, 森 弘行, 三根真理子, 岡島俊三, 森川 章, 豊田成樹
広島医学, 35: 369-372, 1982
116. 原爆被爆者の加令現象に関する研究
岡島俊三, 宮島純子, 市丸道人, 小池吉子, 山下一邦, 塩見敏男, 中村 剛, 森 弘行

- 広島医学, 35: 389-392, 1982
117. 原爆に関する研究から
岡島俊三
日医放物理部会誌, 2: 49-69, 1982
118. 癌放射線治療における生物学
奥村 寛
日本放射線技術学会誌, 38: 80-85, 1982
119. 癌細胞に対する温熱の致死効果
奥村 寛
皮膚病診療, 4: 1004-1007, 1982
120. 線量-効果関係の数量的解析
宮島純子, 奥村 寛, 岡島俊三, 田中紀元
放射線生物研究, 17: 35-58, 1982
121. わが国の医療機関における TLD の利用状況
中島敏行, 岡崎 実, 越島得三郎, 林 太郎, 岡島俊三
日本放射線技術学会誌, 38: 441-446, 1982
122. トロトラスト沈着症とM蛋白血症
棟久竜夫, 古河隆二, 森田茂樹, 佐藤賢士, 峰 雅宣, 長瀧重信, 岡島俊三
臨床と研究, 59: 2655-2660, 1982
123. Investigations on the effect of radioactive fallout after the A-bomb explosion in Nagasaki
Shunzo Okajima
Chinese J. Radiol. Med. Protec., 2: 1-8, 1982
124. Analysis of radiation effects on cultured cells
Yutaka Okumura
Chinese J. Radiol. Med. Protec., 2(3): 1-8, 1982
125. Long-term trend of haemoglobin decrease in stomach cancer
Tsuyoshi Nakamura, Hiroyuki Mori, Mariko Mine, Hisayoshi Kondo, Shunzo Okajima, Akira Morikawa, Shigeki Toyoda
Med. Inform., 7: 29-38, 1982
126. Crystal structure of thorotrast in human tissues
Kunihide Nishizawa, Yoshihiro Kamiya, Masao Kaneko, Choichiro Kido, Shunzo Okajima, Takayuki Ozawa
J. Appl. Biochem., 4: 393-399, 1982
127. 長崎における原爆被害者実態調査(第3報)被爆者の訴えと要求
友池敏雄, 高橋真司, 浦田むつみ, 中村佳代, 山崎文枝, 白石照子, 上戸真弓, 山下兼彦, 中村泰友, 新谷千津子, 中村剛, 岡島俊三

- 第23回原子爆弾後障害研究会講演集: 1-7, 1983
128. 長崎西山地区住民の健康調査
岡島俊三, 宮島純子, 長瀧重信, 和泉元衛, 森本勲夫, 河本定久, 鎌石昇太郎,
石丸寅之助, 倉田明彦
第23回原子爆弾後障害研究会講演集: 49-54, 1983
129. 長崎市原爆被爆者の長崎原爆病院内科入院患者の定期検診成績の統計的解析(第2報)
入院患者の変遷について
近藤久義, 中村 剛, 森 弘之, 三根真理子, 岡島俊三, 千布光三郎
第23回原子爆弾後障害研究会講演集: 55-60, 1983
130. 被爆者の死因別検査成績の統計(第2報)
森 弘行, 中村 剛, 三根真理子, 近藤久義, 深堀三八子, 岡島俊三, 豊田成樹, 森川 章
第23回原子爆弾後障害研究会講演集: 61-65, 1983
131. 長崎市原爆被爆者の死因並びに死亡率の解析(第3報)
三根真理子, 中村 剛, 森 弘行, 近藤久義, 深堀三八子, 岡島俊三, 森川 章, 豊田成樹
第23回原子爆弾後障害研究会講演集: 66-70, 1983
132. 長崎西山地区におけるプルトニウム調査(第2報)
岡島俊三, 島崎達也, 奥田生世, 塚 淳子
第23回原子爆弾後障害研究会講演集: 129-132, 1983
133. 長崎原爆中性子線量の検討
宮島純子, 岡島俊三, 島崎達也, 笹本宣雄, 中沢正治, 高田実弥
第23回原子爆弾後障害研究会講演集: 133-138, 1983
134. 長崎西山地区住民の甲状腺機能
和泉元衛, 森本勲夫, 佐藤賢士, 長瀧重信, 岡島俊三, 宮島純子, 河本定久, 鎌石昇太郎,
石丸寅之助
第23回原子爆弾後障害研究会講演集: 190-193, 1983
135. 原爆被爆者の加齢現象の研究——放射線晩発効果
宮島純子, 岡島俊三, 奥村 寛, 森 弘行, 中村 剛
第23回原子爆弾後障害研究会講演集: 199-205, 1983
136. トロント沈着症に合併した多発性骨髄腫の1例
森田茂樹, 中田恵輔, 室 豊吉, 古河隆二, 楠本征夫, 棟久竜夫, 長瀧重信, 石井伸子,
小路敏彦, 岡島俊三
日本内科学会誌, 72: 1168-1173, 1983
137. 原爆線量再評価の背景と現状
岡島俊三
Radioisotopes, 32:78, 1983
138. 長崎市における原爆被爆者の死因ならびに死亡率の解析(第2報)
三根真理子, 中村 剛, 森 弘行, 近藤久義, 岡島俊三

日本公衆衛生誌, 30: 195-200, 1983

139. 高温処理と放射線増感作用

奥村 寛

癌と化学療法, 10: 886-893, 1983

140. 増感療法

奥村 寛

病態生理, 2: 924-929, 1983

141. Relationship between cure rate of human cancer and delivered dose in radiotherapy

Yutaka Okumura, Toshiyuki Norimura, Shunzo Okajima

Strahlentherapie, 159: 109-114, 1983

142. 原爆中性子線量推定のための基礎実験

宮島純子, 岡島俊三, 島崎達也, 中沢正治, 小佐古敏荘

広島医学, 37: 337-341, 1984

143. 放射線障害と加齢——小脳 Purkinje 細胞内の Lipofuscin の電顕的観察及び定量分析——

新海清人, 岸川正大, 井関充及, 松尾和子, 西森一正, 藤井秀治, 島崎達也, 岡島俊三

広島医学, 37: 405-407, 1984

144. 被爆者の死因別検査成績の解析 (第3報)

森 弘行, 三根真理子, 近藤久義, 深堀三八子, 岡島俊三, 中村 剛, 森川 章, 豊田成樹

広島医学, 37: 386-388, 1984

145. 長崎市原爆被爆者の死因並びに死亡率の解析 (第4報)

三根真理子, 中村 剛, 森 弘行, 近藤久義, 深堀三八子, 岡島俊三, 森川 章, 豊田成樹

広島医学, 37: 389-391, 1984

146. 長崎市原爆被爆者の血圧値および血圧区分の変遷

近藤久義, 中村 剛, 森 弘行, 三根真理子, 岡島俊三, 豊田成樹, 森川 章

広島医学, 37: 392-396, 1984

147. 生検肝臓及び原液中トロトラスの結晶構造の分析

西沢邦秀, 神谷芳弘, 花市敬正, 木戸長一郎, 岡島俊三

日医放物理部会誌, 4: 23-25, 1984

148. ESR による原爆放射線の人体被曝線量評価

池谷元伺, 宮島純子, 岡島俊三

日本原子力学会誌, 26: 878-879, 1984

149. 原爆放射線量の再評価

岡島俊三

長崎医学会誌, 59: 265-273, 1984

150. キイロシヨウジョウバエ体細胞突然変異 (mwh/flr) 検出系における X 線と 14.1 MeV 中性子線の突然変異誘発効果

吉川 勲, 綾川歳一, 大嶋加代子, 島崎達也, 奥村 寛, 岡島俊三

- 長崎医学会誌, 59: 294-299, 1984
151. ESR 法による原爆放射線量測定
宮島純子, 岡島俊三, 池谷元伺
長崎医学会誌, 59: 309-315, 1984
152. 長崎市における被爆者一般検診記録の解析
森 弘行, 中村 剛, 岡島俊三, 豊田成樹, 森川 章
長崎医学会誌, 59: 361-364, 1984
153. 長崎市原爆被爆者の死因並びに死亡率の解析 (第5報)
三根真理子, 中村 剛, 岡島俊三, 豊田成樹, 森川 章
長崎医学会誌, 59: 365-368, 1984
154. 長崎西山地区住民と対照の健康調査 (第2報)
倉田明彦, 迫 龍二, 石丸寅之助, 秋山実利, 長瀧重信, 和泉元衛, 岡島俊三, 宮島純子,
河本定久
長崎医学会誌, 59: 378-383, 1984
155. 長崎西山西山地区におけるプルトニウム調査 (第3報)
岡島俊三, 島崎達也, 奥田生世
長崎医学会誌, 59: 423-427, 1984
156. 問診結果にみる長崎誌原爆被爆者の健康の自覚度
近藤久義, 中村 剛, 森 弘行, 三根真理子, 岡島俊三, 豊田成樹, 森川 章
長崎医学会誌, 59: 550-553, 1984
157. 温熱療法
奥村 寛
組織培養, 10: 11-14, 1984
158. 長崎県内におけるトロトラスト沈着症
井関充及, 岸川正大, 西森一正, 奥村 寛
長崎医学会誌, 59: 324-327, 1984
160. 中性子発生装置のトリチウム・ターゲットによる空気汚染
島崎達也
日本放射線技術学会誌, 40: 28-33, 1984
161. Evaluation of whole body counter at Nagasaki University
Hideaki Takao, Yutaka Okumura and Shunzo Okajima
Acta Med. Nagasakiensia, 29: 53-63, 1984
162. The Relationship between the lethal mutation yield and the intake of Ethlnitrosourea
(ENU) in Drosophila Melanogaster
Toshikazu Ayaki, Kayoko Ohshima, Yutaka Okumura, Isao Yoshikawa and
Toshio Shiomi
Environ. Mutagen., 6: 483-488, 1984

163. ESR dosimetry for atomic bomb survivors using shell buttons and tooth enamel
Motoji Ikeya, Junko Miyajima and Shunzo Okajima
Jap. J. Appl. Phys., 23: 697-699, 1984
164. The effect of a hypoxic cell sensitizer on cancer radiotherapy: An analysis by a model
Yutaka Okumura and Shunzo Okajima
Strahlentherapie, 160: 602-623, 1984
165. Estimation of thorium deposite in thorostrast patients by CT scanner in comparison with whole body counter
Junko Miyajima, Shunzo Okajima, Hideaki Takao, Akihisa Nakashima and Zenichiro Honbo
J. Radiat. Res., 26: 196-210, 1985
166. 動物腫瘍を用いた実験的がん温熱療法
奥村 寛
日本ハイパーサーミア学会誌, 2(2): 85-89, 1986
167. ハイパーサーミア—基礎から臨床まで—
奥村 寛, 計屋慧實
放治システム研究, 3(2): 101-106, 1986
168. 時系列被爆者一般検査成績のロジスティック分析による異常の早期発見
森 弘行, 中村 剛, 豊田成樹, 森川 章
広島医学, 39(3): 340-343, 1986
169. 原爆被爆者における E S R 線量測定法の詳細な検討
巽 純子, 島崎達也, 岡島俊三
広島医学, 39(3): 418-422, 1986
170. 原爆被爆者における A T L A 抗体と被曝線量の関係について
池田柊一, 木下研一郎, 市丸道人, 巽 純子, 岡島俊三, 日野茂男, 三根真理子
広島医学, 39(3): 462-464, 1986
171. 被爆者検診成績を使った加齢に関する研究
近藤久義, 中村 剛
広島医学, 39(3): 485-487, 1986
172. 長崎原爆被爆者の健康意識調査
三根真理子, 岡島俊三, 中村 剛, 豊田成樹, 森川 章, 大保輝昭
広島医学, 39(3): 488-490, 1986
173. 原爆被爆老人保健事業のためのアンケート調査
中村 剛, 三根真理子, 大保輝昭
広島医学, 39(3): 491-493, 1986
174. Whole Body Counterによるトロトラスト沈着患者におけるトウム沈着量の推定
巽 純子, 岡島俊三, 高尾秀明, 法村俊之

- 保健物理, 21 (3): 133-143, 1986
175. Development of malignant tumors following irradiation for preexisting tumors
Ichiro Sekine, Yoshihisa Kawase, Junji Ohi, Koji Matsumoto, Kiyoto Shinkai,
M. Honda, Masachika Iseki, Kazuhiro Shimizu, Masao Kishikawa, Issei Nishimori
and Yutaka OKumura
J. Radiat. Res., 27 (2): 151-162, 1986
176. 生物照射用の新しい大出力 X 線発生装置
池永満生, 児玉靖司, 張 海龍, 滝本晃一, 内海博司
放射線生物研究, 22 (1): 29-35, 1987
177. チェルノブイリ原発事故当時にヨーロッパを旅行した旅行者の所持品から検出された放射能
梅崎典良, 小倉良平, 大竹 久, 森田誠一郎, 高島良正, 百島則幸, 奥村 寛, 島崎達也
久留米医学会雑誌, 50 (3・4): 278-283, 1987
178. 長崎におけるチェルノブイリ原発事故由来の放射性降下物
島崎達也, 奥村 寛
長崎医学会雑誌, 62 (3): 468-478, 1987
179. 癌治療温熱療法の超音波による増感効果
奥村 寛
医学のあゆみ, 140 (12): 885, 1987
180. 歯牙の電子スピン共鳴 (E S R) を用いた放射線技師の被曝線量の推定
巽 純子, 奥村 寛, 岡島俊三, 山本洋三
日本医学放射線学会誌, 47 (3): 524-530, 1987
181. Establishment and some mutational characteristics of 3T3-like near-diploid mouse
cell line
Masao S. Sasaki and Seiji Kodama
J. Cell. Physiol., 131: 114-122, 1987
182. Chromosome aberration frequency and radiation dose to lymphocytes by alpha-particles
from internal deposit of Thorotrast
Masao S. Saki, Toshihiro Takatsuji, Yosuke Ejima, Seiji Kodama and
Choichiro Kido
Radiat. Environ. Biophys., 26: 227-238, 1987
183. The involvement of chromosome 13 in the X-ray-induced in vitro transformation of
mouse m5S cells
Seiji Kodama and Masao S. Sasaki
Jpn. J. Cancer Res. (Gann), 78: 372-381, 1987

病態生理学部門 (原研病理)

1. 長崎医大原子爆弾救護報告 ―「救護報告」を読んで
西森一正
長崎医大原子爆弾救護報告完全復刻版, 朝日新聞社, 東京 pp. 289-314, 1970
2. 原水爆を考える ―第二編 医学
西森一正 (分担)
原水爆禁止長崎県民会議編, 長崎 pp. 37-65, 1975
3. 広島・長崎の原爆災害
西森一正 (分担)
広島市・長崎市原爆災害誌編集委員会編, 岩波書店, 東京 1979
4. 病理学総論 第7章 免疫の病理
西森一正 (分担執筆)
土山秀夫編 医歯薬出版株式会社, 東京 1983・7 1版1刷
5. 長崎原爆戦災史第4巻学術編
西森一正
長崎市役所 1984
6. 核を考える
西森一正 (分担)
九州大学公開講座, 九州大学出版会, 福岡 1985
7. 長崎県大百科辞典
西森一正 (分担執筆)
長崎新聞社発行
8. 長崎大学三十五年史
西森一正 (分担執筆)
長崎大学
9. 実験的脳卒中の予防―その薬理から: 新薬開発のための動物モデル利用集成
尾崎正若, 関根一郎
D & D プランニング, 東京, pp.191-206, 1985
10. 関節炎に関する実験的研究, とくに蛍光抗体法の応用
橋口剛志, 高木寛之, 西森一正, 桂榮孝
日病会誌 53:110, 1964
11. 高血圧症に関する実験的研究(7) 免疫病理学的立場より観て
宇賀辰郎, 久保実, 西森一正
日病会誌 53:107-108, 1964

12. 脳血管病変の病理発生に関する一考察
西森一正
臨床神経学 4:373-377, 1964
13. 循環器疾患の基礎と臨床
—長崎大学循環器研究グループによる— (座談会)
高岡善人, 松岡茂, 西森一正, 田崎亟治, 橋場邦武, 近藤厚, 玉木正男, 中沢与四郎,
土山秀夫, 林一郎
最新医学 19:3188-3207, 1964
14. 脳卒中の病態生理
西森一正, 高木寛之
臨床と研究 42:2256-2262, 1965
15. 原爆被害者の骨髓腫腎に関する病理組織学的研究
久保実, 高木寛之, 西森一正
長崎医学会誌 40:612-615, 1965
16. 剖検材料から見た原爆被害者死因統計
—特に造血臓器を中心として—
西森一正, 松岡茂, 高木寛之, 久保実, 阿部康男, 桂栄孝
長崎医学会誌 40:675-676, 1965
17. 急性播種性脳脊髄炎の症例
最上大, 早田正裕, 松尾高裕, 重松授
長崎医学会誌 40:410-411, 1965
18. 原爆被爆者に現れた骨髓腫について
松岡茂, 西森一正, 久保実, 竹林茂夫, 高木寛之, 中島義三, 藤井秀治
昭和39年度文部省科学研究費による研究報告集録 No.13 放射線影響編 82, 1965
19. Juxtaglomerular cell granules : An experimental study
Nishimori, I.
日腎会 7:2-5, 1965
20. 肉芽腫性糸球体周囲炎の症例
西森一正
日腎誌 8:51, 1966
21. 長崎に於ける原爆後障害20年のまとめ
—原爆障害症に関する特別展示—
朝長正允, 西森一正, 林一郎, 松岡茂, 岡島俊三
日病会誌 55:303, 1966
22. 骨髓腫に於ける腎の変化について
西森一正, 重松授, 久保実
日病会誌 55:203, 1966

23. 高血圧自然発症ラットの病理組織像及び腎旁糸球体動脈細胞顆粒
西森一正, 重松授, 津田暢夫, 松井道
最新医学 21:1888-1895, 1966
24. 骨髓腫腎の病理 一特に蛋白代謝異常の面より一
西森一正
長崎医学会誌 41:473, 1966
25. 14才女子の硬口蓋に発生した唾液腺混合腫瘍
緒方聖, 津田暢夫
耳鼻咽喉科 38:853-855, 1966
26. Wegener's granulomatosisの1症例について
緒方聖, 津田暢夫
耳鼻咽喉科 38:1069-1077, 1966
27. 脳出血の成因
西森一正
日本臨床 25:10-15, 1967
28. 副腎再生性高血圧および高血圧発生における副腎皮質の役割
西森一正
最新医学 22:1165-1169, 1967
29. 実験的高血圧症
西森一正
Medicine 4:72, 1967
30. 高血圧自然発症ラットの病理発生に於ける腎性要因, 特に免疫病理学的研究
西森一正, 重松授, 松井道, 木下勝, 中口規彦
日体質誌 30:139-143, 1967
31. 長崎に於ける剖検例について〔悪性新生物のまとめ〕
西森一正, 重松授, 早川滉, 松井道, 津田暢夫, 林一郎, 杉原甫, 松岡茂, 野口恒久
広島医学 20:414-416, 1967
32. 被爆者白血病及び悪性リンパ腫のまとめ, 長崎剖検例について
西森一正, 重松授, 樋口一郎, 阿保守邦, 林一郎, 土山秀夫, 浦山昭, 松岡茂, 嘉村末男,
高木寛之
広島医学 20:319-322, 1967
33. 腎生検の信頼度について
西森一正, 早川滉, 高木寛之
臨床病理 15:12-14, 1967
34. 白血病に於ける脳出血の病理組織学的研究
樋口一郎, 西森一正
長崎医学会誌 42:489-490, 1967

35. Primary hemochromatosisの1剖検例
早田正裕, 尾崎修一, 松井道
長崎医学会誌 42:492-493, 1967
36. 胎内被爆による障害に関する実験的研究, 第一報 睾丸に与える障害について
重松授, 中口規彦, 岡島俊三, 大河原重之, 阿部健男
長崎医学会誌 42:487, 1967
37. 長崎地区における白血病性脳出血の病理組織学的研究
樋口一郎, 西森一正
長崎医学会誌 43:847-851, 1968
38. 原爆後障害研究の現在と将来, 病理標本の体系的集積
西森一正
長崎医学会誌 43:907-908, 1968
39. 長崎地区における白血病性脳出血の病理組織学的研究
樋口一郎, 西森一正
長崎医学会誌 43:847-851, 1968
40. 白血病性脳出血に関する病理学的研究
樋口一郎
長崎医学会誌 43:952-969, 1968
41. JG細胞顆粒とその意義
西森一正, 津田暢夫, 竹下菊雄
最新医学 23:1812-1819, 1968
42. 腎傍糸球体細胞の分泌顆粒
津田暢夫
J. Electron Microsc. 17:357, 1968
43. 長崎に於ける悪性新生物の溯及調査, 臨床, 病理の対比検討
西森一正
広島医学 22:388-389, 1969
44. 副腎のこと
西森一正
泌尿紀要 15:1, 1969
45. 高血圧症に関する実験的研究・腎血流動態と腎動脈病変
阿部守邦
長崎医学会誌 44:208-225, 1969
46. 下垂体 Chromophobe adenocarcinoma の1剖検例
藤本俊明, 松井道
耳鼻臨床 62:1439-1444, 1969
47. 左心房「粘液腫」の2剖検例

津田暢夫, 馬場宇一郎, 高村邦彦

Jap. Circ. J. 33:1446, 1969

48. 悪性高血圧像を呈した原発性アミロイドーシスの1例

尾崎修一, 早田正裕, 原田嘉文, 鈴木寛, 岡孫呉, 重松授, 松井道

日内会誌 58:781, 1969

49. Experimental glomerulonephritis in rats produced with soluble antigenantibody complexes after pretreatment with aminonucleoside

Matsui, S.

Acta Med. Nagasaki 13:125-139, 1969

50. Ultrastructural study of secretory granules in the juxtaglomerular cells

—Particularly on formation and extrusion—

Tsuda, N.

Acta Med. Nagasaki 13:140-155, 1969

51. 剖検例に由る原爆症認定患者の溯及調査

西森一正, 下村旭, 泉真美

広島医学 23:1068-1071, 1970

52. An autopsy case of alkaptonuria with achronosis

Nishimori, I., Itoh, J. and Hakuno, T.

Acta Path. Jpn. 20:505-512, 1970

53. 白血病に於ける腎病変の病理組織像

西森一正, 樋口一郎

長崎医学会誌 46:346-347, 1971

54. 腎性因子による血管障害の電子顕微鏡的観察

西森一正, 泉真美, 下村旭, 津田暢夫, 中山巖

J. Electron Microsc. 20:335, 1971

55. 傍糸球体細胞顆粒の染色

西森一正

臨床検査 15:445-449, 1971

56. Ultrastructural study of developing juxtaglomerular cells in the rat

Tsuda, N., Nickerson, P.A. and Molteni A.

Lab. Invest. 25:644-652, 1971

57. Experimental studies on pathogenesis of angioneclerosis produced by administration of renal extracts

Shimomura, A.

Acta. Med. Nagasaki 15:58-75, 1971

58. 血管病変の病理発生, 特に腎性因子について

西森一正

- 日泌尿会誌 63:734-737, 1972
59. 副腎再生性高血圧症
西森一正
日本臨床 30:27-30, 1972
60. 原爆症認定患者の溯及調査, 剖検例による溯及調査
西森一正
長崎医学会誌 47:407-409, 1972
61. 長崎の原爆被爆者肝疾患に関する病理学的研究
西森一正, 岸川正大, 森山信男
第13回原子爆弾後障害研究会講演集 125-129
長崎医学会誌 47:319-323, 1972
62. 被爆者の肝機能に関する研究
西森一正, 安日晋
昭和46年度原爆障害症に関する調査研究報告書 63-65, 1972
63. 銀生検染色による腎糸球体基底膜の研究
津田暢夫, 森山信男, 西森一正
J. Electron Microsc. 22:309, 1973
64. 腎凍結時の腸間膜及び脾小血管の Fibrinoid 変性の電子顕微鏡的研究
津田暢夫, 西森一正
J. Electron Microsc. 22:116, 1973
65. 脳出血の病理, ことにその動脈病変について —血管壊死発生における腎性 要因について—
西森一正
神経進歩 17:1132-1133, 1973
66. 皮膚粘膜淋巴節症候群 (MCLS) に就て
出口雅経, 辻芳郎, 坂井正義, 中村正, 田崎啓介, 西森一正
小児科臨床 26:813-823, 1973
67. Ultrastructure of Ewing's sarcoma
Tsuda, N., Noriyama, N., Fujii, H. and Nishida, H.
J. Clin. Electron. Microsc. 6:390-391, 1973
68. 腎抽出物による血管病変
西森一正, 深沢俊裕, 城間盛光
動脈硬化 1:185-191, 1974
69. 血管炎, 汎動脈炎の病理発生に関する一考察
西森一正
クリニカ 1:457-472, 1974
70. 剖検例に見る血管病変と血圧
西森一正, 富田伸一, 宮川尚孝, 母里正敏

動脈硬化 2:2-7, 1974

71. 長崎における肝硬変症, 肝癌の病理学的研究, 特に原爆被爆者と非被爆者の比較
西森一正, 富田伸一, 宮川尚孝, 母里正敏, 安日晋, 小路敏彦
昭和48年度原爆障害症に関する調査研究報告書 54, 1974
72. 被爆者の加齢現象に関する研究
西森一正, 岡島俊三, 塩見敏男, 山下一邦, 市丸道人, 浜田稔
昭和48年度原爆障害症に関する調査研究報告書 45-46, 1974
73. 左心房粘液腫の診断と手段手技 -とくに再発防止の問題について-
調亟治, 橋場邦武, 山下兼彦, 津田暢夫
外科 36:1148-1156, 1974
74. Development of sarcoma in the livers of albino rats given sodium nitrite and dimethylamine
Oka, K., Bettom, K. and Nishimori, I.
Acta Med. Nagasaki 18:13-25, 1974
75. Influence of the excessive intake of monosodium glutamate on the growth and the livers of the albino rats
Oka, K., Suwa, N. and Nishimori, I.
Acta Med. Nagasaki 18:26-34, 1974
76. A case of Alport's syndrome
Nishimori, I., Moriyama, N., Tsuda, N. and Shimomura, A.
Acta Patho. Jap. 24:551-567, 1974
77. Ultrastructural study of melanosomes in neoplastic and stromal cells of malignant melanoma
Tsuda, N., Nakayama, I., Fujii, H., Shiroma, S., Kishikawa, M. and Matsuo T.
J. Clin. Electron. Microsc. 7:243-244, 1974
78. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究(予報)
岡島俊三, 青山喬, 法村俊之, 西森一正, 山下一邦, 塩見敏男, 市丸道人, 浜田稔
第15回原子爆弾後障害研究会講演集 21-25, 1975
79. 放射線全身大量照射ラット長期生存例の個体特異性について(第1報)
宮川尚孝, 母里正敏, 富田伸一, 岸川正大, 森山信男, 城間盛光, 深沢俊裕, 津田暢夫,
西森一正
第15回原子爆弾後障害研究会講演集 63-67, 1975
80. 腎抽出物による血管病変とその経時的観察
西森一正, 深沢俊裕, 城間盛光
脈管学 15:27-31, 1975
81. Renal changes in early stage of cholera
関根一郎, 西森一正, 戸沢剛

82. Renal changes in early stage of cholera
Annual report of cholera study
Sekine, I., Nishimori, I. and Shozawa, T.
U.S.-Japan cooperative medical science program, cholera panel, 1975:18, 1975
83. Pathogenesis of the lesions of glomerulus and renal arteriole in experimental hypertension
I. An electron microscopic study of glomerulus in experimental hypertension
Moriyama, N.
Acta Med. Nagasaki 19:37-57, 1975
84. Pathogenesis of the lesions of glomerulus and renal arteriole in experimental hypertension
II. Morphological changes in basement membrane of renal arteriole and glomerulus in experimental hypertension
Moriyama, N.
Acta Med. Nagasaki 19:58-81, 1975
85. Fine structural comparison of Ewing's sarcoma with neuroblastoma
Nakayama, I., Tsuda, N., Muta, H., Fujii, H., Tsuji, K., Matsuo, T. and Takahara, O.
Acta Path. Jpn. 25:251-265, 1975
86. Ultrastructural study of hemangiopericytoma and hemangioendothelioma
Kishikawa, M., Tsuda, N., Fujii, H., Shiroma, S. and Nakayama, I.
J. Electron Microsc. 24:134, 1975
87. Ultrastructural studies of gastric bizarre leiomyoblastoma
Tsuda, N., Fujii, H., Shiroma, S., Nakayama, I. and Matsuo, T.
J. Clin. Electron. Microsc. 8:408-409, 1975
88. Ultrastructure of a myxopapillary ependymoma of the cauda equina region
Shiroma, S., Kishikawa, M., Miyagawa, N., Mori, M., Tsuda, N. and Nishimori, I.
J. Clin. Electron Microsc. 8:508-509, 1975
89. Fine structural study of synovial sarcoma
Takahara, O., Nakayama, I., Taira, Y., Moriuchi, A., Tsuda, N. and Kishikawa, M.
J. Clin. Electron. Microsc. 8:551-552, 1975
90. 高血圧における臓器障害と臓器相関 —血管—
西森一正
内科 37:562-565, 1976
91. 最近経験したBartter症候群と思われる2症例
鈴木伸, 土井豊, 深谷真彦, 小川政史, 早野元信, 倉重洋二郎, 橋場邦武, 津田暢夫

内科 38:686-690, 1976

92. 腎の選択的放射線照射に関する実験的研究
西森一正, 津田暢夫, 森山信男, 宮川尚孝, 藤川清純
広島医学, 29:189-192, 1976
93. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究
岡島俊三, 青山喬, 法村俊之, 西森一正, 塩見敏男,
山下一邦, 市丸道人, 浜田稔
広島医学 29:217-221, 1976
94. 近距離被爆者剖検例の病理組織学的研究, とくに老化現象の形態学的研究
西森一正, 深沢俊裕, 城間盛光, 中村仁美
昭和50年度原爆障害症に関する調査研究報告書 52-54, 1976
95. 長崎大学における原爆後障害研究の現状と展望(2)
西森一正, 市丸道人, 塩見敏男
医学のあゆみ 99:644-649, 1976
96. 長崎大学における原爆後障害研究の現状と展望(3)
山下一邦, 岡島俊三, 西森一正
医学のあゆみ 99:694-698, 1976
97. カルチノイド様構造を示した胃腺癌
関根一郎, 津田暢夫, 井上哲治, 石丸宏哉, 三浦敏夫
福大紀要 3:455-456, 1976
98. 放射線腎照射による心血管系病変
富田伸一, 藤川清純, 西森一正, 津田暢夫, 宮川尚孝, 関根一郎, 母里正敏, 宮崎純一
長医会誌, 51:246-249, 1976
99. 放射線腎障害の実験的研究, 第2報: 放射線腎照射における心血管系病変
富田伸一, 藤川清純, 西森一正, 津田暢夫, 宮川尚孝, 関根一郎, 母里正敏, 宮崎純一
長崎医会誌 51:246-249, 1976
100. 学校検尿にて蛋白尿・血尿を指摘された学童に対する経皮的腎生検の経験, 第4報 臨床検査成績ならびに組織学的検討
納富寿, 金武洋, 計屋紘信, 中村正, 里見公義, 津田暢夫
長崎医会誌 51:87-95, 1976
101. 呼吸器症状を主徴とした Relapsing polychondritis の1剖検例
浅井貞宏, 金城勇徳, 村岡文雄, 門田武彦, 小江俊行, 岡田弘行, 山崎力, 藤原恒夫,
岸川正大, 宮川尚孝
日胸疾会誌 14:488-495, 1976
102. Ultrastructural studies of renal angiomyolipoma
Miyagawa, N., Kishikawa, M., Tsuda, N., Nishimori, I., Shiroma, S. and
Nakayama, I.

- J. Clin. Electron Microsc. 9:567-568, 1976
103. Significance of pancreatic secretion in cholera
Sekine, I., Nishimori, I., Naito T. and Shozawa, T.
Symposium on cholera. Proceedings of the 12th Joint conference, U. S.-Japan co-operative medical science program, cholera panel, Sapporo, 1976:72-80, 1976
104. 被爆者諸資料の実態に関する研究, 第3報: 30年間の近距離被爆剖検例の病理学的研究
西森一正, 岸川正大, 戸田隆義, 津田暢夫, 関根一郎, 宮崎純一, 赤尾つき子, 富田伸一, 母里正敏, 高木敏博, 藤沢吉広, 森崎真紀子, 田中富士子, 百枝好子, 藤野是常
昭和51年度原爆障害症に関する調査研究報告書 33-51, 1977
105. 原子爆弾による身体的障害, 急性原爆症について
西森一正 (分担)
長崎原爆被害総合報告 1977, 原爆被害の実相—長崎レポート NGO 被爆問題国際シンポジウム長崎準備委員会, 長崎 45-49, 1977
106. 近距離被爆症例の病理解剖学的研究
岸川正大, 西森一正, 戸田隆義, 赤尾つき子, 藤沢吉広, 森崎真紀子, 西森一正, 津田暢夫, 関根一郎, 宮崎純一, 富田伸一, 母里正敏, 高木敏博, 藤野是常
第18回原子爆弾後障害研究会講演集 pp.73-79, 1977
107. 腎抽出物による血管病変とその経時的変化
西森一正
動脈硬化 5:153-158, 1977
108. 脳血管障害・成因
西森一正
Medico. 8:1-4, 1977
109. ヒト大動脈中膜マトリックスの形態計測的比較研究
戸田隆義, 岸川正大, 津田暢夫, 西森一正
J. Clin. Electron Microsc. 10:753, 1977
110. 小児科領域における EB virus 感染症について
出口雅経, 岩崎温子, 馬場史子, 水田舜助, 坂東文明, 早田篤, 渡辺敬信, 柳忠道, 里見元義, 富田伸一, 西森一正
小児科臨床 30:54-64, 1977
111. 後腹膜悪性線維性組織球腫 (Myxoid variant) の1例
森下直由, 高野真彦, 森勝彦, 岸川正大, 母里正敏, 西森一正
臨泌 31:829-833, 1977
112. 原発性虫垂癌の1例—臨床分類について及び本邦報告例の検討
重岡健一郎, 山本賢輔, 立石雄介, 植田成文, 江藤省三, 持永信夫, 木田栄郎, 宮城直泰, 北島涼二, 西村柳介, 伊藤俊哉, 土屋涼一, 関根一郎
日臨外誌 38:338-342, 1977

113. 腸結核を強く思わせた1症例
門野寛, 土屋涼一, 水町信行, 関根一郎, 寺尾英夫, 牧山和也, 松永圭一郎, ニッ木浩一
胃と腸 12:383-388, 1977
114. 赤白血病細胞の電顕所見について
野中美紀, 名切彬, 富安孝則, 貞森直樹, 市丸道人, 関根一郎
九血会誌 23:687-696, 1977
115. 膀胱後部腫瘍の4例
森下直由, 牧野邦司郎, 池田稔, 田中健嗣, 進藤和彦, 中野信吾, 徳永毅, 近藤厚,
関根一郎
西日泌尿 39:687-696, 1977
116. 電顕的に特異な空胞状入体をみた急性骨髓性白血病の症例
野中美紀, 吉岡朗, 山口博志, 富安孝則, 市丸道人, 宮川尚孝
臨床血液 18:51-58, 1977
117. Ultrastructural study of cardiac myxoma
Tsuda, N., Toda, T., Kishikawa, M. and Nishimori, I.
J. Clin. Electron. Microsc. 10:615-616, 1977
118. Ultrastructural study of dorsal root ganglia
Kishikawa, M., Toda, T., Tsuda, N., Nishimori, I. and Fujii, H.
J. Clin. Electron Microsc. 10:593-594, 1977
119. Ultrastructural study of the dorsal root ganglia in the fetal mercury intoxicated rats
Kishikawa, M., Tsuda, N., Toda, T., Miyagawa, N., Miyazaki, J. and Nishimori, I.
J. Electron Microsc. 26:73, 1977
120. Fine structural study of annulate lamellae complexes in human tumors
Nakayama, I., Moriuchi, A., Taira, Y., Takahara, O., Itoga, T. and Tsuda, N.
Acta Path. Jpn. 27:25-39, 1977
121. Mental retardation and mercury
International association for the scientific study of mental deficiency. 4th congress
research to practice in mental retardation biochemical aspect vol. III (ed. P. Mittler)
Kard, R. A. P., Menon, N. K. and Kishikawa, M.
Uversity Park Pr., Baltimore, 1977, pp.271-280
122. Ultrastructural study of the dorsal root ganglia in fetal organic mercury intoxicated rats
Kishikawa, M.
Acta Med. Nagasaki 22:50-62, 1977
123. Vascular lesions produced by renal cortical extracts of spontaneously hypertensive rats (SHR)

- Miyagawa, N.
Acta Med. Nagasaki 22:63-77, 1977
124. Pathological study on early changes of cholera patients
— Based on 21 autopsied materials —
Sekine, I.
Jpn. J. Trop. Med. Hyg., 5:191-246, 1977
125. 剖検例に見る原爆症認定患者の溯及調査（第3報）被爆者剖検例の病理組織学的研究
西森一正, 岸川正大, 戸田隆義, 赤尾つき子
昭和52年度原爆障害症に関する調査研究報告書 6-11, 1978
126. 原爆症について
西森一正
日災医誌 26:202-206, 1978
127. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究
岡島俊三, 小池正彦, 西森一正, 塩見敏男, 山下一邦, 市丸道人, 法村俊之
長崎医学会誌 53:240-243, 1978
128. 原爆被爆者の悪性乳房腫瘍, 広島・長崎 1950-74年
徳永正義, Norman, J. E., 浅野正英, 徳岡昭治, 江崎治夫, 西森一正, 辻泰邦
放射線影響研究所業績報告書 RERF TR:17-77, 1978
129. 上行結腸基始部にみられた孤立性非特異性潰瘍
内田雄三, 藤井良介, 柴田興彦, 辻泰邦, 関根一郎, 内山元継, 大江久圀, 吉村純平,
竹重一正
外科診療 20:489-493, 1978
130. 近距離被爆症例の病理解剖・組織学的研究
岸川正大, 西森一正, 戸田隆義, 赤尾つき子, 藤沢吉弘, 森崎真紀子, 津田暢夫,
関根一郎, 宮崎純一, 富田伸一, 母里正敏, 高木敏博, 藤野是常
広島医学 31:405-411, 1978
131. 動脈硬化の進展と腎臓（第1報）
戸田隆義, 宮崎純一, 岸川正大, 津田暢夫, 西森一正
動脈硬化 5:377-381, 1978
132. Botallo 管の微細構造
戸田隆義, 高木敏博, 岸川正大, 津田暢夫, 西森一正
J. Clin. Electron Microsc. 11:503-504, 1978
133. 腎糸球体基底膜変化の分析（350例の腎生検標本について）
山田芳弘, 戸田隆義, 岸川正大, 津田暢夫, 西森一正, 樋口一郎
J. Electron Microsc. 27:74, 1978
134. ヒトおよびラット大動脈内膜の電顕的比較研究
戸田隆義, 岸川正大, 津田暢夫, 西森一正

- J. Electron Microsc. 27:74, 1978
135. 開心術後 LOS に対するノルアド・POB併用療法の検討
第3報：とくに心・腎の病理組織学的検討について
釘宮敏定, 調亟治, 草場英介, 葉玉哲生, 賀来清彦, 黒岩正行, 福島建一, 高木正剛,
内田雄三, 津田暢夫
日胸外会誌 26:494, 1978
 136. 開心術後low output syndromeの治療
—ノルアド・POB併用療法の検討—
調亟治, 釘宮敏定, 草場英介, 葉玉哲生, 賀来清彦, 黒岩正行, 福島建一, 高木正剛,
内田雄三, 牟田博夫, 津田暢夫
日胸外会誌 26:122-133, 1978
 137. 著名な類白血病反応を呈した腓多形細胞癌の1例
重岡健一郎, 岸川博紀, 西村柳介, 山本賢輔, 加藤尚志, 福田貞義, 宮田昭海, 原田昇,
伊藤俊哉, 土屋涼一, 朝長万佐男, 津田暢夫
日臨外 39:40-42, 1978
 138. Ultrastructural study of intracytoplasmic pigments of spinal dorsal root ganglia
Kishikawa, M., Toda, T., Tsuda, N., Nishimori, I. and Fujii, H.
J. Electron Microsc. 27:70, 1978
 139. Fine structure of chordoma
Kishikawa, M., Takagi, T., Toda, T., Tsuda, N., Nishimori, N. and Fujii, H.
J. Clin. Electron Microsc. 11:755-756, 1978
 140. Ultrastructural study of renal adenocarcinoma
Tsuda, N., Yushita, Y., Takagi, T., Toda, T., Kishikawa, M., Nishimori, I. and
Nakayama, I.
J. Clin. Electron. Microsc. 11:663-664, 1978
 141. Experimental studies on kidney preservation by perfusion with fluorochemical (FC-43) emulsion at room temperature
Shindo, K., Hori, T., Kuniyoshi, M., Kakimoto, S., Kondo, A., Sekine I.
Proceeding of the IV the International Symposium on Perfluorochemical Blood Substitutes pp.197-205, Kyoto, 1978
 142. Vascular lesions produced by transient renal ischemia
Tomita, S.
Acta Med. Nagasaki 23:47-62, 1978
 143. ヒト脊髄後根神経節の色素顆粒
岸川正大, 津田暢夫, 藤野是常, 荒木潤, 西森一正
長崎大神経情報研年報 6:107-114, 1979
 144. 脊髄後根神経節細胞にみられる好酸性顆粒

- 岸川正大, 戸田隆義, 津田暢夫, 西森一正, 藤井秀治
神経進歩 23:533-534, 1979
145. 直腸平滑筋腫の1例
太田英樹, 清水輝久, 内田雄三, 北里精司, 関根一郎
胃と腸 14:1413-1417, 1979
146. 胃角部接吻潰瘍の一方が早期癌であった1例
三村正毅, 猪野睦征, 橋口勝敏, 土田龍馬, 藤原正純, 高木正隆, 富田伸一, 関根一郎
胃と腸 14:89-95, 1979
147. 胃十二指腸に跨る癌の臨床病理学的研究—外科治療上の問題点に関する
知見補遺, 内田雄三, 野川辰彦, 山下三千年, 橋本茂廣, 藤井良介, 畦倉薫, 橋本芳徳,
石川喜久, 小武康德, 猪野睦征, 日高重幸, 北里精二, 大江久罔, 柴田興彦, 石井俊世,
下山孝俊, 三村敏夫, 調 治, 辻泰邦, 関根一郎
日消外誌 12:891-900, 1979
148. DV-1006 (Cetraxate) の胃粘膜保護作用に関する研究
—特に mucous barrie に関して— (第1報) アスピリン潰瘍
関根一郎, 高平良二, 西森一正
薬理と治療 7:2971-2974, 1979
149. 長崎における原爆被爆者の悪性腫瘍特に重複癌について
—剖検例による検討—
宮崎純一, 滝口健郎, 荒木潤, 高平良二, 高木敏博, 関根一郎, 西森一正, 藤沢吉広,
湯下芳明, 岸川正大
第20回原子爆弾後障害研究会講演集 pp.66-73, 1979
150. 被爆者諸資料の実態に関する研究, 第4報: 悪性腫瘍特に重複癌の病理学的研究, 被爆者疫
病についての病理解剖および病理組織学的調査研究
西森一正, 岸川正大, 戸田隆義, 湯下芳明, 関根一郎, 宮崎純一, 分藤桂子, 高木敏博,
高平良二, 荒木潤, 滝口健郎, 藤沢吉広, 麻生敦子, 藤野是常,
昭和53年度原爆障害症に関する調査研究報告書 8-21, 1979
151. 動脈硬化と腎臓
西森一正
動脈硬化 7:1-4, 1979
152. 動脈硬化の進展と腎臓 (第2報)
戸田隆義, 高木敏博, 宮崎純一, 岸川正大, 関根一郎, 津田暢夫, 西森一正
動脈硬化 7:19-24, 1979
153. ヒトミオグロビンの法医免疫学的研究
母里正敏
日法医誌 33:63-72, 1979
154. 骨好酸性肉芽腫の微細構造

- 岸川正大, 荒木潤, 高平良二, 戸田隆義, 津田暢夫, 西森一正, 藤井秀治
J. Electron Microsc. 28:69, 1979
155. 腎動脈狭窄高血圧症の傍糸球体装置
津田暢夫, 湯下芳明, 高木敏博, 戸田隆義, 岸川正大, 西森一正
J. Electron Microsc. 28:70, 1979
156. 腹腔内臍帯動脈の微細構造
高木敏博, 高平良二, 湯下芳明, 西森一正, 津田暢夫, 藤井秀治
J. Clin. Electron Microsc. 12:648-649, 1979
157. Ultrastructural study of infantile hemangioendothelima of liver
Kishikawa, M., Tsuda, N., Araki, J., Yushita, Y., Takagi, T., Nishimori, I.,
Fujii, H. and Nakayama, I.
J. Clin. Electron. Microsc. 12:656-657, 1979
158. Ultrastructural study of chondroblastoma
Tsuda, N., Takagi, T., Kishikawa, M. and Nishimori, I.
J. Clin. Electron. Microsc. 12:559-560, 1979
159. Malignant Breast Tumors Among Atomic Bomb Survivors, Hiroshima and Nagasaki,
1950-74
Tokunaga, M., Norman, J. E., Asano, M., Tokuoka, S., Ezaki, H., Nishimori, I.
and Tsuji, Y.
JNCI 62:1347-1359, 1979
160. 僧帽弁交連切開術後に起こったアスペルギールスによると思われる真菌性心内膜炎の1剖検
例
馬渡一雄, 満岡孝雄, 奥保彦, 深谷真彦, 松尾修三, 橋場武邦, 宮崎純一, 西森一正
心臓 12:457-462, 1980
161. 実験潰瘍における血管構築および粘液の変動についての研究
関根一郎, 高平良二, 分藤桂子, 西森一正
セトラキサート シンポジウム pp.123-133, 1980
162. 肝内胆管欠損症の病理組織像
— 1剖検例と先天性胆道閉鎖症との病理学的比較 —
寺尾英夫, 板倉英世, 関根一郎, 松田静宗, 辻芳郎, 大宮俊憲, 野田剛稔, 土屋涼一
肝臓 21:1366-1378, 1980
163. 剖検で偶然見つかった肝過誤腫とカネミ油症患者から生まれた児の肝血管腫
寺尾英夫, 板倉英世, 岸川正大, 藤井秀治, 伊藤瑞子, 前田滋
小児がん 15:18-26, 1980
164. 多発性尿管憩室の2症例 — 病因に関する考察 —
松尾栄之進, 丸田耕一, 実藤健, 富田伸一, 高平良二
西日泌科 42:849-855, 1980

165. 胃に奇異な"mucosal bridge"および多発性小潰瘍を呈した1症例
西森久晋, 斉藤震太郎, 倉恒宏正, 木下善文, 松尾正彦, 三浦敏夫, 関根一郎, 西森一正
胃と腸 15:283-287, 1980
166. 胃梅毒の1手術例
三浦敏夫, 野川辰彦, 橋本茂廣, 藤井良介, 山下三千年, 長谷川宏, 石川喜久, 小武康徳,
北里精司, 石川俊世, 下村隆俊, 内田雄三, 辻泰邦, 関根一郎
日臨外誌 41:669-674, 1980
167. 先天性偏側性多嚢胞腎の1例
垣本滋, 田崎享, 松永尚文, 天本祐平, 伊藤端子, 今村甲, 関根一郎, 高尾隆三郎
臨泌 34:871-874, 1980
168. 糞線虫症(Strongyloidiasis)
高木敏博, 関根一郎, 藤井秀治
福大紀要 7:123, 1980
169. Lindau 病の1家系
関根一郎, 河合紀生子
福大紀要 7:126-127, 1980
170. 長崎地区における原爆被爆者の重複癌について
—剖検例による検討—
宮崎純一, 滝口健郎, 荒木潤, 高平良二, 高木敏博, 関根一郎, 西森一正, 藤沢吉広,
湯下芳明, 岸川正大
広島医学 33:298-305, 1980
171. 原爆被爆者の多発性骨髓腫に関する病理学的研究
高木芳秀, 岸川正大, 分藤桂子, 湯下芳明, 滝口健郎, 清水和宏, 荒木潤, 高木敏博,
宮崎純一, 関根一郎, 藤野是常, 西森一正
長崎医学会誌 55(suppl):652-660, 1980
172. 長崎の原爆被爆者剖検例にみる主病変の動態
岸川正大, 西森一正
長崎医学会誌 55(suppl):838-850, 1980
173. 腎性血管障害物質の細分画と腎内局在
宮崎純一
長崎医学会誌 55:49-59, 1980
174. 原爆被爆者の多発性骨髓腫に関する病理学的研究
高木芳秀, 岸川正大, 分藤桂子, 湯下芳明, 滝口健郎, 清水和宏, 荒木潤, 高平良二,
高木敏博, 宮崎純一, 関根一郎, 藤野是常, 西森一正
長医学会誌 55(特集号):652-660, 1980
175. 動脈病変の発症における腎性因子
—腎の一過性虚血による実験—

- 湯下芳明, 荒木潤, 宮崎純一, 西森一正, 津田暢夫
動脈硬化 8:137-149, 1980
176. 先天性水腎症に部分的尿管拡張を合併した1例
松尾栄之進, 丸田耕一, 本田昇司, 宮崎純一
臨床泌尿器科 34:977-980, 1980
177. 乳頭体に変化がみられた Leigh 脳症様の脳症
岸川正大, 西森一正, 井手芳彦, 藤井秀治
神経進歩 24:373, 1980
178. Pathomorphological study on the changes of human intra-abdominal umbilical artery with aging
Takagi, T.
Acta Medica Nagasaki 25:54-75, 1980
179. Ultrastructure of developing human ductus arteriosus
Toda, T., Tsuda, N., Takagi, T., Nishimori, I., Leszczynski, D. and Kummerow, F. A.
J. Anatomy 131:25-38, 1980
180. Morphometrical analysis of the aging process in human arteries and aorta
Toda, T., Tsuda, N., Nishimori, I., Leszczynski, D. and Kummerow, F. A.
Acta Anat. 106:35-44, 1980
181. Computed tomography of multicystic kidney
Takao, R., Amamoto, Y., Matsunaga, N., Takaki, T., Kakimoto, S., Ito, M., Fujii, H., Futagawa, S. and Sekine, I.
J. Computer Assis. Tomography. 4:548-549, 1980
182. Experimental study on kidney preservation by perfusion with perfluorochemical emulsion at low temperature.
Hori, T., Matsuzaki, Y., Kuniyoshi, M., Kakimoto, S., Shindo, A. and Sekine, I.
Low. Tem. Med. 6:1-6, 1980
183. Vater 乳頭部にカルチノイドと癌が共存した1例
下山孝俊, 北里精司, 高木敏彦, 川口昭男, 橋本茂廣, 野川辰彦, 橋本芳徳, 石川喜久, 小武康徳, 黒岩正行, 賀来清彦, 柴田興彦, 石井俊世, 内田雄三, 三浦敏夫, 辻泰邦, 井上満治, 赤司文広, 関根一郎, 津田暢夫
胃と腸 16:589-593, 1981
184. 回盲部アメーバ性肉芽腫 (アメボーマ) の1例
平野達雄, 下山孝俊, 高木敏彦, 原田茂廣, 藤井良介, 野川辰彦, 石川喜久, 小武康徳, 石井俊世, 内田雄三, 三浦敏夫, 辻泰邦, 関根一郎
臨床外科 36:1481-1486, 1981
185. 非特異性多発性小腸潰瘍症の1例

- 室豊吉, 中田恵輔, 河野健次, 古河隆二, 棟久龍夫, 長瀧重信, 石井信子, 小路敏彦,
平野達雄, 下山孝俊, 関根一郎
臨床と研究 58:1845-1848, 1981
186. 新鮮小腸結核の1切除例
内田雄三, 畦倉薫, 柴田興彦, 高橋英巳, 福嶋成幸, 川原克信, 小武康徳, 下山孝俊,
三浦敏夫, 辻泰邦, 関根一郎, 調亟治
診断と治療 69:2343-2346, 1981
187. 腸重積症を呈した Peutz-Jegher 症候群の1例
伊東正博, 関根一郎, 福島建一, 井上哲治
長医会誌 56:144-147, 1981
188. 結腸に粗大な病巣を呈した壊死性胃腸炎の2例
関根一郎, 高平良二, 寺尾英夫, 浅野正英
福大紀要 8:338, 1981
189. 長崎地区原爆被爆者の脳腫瘍に関する病理学的検討
岸川正大, 湯下芳明, 戸田隆義, 伊東正博, 井関充及, 清水和宏, 滝口健郎, 高木芳秀,
荒木潤, 高平良二, 関根一郎, 西森一正, 近藤久義, 松尾武, 池田高良
第22回原子爆弾後障害研究会講演集 pp.158-161, 1981
190. 血管炎と消化
関根一郎, 高平良二, 本田実, 西森一正, 牧山和也
現代医療 13:2034-2041, 1981
191. 高血圧自然発症ラット (SHR) および脳卒中易発症性高血圧ラット (SHR) に対する
Dilazep 長期投与の効果
宮崎純一, 関根一郎, 湯下芳明, 西森一正, 永田文子, 前村俊一, 尾崎正若
応用薬理 22:549-564, 1981
192. 膜性増殖性糸球体腎炎類似の腎臓病を伴った Plasma cell dyscrasia の一剖検例
原田孝司, 新里健, 田浦幸一, 原耕平, 関根一郎, 田口尚
日腎誌 23:1255-1269, 1981
193. Cis-platin が著効を呈した肺転移を有する睾丸腫瘍について
松屋福蔵, 垣本滋, 近藤厚, 久保一郎, 湯下芳明, 関根一郎, 堀 真
西日泌尿 43:353-357, 1981
194. Myxomatous nerve sheath tumor of cauda equina
岸川正大, 滝口健郎, 西森一正, 藤井秀治
神経病理 2:85-86, 1981
195. 先天性十二指腸膜様狭窄により発現した Wernicke 脳症
藤井秀治, 岸川正大, 滝口健郎, 西森一正, 城間盛光
神経病理 2:44, 1981
196. Ultrastructural study of the myxomatous change of peripheral nerve tumor

- Kishikawa, M., Tsuda, N., Shimizu, K., Takiguchi, K., Takagi, Y., Yushita, Y., Araki, J., Nishimori, I. and Fujii, H.
J. Clin. Electron Microsc. 14:831-832, 1981
197. Study of atomic bomb survivors -Postmortem examination in the Nagasaki district over a 32-year period-
Kishikawa, M. and Nishimori, I.
Acta Med Nagasaki 26:38-55, 1981
198. 原爆被爆者胃癌の病理学的並びに疫学的研究 (1950-1977年, 広島-長崎)
関根一郎, 西森一正, 松浦博夫, 山本務, 越智義道
第23回原子爆弾後障害研究会講演集 105-112, 1982
199. 長崎地区原爆被爆者の婦人科領域悪性腫瘍に関する病理学的検討
岸川正大, 本田実, 伊東正博, 井関充及, 清水和宏, 滝口健郎, 高木芳秀, 近藤久義, 西森一正
第23回原子爆弾後障害研究会講演集 119-124, 1982
200. 原爆被爆者肺癌の病理, 疫学的研究, 広島, 長崎 1950-80年
山本務, 藤倉敏夫, 西森一正, 徳岡昭治, 門前徹夫, 中島栄二, 加藤寛夫
放影研 研究計画書 1-7, 1982
201. 長崎原爆被爆者の病理学的検討
西森一正
広島医学 35:271-276, 1982
202. 長崎地区原爆被爆者の脳腫瘍に関する病理学的検討
岸川正大, 湯下芳明, 戸田隆義, 伊東正博, 井関充及, 清水和宏, 滝口健郎, 高木芳秀, 荒木潤, 高平良二, 関根一郎, 西森一正, 近藤久義, 松尾武, 池田高良
広島医学 35:428-430, 1982
203. 先天性腎内性動静脈瘻の1例
国芳雅広, 渡辺義博, 垣本滋, 近藤厚, 湯下芳明, 関根一郎
社会保険医学雑誌 22:1-4, 1982
204. 卵巣に寄生した Anisakis 幼虫 (異所性好酸球肉芽腫) の1例
森廣康, 平田満郎, 加藤泰昭, 高木芳秀, 関根一郎, 青木克己, 三森龍之
産科と婦人科 48:107-109, 1982
205. 潰瘍性大腸炎と癌の合併
関根一郎, 岸川正大
福大紀要 9:89-90, 1982
206. 直腸 barium granuloma の2例
関根一郎, 高平良二, 佐藤行夫, 福島建一, 北里精司, 内田雄三, 太田英樹
胃と腸 17:235-240, 1982
207. 動脈硬化症とチキンモデル 第1報: 内因性高脂血症を伴うチキンにおける血管病変

- 戸田隆義, 高平良二, 荒木潤, 西森一正, 津田暢夫
動脈硬化 10:457-465, 1982
208. 動脈硬化症とチキンモデル 第2報: 過酸化脂質誘導体の血管障害作用
戸田隆義, 高平良二, 荒木潤, 西森一正, 津田暢夫
動脈硬化 10:283-288, 1982
209. 性ホルモンと動脈硬化症 - I. 血管壁におけるコレステロールとエストロゲンの相互作用 -
戸田隆義, 井関充及, 伊東正博, 本田実, 西森一正
動脈硬化 10:751-757, 1982
210. 低酸素と血管壁の変化 - I. 動脈管平滑筋細胞の微細構造 -
戸田隆義, 伊東正博, 井関充及, 本田実, 西森一正
動脈硬化 10:771-777, 1982
211. 血管壁に対するエラスターゼの作用 第1報: in vitro での形態学的変化
津田暢夫, 戸田隆義, 岸川正大, 西森一正
動脈硬化 10:533-537, 1982
212. 動脈病変の発症における腎性因子 第2報: 血管障害物質の免疫学的研究
湯下芳明, 高木芳秀, 岸川正大, 西森一正
動脈硬化 10:53-56, 1982
213. 慢性関節リウマチの経過中に発生した Creutzfeldt-Jakob 病の1例
明石光信, 野村邦雄, 斉藤厚, 原耕平, 石野徹, 藤井薫, 荒木潤, 宮本勉,
感染症学雑誌 56:623-629, 1982
214. Ultrastructural study of pulmonary "Sclerosing hemangioma"
Araki, J., Tsuda, N., Anami, M., Kishikawa, M., Toda, T. and Nishimori, I.
J. Clin. Electron. Microsc. 15:760-761, 1982
215. Ultrastructural study of proliferated small vessels in brain tumor
Kishikawa, M., Tsuda, N., Shimizu, K., Takaki, Y., Yushita, Y., Fujii, H. and
Nishimori, I.
J. Clin. Electron Microsc. 15:787-788, 1982
216. The effect of single ligature on the rabbit carotid artery
Araki, J.
Acta Med. Nagasaki 27:78-98, 1982
217. Pathogenesis of cerebral cystic infarction observed in SHR-SP
Takiguchi, K., Miyazaki, J., Kishikawa M., Nishimori, I. and Ozaki, M.
Jpn. Heart J. 23:407, 1982
218. Pharmacological and pathological studies of dilazep on the spontaneously hypertensive
rats (SHR) and stroke prone SHR (SHRSP)
Sekine, I., Miyazaki, J., Yushita, Y., Nishimori, I., Nagata, A., Maemura, S. and
Ozaki, M.

Jpn. Heart J. 23:418, 1982

219. Postirradiation sarcoma (malignant fibrous histiocytoma) following cervix cancer
Pinkston, J. A. and Sekine, I.
Cancer 49:434-438, 1982
220. クロウン病患者の直腸粘膜がみられる早期病変
牧山和也, 原口増穂, 福田博英, 森里比古, 村上一生, 小森宗治, 富田伸一, 井手孝, 橘
川桂三, 原耕平, 関根一郎, Jewell, D. P.
医学のあゆみ 127:1012-1016, 1983
221. DICを呈し, 肝硬変に合併した広汎性胃腸管アスペルギルス症の1剖検例
本田実, 関根一郎, 西森一正, 伊藤新一郎, 藤井秀治
病理と臨床 11:1589-1594, 1983
222. 潰瘍性大腸炎を母地に発生した多発性大腸癌の1剖検例
関根一郎, 高平良二, 富田伸一, 牧山和也, 松井道, 早田正裕
病理と臨床 1:625-630, 1983
223. 胃, 胆嚢, 膀胱の粘膜に広範に発育した腺癌
新海清人, 関根一郎, 西森一正
福大医紀 10:299, 1983
224. 高度動脈硬化症を基盤とした盲腸部虚血性腸炎の1例
高平良二, 新海清人, 関根一郎, 西森一正, 黒岩正行, 井上哲治
長医会誌 58:81-84, 1983
225. 川崎病の突然死の3剖検例
本田実, 関根一郎, 西森一正, 出口雅経, 藤井秀治, 内田信三, 今村甲
長医会誌 58:301-306, 1983
226. 子宮頸癌放射線治療により発生したと考えられる直腸癌の1例
関根一郎, 滝口健郎, 西森一正, 扇和之, 高原耕, 大津留信
日消誌 80:897-899, 1983
227. 原爆被爆者胃癌の疫学的並びに病理学的研究(1950年-1977年, 広島-長崎)
関根一郎, 西森一正, 松浦博夫, 山本務, 越智義道
第23回原子爆弾後障害研究会講演集 pp.105-112, 1983
228. 長期ストレスによる実験的高血圧と尿中カテコールアミンについて
松尾和子, 関根一郎, 藤野是常, 西森一正, 小岩珠美, 丹羽正美, 尾崎正若
医学と生物学 106:123-127, 1983
229. 急性気腫性胆嚢炎の1例
藤井良介, 国崎忠臣, 中村徹, 原田大, 村上英世, 菅村洋治, 鳥越敏明, 関根一郎,
岸川正大, 藤本健二郎
消化器外科 6:1255-1260, 1983
230. 膀胱腺癌と胃癌を同時発生した1例

- 国芳雅広, 垣本滋, 近藤厚, 飛永晃二, 関根一郎
臨泌 37:241-244, 1983
231. 特異な経過をとった膀胱腫瘍の1例
垣本滋, 渡辺義博, 松屋福蔵, 国芳雅広, 近藤厚, 関根一郎, 湯下芳明
西日泌科 45:93-95, 1983
232. 性ホルモンと動脈硬化症 II. テストステロンと血管壁の相互作用
戸田隆義, 井関充及, 伊東正博, 本田実, 西森一正
動脈硬化 11:297-303, 1983
233. 動脈硬化症とチキンモデル III. チキン高脂血症に及ぼすエラスターゼの作用
戸田隆義, 本田実, 伊東正博, 西森一正, 丹羽正美
動脈硬化 11:357-364, 1983
234. 長期心因性ストレスによる実験的高血圧症と血管変化
関根一郎, 岸川正大, 高木芳秀, 清水和宏, 松尾和子, 藤野是常, 西森一正, 丹羽正美, 尾崎正若
動脈硬化 11:159-165, 1983
235. 動脈硬化の成り立ち 一形態面より一
西森一正
総合医学雑誌 現代の診療 25:7-8, 1983
236. An autopsy case of 17α hydroxylase deficiency with malignant hypertension
Morimoto, I., Maeda, R., Izumi, M., Ishimaru, T., Nishimori, I. and Nagasaki, S.
J. Clin. Endocrinol. Metab. 56:915-919, 1983
237. Primary malignant fibrous histiocytoma of the endometrium
Takaki, Y., Kishikawa, M., Sekine, I., Nishimori, I. and Namiki, H.
Acta Pathol. Jpn. 33:823-829, 1983
238. Biochemical studies on oral toxicity of ricin. I
Ricin administered orally can impair sugar absorption by rat small intestine
Ishiguro, M., Mitarai, M., Harada, H., Sekine, I., Nishimori, I. and Kikutani, M.
Chem. Pharm. Bull. 31:3222-3227, 1983
239. Activities of tissue registry and tumor registry in Nagasaki area
Itoga, T., Nishimori, I., Ikeda, T. and Nakayama, I.
Acta Med. Nagasaki 28:9-21, 1983
240. 重度熱傷における肺, 腎の病理学的変化
一特に血栓形成を中心として一
伊東正博, 関根一郎, 西森一正
熱傷 9:120-125, 1984
241. 放射線障害と加齢 一小脳 Purkinje 細胞内の Lipofuscin の電顕的観察及び定量分析一
新海清人, 岸川正大, 井関充及, 松尾和子, 西森一正, 藤井秀治, 島崎達也, 岡島俊三

広島医学 37:405-407, 1984

242. クロールプロマジンの温阻血腎に対する効果

国芳雅広, 松屋福蔵, 松崎幸康, 堀建夫, 垣本滋, 進藤和彦, 斎藤泰, 関根一郎
移植 19:201-206, 1984

243. 家兎腎ミトコンドリアに対するクロールプロマジンの in vitro における効果

国芳雅広, 松屋福蔵, 松崎幸康, 堀建夫, 垣本滋, 進藤和彦, 斎藤泰, 関根一郎
移植 19:207-210, 1984

244. 日和見感染としての肺アスペルギルス症のX線像—伸展固定肺による検討

長崎鼎二, 林邦昭, 川野洋治, 新野順, 張金山, 本保善一郎, 西野健二, 関根一郎,
鳥山寛
日医放誌 44:1513-1519, 1984

245. 進行胃癌における脈管侵襲に関する病理組織学的研究

—特に胃癌における銀反応陽性細胞との関連—

新海清人, 伊東正博, 松尾和子, 岸川正大, 関根一郎, 西森一正, 藤井秀治, 高平良二
癌の臨床 30:791-798, 1984

246. 直腸に発生した良性リンパ濾胞性ポリープの1切除例

伊藤重彦, 大曲武征, 橋本茂廣, 梶原啓司, 関根一郎, 井関充及, 本田実, 富田正雄
外科 46:861-863, 1984

247. 長崎県内におけるトロトラスト沈着症の5剖検例

井関充及, 岸川正大, 西森一正, 奥村寛
長崎医学会誌 59:66-69, 1984

248. 悪性腫瘍放射治療後の発がんについて—重複癌剖検例の検討

関根一郎, 川瀬義久, 新海清人, 本田実, 井関充及, 清水和宏, 岸川正大, 西森一正
長医学会誌 59(特集号):282-292, 1984

249. 広島・長崎の原爆被爆者における大腸癌(1950-80年)

中塚博文, 山本務, 清水由紀子, 高橋信, 江崎治夫, 田原栄一, 関根一郎, 下山孝俊,
持永信夫, 富田正雄, 土屋涼一
長医学会誌 59(特集号):473-480, 1984

250. ストレスと動脈硬化—長期心因性ストレスによる実験高血圧症と血管病変

西森一正, 藤野是常, 関根一郎, 七條和子, 清水和宏
最新医学 39:1885-1888, 1984

251. 動脈硬化症の発症と進展における神経性因子 司会者のことば

西森一正
動脈硬化 12:1, 1984

252. 動脈硬化症の発症と進展における神経性因子 長期ストレスによる高血圧と動脈病変

関根一郎, 西森一正
動脈硬化 12:33-39, 1984

253. 脳卒中易発症性高血圧ラット (SHR-SP) に対するパンテチン (PTN) の長期経口投与の効果
 関根一郎, 七條和子, 西森一正, 国貞景子, 和泉玲子, 尾崎正若
 動脈硬化 12:985-992, 1984
254. 微量電気刺激による反復性血管収縮
 一家兎腎・大腿動脈の電顕的観察—
 伊東正博, 本田実, 井関充及, 新海清人, 関根一郎, 西森一正
 動脈硬化 12:627-637, 1984
255. 脳卒中中の病態生化学と予防治療に関する研究
 尾崎正若, 西森一正, 橋場邦武, 臼井敏明, 丹羽正美
 内藤記念科学振興財団研究報告集 59年度版 pp.39-49, 1984
256. 長期ストレスによる実験的高血圧と脳内アミン含有量の変化
 七條和子, 関根一郎, 西森一正, 丹羽正美, 尾崎正若
 医学と生物学 109:383-388, 1984
257. 高血圧自然発症ラット (SHR) および脳卒中易発症性高血圧ラット (SHRSP) の高血圧性腎病変に対する Dilazep 長期投与の効果
 高木芳秀, 関根一郎, 七條和子, 宮崎純一, 西森一正, 永田文子, 前村俊一, 尾崎正若
 応用薬理 28:513-522, 1984
258. 脳卒中易発症ラット (SHRSP) に対する Arotinolol (S-596) 長期経口投与の効果 (第1報) 血圧, 心拍数および生化学的検査値
 和泉玲子, 国貞景子, 丹羽正美, 尾崎正若, 関根一郎, 松尾和子, 西森一正
 応用薬理 28:455-458, 1984
259. 脳卒中易発症性高血圧ラット (SHR-SP) に対する Arotinolol (S-596) の長期経口投与の効果 (第2報) 病理組織学的検討
 関根一郎, 松尾和子, 高木芳秀, 清水和宏, 岸川正大, 西森一正, 国貞景子, 和泉玲子, 尾崎正若
 応用薬理 28:456-466, 1984
260. 脳卒中易発症ラット (SHRSP) に対する rotinolol (S-596) 長期経口投与の効果 (第3報) 心臓および副腎組織のカテコールアミン量の変化
 松尾和子, 関根一郎, 西森一正, 国貞景子, 和泉玲子, 丹羽正美, 尾崎正若
 応用薬理 28:467-471, 1984
261. コレラと細菌性赤痢
 関根一郎, 新海清人, 西森一正, 所沢剛
 病理と臨床 2:1135-1140, 1984
262. 完全口蓋裂を伴ったいわゆる巨大な Epignathus の1剖検例
 新海清人, 岸川正大, 関根一郎, 西森一正
 病理と臨床 2:967-972, 1984
263. 両側睪丸転移を呈した前立腺癌の1例

- 山下修史, 渡辺義博, 松崎幸康, 垣本滋, 近藤厚, 関根一郎
西日泌科 46:407-409, 1984
264. 女子傍尿道平滑筋腫の1例
垣本滋, 実藤健, 近藤厚, 関根一郎
西日泌科 46:1365-1368, 1984
265. 筋ジストロフィー症の疫学, 臨床および治療に関する研究班報告書 女子発症例の検討
森健一郎, 松尾宗祐, 木原正高, 渋谷統寿, 伊東正博
昭和58年度報告書 180-182, 1984
266. Retinal dysplasia の1症例
高木敏博, 松園哲行, 上野泰志, 高久功, 岸川正大, 津田暢夫
眼紀 35:2420-2424, 1984
267. Ultrastructural studies on the cerebral neuroblastoma
Honda, M., Kishikawa, M., Shimizu, K., Iseki, M., Shinkai, K., Ohi, J.,
Matsumoto, K., Nishimori, I., Tsuda, N., Inoue, M. and Fujii, H.
J. Clin. Electron Microsc. 17:1052-1053, 1984
268. Experimental hypertension by long-term emotional stress and changes of adrenal cortex
—Morphological and morphometrical study—
Shimizu, K.
Acta Med. Nagasaki 29:40-52, 1984
269. Ultrastructure of newly formed vessels in thrombi
—Endothelium formation in human umbilical artery—
Takaki, T., Leszczynski, D., Toda, T., Kummerow, F. A. and Nishimori, I.
Acta Pthol. Jpn. 34:529-536, 1984
270. Breast cancer among atomic bomb survivors
Tokunaga, M., Nishimori, I., et al.
Progress in Cancer Research and Therapy 26:45-56, 1984
271. Effects of Dilazep on hypertensive nephropathy in the spontaneously hypertensive rat (SHR) and stroke prone SHR (SHRSP)
Takaki, Y., Sekine, I., Matsuo, K., Miyazaki, J., Nishimori, I., Nagata, A.,
Maemura, S. and Ozaki, M.
Jpn. Heart J. 25:872, 1984
272. Cardiovascular pathology in spontaneously hypertensive rats chronically exposed to combined restraint and electric stimulation
Sekine, I., Ito, M., Honda, M., Takaki, Y., Matsuo, K., Fujino, K., Nishimori, I.
and Ozaki, M.
Jpn. Heart J. 25:894, 1984

273. Effects of ricin, a proteintoxin, on glucose absorption by rat small intestine (Biological studies on oral toxicity of ricin II)
Ishiguro, M., Harada, H., Ichiki, O., Sekine, I., Nishimori, I. and Kikutani, M.
Chem. Pharm. Bull. 32:3141-3147, 1984
274. Pathological and epidemiologic study of gastric cancer in Atomic Bomb survivors, Hiroshima and Nagasaki, 1959-1977
Matsuura, H., Yamamoto, T., Sekine, I., Ochi, Y. and Otake, M
J. Radiat. Res. 25:119-129, 1984
275. 原爆被爆者における女性乳癌の頻度, 広島及び長崎, 1950-80年
徳永正義, Land, C., 山本務, 浅野正英, 徳岡昭治, 江崎治夫, 西森一正
放影研業績報告書集 1985
276. 扁平上皮下の腺管増生によりポリープを呈した solitary ulcer syndrome of the rectum の3例
関根一郎, 松本浩二, 新海清人, 清水和宏, 西森一正, 鳥山寛, 河合紀生子, 牧山和也
病理と臨床 3:1131-1134, 1985
277. 組織学的に構造異型を伴った虫垂 Cystadenoma の1例
野川辰彦, 小武康徳, 述博治, 田代和則, 関根一郎
日臨外誌 46:118-121, 1985
278. 多彩な内視鏡所見を呈し, metronidazole と tinidazole 耐薬性であったアメーバ性大腸炎の1例
牧山和也, 末長正弘, 江口政則, 李聡哲, 福田博英, 原口増穂, 森理比古, 田中義人, 中村憲章, 原耕平, 関根一郎, 森章夫, 藤田紘一郎, 今西建夫, 川元充
胃と腸 20:93-98, 1985
279. 絨毛状発育を呈したIIa集簇型早期胃癌の1例
扇和之, 関根一郎, 国崎忠臣, 鳥越敏明, 別府良彦
胃と腸 20:207-212, 1985
280. 直腸癌経過中に発症した Cronkhite-Canada 症候群の1例
水町信行, 滝紀雄, 川崎康彦, 宮崎純一, 関根一郎
胃と腸 20:1033-1040, 1985
281. アメーバ性肝膿瘍の1例
安武享, 大曲武征, 橋本茂廣, 仲宗根朝紀, 高瀬敬一, 藤田紘一郎, 関根一郎
外科 47:880-883, 1985
282. 慢性関節リウマチの金療法中に重症下痢症をきたし, Cl. difficile colitis と考えられる一症例
山崎和文, 津野至考, 小森宗治, 井出孝, 原口増英, 福田博英, 今村和之, 田中義人, 牧山和也, 原耕平
長医会誌 60(4):197-201, 1985

283. 大腸粘膜における mucin-containing histiocyte (muciphage) — とくに潰瘍性大腸炎との関連について
 関根一郎, 川瀬義久, 大井順二, 松本浩二, 新海清人, 西森一正, 小室安晃, 藤井秀治, 牧山和也
 長医会誌 60:197-201, 1985
284. 進行性筋ジストロフィー症における食道平滑筋および筋層間神経叢の検討
 岸川正大, 池山美香, 井関充及, 本田実, 西森一正, 近藤久義, 藤井秀治
 長崎医会誌 60:202-207, 1985
285. 多発隆起性病変を呈した十二指腸異所性胃粘膜
 松本浩二, 大井順二, 川瀬義久, 新海清人, 伊東正博, 関根一郎, 西森一正, 木田晴海
 長医会誌 60:224-226, 1985
286. 骨盤内悪性腫瘍放射線治療後の直腸, 結腸粘膜の組織学的検討
 関根一郎, 池山美香, 角千代, 新海清人, 伊東正博, 西森一正, 高原耕, 下山孝俊, 富田正雄, 奥村寛
 長医会誌 60:219-223, 1985
287. 長期ストレスによる高血圧自然発症ダイコクネズミの心臓および副腎カテコールアミン量
 七條和子, 関根一郎, 西森一正, 尾崎正若
 医学と生物学 110:207-210, 1985
288. 長期ストレスによる高血圧症と血管交感神経網
 関根一郎, 七條和子, 川瀬義久, 大井順二, 井関充及, 藤野是常, 西森一正, 尾崎正若
 動脈硬化 13:423-429, 1985
289. 脳卒中易発症性高血圧ラット (SHR-SP) に対するパンテチン (PTN) に長期経口投与の効果
 関根一郎, 七條和子, 川瀬義久, 大井順二, 井関充及, 藤野是常, 西森一正, 尾崎正若
 動脈硬化 13:423-429, 1985
290. 脳卒中易発症性高血圧ラット (SHR-SP) に対するパンテチン (PTN) の長期経口投与の効果
 関根一郎, 七條和子, 西森一正, 国貞景子, 和泉玲子, 尾崎正若
 動脈硬化 12:985-992, 1985
291. 心不全を初発症状とした巨大動脈瘤を合併した腎動静脈瘻の1手術例
 山崎英文, 青井渉, 阿部仁, 土井豊, 鈴木伸, 橋場邦武, 金武洋, 斉藤泰, 関根一郎, 西森一正
 日内会誌 74:1436-1441, 1985
292. ストレス潰瘍と胃壁内カテコールアミン — 高血圧自然発症ラット (SHR) —
 関根一郎, 七條和子, 西森一正
 医学のあゆみ 135:927-928, 1985
293. ストレスによる出血性胃炎と胃壁内カテコールアミン
 関根一郎, 七條和子, 西森一正
 Therap. Res. 2:907-910, 1985

294. 卵巣に寄生した日本住血吸虫症の1例
山口敦巳, 平田満郎, 加藤泰昭, 中野龍夫, 新海清人, 岸川正大, 関根一郎, 広瀬英彦
産科と婦人科 52:104-106, 1985
295. 卵巣の摘材病理診断にて判明した日本住血虫症の1例
山口敦巳, 平田満郎, 加藤泰昭, 中野龍夫, 新海清人, 岸川正大, 関根一郎, 広瀬英彦
産科と婦人科 52:104-106, 1985
296. 両側睾丸に発生した Embryonal carcinoma の1例
垣本滋, 実藤健, 近藤厚, 関根一郎, 菅典義
西日泌科 47:199-202, 1985
297. 陰嚢内類表皮嚢胞の1例
垣本滋, 実藤健, 近藤厚, 関根一郎
西日泌科 47:219-222, 1985
298. 陰嚢内腫瘤を主訴とした悪性リンパ腫の2例
垣本滋, 山下修史, 実藤健, 近藤厚, 藤田宣士, 関根一郎, 松本浩二, 岸川正大
社会保険医学雑誌 24:1-7, 1985
299. Amosulalol (YM-09538) の脳卒中易発症ラット (SHR-SP) に対する抗高血圧作用に関する研究
和泉玲子, 尾崎正若, 関根一郎, 西森一正
応用薬理 29:863-871, 1985
300. Amosulalol (YM-09538) の脳卒中易発症 (SHRSP) に対する抗高血圧作用に関する研究
和泉玲子, 尾崎正若, 関根一郎, 西森一正
応用薬理 29:863-871, 1985
301. 神経細胞の加齢 — 脊髄後根神経節色素顆粒の形態計測的研究 I —
池山美香, 吉川留実, 岸川正大, 近藤久義, 本田実, 西森一正, 藤井秀治
長崎大学神経情報研究年報 11:65-69, 1985
302. 進行性筋ジストロフィー症 Girl-Duchenne の1剖検例
厚生省神経疾患研究委託費筋ジストロフィー症の疫学, 病態および治療開発に関する研究
松尾宗祐, 木原正高, 長郷国彦, 木下昇, 金沢一, 渋谷統寿, 伊東正博
昭和59年度研究報告書 pp.326-330, 1985
303. 粘液様変化が著しい Spindle cell lipoma の1例
伊東正博, 津田暢夫
癌の臨床 31:217-221, 1985
304. Disseminated intravascular coagulation induced by generalized cytomegalic inclusion disease during steroid therapy for polymyositis
Shimizu, K., Kishikawa, M., Sekine, I., Nishimori, I. and Kawajiri, A.
Acta Pahtol. Jpn. 35:723-730, 1985

305. Ultrastructure of human umbilical artery and vein characterization and quantification of lipid laden cells
Takagi, T., Leszczynski, D., Toda, T., Kummerow, F. and Nishimori, I.
Acta Pathol. Jpn. 35:1047-1055, 1985
306. Ultrastructural study of adrenocortical hyperplasia caused by ectopic ACTH producing small cell carcinoma of the lung
Honda, M., Iseki, M., Kishikawa, M., Nishimori, I., Kurihara, S. and Kawai, K.
J. Clin. Electron. Microsc. 18:584-585, 1985
307. Ultrastructural study of the stroma in brain tumor
—Elastic tissue—
Kishikawa, M., Tsuda, N., Honda, M., Iseki, M. and Nishimori, I.
J. Clin. Electron Microsc. 18:832-833, 1985
308. Electron microscopic study on the kidney of adrenal regeneration hypertension rats
—A special reference to the glomerular foam cell and nephrotic syndrome—
Honda, M.
Acta Med. Nagasaki 30:156-167, 1985
309. Experimental hypertension by long-term cold stress and changes of cardiovascular system
Iseki, M.
Acta Med. Nagasaki 30:168-179, 1985
310. Ultrastructure of arterial spasms as related to athero-sclerosis and hyperlipidemia
Ito, M.
Acta Med. Nagasaki 30:204-224, 1985
311. Angiotoxicity in swine of a moderate excess of dietary vitamin D3
Toda, T., Ito, M., Toda, Y., Smith, T. and Kummerow, F. A.
Fd. Chem. Toxic. 23:585-592, 1985
312. Multiple myeloma of atomic bomb survivors
— Autopsy cases in the Nagasaki district (1946-1980) —
Kishikawa, M., Takaki, Y., Ikeyama, M., Iseki, M., Kondo H. and Nishimori, I.
Acta Med. Nagasaki 30:249-255, 1985
313. 胃噴門部過形成性様ポリープ
関根一郎, 伊東正博, 川瀬義久, 大井順二, 松本浩二, 新海清人, 西森一正, 牧山和也, 井上健一郎
長医会誌 61:48-51, 1986
314. 胃サルコイドの1例
川瀬義久, 松本浩二, 大井順二, 新海清人, 伊東正博, 関根一郎, 稲富凡人
長医会誌 61:52-54, 1986

315. Dumbbell 状腫瘤を形成した粗大な空腸 inflammatory fibroid polyp の 1 例
 関根一郎, 川瀬義久, 伊東正博, 新海清人, 西森一正, 糸瀬薫, 大和田野勝徳, 江崎重充,
 主藤久次, 牧山和也
 長崎医学会雑誌 61(2):103-106, 1986
316. 放射線誘発腫瘍の検討 一生検・手術材料を用いて—
 関根一郎, 川瀬義久, 大井順二, 松本浩二, 伊東正博, 奥村寛, 池田高良, 西森一正
 長医会誌 61(特集号): 34-339, 1986
317. ストレスと高血圧
 西森一正
 長崎医誌 61:79-84, 1986
318. 長崎地区原爆被爆者の前立腺腫瘍に関する臨床病理学的検討
 川瀬義久, 池山美香, 井関充及, 岸川正大, 西森一正, 近藤久義
 長崎医会誌 61:330-333, 1986
319. 肺癌小腸転移巣切除の 1 例
 大曲武征, 橋本茂廣, 松本道彦, 伊藤重彦, 橋本哲, 関根一郎
 臨床外科 48:519-522, 1986
320. 実験的高血圧症(脳卒中易発症ラット SHRSP)に対する Pindolol の抗高血圧効果
 尾崎正若, 関根一郎
 臨床と研究 63:266-270, 1986
321. 体位強制による動脈硬化症(予報)
 西森一正, 藤野是常, 関根一郎, 岸川正大, 川瀬義久
 動脈硬化 14:387-390, 1986
322. 実験高血圧ラット腎の電顕的観察 糸球体泡沫細胞について
 本田実, 松本浩二, 大井順二, 岸川正大, 関根一郎, 西森一正
 動脈硬化 13:1459-1463, 1986
323. 寒冷ストレスによる実験的高血圧症と血管系病変
 井関充及, 藤野是常, 清水和宏, 新海清人, 七條和子, 岸川正大, 西森一正
 動脈硬化 13:1455-1458, 1986
324. 副腎再生性高血圧ラット腎の電顕的観察 糸球体泡沫細胞と血清コレステロールとの関係—
 本田実, 松本浩二, 大井順二, 西森一正
 動脈硬化 13:1459-1464, 1986
325. 乳癌術後の放射線照射部位に発生した基底細胞上皮腫
 関根一郎, 清水和宏, 西森一正, 奥村寛
 癌の臨床 32:534-537, 1986
326. 釣藤散, 黄連解毒湯の脳卒中易発症ラット(SHR-SP)の血圧に対する作用
 尾崎正若, 太田尚, 関根一郎
 Pharma Medica. 新春増刊号: 187-192, 1986

327. 脳卒中易発症ラット (SHR-SP) の高血圧病変に対する黄連解毒湯, 釣藤散の効果
関根一郎, 七條和子, 西森一正, 太田尚, 尾崎正若
和漢薬 3:71-76, 1986
328. 剖検例による原爆認定患者の遡及調査
西森一正, 岸川正大
広島医学 39(3):310-315, 1986
329. 放射線障害と加齢: 脊髄後根神経節内色素顆粒の光顕的定量分析
岸川正大, 池山美香, 井関充及, 新海清人, 西森一正, 近藤久義
広島医学 39:437-440, 1986
330. 陰茎根部周囲より陰囊内に形成された異物型肉芽腫
垣本滋, 松尾良一, 近藤厚, 新海清人, 岸川正大, 菅典義
社会保険医誌 25:12-14, 1986
331. 神経細胞の加齢
—脊髄後根神経節細胞の形態計測的研究(Ⅲ)—
池山美香, 岸川正大, 井関充及, 近藤久義, 津田暢夫, 藤井秀治, 西森一正
長崎大学神経情報研年報 12, 1986
332. Corneal stromal over growthの1例
高木敏博, 松永伸彦, 秋山和人, 高久功, 本田実, 津田暢夫
眼紀 37:13-16, 1986
333. Malignant tumors in atomic bomb survivors with special reference to the pathology
of stomach and lung cancer
Yamamoto, T., Nishimori, I., Tahara, E. and Sekine, I.
GANN Monograph on Cancer Research 32:143-154, 1986
334. Carcinoma of the rectum following irradiation for cervical cancer
Sekine, I., Kawase, Y., Ooi, J., Ito, M., Nishimori, I., Takahara, O., Fujii, H.,
Shimoyama, T., Tomita, M. and Okumura, Y.
Acta Med. Nagasaki 31:314-324, 1986
335. Malignant lymphoma of the brain associated with multiple sclerosis-like manifesta-
tions
Kishikawa, M., Takaki, Y., Honda, M., Nishimori, I., Fujii, H., Namiki, H.,
Shibuya, N. and Kinoshita, N.
Acta Med. Nagasaki 31:1-14, 1986
336. Radiation and ageing — An electron microscopic observation and morphometrical
study on lipofuscin in the cerebellar purkinje cells, myocardial cells, and hepatic
cells —
Shinkai, K.
Acta Med. Nagasaki 31:14-30, 1986

337. Radiation-induced tumors
— Study based on biopsied and surgical materials —
Sekine, I., Kawase, Y., Ooi, J., Matsumoto, K., Ito, M., Okumura, Y., Ikeda, T.
and Nishimori, I.
Acta Med. Nagasaki 31:244-253, 1986
338. Carcinoma of the rectum following irradiation for cervical cancer
Sekine, I., Shinkai, K., Ooi, J., Sumi, C., Nishimori, I., Takahara, O., Fujii, H.,
Shimoyama, T., and Okumura, Y.
Acta Medica Nagasaki. 31:303-313, 1986
339. Glioblastoma with sarcomatous component associated with myxoid change
— A histochemical, immunohistochemical and electron microscopic study —
Kishikawa, M., Tsuda, N., Fujii, H., Nishimori, I., Yokoyama, H. and Kihara, M.
Acta Neuropathol (Berl) 70:44-52, 1986
340. Experimental stress ulcer and gastric catecholamine contents in spontaneously hyper-
tensive rats
Shichijo, K., Sekine, I., Nishimori, I., and Ozaki, M.
Gastroenterol. Jpn. 21(6):567-572, 1986
341. Effect of magnesium deficiency on ultrastructural changes in coronary arteries of
swine
Ito, M., Toda, T., Kummerow, F. A. and Nishimori, I.
Acta Pathol. Jpn. 36(2):225-234, 1986
342. Pathological studies of small intestine by oral administration of ricin to rats
I. Microscopical observation
Sekine, I., Nishimori, I., Mitarai, M., Harada, H., Ishiguro, M. and Kikutani, M.
Acta Pathol. Japonica. 36:1205-1212, 1986
343. Endothelial intracellular vacuoles in angiosarcoma of the scalp
Shimizu, K., Kishikawa, M. and Nishimori, I.
Virchows Archiv B 52:291-298, 1986
344. Non-hormonal adrenocortical adenoma with oncocytoma-like appearances
Kakimoto, S., Yushita, Y., Sanefuji, T., Kondo, A., Fujishima, N., Kishikawa, M.
and Matsumoto, K.
Acta Urol. Jpn. 32:757-763, 1986
345. Development of malignant tumors following irradiation for preexisting tumors—study
based on autopsy cases of double cancer
Sekine, I., Kawase, Y., Ooi, J., Matsumoto, K., Shinkai, K., Honda, M., Iseki, M.,
Shimizu, K., Kishikawa, M., Nishimori, I., and Okumura, Y.
J. Radiat. Res. 27:151-162, 1986

346. Experimental stress ulcer and gastric catecholamines in spontaneously hypertensive and Wistar-Kyoto rats
Sekine, I., Shichijo, K., Nishimori, I. and Ozaki, M.
Jpn. Heart J. 27(4):603, 1986
347. Histopathological effects of long-term administration of beta-adrenoceptor blockers on hypertensive complications in the stroke-prone spontaneously hypertensive rats (SHRSP)
Sekine, I., Shichijo, K., Nishimori, I. and Ozaki, M.
Jpn. Heart J. 27(4):579, 1986
348. パンテチンと私
関根一郎
Medical Digest 36(6):45-46, 1987
349. 脳卒中易発症ラット (SHRSP) に対する Panthetine および Pindolol の長期経口投与の効果 (第1報) 体重, 心拍数, 血圧および血漿成分に対する作用
太田尚, 内田真嗣, 関根一郎, 尾崎正若
応用薬理 33(5):747-752, 1987
350. 脳卒中易発症ラット (SHRSP) に対する Pantethine および Pindolol の長期経口投与の効果 (第2報) 病理組織学的検討
関根一郎, 伊東正博, 七條和子, 太田尚, 内田真嗣, 尾崎正若
応用薬理 34(2):203-208, 1987
351. 脳卒中易発症ラット (SHRSP) に対する 5 種の β 遮断薬長期経口投与の効果副腎組織 Catecholamine 量の変化
七條和子, 伊東正博, 関根一郎, 太田尚, 丹羽正美, 尾崎正若
応用薬理 34(2):209-213, 1987
352. ストレス潰瘍の病態をめぐって
—SHR, MSG ラットを用いて—
関根一郎, 七條和子, 川瀬義久, 伊東正博, 西森一正, 今村和之, 重森和弘, 兜真徳, 秋元慶子, 加藤進昌
Therapeutic Research 6(3):937-944, 1987
353. 急性気腫性胆嚢炎の1例
山口広之, 大曲武征, 橋本茂廣, 君野孝二, 相川茂, 関根一郎, 清水和宏
臨床雑誌「外科」 49(3):317-321, 1987
354. 高アマラーゼ血症を伴ったクローン病の1例
原口増穂, 牧山和也, 千住雅博, 船津史郎, 長部雅之, 田中俊郎, 橋川桂三, 井手孝, 小森宗治, 福田博英, 森理比古, 村田育夫
日本大腸肛門病学会雑誌 40(1):45-49, 1987
355. 回腸末端カルチノイド腫瘍の1例

- 大野康治, 中山正明, 山口実, 岸川博紀, 朝永良介, 小室安晃, 岸川正大, 関根一郎
 消化器外科 10(7):881-884, 1987
356. 噴門部胃癌の臨床病理学的検討
 伊津野稔, 牧山和也, 原耕平, 石井俊世, 森理比古, 橋本芳徳, 伊副真澄, 井上健一郎,
 赤司文広, 関根一郎
 長崎医学会誌 62(1):86-91, 1987
357. アミラーゼ産生肺癌の1剖検例
 大井順二, 松本浩二, 宿輪三郎, 川瀬義久, 本田実, 伊東正博, 井関充及, 岸川正大,
 関根一郎, 水田陽平
 長崎医学会誌 62(4):553-556, 1987
358. 膀胱後部腫瘍(平滑筋肉腫)の1例
 垣本滋, 松尾良一, 酒井英樹, 近藤厚, 大井順二, 岸川正大
 西日本泌尿器科 49:1243-1246, 1987
359. Dietary magnesium effect on swine coronary atherosclerosis induced by hypervitaminosis D
 Ito, M., Sekine, I. and Kummerow, F. A.
 Acta Pathol. Jpn. 37:955-964, 1987
360. Pulmonary hypertention in hepatitis B virus carriers
 Ito, M., Honda, M., Shikuwa, S., Kawase, Y., Ohi, J., Matsumoto, K., Sekine, I.
 and Fujii, H.
 Acta Pathol. Jpn. 37:1935-1943, 1987
361. Effects of high dietary Ca and low Mg on the coronary atherosclerosis of swine fed excessive vitamin D
 Ito, M., Nishimori, I. and Kummerow, F. A.
 J. Jpn. Atheroscler. Soc. 15:979-983, 1987
362. Morphological changes of aorta in monosodium glutamate induced obese rats
 Ito, M., Kawase, Y., Shichijo, K., Sekine, I., Kabuto, M., Akimoto, K. and Kato, N.
 J. Jpn. Atheroscler. Soc. 15(5):1149-1151, 1987
363. The role of autonomic nervous system in stress-induced gastric ulcer formation: A quantitative study of gastric catecholamine and acetylcholine in SHR and WKY
 Shichijo, K., Sekine, I., Nishimori, I. and Ozaki, M.
 Jap. J. Pharmacol. 43(suppl.):152, 1987
364. The effect of glomerulonephritis on atherogenesis in cholesterol-fed rats
 — A special reference to the glomerular foam cell and the early change of aortic intima —
 Ohi, J.
 Acta Medica Nagasaki 32:110-122, 1987

後障害治療部門（原研内科）

[著 書]

1. 血液反応－放射線－
朝長正允
臨床血液学，医学書院，pp. 982-1000, 1966
2. 長崎の原爆放射線障害－特に白血病発生について－
朝長正允，市丸道人
放射線影響の研究，東京大学出版会，pp. 419-428, 1971
3. 血液疾患の酵素組織化学
朝長正允
病態酵素組織化学，朝倉書店，pp. 227-242, 1971
4. 血液反応－放射線－
朝長正允，市丸道人
臨床血液学（新版），医学書院，pp. 793-807, 1971
5. 白血病の診断と治療
市丸道人
血液疾患の診断と治療，金原出版，pp. 203-211, 1971
6. リンパ球の細胞障害因子
市丸道人，木下研一郎，古賀庸之
リンパ球の基礎と臨床，東京医学社，pp. 162-170, 1972
7. 慢性白血病（血液，造血臓器疾患）
市丸道人
今日の治療指針，医学書院，pp. 142-143, 1973
8. 血液反応－放射線－
市丸道人
臨床血液学，医学書院，pp. 793-807, 1974
9. Surface markers on lymphocytes of patients with
chronic lymphocytic leukemia in Japan
Kamihira, S., Ichimaru, M., Kinoshita, K. and Ikeda, S.
Topics in Hematology, Excerpt Medica, pp. 337-340, 1976
10. 血液疾患の臨床統計－総論－
市丸道人
原研内科開設10周年記念誌，pp. 1-8, 1976
11. 血液疾患の臨床統計－貧血序論－

- 木下研一郎
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 9, 1976
12. 血液疾患の臨床統計－鉄欠乏性貧血－
木下研一郎, 石原結実
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 10-12, 1976
13. 血液疾患の臨床統計－巨赤芽球性貧血－
山口 剛, 玉利久二男, 高橋 泰
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 13-14, 1976
14. 血液疾患の臨床統計－再生不良性貧血－
吉岡 朗, 栗山一孝, 岡部信和
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 15-22, 1976
15. 血液疾患の臨床統計－赤芽球癆－
山口 剛, 朝長万左男, 山口博志, 玉利久二男, 岡部信和,
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 23-24, 1976
16. 血液疾患の臨床統計－溶血性貧血－
木下研一郎, 草野みゆき, 朝長 優, 牟田隆也, 川本幹生
豊増省三, 松本吉弘, 檀野八郎
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 25-29, 1976
17. 血液疾患の臨床統計－脾機能亢進症－
木下研一郎, 山田恭暉, 玉利久二男, 松本吉弘, 豊増省三, 井上 晃
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 30-36, 1976
18. 血液疾患の臨床統計－続発性貧血－
木下研一郎, 古賀庸之, 山口博志
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 37-40, 1976
19. 血液疾患の臨床統計－白血病序論－
富安孝則
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 41, 1976
20. 血液疾患の臨床統計－急性白血病の臨床統計的解析－
富安孝則, 朝長万左男, 山口博志
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 42-67, 1976
21. 血液疾患の臨床統計－白血病細胞の形態学的分類と組織化学所見－
富安孝則, 武藤一己, 里見公義, 名切 彬, 高橋 泰, 松本吉弘, 檀野八郎
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 68-71, 1976
22. 血液疾患の臨床統計－低形成白血病－
武藤一己, 牟田隆也, 古賀庸之, 井上 晃
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 72-76, 1976
23. 血液疾患の臨床統計－急性白血病と染色体異常－

- 田川真須子, 朝長 優, 貞森直樹
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 77, 1976
24. 血液疾患の臨床統計－慢性骨髄性白血病－
松永マサ子, 千代田 晨
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 78-83, 1976
25. 血液疾患の臨床統計－慢性骨髄性白血病の染色体異常－
松永マサ子, 川原田正晴
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 84-85, 1976
26. 血液疾患の臨床統計－慢性リンパ性白血病－
田川真須子, 上平 憲, 豊増省三
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 86-90, 1976
27. 血液疾患の臨床統計－慢性リンパ性白血病細胞の表面形質について－
上平 憲, 木下研一郎, 井上 晃
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 91-97, 1976
28. 血液疾患の臨床統計－血液悪性腫瘍細胞の電顕的観察－
野中美紀, 吉岡 朗
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 98-101, 1976
29. 血液疾患の臨床統計－悪性リンパ腫の臨床統計的解析－
古賀庸之, 西野健二, 八尾栄一, 川本幹生, 竹下菊雄
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 105-121, 1976
30. 血液疾患の臨床統計－白血性悪性リンパ腫の診断基準と形態学的観察－
北村 勉, 牟田隆也, 古賀庸之, 木下研一郎, 井上 晃
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 122-128, 1976
31. 血液疾患の臨床統計－白血性悪性リンパ腫の表面形質－
池田柊一, 上平 憲, 木下研一郎
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 129-132, 1976
32. 血液疾患の臨床統計－悪性リンパ腫の剖検所見－
牟田隆也, 北村 勉, 古賀庸之, 井上 晃
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 133-138, 1976
33. 血液疾患の臨床統計－周辺疾患症例－
八尾栄一, 雨森龍彦, 貞森直樹, 古賀庸之
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 139-143, 1976
34. 血液疾患の臨床統計－骨髄腫－
池田柊一, 吉田善春, 雨森龍彦, 上平 憲, 古賀庸之, 玉利久二男, 高橋 泰
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 145-150, 1976
35. 血液疾患の臨床統計－骨髄増殖症候群序論－
朝長万左男

- 原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 151, 1976
36. 血液疾患の臨床統計－真性多血症および二次性多血症－
朝長万左男, 小森清和, 岡部信和
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 152-156, 1976
37. 血液疾患の臨床統計－骨髓線維症－
朝長万左男, 野中美紀, 富安孝則, 井上 晃
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 157-162, 1976
38. 血液疾患の臨床統計－原因不明の血小板増多を示した 1 例－
朝長万左男, 北村 勉
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 163, 1976
39. 血液疾患の臨床統計－無顆粒球症－
貞森直樹, 里見公義
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 165-166, 1976
40. 血液疾患の臨床統計－癌の骨髓転移－
貞森直樹, 野中美紀
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 167-170, 1976
41. 血液疾患の臨床統計－伝染性単核症－
朝長 優, 岡部信和
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 171-174, 1976
42. 血液疾患の臨床統計－出血性素因序論－
山口博志
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 175, 1976
43. 血液疾患の臨床統計－特発性血小板減少性紫斑病－
石原結実, 池田柊一, 朝長 優
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 176-177, 1976
44. 血液疾患の臨床統計－血友病とその類縁疾患－
山口博志, 貞森直樹
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 178-179, 1976
45. 血液疾患の臨床統計－播種性血管内凝固症候群－
山口博志, 松永マサ子
原研内科開設 10 周年記念誌, pp. 180-181, 1976
46. 原子爆弾による身体的障害（概説, 血液疾患, 老化現象, 若年期被爆者の障害）
市丸道人
原爆被害の実相－長崎レポート,
NGO 被爆問題国際シンポジウム長崎準備委員会, pp. 44-66, 1977
47. 遺伝的影響
貞森直樹

原爆障害の実相－長崎レポート，

NGO 被爆問題国際シンポジウム長崎準備委員会，pp. 68-70, 1977

48. 血液造血器疾患，白血球に関するおもな検査法，白血球の特殊染色

朝長正允，市丸道人，松本吉弘

新内科学大系 50，A，中山書店，pp. 54-65, 1978

49. 血液造血器疾患，白血球に関するおもな検査法，塗抹標本の作製と染色法

市丸道人

新内科学大系 50，A，中山書店，pp. 49-53, 1978

50. 放射線と白血病

市丸道人

内科セミナー BLD 3 白血病－疫学から治療まで，永井書店，pp. 63-80, 1978

51. 地方医師会を中心とする遺伝相談の特質

貞森直樹，馬場輝実子，鎌石昇太郎

地域遺伝相談－考え方とその方法，日本家族計画協会遺伝相談センター，pp. 55-64, 1978

52. 原爆放射線被曝による後障害と再生不良性貧血

市丸道人

再生不良性貧血，医学書院，pp. 131-137, 1979

53. 放射線，とくに原爆放射線と慢性骨髄性白血病

市丸道人，石丸寅之助

新潟シンポジウム 慢性骨髄性白血病，医歯薬出版，pp. 1-13, 1979

54. 血液の障害

市丸道人

広島，長崎の原爆災害，岩波書店，pp. 122-127, 1979

55. 白血病の疫学，原爆白血病(ii)長崎

市丸道人

新版日本血液学全書 6，白血病および類縁疾患，丸善，pp. 105-119, 1979

56. 白血病の病因と発症 放射能と白血病

市丸道人

内科シリーズ 6 白血病のすべて（第 2 版），pp. 86-95, 1981

57. 急性白血病（血液，造血臓器疾患）

市丸道人

今日の治療指針，医学書院，pp. 464-466, 1981

58. T-cell lymphoma の 2，3 の問題点

市丸道人，木下研一郎，上平 憲，池田修一，山田恭暉，尼崎辰彦

癌の臨床（別集）日本人の T 細胞腫瘍－その臨床，病理，疫学－，

篠原出版，pp. 15-30, 1981

59. 長崎地方における T-cell lymphoma について

- 木下研一郎
悪性リンパ腫の免疫不全とその治療に関する研究会報告集（第7集），
悪性リンパ腫の免疫不全とその治療に関する研究会， pp. 49-105, 1981
60. Nagasaki, August 9, 1945, A Personal Account
Ichimaru, M.
Last Aid, San Francis Co., pp. 43-47, 1981
61. 白血病（慢性）
市丸道人
図説臨床内科講座—第21巻 血液〔I〕，メジカルビュー社， pp. 308-319, 1982
62. 慢性リンパ性白血病の臨床症状 血液学的所見，診断，治療
市丸道人
内科 Q & A 血液疾患，金原出版， pp. 181-184, 1982
63. Familial disposition of adult T cell leukemia and lymphoma
Ichimaru, M., Kinoshita, K., Kamihira, S., Yamada, Y., Oyakawa, Y.,
Amagasaki, T. and Kusano, M.
ATL and Related Diseases, Gann Monograph on Cancer Research No28,
Japan Scientific Societies Press, pp. 185-195, 1982
64. Adult T-cell leukemia-lymphoma in the Nagasaki district
Kinoshita, K., Kamihira, S., Yamada, Y., Amagasaki, T., Ikeda, S.,
Momita, S. and Ichimaru, M.
ATL and Related Diseases, Gann Monograph on Cancer Research No28,
Japanese Scientific Press, pp. 167-184, 1982
65. Family Study
市丸道人
成人 T 細胞白血病・リンパ腫（ATL）とその病因，
ライフ・サイエンスセンター， pp. 45-58, 1983
66. 核戦争と医学
市丸道人，大北 威，庄野直美訳
Last Aid, 日経サイエンス社，1983
67. 慢性白血病
市丸道人
今日の治療指針，医学書院， pp. 462, 1983
68. 白血化
木下研一郎
悪性リンパ腫のすべて（内科シリーズ），南江堂， pp. 290-298, 1983
69. ATLA および ATLA 抗体と ATL 周辺疾患の関係
木下研一郎，山田恭暉，尼崎辰彦，市丸道人

- ATL (成人T細胞白血病・リンパ腫) 周辺疾患,
ライフ・サイエンスセンター, pp. 65-89, 1983
70. Significance of pure trisomy 12 compared to other karyotypes in chronic lymphocytic leukemia
Han, T., Ozer, H., Sadamori, N., Gajera, R., Gomez, G.A., Henderson, E.S., Bloom, M, L. and Sandberg, A.A.
Cancer: Etiology and Prevention, Elsevier Science Publishing Co., Inc., pp. 21-27, 1983
71. 前白血病状態の病態 形態学的所見—細胞化学的所見を含めて—
朝長万左男
前白血病状態, 医歯薬出版, pp. 4-12, 1984
72. 鉄芽球性貧血—本邦例の集計と解析—
朝長万左男
前白血病状態, 医歯薬出版, pp. 82-88, 1984
73. Fine structure of leukemic T -and B- cells, with special reference to adult T-cell leukemia in Japan
Kataoka, K., Sakano, Y., Imamura, N., Kamihira, S. and Minowada, J.
Human Leukemias, Martinus Nijhoff Publishing, pp. 281-285, 1984
74. 白血病
市丸道人
腫瘍マーカー 生化学的・免疫学的研究と臨床応用, 医学書院, pp. 229-234, 1985
75. 核戦争と医師
市丸道人
被爆問題研究の現在, 長崎「原爆問題」研究普及協議会, pp. 29-33, 1985
76. 骨髓細胞形成異常症
朝長万左男
今日の診断指針, 医学書院, pp. 855-857, 1985
77. 慢性リンパ性白血病
貞森直樹
腫瘍染色体アトラス, 南江堂, pp. 263-266, 1985
78. 原爆後遺症と今後の身体的・遺伝的課題
貞森直樹
原爆問題研究の現在, 長崎「原爆問題」研究普及協議会, pp. 18-23, 1985
79. 成人T細胞白血病における染色体異常の特性について
貞森直樹
ATL及び周辺疾患の染色体異常, 協和企画通信, pp. 73-83, 1985
80. 各種血液疾患の染色体異常

貞森直樹

血液・細胞・病理検査教育セミナーテキスト,

福岡県臨床衛生検査技師会, pp. 35-43, 1985

81. The chromosomal findings in patients with adult T-cell leukemia (ATL) and related disorders

Sadamori, N. and Nishino, K.

Recent Advances in RES Research, The Japan Society of RES, pp. 104-115, 1985

82. Biological activities of purified human granulocyte - macrophage colony - stimulating factor

Gasson, J.C., Weisbart, R.H., Wong, G.G., Clank, S.C., Tomonaga, M. and Golde, D.W.

Leukemia:Recent Advances in Biology and Treatment,

Alan R.Liss, pp. 257-265, 1985

83. ATL (成人T細胞白血病) 疫学家系内発生

市丸道人

図説監「癌シリーズ」, メジカルビュー社, pp. 72-78, 1986

84. 慢性リンパ性白血病

市丸道人

臨床 Visual Mook 白血病, 金原出版, pp. 178-185, 1986

85. 慢性骨髄性白血病原因と疫学

市丸道人

血液科学シリーズ, 西村書房, pp. 1-28, 1986

86. Leukemia, multiple myeloma and malignant lymphoma

Ichimaru, M., Ohkita, T. and Ishimaru, T.

Cancer in Atomic Bomb Survivors, Gann Monograph on Cancer Research No32, Japan Scientific Societies Press, pp. 113-127, 1986

87. Chromosomal findings in B-cell chronic lymphocytic leukemia

Sadamori, N., Han, T. and Sandberg, A.A.

Chromosomes in Hematology, W.Zuckschwerdt Verlag, pp. 85-94, 1986

88. 血液疾患の病態と治療－総説－

市丸道人, 雨森龍彦

原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 1-4, 1986

89. 血液疾患の病態と治療－原爆被爆による造血器異常 (長崎)－

市丸道人

原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 5-12, 1986

90. 血液疾患の病態と治療－再生不良生貧血－

吉岡 朗, 栗山一孝

原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 13-19, 1986

91. 血液疾患の病態と治療－赤芽球癆－
鳥谷和洋, 栗山一孝, 朝長万左男, 市丸道人
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 20-23, 1986
92. 血液疾患の病態と治療－溶血性貧血－
森内幸美, 樺田三郎, 雨森龍彦, 吉田善春, 親川幸信
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 24-27, 1986
93. 血液疾患の病態と治療－骨髓異形成症候群 (Myelodysplastic Syndrome) 概念と病像－
朝長万左男, 陣内逸郎, 栗山一孝, 雨森龍彦, 松尾辰樹, 吉田善春, 野中博章, 朝長 優,
田川真須子, 草野みゆき, 河野友子, 北村 勉, 牟田隆也
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 28-41, 1986
94. 血液疾患の病態と治療－骨髓異形成症候群における染色体異常－
中村秀男, 朝長 優, 笹川一平, 貞森直樹
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 42-44, 1986
95. 血液疾患の病態と治療－急性白血病－
栗山一孝, 吉田善春, 森内幸美, 野中博章, 重橋 亨, 陣内逸郎, 松尾辰樹, 雨森龍彦,
草野みゆき, 田川真須子, 朝長万左男
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 45-59, 1986
96. 血液疾患の病態と治療－低形成性白血病治療の進歩－
田川真須子, 朝長万左男, 柴田淳治, 西野健二, 野中博章, 池田柊一, 鈴山純司,
雨森龍彦, 松尾辰樹, 栗山一孝, 吉田善春, 貞森直樹, 市丸道人
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 60-69, 1986
97. 血液疾患の病態と治療－慢性骨髓性白血病の慢性期の病態－
松尾辰樹, 朝長万左男, 八尾栄一, 牟田隆也
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 70-75, 1986
98. 血液疾患の病態と治療－慢性骨髓性白血病急性転化時の芽球と免疫学的マーカー－
野中博章, 栗山一孝, 森内幸美, 朝長万左男
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 76-77, 1986
99. 血液疾患の病態と治療－慢性骨髓性白血病の急性転化後の予後に関する細胞遺伝学的研究－
八尾栄一
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 78-84, 1986
100. 血液疾患の病態と治療－リンパ増殖性疾患の概要－
木下研一郎
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 85-86, 1986
101. 血液疾患の病態と治療－成人 T 細胞白血病・リンパ腫－
木下研一郎, 上平 憲, 池田柊一, 山田恭暉, 尼崎辰彦, 樺田三郎,
鳥谷和洋, 早田 央

- 原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 87-93, 1986
102. 血液疾患の病態と治療－HTLV - I とその関連疾患－
尼崎辰彦, 木下研一郎, 池田柊一, 縦田三郎, 鳥谷和洋, 山田恭暉, 上平 憲,
早田 央, 鈴山純司
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 94-100, 1986
103. 血液疾患の病態と治療－成人 T 細胞白血病の家族集積性とその家族の HTLV - I の血清疫学
について－
上平 憲
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 101-104, 1986
104. 血液疾患の病態と治療－T 細胞型リンパ腫と B 細胞型リンパ腫の臨床的解析－
池田柊一, 上平 憲, 木下研一郎, 山田恭暉, 尼崎辰彦, 縦田三郎, 鳥谷和洋,
早田 央, 糸山貴浩
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 105-108, 1986
105. 血液疾患の病態と治療－成人 T 細胞白血病および T 細胞型悪性リンパ腫の染色体異常－
貞森直樹, 西野健二, 草野みゆき, 笹川一平, 中村秀男, 木下研一郎
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 109-118, 1986
106. 血液疾患の病態と治療－細胞遺伝学的立場よりみた ATL 発生機序－
貞森直樹
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 119-127, 1986
107. 血液疾患の病態と治療－Pre-ATL (Preleukemic State of Adult T-cell Leukemia) の
病態と意義－
池田柊一, 西野健二, 縦田三郎, 尼崎辰彦, 上平 憲, 木下研一郎, 市丸道人,
田川真須子, 朝長 優, 草野みゆき, 早田 央, 鳥谷和洋
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 128-134, 1986
108. 血液疾患の病態と治療－Pre-ATL における染色体不安定性と 14q11 異常の意義－
西野健二, 草野みゆき, 田川真須子, 貞森直樹,
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 135-141, 1986
109. 血液疾患の病態と治療－Hodgkin 病－
親川幸信, 重橋 亨, 池田柊一, 上平 憲, 木下研一郎
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 142-144, 1986
110. 血液疾患の病態と治療－慢性リンパ性白血病－
上平 憲, 木下研一郎, 池田柊一, 山田恭暉, 尼崎辰彦,
縦田三郎, 前田隆浩
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 145-146, 1986
111. 血液疾患の病態と治療－免疫芽球性リンパ節症－
重橋 亨
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 147-150, 1986

112. 血液疾患の病態と治療－組織球性壊死性リンパ節炎－
重橋 亨
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 151-153, 1986
113. 血液疾患の病態と治療－多発性骨髄腫－予後因子－
樫田三郎, 池田柊一, 上平 憲, 吉田善春, 田川真須子, 木下研一郎
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 155-163, 1986
114. 血液疾患の病態と治療－特発性血小板減少性紫斑病（摘脾効果を中心に）－
野中博章, 栗山一孝, 朝長万左男
原研内科開設 20 周年記念誌, pp. 165-169, 1986
115. 鉄芽球性貧血
市丸道人, 朝長万左男
内科 Mook No.33 貧血, 金原出版, pp. 149-158, 1987
116. 系統的リンパ節腫脹
市丸道人
診断・治療マニュアル, 主要症状・徴候と診断のすすめ方, 金原出版, pp. 629-631, 1987
117. 成人 T 細胞白血病・リンパ腫, ウイルス母子感染の予防
木下研一郎
ATL の臨床, 長崎県 ATL ウイルス母子感染研究協力事業連絡協議会, pp. 7-9, 1987
118. ATL 周辺疾患
木下研一郎, 堀 真
皮膚科 Mook No.8 皮膚のリンフォーマ, 金原出版, pp. 222-234, 1987
119. ATL 母子感染予防対策
木下研一郎
懇談会講演集 4, ATL の母乳感染, 国立長崎中央病院, pp. 21-26, 1987
120. 成人 T 細胞性白血病
朝長万左男
今日の診断指針, 医学書院, pp. 941-943, 1987
121. 慢性リンパ性白血病
上平 憲, 市丸道人
臨床検査 Mook No.27 白血病の臨床検査, 金原出版, pp. 272-284, 1987
122. HTLV - I キャリアーの研究
池田柊一, 上平 憲
白血病細胞の生物医学的特性とその制御, 癌と化学療法社, pp. 403-410, 1987
123. Mixed leukemia/hybrid leukemia
栗山一孝, 朝長万左男
臨床検査 Mook No.27 白血病の臨床検査, 金原出版, pp. 318-325, 1987

[原 著]

1. Pure Red Cell Aplasia の 2 例, 赤血球造血と免疫に関する一考察
市丸道人, 檀野八郎, 井上 晃
九血会誌, 16:201-208, 1966
2. 2 種の骨髓腫蛋白を有する骨髓腫の 1 例並びに Melphalan の使用経験について
高橋 泰, 市丸道人
九血会誌, 16:209-215, 1966
3. Statistical investigation of leukemia in Japan
Tomonaga, M.
New Zeal. Med. J., 65: 863-869, 1966
4. 広島, 長崎の原爆被爆者白血病の比較検討
朝長正允
広島医学, 20:286-289, 1967
5. 白血病と類白血病反応の鑑別に用いられる酵素組織化学および血球 PAS 染色とその臨床的意義
朝長正允, 富安孝則
日本臨床, 25:827-831, 1967
6. 白血球ホスファターゼの染色
朝長正允, 樋渡淳三
臨床病理, 13:41-48, 1967
7. 原爆被爆者の白血病の 20 年間のまとめ, 附: 日本の白血病疫学の一断面
朝長正允, 市丸道人, 檀野八郎, 井上 晃, 岡部信和, 木下研一郎, 松本吉弘, 野中美紀,
高橋 泰, 富安孝則, 豊増省三, 玉利久二男, 川本幹夫
九血会誌, 17:375-397, 1967
8. 原因不明の貧血の治療
市丸道人
臨床と研究, 44:1228-1234, 1967
9. 白血球 Alkaline Phosphatase の研究 IV. 正常人骨髓細胞活性値の検討
松本吉弘
九血会誌, 17:91-103, 1967
10. 白血病・類縁疾患の療法: 急性白血病
富安孝則, 朝長正允
薬物療法, 2:10-11, 1967
11. 内科最近の動き - 血液学 -
朝長正允
内科, 21:26-30, 1968

12. 白血病細胞の組織化学—司会のことば—
朝長正允
臨床血液, 9:235, 1968
13. 白血球の細胞化学
朝長正允, 檀野八郎, 高橋 泰
臨床検査, 12:550-555, 1968
14. 慢性骨髄性白血病—その成因—
朝長正允
日本臨床, 26:2794-2795, 1968
15. 再生不良性貧血の治療
朝長正允, 井上 晃
臨床と研究, 45:2370-2374, 1968
16. 原爆被爆者における白血病 ii) 長崎
市丸道人
日血会誌, 31:772-783, 1968
17. 白血病細胞の組織化学, ベータ・グルクロニダーゼ
檀野八郎
臨床血液, 9:266-271, 1968
18. 白血球 β -Glucuronidase の研究, II. 白血病, 類縁疾患および培養リンパ球に関する研究
檀野八郎
九血会誌, 18:219-239, 1968
19. 慢性リンパ性白血病細胞に関する研究,
I. 慢性リンパ性白血病細胞の PHA 培養成積について
豊増省三
日内会誌, 57:6-13, 1968
20. 所謂, 「西山地区」より発生した慢性骨髄性白血病の 1 例
富安孝則
長崎医学会誌, 43:809-813, 1968
21. Sézary 症候群
笹岡和夫, 木下研一郎
皮膚科の臨床, 10:958-971, 1968
22. JG 細胞顆粒とその意義
西森一正, 津田暢夫, 竹下菊雄
最新医学, 23:1812-1819, 1968
23. 白血病細胞の組織化学
朝長正允
臨床病理, 17:15, 1969

24. 白血病細胞の組織化学最近の進歩
朝長正允, 松本吉弘
診療, 22:744-749, 1969
25. 白血病の取り扱い方—内科領域より—
朝長正允, 木下研一郎
臨床と研究, 46:821-826, 1969
26. 白血病・類縁疾患の療法: 急性白血病
朝長正允, 富安孝則
薬物療法, 2:1306-1307, 1969
27. 血液疾患におけるデキサ・シエロソンの使用経験
市丸道人, 木下研一郎, 松本吉弘, 野中美紀
日独医報, 14:475-479, 1969
28. 白血球アルカリフォスファターゼの研究,
V. 正常女子における生理的動揺ならびに正常人年間変動の観察
松本吉弘
九血会誌, 19:247-253, 1969
29. 急性白血病における好中球アルカリフォスファターゼについて
松本吉弘
九血会誌, 19:255-287, 1969
30. 推定被爆線量別にみた白血病発生率
石丸寅之助, 星野 孝, 岡田 弘, 市丸道人, 岡部信和
長崎医学会誌, 43:857-860, 1969
31. 中国地方および九州島原半島での白血病多発推測地域における実態調査成績について
大北 威, 中西純男, 小原寛治, 高橋 宏, 砂尾敷男, 富安孝則, 市丸道人
広大原医研年報, 10:133-143, 1969
32. Chronic lymphocytic leukemia in Hiroshima and Nagasaki
Finch, S.C., Hoshino, T., Itoga, T., Ichimaru, M. and Ingram, R.H.
Blood, 3: 79-86, 1969
33. 白血病細胞の組織化学
朝長正允
西日本皮膚科, 32:123-131, 1970
34. 広島・長崎における再生不良性貧血の研究, 特に原爆被爆者についての調査 (1946-1967年)
市丸道人, 石丸寅之助, 土本泰三, Kirshbaum, J.D.
広島医学, 23:1040-1043, 1970
35. ヒト末梢血リンパ球幼若化と非特異的細胞障害因子について
—毛細管法による遊走阻止法の応用—
市丸道人, 豊増省三, 木下研一郎, 朝長万左男

- 九血会誌, 20:27-36, 1970
36. 抗リンパ球血清のリンパ球幼若化作用
豊増省三, 市丸道人
臨床免疫, 2:97-102, 1970
37. 慢性リンパ性白血病細胞に関する研究,
II. 慢性リンパ性白血病細胞の抗リンパ球血清添加培養について
豊増省三
九血会誌, 20:1-25, 1970
38. 血液疾患と誤診した甲状腺癌の骨髓転移例
野中美紀, 富安孝則, 荒牧貴久
九血会誌, 20:37-45, 1970
39. 脊髄対麻痺を伴った急性骨髓白血病の一部検例—特に脊髄障害の発生機序について—
福田英彦, 松尾 武, 池田敏明, 名切 彬
九血会誌, 20:243-250, 1970
40. 早期診断 —白血病—
朝長正允, 松本吉弘, 富安孝則
臨床と研究, 48:73-78, 1971
41. 気管支喘息および薬物過敏症の抗原および薬物によるリンパ球幼若化現象
市丸道人, 豊増省三, 木下研一郎, 朝長万左男
日内会誌, 60:30-35, 1971
42. PHA によるヒトリンパ球幼若化現象の評価
市丸道人, 豊増省三
日血会誌, 34(補):117-127, 1971
43. Streptolysin O によるリンパ球幼若化現象
市丸道人
九血会誌, 21:233-238, 1971
44. コートロシンを使用した血液疾患例
豊増省三, 岡部信和, 市丸道人
薬物療法, 4:153-157, 1971
45. 被爆者検診を中心とした慢性骨髓性白血病の早期発見例について
松本吉弘, 富安孝則, 朝長万左男, 武藤一己
広島医学, 24:1127-1129, 1971
46. 白血球 Aminopeptidase の組織化学的研究
I. L-Leucyl-4-Methoxy- β -Naphthylamide を基質とする組織化学的証明法
高橋 泰
九血会誌, 21:145-154, 1971

47. 再生不良性貧血に関する研究 1. 長崎市およびその周辺地区における1947~1969年間の
再生不良性貧血の疫学的並びに臨床統計的解析
岡部信和
九血会誌, 21:239-252, 1971
48. 抗人白血病細胞血清のリンパ球幼若化作用
ーリンパ球幼若化現象のMechanismについての1考察ー
木下研一郎, 朝長万左男, 豊増省三, 井上 晃, 市丸道人
臨床免疫, 3:485-491, 1971
49. 塗抹標本における白血球非特異性エステラーゼの研究
I. α -Naphthyl Acetate, Naphthol AS Acetate, Naphthyl AS-D Acetate及びNaphthol
AS-D Chloroacetateを基質とする組織化学的証明法の検討
里見公義
九血会誌, 21:137-144, 1971
50. Leukemia in atomic bomb survivors, Hiroshima and Nagasaki, 1 October 1950-30
September 1966
Ishimaru, T., Hoshino, T. and Ichimaru, M.
Radiat. Res., 45: 216-233, 1971
51. A study of aplastic anemia in an autopsy series with special reference to atomic
bomb survivors in Hiroshima and Nagasaki
Kirshbaum, J.D., Matsuo, T., Sato, K., Ichimaru, M., Tsuchimoto, T. and
Ishimaru, T.
Blood, 38: 17-26, 1971
52. Occupational and other environmental factors in the epidemiology of leukemia,
Hiroshima-Nagasaki 1945-1967
Ishimaru, T., Okada, H., Tomiyasu, T., Tsuchimoto, T., Hoshino, T. and
Ichimaru, M.
Am. J. Epidemiol., 93: 157-165, 1971
53. 原爆被爆者の前白血病状態に関する考察, 特に再生不良性貧血との関連について
市丸道人
臨床血液, 13:335-337, 1972
54. リンパ球幼若化現象の臨床的意義
市丸道人
臨床免疫, 4:337-344, 1972
55. リンパ球幼若化現象の臨床的意義
市丸道人
長崎医学会誌, 47:511-518, 1972
56. 広汎な頭蓋内転移をきたしたリンパ性細網肉腫の1例

- 古賀庸之, 玉利久二男, 武藤一己, 井上 晃
内科, 30:767-772, 1972
57. 血液疾患に合併した *Pneumocystis Carinii* 感染症の 3 例
貞森直樹, 松永マサ子, 山口博志, 井上 晃
九血会誌, 22:1-12, 1972
58. 白血病の疫学, 特に環境因子との関係, 広島・長崎 1945-67 年
石丸寅之助, 岡田 弘, 富安孝則, 土本泰三, 星野 孝, 市丸道人
広島医学, 25:623-635, 1972
59. Evaluation of human lymphocyte blast transformation by PHA
Ichimaru, M.
Blood, 39: 442-443, 1972
60. Incidence of aplastic anemia in A-bomb survivors, Hiroshima and Nagasaki, 1946-1967
Ichimaru, M., Ishimaru, T., Tsuchimoto, T. and Kirshbaum, J.D.
Radiat. Res., 49: 461-472, 1972
61. Clinical aspects and survival of aplastic anemia cases in Hiroshima and Nagasaki, 1946-67
Ichimaru, M., Ishimaru, T., Tsuchimoto, T. and Kirshbaum, J.D.
J. Kyushu Hematol. Soc., 22: 91-98, 1972
62. Hepatitis associated antigen in subjects with leukemia and related diseases, Hiroshima-Nagasaki
Tomiyasu, T., Okada, H., Belsky, J.L. Ishimaru, T. and Nakahara, Y.
ABCC Tech. Rep., 17-72, 1972
63. Operations manual for the detection of leukemia and related disorders, Hiroshima and Nagasaki. Supersedes M1-65
Belsky, J.L., Ishimaru, T., Ichimaru, M., Steer, A. and Uchino, H.
ABCC Tech. Rep., M1-72, 1972
64. Risk of leukemia in offspring of atomic bomb survivors of Hiroshima and Nagasaki, May 1946-June 1969
Okada, H., Tomiyasu, T., Ishimaru, T., Hoshino, T. and Ichimaru, M.
ABCC Tech. Rep., 30-72, 1972
65. 原爆放射線による造血臓器障害
市丸道人
臨床血液, 14 (補): 1255-1263, 1973
66. 原爆被爆生存者における再生不良性貧血の発生率, 広島・長崎, 1946-67
市丸道人, 石丸寅之助, 土本泰三, Kirshbaum, J.D.
広島医学, 26:316-322, 1973
67. 原爆被爆と白血病発生

- 市丸道人
第 13 回原子爆弾後障害研究会講演集, 152-161, 1973
68. 原爆（被爆）による障害
市丸道人
日本医事新報, 2254:130, 1973
69. 白毛・バセドウ病と原爆症の関係
市丸道人
日本医事新報, 2562:130, 1973
70. 免疫細胞としてのリンパ球について
市丸道人
日内会誌, 62:659-660, 1973
71. リンパ球ーリンパ球芽球化現象を中心としてー
市丸道人, 木下研一郎, 古賀庸之, 朝長万左男
臨床と研究, 50:909-916, 1973
72. 抗核抗体
市丸道人, 高橋 勇
臨床と研究, 50:1337-1341, 1973
73. 白血球の細胞化学
市丸道人, 高橋 泰, 古賀庸之, 玉利久二男, 里見公義, 名切 彬, 武藤一己
臨床病理, 21:662-668, 1973
74. ASLO 値と各種疾患リンパ球の Streptolysin - O 添加培養成績
木下研一郎
アレルギー, 22:453-465, 1973
75. 赤白血病の 1 例ー赤血病細胞の電顕的所見についてー
野中美紀, 名切 彬, 富安孝則, 貞森直樹, 市丸道人, 関根一郎
九血会誌, 23:35-40, 1973
76. 巨大水腎症の一例
岩崎昌太郎, 酒井 敦, 浜崎啓介, 下田穂積, 下山孝俊, 池田敏明, 阿部治美, 辻 泰邦, 朝長万左男
臨床と研究, 50:838-842, 1973
77. The incidence of malignant lymphoma and multiple myeloma in Hiroshima and Nagasaki atomic bomb survivors, 1945-1965
Nishiyama, H., Anderson, R.E., Ishimaru, T., Ishida, K., Ii, Y. and Okabe, N.
Cancer, 32: 1301-1309, 1973
78. 放射線被曝と甲状腺疾患
市丸道人
日本医事新報, 2596:118, 1974

79. 副腎皮質ホルモン投与による造血機能検査について（原爆被爆者における経験）
市丸道人，高瀬敬一，高橋 泰，玉利久二男，野口恵美子
広島医学，27:589-594，1974
80. 鉄欠乏性貧血に対する“Slow-Fe”の使用経験
富安孝則
薬物療法，7:75，1974
81. 脾原発性細網肉腫症の1症例
高橋 泰，名切 彬，玉利久二男，高瀬敬一，秋月辰一郎，田浦晴也
癌と化学療法，1:489-496，1974
82. 鉄芽球性貧血患者の担鉄赤芽球の電子顕微鏡像およびX線微小分析
野中美紀，吉岡 朗，吉田善春，栗山一孝，上平 憲，朝長万左男，木下研一郎，
市丸道人
臨床血液，20:113-120，1974
83. 全身性クリプトコックス症を合併した細網肉腫症の一部検例
古賀庸之，田浦幸一，石崎 驍，大坪 守，中 英男
佐世保市立総合病院医学業績集，1:33-39，1974
84. 慢性リンパ性白血病15症例の臨床的観察—免疫学的異常を中心に—
上平 憲，井上 晃，木下研一郎，富安孝則，玉利久二男，古賀庸之，武藤一己，
市丸道人
臨床血液，15:30-37，1974
85. 慢性リンパ性白血病12例の末梢血細胞の表面形質について
上平 憲，木下研一郎，名切 彬，野中美紀
臨床血液，15:1203-1211，1974
86. ASLO 価の異常高値を示したIgG₁(κ -type)骨髄腫の一例
上平 憲，古賀庸之，木下研一郎
臨床免疫，6:465-469，1974
87. 原爆被曝線量，被爆時年齢，被爆後年数と被爆者白血病発生率の関係について
市丸道人，石丸寅之助
第15回原子爆弾後障害研究会講演集，50-56，1975
88. 白血病治療におけるステロイドホルモンの適応と使い方
市丸道人，山口博志
臨床と研究，52:2237-2242，1975
89. 原爆被爆者の福祉について 2. 健康管理について
木下研一郎，上平 憲，市丸道人
第15回原子爆弾後障害研究会講演集，133-136，1975
90. β -Thalassemia の一家系
古賀庸之，上平 憲，岡部信和，大坪 守，石崎 驍，関 稔男，楠本俊悟

佐世保市立総合病院医学業績集, 2:28-36, 1975

91. 寛解導入療法としての DCVP 療法, New DCVP 療法について
山口博志, 上平 憲, 朝長 優, 松永マサ子, 武藤一己, 貞森直樹, 名切 彬, 北村 勉
朝長万左男, 古賀庸之, 玉利久二男, 川本幹夫, 富安孝則, 木下研一郎, 野中美紀,
岡部信和, 井上 晃, 市丸道人
癌と化学療法, 2:215-222, 1975
92. 急性白血病の寛解導入療法-Daunomycin, Cytosine arabinoside, Vincristine及び副腎皮質
ホルモンの四者併用療法について-
山口博志, 岡部信和, 井上 晃, 市丸道人
臨床血液, 16:589-598, 1975
93. 二つの M-成分を伴う骨髓腫の一例
-M-成分を有する患者末梢リンパ球の Subpopulation の検討-
上平 憲, 吉田善春, 木下研一郎, 市丸道人
臨床免疫, 7:687-691, 1975
94. T-cell Lymphoma の 1 例-Sézary 症候群との関係について-
笹岡和夫, 上平 憲, 野中美紀, 力丸正治, 山浦英明, 広渡徳治, 穂山富雄, 高橋 勇
臨床皮膚科, 20:951-957, 1975
95. Leukemia and related disorders
Ichimaru, M. and Ishimaru, T.
J.Radiat.Res., 16(Supl.): 89-96, 1975
96. Ultrastructure of lymphocytes and rosette forming cells in the peripheral blood of
Sézary's syndrome
Nonaka, M., Ikeda, S. and Ichimaru, M.
J.Clin.Electron Microscopy, 8: 420, 1975
97. 被曝線量の推定に関して, 西山地区における放射能後障害に関する知見
市丸道人
広島医学, 29:294-297, 1976
98. 癌と止血障害-とくに DIC との関係について-
市丸道人, 山口博志, 吉田善春
臨床と研究, 53:1017-1020, 1976
99. 血液疾患に併発する肺感染症の治療
市丸道人, 富安孝則, 北村 勉, 朝長 優
臨床と研究, 53:1044-1050, 1976
100. B細胞白血病の臨床
市丸道人, 木下研一郎, 池田修 一, 上平 憲
日本臨床, 34:918-924, 1976
101. T細胞, B細胞の臨床-とくにその腫瘍化について-慢性リンパ性白血病(CLL)とその周辺

- 木下研一郎, 上平 憲, 市丸道人
臨床血液, 17:428-435, 1976
102. 白血性悪性リンパ腫における高Ca血症について
— 5剖検例の流血中腫瘍細胞の微細構造を中心に —
野中美紀, 山田恭暉, 山口博志, 上平 憲, 牟田隆也, 北村 勉, 岡部信和, 木下研一郎,
市丸道人
臨床血液, 17:59-67, 1976
103. 脊髄麻痺を来した緑色腫の4例—とくに緑色腫細胞の微細構造について—
野中美紀, 川本幹夫, 名切 彬, 池田友子, 松永マサ子, 武藤一己, 山口博志, 岡部信和,
木下研一郎, 親川幸信
血液と脈管, 7:217-224, 1976
104. 好中球のNitroblue-Tetrazolium(NBT)還元能に関する研究
I. 組織化学的半定量化の試み
朝長万左男
臨床血液, 17:1266-1275, 1976
105. 骨髓細胞の染色体分染標本作製法
貞森直樹, 松永マサ子, 朝長 優, 田川真須子, 市丸道人
九州染色体同好会雑誌, 1:19-22, 1976
106. 慢性骨髓性白血病症例の細胞遺伝学的研究—分染法によるPh¹染色体転座部位の検討—
松永マサ子, 貞森直樹, 朝長 優, 田川真須子, 市丸道人
臨床血液, 17:618-625, 1976
107. 長崎原爆被爆者の骨髓細胞の染色体分析
朝長 優, 貞森直樹, 松永マサ子, 田川真須子, 市丸道人
広島医学, 29:239-244, 1976
108. 原爆被爆者と染色体異常
朝長 優
長崎医学会誌, 51:282-286, 1976
109. 摘脾が著効を呈したPure Red Cell Aplasiaの一例
山口博志, 武藤一己, 上平 憲, 岡部信和, 池田柊一, 市丸道人, 中田剛弘
臨床血液, 17:562-568, 1976
110. 佐世保で発見されたHb-M症の一例
上平 憲, 岡部信和, 権藤道雄, 石崎 驍, 小浦博道
佐世保市立総合病院医学業績集, 3:16-20, 1976
111. 皮膚症状を伴う成人T-リンパ増殖性疾患について
上平 憲, 池田柊一, 木下研一郎, 岡部信和
日血会誌, 39:145-148, 1976
112. 染色体異常の認められた原爆被爆者の原発性後天性鉄芽球性貧血と非定型性白血病の2例

- 田川真須子, 貞森直樹, 松永マサ子, 朝長 優, 野中美紀, 市丸道人, 秋月辰一郎,
原田尚紀, 武藤一己
長崎医学会誌, 51:180-184, 1976
113. 長崎大学における原爆後障害医療研究の現状と展望(2)
長崎大学医学部附属後障害医療研究施設の動向
西森一正, 市丸道人, 塩見敏男
医学のあゆみ, 99:644-649, 1976
114. Chronic myelogenous leukemia with an unusual karyotypes:46,XY,t(17q+;22q-)
Matsunaga, M., Sadamori, N., Tomonaga, Y., Tagawa, M. and Ichimaru, M.
N.Eng.J.Med., 295: 1537, 1976
115. Surface markers on lymphocytes of patients with chronic lymphocytic leukemia in
Japan
Kamihira, S.
J.Kyushu Hematol.Soc., 24: 43-48, 1976
116. 悪性リンパ腫の分類に対して—臨床家の立場から—
市丸道人
クリニカ, 4:786-787, 1977
117. 前白血病性血液異常
市丸道人
日本医事新報, 2765:グラフ, 1977
118. 白血性悪性リンパ腫の末梢血腫瘍細胞の表面形質
—T-cell 形質例の臨床, 血液学的病態像について—
木下研一郎, 上平 憲, 池田柊一, 山田恭暉, 北村 勉, 古賀庸之, 牟田隆也, 市丸道人
臨床血液, 18:1102-1110, 1977
119. 電顕的に特異な空胞状封入体をみた急性骨髄性白血病の一症例
野中美紀, 吉岡 朗, 山口博志, 富安孝則, 市丸道人, 宮川尚孝
臨床血液, 18:51-58, 1977
120. 完全寛解中, 脳内腫瘍を形成した急性骨髄性白血病の1例
貞森直樹, 田川真須子, 山口博志, 市丸道人, 平 芳次, 藤井 薫, 宮川尚孝, 宮崎久彌,
森 和夫
臨床血液, 18:1349-1354, 1977
121. 染色体異常 t(2q+;5q-)を伴う鉄芽球性貧血の1剖検例
上平 憲, 朝長 優, 田川真須子, 貞森直樹, 野中美紀, 木下研一郎, 市丸道人,
朝長昭光, 河野 茂, 松尾 武
臨床血液, 18:1370-1377, 1977
122. Pyroglobulin 血症を伴い, 胸水に異常リンパ球及びM蛋白を認めた原発性
マクログロブリン血症の1例

- 牟田隆也, 松本武典, 岡部信和, 石崎 驍, 小浦博道, 五反田照三
佐世保市立総合病院医学業績集, 4:157-161, 1977
123. 皮疹を伴う T-リンパ球増殖性疾患 - Sézary 症候群とその周辺 -
笹岡和夫, 上平 憲, 野中美紀, 松永マサ子, 高橋 勇, 阿南貞雄, 山浦英明, 穂山富雄
臨床皮膚科, 31:869-876, 1977
124. 血液学的完全寛解時の急性及び慢性骨髄性白血病に発生した骨髄芽細胞腫の電顕的観察
平 芳次, 中山 巖, 高原 耕, 森内 昭, 横山繁生, 貞森直樹, 田川真須子, 糸賀 敬
日本臨床電子顕微鏡学会誌, 10:211-215, 1977
125. 原爆放射線被曝と再生不良性貧血
市丸道人, 朝長 優, 松永マサ子, 貞森直樹, 石丸寅之助
広島医学, 31:484-488, 1978
126. 原爆と白血病診断と治療
市丸道人
臨床と研究, 55:1519-1526, 1978
127. 原爆被曝と多発性骨髄腫
市丸道人, 石丸寅之助, 三上素子, 松永マサ子
長崎医学会誌, 53:404-412, 1978
128. 原爆と白血病
市丸道人
癌の臨床 (日本短波放送), 70:72-78, 1978
129. 悪性リンパ腫の表面形質の研究 I. T cell lymphoma の病理組織像と細胞形態
木下研一郎, 上平 憲, 池田柊一, 山田恭暉, 北村 勉, 古賀庸之, 市丸道人, 中山 巖
日本網内系学会会誌, 18:31-36, 1978
130. T細胞増殖性疾患における異常細胞の電子顕微鏡的研究
野中美紀
九血会誌, 26:81-94, 1978
131. 血球の形態学的検査法とその意義 10. NBT 還元試験
朝長万左男
臨床病理, 34:112-124, 1978
132. 白血病と貧血
朝長万左男, 松尾辰樹, 市丸道人
臨床と研究, 55:3448-3453, 1978
133. 末期患者の治療
山口博志, 市丸道人
総合臨床 27:1746-1754, 1978
134. リンパ増殖性疾患における T細胞型腫瘍の特異性
上平 憲, 木下研一郎, 池田柊一, 山田恭暉

- 臨床血液, 20:1048-1055, 1978
135. IgG型血清M-成分を伴うB-CLLについての一考察
上平 憲, 木下研一郎, 市丸道人, 池田柊一, 山田恭暉, 牟田隆也, 早田正裕
医学のあゆみ, 106:679-680, 1978
136. 急性転化時にKaryotypic Evolutionを示し, 所謂「西山地区」より発生したCGLの第2
例目
八尾栄一, 朝長 優, 西野健二, 松永マサ子, 貞森直樹, 市丸道人
長崎医学会誌, 53:319-324, 1978
137. 長崎の原爆被爆者に見られた染色体異常(5q-)を伴うRefractory Anemiaの1症例
草野みゆき, 池田柊一, 朝長 優, 貞森直樹, 松永マサ子, 田川真須子, 市丸道人
広島医学, 31:489-492, 1978
138. 原爆被爆者の末梢血細胞封入体の観察
鍊石昇太郎, 貞森直樹, 大串康隆
長崎医学会誌, 53:227-230, 1978
139. 長崎における原爆被爆者実態調査, 第一報・調査対象及び調査項目等について
浦田むつみ, 伊東文枝, 森山明子, 貞森直樹, 山下兼彦, 若杉嘉純, 大窪徳行, 白石照子
長崎医学会誌, 53:287-291, 1978
140. 著名な類白血病反応を呈した脾多形細胞癌の1例
重岡健一郎, 岸川博紀, 西村柳介, 山本賢輔, 加藤尚志, 福田貞義, 宮田昭海, 原田 昇,
伊藤俊哉, 土屋凉一, 朝長万左男
日本臨床外科医学会雑誌, 39:40-42, 1978
141. Incidence of leukemia in atomic bomb survivors belonging to a fixed cohort in
Hiroshima and Nagasaki, 1950-71
Ichimaru, M., Ishimaru, T. and Belsky, J.
J.Radiat.Res., 19: 262-282, 1978
142. 原子爆弾と白血病
市丸道人
臨床血液, 20:574-589, 1979
143. 原爆症その後
市丸道人
からだの科学, 89:2-7, 1979
144. 白血病と悪性リンパ腫
市丸道人
臨床血液, 20:446, 1979
145. 鉄芽球形貧血患者の担鉄赤芽球の電子顕微鏡像およびX線微小分析
野中美紀, 吉岡 朗, 吉田善春, 栗山一孝, 上平 憲, 朝長万左男, 木下研一郎,
市丸道人

臨床血液, 20:113-120, 1979

146. 悪性リンパ腫の表面形質の研究

II. Hodgkin 病様組織像を呈する T-cell 型悪性リンパ腫について

木下研一郎, 山田恭暉, 池田柊一, 親川幸信, 上平 憲, 北村 勉,
市丸道人, 松尾 武, 中山 巖

日本網内系学会会誌, 18:241-248, 1979

147. Hemopoietic Dysplasia (HPD) の細胞形態学的, 細胞化学的および細胞遺伝学的特異性について

朝長万左男, 牟田隆也, 朝長 優, 貞森直樹

臨床血液, 20:1251-1254, 1979

148. 常染色体性劣性遺伝形式を示した von Willebrand 病の 1 家系

貞森直樹, 栗山一孝, 西野健二, 市丸道人, 高瀬俊夫, 奥田忠美, 吉岡 章, 岩垣克己,
福井 弘, 鍊石昇太郎

臨床遺伝研究, 1:3-10, 1979

149. 慢性骨髓性白血病 66 症例の分染法による染色体分析と臨床像に関する研究

松永マサ子

九血会誌, 27:49-77, 1979

150. リンパ増殖疾患における T 細胞型腫瘍の特異性

上平 憲, 木下研一郎, 池田柊一, 山田恭暉

臨床血液, 20:1048-1055, 1979

151. 合成カルシトニン製剤〔Asu¹¹⁷〕ECT による高カルシウム血症の治療

池田柊一, 吉岡 朗, 北村 勉

臨床と研究, 56:1259-1261, 1979

152. 風疹・百日咳・伝染性単核球症における末梢血リンパ球表面形質の検討

山田恭暉, 木下研一郎, 池田柊一, 上平 憲, 市丸道人

臨床免疫, 11:229-238, 1979

153. 急性前骨髓球性白血病の 1 例

森 頼隆, 吉田善春, 石崎 驍

佐世保市立総合病院医学業績集, 6:157-159, 1979

154. Pneumocystis carinii 肺炎の X 線像

林 邦昭, 山下勝義, 松永尚文, 三宅秀敏, 本保善一郎, 木下研一郎, 貞森直樹,
市丸道人, 寺尾英夫

臨床放射線, 24:1443-1449, 1979

155. Sézary 症候群の 1 剖検例

森 洋, 松尾 武, 田代隆良, 藤原久郎, 富岡 勉, 池田高良, 北村 勉, 野中美紀
診断と治療, 67:2143-2146, 1979

156. T-cell malignant lymphoma in Nagasaki district and its problems
 Ichimaru, M., Kinoshita, K., Kamihira, S., Ikeda, S., Yamada, Y. and
 Amagasaki, T.
 Jpn.J.Clin.Oncol., 9(Suppl.): 337-346, 1979
157. Immunologic studies of chronic lymphocytic leukemia and non-Hodgkin lymphoma
 in Nagasaki district
 Kamihira, S.
 Jpn.J.Clin.Oncol., 9: 3-14, 1979
158. Dose-response relationship of neutrons and γ rays to leukemia incidence among a-
 tomic bomb survivors in Hiroshima and Nagasaki by type of leukemia, 1950-1971
 Ishimaru, T., Otake, M. and Ichimaru, M.
 Radiat.Res., 77: 377-394, 1979
159. T-cell malignancies in adults: histopathological studies of lymph nodes in 110 pa-
 tients
 Kikuchi, M., Mitsui, T., Matsui, N., Sato, E., Tokunaga, M., Hasui, K.,
 Ichimaru, M., Kinoshita, K. and Kamihira, S.
 Jpn.J.Clin.Oncol., 9: 407-422, 1979
160. Combination chemotherapy with vincristine, cyclophosphamide (Endoxan), prednisolone
 and adriamycin (VEPA) in advanced adult non-Hodgkin's lymphoid malignancies: re-
 lation between T-cell or non-T-cell phenotype and response.
 Shimoyama, M., Yunoki, K., Ichimaru, M., Ota, K. and Ogawa, M.
 Jpn.J.Clin.Oncol., 9(suppl.): 397-406, 1979
161. 原爆後障害としての造血器異常の推移
 市丸道人
 長崎医学会誌 (原爆特集号), 55: 831-837, 1980
162. 放射線と白血病
 市丸道人
 Radioisotopes, 29: 622-631, 1980
163. T細胞リンパ腫の問題点
 市丸道人
 臨床血液, 21: 1062, 1980
164. 悪性リンパ腫の表面形質の研究 Ⅲ. 末梢血腫瘍細胞の形態からみた T-cell 型悪性リンパ
 腫細胞の成熟・分化能-白血化の機序について-
 木下研一郎, 上平 憲, 池田柁一, 山田恭暉, 親川幸信, 吉岡 朗, 牟田隆也, 北村 勉
 市丸道人, 松尾 武, 中山 巖
 日本網内系学会会誌, 19: 295-304, 1980
165. 悪性リンパ腫の表面形質の研究 Ⅳ. T-cell 型の非白血性悪性リンパ腫

- 木下研一郎, 上平 憲, 池田柊一, 山田恭暉, 親川幸信, 吉岡 朗, 牟田隆也, 北村 勉
古賀庸之, 市丸道人, 松尾 武
日本網内系学会会誌, 19:305-310, 1980
166. 悪性リンパ腫の表面形質の研究 V. T-cell 型悪性リンパ腫の成熟・分化能
木下研一郎, 山田恭暉, 池田柊一, 牟田隆也, 吉岡 朗, 尼崎辰彦, 上平 憲, 北村 勉
松尾 武
日本網内系学会会誌, 20:229-239, 1980
167. 好中球の Nitroblue Tetrazolium(NBT)還元能に関する研究
II. NBT還元試験の臨床病理学的意義
朝長万左男
臨床血液, 21:363-374, 1980
168. Refractory anemia with excess of myeloblast
朝長万左男
Medicina, 17:1208-1210, 1980
169. 慢性骨髓性白血病の急性転化指標に関する細胞遺伝学的研究
貞森直樹, 松永マサ子, 八尾栄一, 朝長 優, 田川真須子, 草野みゆき, 西野健二,
市丸道人
臨床血液, 21:600-605, 1980
170. 原爆被爆者白血病並びに前白血病状態に関する細胞遺伝学的研究
—白血病誘発因子としての染色体構造異常(予報)—
貞森直樹, 朝長 優, 田川真須子, 草野みゆき, 西野健二, 八尾栄一, 市丸道人
広島医学, 33:417-424, 1980
171. 原爆被爆者(早期入市者)に発生し, 8トリソミーを伴った非定型性急性骨髓性白血病の1
剖検例
貞森直樹, 田川真須子, 山口 剛, 佐藤辰夫, 草野裕幸
長崎医学会誌, 55:773-777, 1980
172. N-behenoyl-1- β -D-arabinofuranosylcytosine (BH-AC) による急性白血病の治療成績
山口博志, 市丸道人
癌と化学療法, 7:988-993, 1980
173. 急性白血病に併発する細菌感染症の治療 CFX, AMK, TIPC, LCM による 24 時間持続点
滴法について
山口博志, 市丸道人
日本抗生物質学術協議会, 33:1215-1222, 1980
174. 急性非リンパ性白血病における染色体異常の臨床的意義について
田川真須子, 貞森直樹, 松永マサ子, 朝長 優, 草野みゆき, 市丸道人
臨床血液, 21:1-9, 1980
175. 放射線治療照射の末梢血リンパ球に与える影響について—照射2年間の検討—

- 山田恭暉, 池田柊一, 上平 憲, 木下研一郎, 市丸道人, 芦沢 昭
臨床免疫, 12:549-557, 1980
176. 自己免疫性溶血性貧血を合併した年長者動脈管開存症の術前検討
辻 泰邦, 釘宮敏定, 草場英介, 賀来清彦, 福島健一, 黒岩正行, 原 信介, 中村 譲,
三浦敏夫, 下山孝俊, 下田穂積, 石井俊世, 大曲武征, 小武康徳, 酒井 敦, 瀬戸口正幸,
福島成幸, 一瀬幸人, 王 志明, 川渕孝明, 北村 勉, 調 亟治
胸部外科, 33:316-319, 1980
177. 長崎地区における遺伝相談
鍊石昇太郎, 馬場輝実子, 貞森直樹, 笹岡和夫, 築城士郎
広島医学, 33:390-391, 1980
178. Chromosomes in the chronic phase of chronic granulocytic leukemia
Sadamori, N., Matsunaga, M., Yao, E., Nishino, K., Tomonaga, Y.,
Tagawa, M., Kusano, M. and Ichimaru, M.
Cancer Genet.Cytogenet., 1: 299-310, 1980
179. A case of atypical acute myelogenous leukemia with 5q- chromosome
Sadamori, N., Tomonaga, Y., Tagawa, M. and Ichimaru, M.
Acta Haematol.Jpn., 44: 165-169, 1980
180. 細網肉腫について
市丸道人
臨床血液, 22:407-408, 1981
181. T cell 悪性リンパ腫の臨床
市丸道人
日内会誌, 70:511-524, 1981
182. 腫瘍マーカー研究の現状と将来の展望, 臨床におけるマーカーの評価, 白血病細胞マーカー
市丸道人, 木下研一郎, 貞森直樹, 上平 憲, 朝長 優, 池田柊一, 田川真須子,
山田恭暉, 尼崎辰彦, 松永マサ子
最新医学, 36:930-937, 1981
183. 白血球の増加と減少
市丸道人, 朝長万左男, 雨森龍彦
臨床と研究, 58:1696-1701, 1981
184. 表面形質よりみた悪性リンパ腫の化学療法および免疫不全
—長崎地方における悪性リンパ腫の特性—
市丸道人, 上平 憲, 木下研一郎
癌と化学療法, 8:995-1006, 1981
185. 原爆被爆による造血器異常—長崎—
市丸道人
クリニカ, 8:33-41, 1981

186. Hodgkin 病様組織像を呈する T-cell 型の Non-Hodgkin 悪性リンパ腫
木下研一郎, 野中博章, 尼崎辰彦, 山田恭暉, 池田柊一, 上平 憲, 市丸道人
九血会誌, 28:61-65, 1981
187. アレルギー性血管炎 Schönlein - Henoch Purpura
木下研一郎, 親川幸信, 大園恵幸, 原田孝司
現代医療, 13:1997-2002, 1981
188. T 細胞型悪性リンパ腫
木下研一郎, 上平 憲, 山田恭暉, 尼崎辰彦, 池田柊一
治療学, 7:557-564, 1981
189. 白血病—最新の概念と治療 成人 T 細胞白血病
木下研一郎, 上平 憲, 池田柊一
Medicina, 18:1876-1877, 1981
190. 血液学的にみた悪性リンパ腫の病像 (1) 悪性リンパ腫 (従来の “細網肉腫”) の白血化について
木下研一郎, 尼崎辰彦, 山田恭暉, 上平 憲, 牟田隆也, 北村 勉, 池田柊一
日血会誌, 44:1169-1177, 1981
190. 悪性リンパ腫の表面形質の研究 (VI) —Adult T-cell leukemia のリンパ節は何故小さいか—
木下研一郎, 尼崎辰彦, 山田恭暉, 上平 憲, 牟田隆也, 北村 勉, 池田柊一, 松尾 武
日本網内系学会会誌, 21:249-252 1981
192. 白血病
朝長万左男, 市丸道人
臨床と研究, 58:38-39, 1981
193. 紫斑病
朝長万左男, 市丸道人
臨床と研究, 58:40-41, 1981
194. NBT 還元能
朝長万左男
検査と技術, 9:388-394, 1981
195. リンパ球のサブセットと細胞組織化学
朝長万左男
Immunohematology, 4:376-380, 1981
196. 白血病における染色体異常の意義
朝長 優, 貞森直樹, 松永マサ子, 田川真須子, 市丸道人
日本臨床, 39:2773-2779, 1981
197. 非リンパ性白血病細胞の表面マーカーと細胞化学的検討
池田柊一
日内会誌, 70:553-564, 1981

189. (8 ; 21) 転座を示した急性骨髄性白血病の2症例
田川真須子, 松尾辰樹, 雨森龍彦
佐世保市立総合病院医学業績集, 8:81-85, 1981
199. 慢性骨髄性白血病の止血障害におよぼす成熟好中球の影響
—臨床例および Thrombelastogram の検討よりみて—
栗山一孝
臨床血液, 22:630-640, 1981
200. 再生不良性貧血 82 症例 (1966~1980) の臨床的解析, とくに蛋白同化ステロイドの効果と死因を中心にして
栗山一孝, 朝長万左男, 野中博章, 陣内逸郎, 尼崎辰彦, 松尾辰樹, 西野健二, 八尾栄一, 山口 剛, 森 頼隆, 鈴山純司, 親川幸信, 吉田善春, 草野みゆき, 山田恭暉, 雨森龍彦, 田川真須子, 池田修一, 吉岡 朗, 牟田隆也, 山口博志, 朝長 優, 上平 憲, 北村 勉, 木下研一郎, 市丸道人
九血会誌, 29:35-44, 1981
201. 8年間完全寛解を維持している急性単球性白血病の1例
松尾辰樹, 田川真須子
佐世保市立総合病院医学業績集, 8:105-107, 1981
202. 戦争イソスポーラ寄生による吸収不良症候群と重症水痘症を合併したT細胞型悪性リンパ腫の一部検例
橘川圭三, 上平 憲, 木下研一郎, 尼崎辰彦, 市丸道人
臨床血液, 22:258-265, 1981
203. カリニ肺炎患者の看護, 悪性リンパ腫に合併した日和見感染症をめぐって
高木あけみ, 貞森直樹
臨床看護, 7:1689-1694, 1981
204. Incidence of leukemia in a fixed cohort of atomic bomb survivors and controls, Hiroshima and Nagasaki, October 1950 - December 1978
Ichimaru, M., Ishimaru, T., Mikami, M., Yamada, Y. and Ohkita, T.
RERF Tech.Rep., 13-81, 1981
205. Clinical, hematological and pathological features of T-cell leukemia-lymphoma in the Nagasaki district
Kinoshita, K., Kamihira, S., Yamada, Y., Amagasaki, T. and Ikeda, S.
Acta Haematol.Jpn., 44: 1431-1443, 1981
206. Familial acute myelogenous leukemia associated with RNA virus and polymorphism of 1qh+
Sadamori, N., Nonaka, H., Ichimaru, M., Igarashi, H., Hirota, M. and Sawada, H.
Cancer Genet.Cytogenet., 4: 23-30, 1981

207. Erythroblastic transformation of Philadelphia chromosome(Ph¹)-positive chronic myelogenous leukemia associated with marked chromosomal rearrangements.
Sadamori, N., Ikeda, S., Muta, T., Ichimaru, M. and Matsunaga, M.
Cancer Genet.Cytogenet., 3: 353-357, 1981
208. Adult T-cell leukemia: antigen in an ATL cell line and detection of antibodies to the antigen in human sera
Hinuma, Y., Nagata, K., Hanaoka, M., Nakai, M., Matsumoto, T., Kinoshita, K., Shirakawa, S. and Miyoshi, I.
Proc.Natl.Acad.Sci.USA, 78: 6476-6480, 1981
209. Statistical analysis of immunologic, clinical and histopathologic data on lymphoid malignancies in Japan
Lymphoma Study Group(Chairman:Shimoyama, M.)
Jpn.J.Clin.Oncol., 11: 15-38, 1981
210. Dose-response relationship of leukemia incidence among atomic bomb survivors and their controls by absorbed marrow dose and two types of leukemia, Hiroshima and Nagasaki,October 1950 -December 1978
Ishimaru, T., Otake, M., Ichimaru, M. and Mikami, M.
RERF Tech.Rep., 10-81, 1981
211. Leukemia incidence among individuals exposed in utero, children of atomic bomb survivors, and their controls: Hiroshima and Nagasaki, 1945-79
Ishimaru, T., Ichimaru, M. and Mikami, M.
RERF Tech.Rep., 11-18, 1981
212. Distribution of onset of leukemia among atomic bomb survivors in the leukemia registry by dose,Hiroshima and Nagasaki, 1946-75
Ishimaru, T., Ichimaru, M., Mikami, M., Yamada, Y. and Tomonaga, Y.
RERF Tech.Rep., 12-81, 1981
213. 核戦争と造血器障害
市丸道人, 大北 威
臨床血液, 23:792-793, 1982
214. リンパ球と免疫能ーリンパ増殖性疾患を中心にー
市丸道人, 山田恭暉, 上平 憲
診断と治療, 70:1353-1358, 1982
215. 非Hodgkin リンパ腫の臨床的特徴ーT cell悪性リンパ腫を中心にー
市丸道人
臨床医, 8:378-382, 1982
216. 白血病細胞の病理
市丸道人, 朝長万左男

Medical Companion, 2:1237-1240, 1982

217. 悪性リンパ腫の表面形質の研究

VII. ATL と B-CLL における PCV の発達とリンパ球の再循環像

木下研一郎, 上平 憲, 山田恭暉, 尼崎辰彦, 親川幸信, 池田柊一, 松尾 武, 津田 暢
日本網内系学会会誌, 22:1-11, 1982

218. 悪性リンパ腫の表面形質の研究

VIII. 末期に急性転化様の細胞形態の変化を示した T 細胞増殖性疾患

木下研一郎, 山田恭暉, 牟田隆也, 中村秀男, 松尾辰樹, 雨森龍彦, 上平 憲, 市丸道人,
松永マサ子, 池田柊一, 松尾 武
日本網内系学会会誌, 22:77-89, 1982

219. 急性白血病 FAB 分類の評価. 光顕形態学的立場より

朝長万左男
臨床血液, 23:1003-1008, 1982

220. 細胞化学の診断的意義

朝長万左男
臨床医, 8:444-446, 1982

221. リウマチ因子活性を有する単クローン性 IgA とパイログロブリン血症を伴った Sjögren 症候群の一例

上平 憲
臨床血液, 23:1750-1756, 1982

222. 成人 T 細胞白血病-リンパ腫(ATL-L)の家族集積性と ATLA 抗体について

上平 憲, 木下研一郎, 市丸道人, 日野茂男, 日沼頼夫
医学のあゆみ, 123:25-27, 1982

223. 成人 T 細胞白血病-悪性リンパ腫の家族集積性について-最近経験した二家族を中心に-

上平 憲, 山田恭暉, 木下研一郎, 市丸道人, 親川幸信
臨床血液, 23:464-471, 1982

224. NK-631(Pepleomycin)による非ホジキンリンパ腫の治療

-特に T, Non-T 細胞型別の効果について-
上平 憲, 木下研一郎, 市丸道人, 陣内逸郎
癌と化学療法, 9:289-292, 1982

225. 血液疾患に合併した重症感染症に対する COG-78 の使用経験

池田柊一, 牟田隆也
薬理と治療, 10:4181-4185, 1982

226. 急性白血病に併発した DIC に対する FOY 療法とヘパリン療法の比較検討

栗山一孝, 曲 泰男, 中川雅子, 大石恵都子, 松尾ヒトミ, 猪子恵司,
臼井敏明, 市丸道人
現代医療, 14:1386-1392, 1982

227. mycosis fungoides患者末梢血細胞における adult T-cell leukemia-associated antigen (ATLA)の検出
 尼崎辰彦, 樫田三郎, 山田恭暉, 池田柊一, 木下研一郎, 市丸道人
 医学のあゆみ, 123:658-660, 1982
228. 抗ヒト脳血清を用いた正常血液細胞および造血器腫瘍細胞抗原の解析
 尼崎辰彦, 山田恭暉, 木下研一郎, 市丸道人
 九血会誌, 30:39-44, 1982
229. CFU-Cの著明な周期性変動がみられた周期性好中球減少症の1例
 陣内逸郎, 雨森龍彦, 吉田善春, 松尾辰樹, 栗山一孝, 朝長万左男, 上平 憲, 市丸道人
 臨床血液, 23:1741-1749, 1982
230. 長崎の近距離被爆者にみられたマクログロブリンミア(Waldenström)の1例
 長嶺 勝, 朝長 優, 草野みゆき, 上平 憲, 市丸道人, 上野泰志
 広島医学, 35:466-470, 1982
231. 原爆胎内被爆者の現況 1978年8月～1980年12月(長崎)
 鍊石昇太郎, 早田みどり, 賀来 俊, 迫 龍二, 森本勲夫, 山田恭暉
 広島医学, 35:377-380, 1982
232. 線溶系の異常
 田浦幸一, 栗山一孝
 臨床検査 Mook, 9:40-46, 1982
233. Refractory anemia with excess of blasts(RAEB)補助診断のための点数方式
 鎌田七男, 土肥博雄, 沖田 肇, 蔵本 淳, 内野治人, 三浦恭定, 高久史麿, 柴田 昭,
 前川 正, 小峰光博, 朝長万左男, 伊藤宗元, 広田 豊, 岡田 弘, 田口信行
 臨床血液, 23:1390-1399, 1982
234. 肺クリプトコッカス症
 林 邦昭, 長崎鼎二, 福島藤平, 相川久幸, 宇津木昌子, 本保善一郎, 広田正毅,
 重野芳輝, 中富昌夫, 松尾 武, 朝長万左男, 福井 信
 臨床放射線, 27:17-24, 1982
235. Multiple myeloma among atomic bomb survivors in Hiroshima and Nagasaki, 1950 -
 76:relationship to radiation dose absorbed by marrow
 Ichimaru, M., Ishimaru, T., Mikami, M. and Matsunaga, M.
 J.Nat.Cancer Inst., 69: 323-328, 1982
236. Clinical, hematologic and pathologic features of leukemic T-cell lymphoma
 Kinoshita, K., Kamihira, S., Ikeda, S., Yamada, Y., Muta, T., Kitamura, T.
 and Ichimaru, M.
 Cancer, 50: 1554-1562, 1982
237. Development of adult T-cell leukemia-lymphoma(ATL)in two anti-ATL-associated
 antigen-positive healthy adults.

- Kinoshita, K., Hino, S., Amagasaki, T., Yamada, Y., Kamihira, S.,
Ichimaru, M., Munehisa, T. and Hinuma, Y.
Jpn.J.Cancer Res.(Gann), 73: 684-685, 1982
238. Adult T-cell leukemia associated antigen(ATLA)and anti-ATLA antibodies in my-
cosis fungoides
Amagasaki, T., Momita, S., Yamada, Y., Ikeda, S., Kinoshita, K. and
Ichimaru, M.
Jpn.J.Clin.Oncol., 12: 321-324, 1982
239. Antibodies to adult T-cell leukemia -virus- associated antigen (ATLA) in sera from
patients with ATL and controls in Japan:a nation -wide sero-epidemiologic study
Hinuma, Y., Komada, H., Chosa, T., Kohakura, M., Takenaka, T,
Kikuchi, M., Ichimaru, M., Yunoki, K., Sato, I., Matsuo, R., Takiuchi, Y.,
Uchino, H. and Hanaoka, M.
Int.J.Cancer, 29: 631-635, 1982
240. A retrovirus associated with human adult T-cell leukemia:in vitro activation
Hinuma, Y., Gotoh, Y., Sugamura, K., Nagata, K., Goto, T., Nakai, M.,
Komada, N., Matsumoto, T. and Kinoshita, K.
Jpn.J. Cancer Res.(Gann), 73: 341-344, 1982
241. 白血病
市丸道人
臨床と研究, 60:119-123, 1983
242. 成人 T 細胞白血病およびリンパ腫における家族性要因
市丸道人
Oncologia, 4:164-167, 1983
243. 成人 T 細胞白血病の臨床
市丸道人
癌と化学療法, 10:650-658, 1983
244. 問題となるケースの治療, 成人 T 細胞白血病, 悪性リンパ腫
市丸道人, 木下研一郎
Medicina, 20:2456-2458, 1983
245. 白血病
市丸道人, 朝長万左男
総合臨床, 32:1285-1290, 1983
246. non -Hodgkin リンパ腫の臨床と病理 T₂ cell malignancy
市丸道人, 木下研一郎, 山田恭暉, 池田柊一, 尼崎辰彦, 樫田三郎
日本臨床, 41:2561-2568, 1983
247. 輸血と ATLA 抗体

市丸道人, 縦田三郎, 尼崎辰彦

Oncologia, 5:167-169, 1983

248. 成人 T 細胞白血病(ATL)の臨床

市丸道人, 木下研一郎, 上平 憲, 池田柊一, 山田恭暉, 親川幸信, 草野みゆき,
尼崎辰彦, 縦田三郎

臨床科学, 19:229-236, 1983

249. Adult T-cell leukemia-lymphoma(ATLL)の臨床的問題点

(1) Adult T-cell leukemia(ATL)の予後因子と治療方針について

木下研一郎, 池田柊一, 山田恭暉, 尼崎辰彦, 縦田三郎, 鳥谷和洋, 市丸道人, 上平 憲
臨床血液, 24:818-825, 1983

250. Adult T-cell leukemia-lymphoma(ATLL)の臨床的問題点

(2) Adult T-cell leukemia における高 Ca 血症

木下研一郎, 親川幸信, 鳥谷和洋, 縦田三郎, 尼崎辰彦, 山田恭暉, 池田柊一, 市丸道人,
上平 憲

臨床血液, 24:1313-1320, 1983

251. 免疫不全に伴う帯状疱疹

木下研一郎

臨床と研究, 60:3346, 1983

252. 血液学的にみた悪性リンパ腫の病像 (2) 成人 T 細胞白血病患者における

胸管ドレナージの試みー白血病患者の血中流入経路についてー

木下研一郎, 親川幸信, 栗山一孝, 山田恭暉, 北村 勉, 市丸道人
日血会誌, 46:48-54, 1983

253. Refractory anemia と myelodysplastic syndrome

朝長万左男

内科, 52:14-19, 1983

254. 造血器腫瘍における細胞化学

朝長万左男, 市丸道人

臨床成人病, 13:1215-1219, 1983

255. 急性白血病の FAB 分類におけるペルオキシダーゼ反応とエステラーゼ反応の意義

朝長万左男, 吉田善春, 野中博章, 栗山一孝, 市丸道人

現代の診療, 25:543-548, 1983

256. 前白血病状態

朝長万左男, 松尾辰樹, 陣内逸郎, 朝長 優

日本医学会総会誌, :1020-1023, 1983

257. 各種血液疾患における細胞遺伝学的研究

貞森直樹

長崎医学会誌, 58:157-170, 1983

258. 前リンパ球性白血病の特異的染色体異常
貞森直樹, 市丸道人, Sandberg, A.A.
医学のあゆみ, 127:1139-1140, 1983
259. 原爆被爆者白血病並びに前白血病状態に関する細胞遺伝学的研究
—白血病誘発因子としての染色体構造異常(続報)—
朝長 優, 貞森直樹, 田川真須子, 草野みゆき, 西野健二, 八尾栄一, 市丸道人
長崎医学会誌 第23回原子爆弾後障害研究会講演集, :157-167, 1983
260. 成人T細胞白血病・リンパ腫の患者およびその家族の ATLA 抗体について
上平 憲, 崎谷 満, 市丸道人, 木下研一郎, 池田柊一, 山田恭暉, 尼崎辰彦, 樺田三郎
臨床血液, 24:547-552, 1983
261. 成人T細胞白血病を含む非ホジキンリンパ腫の Pepleomycin を含む併用療法について
上平 憲, 崎谷 満, 中野正心, 市丸道人, 木下研一郎
癌と化学療法, 10:931-937, 1983
262. 成人T細胞白血病, 非ホジキンリンパ腫に対する α -型インターフェロン(HLBI)投与の試み
上平 憲, 早田 央, 木下研一郎, 市丸道人
癌と化学療法, 10:2188-2193, 1983
263. 白血病の診断, 細胞遺伝学的検査
田川真須子, 貞森直樹, 八尾栄一, 朝長 優, 草野みゆき, 市丸道人
現代医療, 15:1503-1509, 1983
264. 造血器疾患に発症した各種ヘルペスウィルス群感染症に対する抗ウィルス剤Acyclovirの
使用経験
田川真須子, 西野健二, 山田恭暉, 木下研一郎, 市丸道人, 草野みゆき, 野中博章
薬理と治療, 11:127-134, 1983
265. 造血器腫瘍と免疫学的マーカー
栗山一孝, 朝長万左男
臨床成人病, 13:1229-1234, 1983
266. 単一コロニーからの染色体標本作製法
雨森龍彦, 朝長万左男, 朝長 優, 八尾栄一, 陣内逸郎, 吉田善春, 栗山一孝,
松尾辰樹, 貞森直樹, 市丸道人
日血会誌, 46:665-670, 1983
267. 原爆被爆者の造血幹細胞における細胞遺伝学的研究, 第一報 循環血中顆粒球系前駆細胞
(CFU - C)及び赤芽球系前駆細胞(BFU - E)由来単一コロニーの染色体分析
雨森龍彦, 本田武夫, 朝長万左男, 朝長 優, 栗山一孝, 吉田善春, 市丸道人
第23回原子爆弾後障害研究会講演集, 168-172, 1983
268. T細胞増殖性疾患における adult T-cell leukemia-associated antigen(ATLA)の検出
尼崎辰彦
日血会誌, 46:1029-1036, 1983

269. Methotrexate に優れた感受性を示しながら脳内転移にて死亡した悪性リンパ腫の 1 例
野中博章, 草野みゆき, 石崎 駿
佐世保市立総合病院医学業績集, 10:127-131, 1983
270. 近距離被爆者にみられた急性形質細胞性白血病の 1 例
崎谷 満, 栗山一孝, 草野みゆき, 山田恭暉, 朝長 優, 朝長万左男, 市丸道人,
上平 憲, 真田文明
第 23 回原子爆弾後障害研究会講演集, 223-229, 1983
271. DIC に対する FOY の治療効果に関する研究—多施設比較臨床試験—
神前五郎, 上林純一, 平山亮夫, 森 和夫, 内田立身, 阿部 帥, 松田道生, 名越啓史,
寺田秀夫, 金山正明, 福武勝博, 外山圭助, 馬場英昭, 柴 忠明, 五十嵐紀子, 鯉江捷夫,
神谷 忠, 石崎武志, 妙中信之, 公文啓二, 桂田菊嗣, 片岡敏樹, 青木栄三郎, 磯部淳一,
蔵本 淳, 大里敬一, 武田成彰, 市丸道人, 栗山一孝, 阿部 英, 風間睦美, 山村秀夫
医学のあゆみ, 124:144-154, 1983
272. 急性非リンパ性白血病(ANLL)に対する N-CWS による免疫化学療法の治療効果
化学療法単独と無作為割付法による比較試験
九州 N-CWS 白血病研究会
日血会誌, 46:1093-1098, 1983
273. Relationship between HTLV(ATLV)transmission and blood transfusion.
Manipulation of host defence mechanisms.
Ichimaru, M., Ikeda, S., Suzuyama, J., Momita, S., Amagasaki, T. and
Kitamura, K.
Excerpta Medica, 38: 201-208, 1983
274. Adult T-cell leukemia-lymphoma-related disease in the Nagasaki district
Kinoshita, K., Amagasaki, T., Yamada, Y., Ikeda, S., Momita, S., Toriya, K.,
Kamihira, S. and Ichimaru, M.
Jpn.J.Clin.Oncol., 13(Suppl.2): 215-230, 1983
275. Adult T-cell leukemia-associated antigen(ATLA)and anti-ATLA antibodies in pa-
tients with Hodgkin's disease in the Nagasaki district
Kinoshita, K., Amagasaki, T., Yamada, Y., Ikeda, S., Momita, S., Toriya, K.,
Kamihira, S. and Ichimaru, M.
Jpn.J.Clin.Oncol., 13(Suppl.2): 309-312, 1983
276. Superoxide production of polymorphonuclear leukocytes in patients with hemato-
logical disorders
Kitamura, T. and Tomonaga, M.
Acta Haematol.Jpn., 46: 1487-1496, 1983
277. Assessment of the FAB classification for acute leukemias from the standpoint of
light microscopic morphology

- Tomonaga, M., Yoshida, Y., Kuriyama, K., Oyakawa, Y., Yamaguchi, T.,
Nishino, K., Nonaka, H., Jinnai, I. and Muta, T.
Jpn.J.Clin.Oncol., 13: 15-24, 1983
278. Chromosomes and causation of human cancer and leukemia.II.Therapeutic and prognostic value of chromosomal findings during acute phase in Ph¹-positive chronic myeloid leukemia.
Sadamori, N., Gomez, G.A. and Sandberg, A.A.
Hematol.Oncol., 1: 77-83, 1983
279. 14q+ and 6q- anomalies in a case with hairy cell leukemia
Sadamori, N. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 8: 89-90, 1983
280. The clinical and cytogenetic significance of C-banding on chromosome #9 in patients with Ph¹-positive chronic myeloid leukemia
Sadamori, N. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 8: 235-241, 1983
281. Therapeutic and prognostic value of initial chromosomal findings at the blastic phase of Ph¹-positive chronic myeloid leukemia
Sadamori, N., Gomez, G.A. and Sandberg, A.A.
Blood, 61: 935-939, 1983
282. Chromosomal evidence of donor B-lymphocyte engraftment after bone-marrow transplantation in a patient with multiple myeloma
Sadamori, N., Ozer, H., Higby, D.H. and Sandberg, A.A.
N.Eng.J.Med., 308: 1423-1424, 1983
283. Chromosomes and causation of human cancer and leukemia.LI.A hairy cell leukemia case with 14q+ and ring chromosomes: significance of ring chromosomes in blood disorders
Sadamori, N., Han, T., Kakati, S. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 10: 67-77, 1983
284. Karyotypic findings in a case of prolymphocytic leukemia with a history of radiation exposure
Sadamori, N., Han, T., Block, A.W. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 10: 79-85, 1983
285. Kappa and lambda immunoglobulin expression associated with abnormalities of chromosomes #2 and #22 in lymphoma and leukemia
Sadamori, N., Takeuchi, J., Abe, R. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 10: 209-212, 1983
286. Clonal chromosome changes in stimulated lymphocytes of untreated human B-cell

leukemias

- Sadamori, N., Han, T., Minowada, J., Matsui, S.I. and Sandberg, A.A.
Cancer Res., 43: 3287-3291, 1983
287. Possible specific chromosome change in polymphocytic leukemia
Sadamori, N., Han, T., Minowada, J., Bloom, M.L., Henderson, E.S. and Sandberg, A.A.
Blood, 62: 729-736, 1983
288. Chromosome studies in stimulated lymphocytes of B-cell chronic lymphocytic leukemias
Sadamori, N., Han, T., Minowada, J., Cohen, E. and Sandberg, A.A.
Hematol.Oncol., 1: 243-250, 1983
289. Phenotypic and functional analysis of leukemic cells from 16 patients with adult T-cell leukemia/lymphoma
Yamada, Y.
Blood, 61: 192-199, 1983
290. A study of leukemic cell migration by an agarose plate method
Yamada, Y., Pinkston, J.A., Neriishi, S., Ikeda, S., Kinoshita, K., Ichimaru, M. and Finch, S.C.
Jpn.J.Clin.Oncol., 13: 343-352, 1983
291. Determination of human peripheral blood mononuclear cell-mediated cytotoxicity by an agarose plate method :Spontaneous release of a soluble cytotoxic factor against SRBC targets from monocytes
Yamada, Y., Ichimaru, M., Finch, S.C., Kinoshita, K., Tomonaga, M. and Pinkston, J.A.
Acta Haematol.Jpn., 46:164-182, 1983
292. Establishment and characterization of 10 cell lines derived from patients with adult T-cell leukemia
Hoshino, H., Esumi, H., Miwa, M., Shimoyama, M., Minato, K., Tobinai, K., Hirose, M., Watanabe, S., Inada, N., Kinoshita, K., Kamihira, S., Ichimaru, M. and Sugimura, T.
Proc.Natl.Acad.Sci.USA, 80: 6061-6065, 1983
293. Clonal chromosome abnormalities in patients with Waldenström's and CLL-associated macroglobulinemia: significance of trisomy 12
Han, T., Sadamori, N., Takeuchi, J., Ozer, H., Henderson, E.S., Bhargava, A., Fitzpatrick, J. and Sandberg, A.A.
Blood, 62: 525-531, 1983
294. 放射線と白血病

- 市丸道人
医学のあゆみ, 128:902-907, 1984
295. がん治療 20 年の進歩, 悪性リンパ腫
市丸道人
総合臨床, 33:135-139, 1984
296. 不応性貧血
市丸道人, 朝長万左男
治療, 66:1245-1252, 1984
297. 成人 T 細胞白血病
市丸道人
Medical Companion, 4:1580, 1984
298. 成人 T 細胞性白血病
市丸道人
日本臨床, 1984 年春季増刊, 臨床免疫 handbook, 42:719-726, 1984
299. 化学療法, 成人 T 細胞白血病
市丸道人, 木下研一郎
日本臨床, 1984 年秋季増刊, Cancer Therapy Manual, 42:197-202, 1984
300. 原因不明の老人の貧血
市丸道人
クリニシアン, 31:27-28, 1984
301. 髄外白血病
市丸道人, 貞森直樹, 草野みゆき, 雨森龍彦, 松尾辰樹
診断と治療, 72:52-56, 1984
302. ノン・ホジキン・リンパ腫
市丸道人, 山田恭暉, 尼崎辰彦
臨床科学, 20:940-947, 1984
303. 輸血の適応疾患と実際, 顆粒球減少症
市丸道人, 鳥谷和洋, 北村勉
臨床と研究, 61:2849-2853, 1984
304. 成人 T 細胞白血病ーリンパ腫は抗 ATLA 抗体陽性者から発生する
木下研一郎, 尼崎辰彦, 鈴山純司, 池田柊一, 樺田三郎, 山田恭暉, 上平 憲,
市丸道人, 雨森龍彦, 日野茂男, 棟久龍夫
医学のあゆみ, 13:665-666, 1984
305. 長崎県下における ATLL 発症と抗 ATLA 抗体保有率との関係
北村 勉
日輸血会誌, 30:305-308, 1984
306. Oncogene と血液細胞腫瘍

貞森直樹

Immunohaematology, 6:361-366, 1984

307. 放射線治療誘発癌に関する研究—特に乳癌と白血病との関連を中心に—

貞森直樹, 市丸道人, 加藤寛夫, 岡本義夫, 福島藤平, 松島繁知, 河野恒昭, 山口春雄
広島医学, 37:452-456, 1984

308. Ph¹ 陽性慢性骨髄性白血病の急性転化後における摘脾効果と予知的指標としての付加的染色体異常

貞森直樹, 市丸道人, Sandberg, A.A.

日血会誌, 47:134-136, 1984

309. B細胞型慢性リンパ性白血病の染色体検査—培養期間と mitogen の選択を中心に—

貞森直樹, 市丸道人, Sandberg, A.A.

医学のあゆみ, 128:651-652, 1984

310. 成人 T 細胞白血病の特異的染色体異常

貞森直樹, 草野みゆき, 西野健二, 田川真須子, 八尾栄一, 山田恭暉, 尼崎辰彦,
木下研一郎, 市丸道人

医学のあゆみ, 131:447-448, 1984

311. 良性 M-蛋白血症の経過中に発病した成人 T 細胞白血病・リンパ腫の 2 症例

上平 憲, 木下研一郎, 市丸道人

臨床血液, 25:1133-1137, 1984

312. 著明な心筋浸潤をきたした成人 T 細胞白血病の一部検例

上平 憲, 坂本 晃, 木下研一郎, 市丸道人

日本網内系学会会誌, 24:161-170, 1984

313. 非定型白血病に対する Cytosine Arabinoside(Ara-C) 少量持続注射療法

—染色体所見, コロニー形成能および Ara-C 血漿濃度からの寛解機序についての解析—

田川真須子, 朝長万左男, 柴田淳治, 西野健二, 野中博章, 池田柊一, 鈴山純司,
雨森龍彦, 松尾辰樹, 栗山一孝, 吉田善春, 貞森直樹, 市丸道人

臨床血液, 25:1606-1617, 1984

314. 良性 M-タンパク血症を伴った悪性腫瘍の 4 例

草野みゆき, 中村秀男, 籠手田恒敏, 泉川欣一

佐世保市立総合病院医学業績集, 11:107-111, 1984

315. 原爆被爆者の造血幹細胞における細胞遺伝学的研究 (第 2 報)

雨森龍彦, 朝長万左男, 市丸道人, 本田武夫, 松尾辰樹, 大竹正徳, 宮地博之, 大串康隆
長崎医学会誌, 59:418-422, 1984

316. 長期の放射線被曝歴のある急性白血病の 2 例

雨森龍彦, 西野健二, 田川真須子, 牟田隆也, 山田恭暉, 野中博章, 市丸道人

広島医学, 37:473-476, 1984

317. 慢性骨髄性白血病の急性転化後の予後に関する細胞遺伝学的研究

- 八尾栄一
臨床血液, 25:1183-1189, 1984
- 318 急性白血病
吉田善春, 田川真須子, 朝長万左男, 市丸道人
臨床と研究, 61:1431-1436, 1984
319. 赤芽球コロニー培養系で白血病性コロニーを生じた近距離被爆者の非定型性白血病の1例
西野健二, 田川真須子, 八尾栄一, 朝長万左男, 雨森龍彦, 陣内逸郎, 市丸道人
長崎医学会誌, 59(原爆特集号):466-472, 1984
320. Pre-adult T-cell leukemia(Pre-ATL)の細胞遺伝学的研究
西野健二, 貞森直樹, 田川真須子, 八尾栄一, 木下研一郎, 尼崎辰彦, 市丸道人,
草野みゆき
臨床血液, 25:1903-1914, 1984
321. 原爆被爆者に発生した白血病の診断と病型分類の再検討(予報)
松尾辰樹, 朝長万左男, 市丸道人, 鎌田七男, 蔵本 淳
長崎医学会誌, 59(原爆特集号):412-417, 1984
322. ATL(Adult T cell leukemia)好発長崎地方における抗 ATLA(ATL cell associated antigen)
抗体検索成績について
樺田三郎
日内会誌, 73:309-315, 1984
323. 末期に白血病化し染色体異常(i(17q))の出現を認めた原発性骨髄線維症の1剖検例
中村秀男, 山田恭暉, 貞森直樹, 八尾栄一, 田川真須子, 西野健二, 上平 憲, 親川幸信,
朝長万左男, 市丸道人
臨床血液, 25:864-869, 1984
324. 当院内科における慢性骨髄増殖性疾患41例の検討
中村秀男, 草野みゆき, 八尾栄一
佐世保市立総合病院医学業績集, 11:71-79, 1984
325. 骨盤腔内に巨大な髄外腫瘤を形成した骨髄腫の1剖検例
柴田淳治, 上平 憲, 入江準二
九血会誌, 32:83-88, 1984
326. 転移性肺石灰化症-造血器疾患に伴った11例の胸部X線像の検討-
長崎鼎二, 林 邦昭, 川野洋治, 張 金山, 本保善一郎, 西野健二, 鳥谷和洋, 鳥山 寛,
戸田ゆみ子
日本医学放射線学会雑誌, 44:1494-1500, 1984
327. 日和見感染症としての肺アスペルギルス症のX線像-伸展固定肺による検討-
長崎鼎二, 林 邦昭, 川野洋治, 新野 順, 張 金山, 本保善一郎, 西野健二, 関根一郎,
鳥山 寛
日本医学放射線学会雑誌, 44:1513-1519, 1984

328. 白血化をきたした濾胞性リンパ腫中細胞型の1症例
南野隆一, 原田 寛, 白石公彦, 益子直己, 原田美佐, 谷川久一, 久保保彦,
松尾良信, 佐川公矯, 本告 匡, 神代正道, 貞森直樹
臨床血液, 25:1860-1866, 1984
329. 内科領域における重症細菌感染症に対する静注用免疫グロブリン(SM-4300)と抗生剤との併用効果
多施設共同
感染症学雑誌, 58:982-1000, 1984
330. 重症感染症に対する pH4 処理ヒト免疫グロブリン製剤 IG 100 と抗生剤との併用効果
IG-100研究会(多施設共同)
感染症学雑誌, 58:1001-1024, 1984
331. The Nagasaki atomic bomb and nuclear war
Ichimaru, M.
Möbius, 4: 68-69, 1984
332. Evaluation of cefoperazone in the treatment of bacterial infections in patients with hematological diseases
Ichimaru, M., Takatsuki, K., Niho, Y. and Sawae, Y.
Clinical Therapeutics, 7: 66-68, 1984
333. Demonstration of adult T-cell leukemia virus antigen in milk from three sero-positive mothers
Kinoshita, K., Hino, S., Amagasaki, T., Ikeda, S., Yamada, Y., Suzuyama, J., Momita, S., Toriya, K., Kamihira, S. and Ichimaru, M.
Jpn.J.Cancer Res.(Gann), 75: 103-105, 1984
334. Sequential karyotypic evolutions and bone marrow aplasia preceding acute myelomonocytic transformation from myelodysplastic syndrome
Tomonaga, M., Tomonaga, Y., Kusano, M. and Ichimaru, M.
Brit.J.Haematol., 58: 53-60, 1984
335. Alkaline phosphatase-positive leukemic monocytes in a child with acute monocytic leukemia
Tomonaga, M., Ichimaru, M. and Tsuji, Y.
Acta Haematol., 71: 66-68, 1984
336. Comparative results with various polyclonal B-cell activators in aneuploid chronic lymphocytic leukemia
Sadamori, N., Matsui, S.I., Han, T. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 11: 25-29, 1984
337. Clinical significance of cytogenetic findings in untreated patients with B-cell chronic lymphocytic leukemia

- Sadamori, N., Han, T., Minowada, J. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 11: 45-51, 1984
338. Chromosomes and causation of human cancer and leukemia.LII.Chromosome findings in treated patients with B-cell chronic lymphocytic leukemia
Sadamori, N, Han, T., Minowada, J. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 11: 161-168, 1984
339. Cell cycle analysis of stimulated lymphocytes of B-cell chronic lymphocytic leukemia
Sadamori, N., Block, A.W., Han, T. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 11: 395-398, 1984
340. Erythrocyte glutathione reductase activity and aquired trisomy 8 in various hematological disorders
Sadamori, N., Takei, H., Yao, E., Nagamine, M., Tomonaga, Y.,
Tagawa, M., Kusano, M. and Ichimaru, M.
Cancer Genet.Cytogenet., 12: 255-259, 1984
341. Chromosome changes and splenectomy in Ph¹-positive chronic myeloid leukemia.
I. Predictive parameters in the blastic phase
Sadamori, N. and Sandberg, A.A.
Cancer, 54: 2456-2459, 1984
342. Chromosome changes and splenectomy in Ph¹-positive CML.
II. Prognostic aspects in the blastic phase
Sadamori, N. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 12: 303-308, 1984
343. Monoclonal gammopathy in adult T-cell leukemia/lymphoma
Kamihira, S., Taguchi, H., Kinoshita, K. and Ichimaru, M.
Jpn.J.Clin.Oncol., 14: 699-704, 1984
344. Changes of adult T cell leukemia cell surface antigens at relapse or at exacerbation phase after chemotherapy defined by use of monoclonal antibodies
Yamada, Y., Kamihira, S., Amagasaki, T., Kinoshita, K., Kusano, M.,
Ikeda, S., Suzuyama, J. and Ichimaru, M.
Blood, 64: 440-444, 1984
345. Reduced helper(OKT 4 +) : suppressor(OKT 8 +)T ratios in aplastic anemia:relation to immunosuppressive therapy
Kuriyama, K., Tomonaga, M., Jinnai, I., Matsuo, T., Yoshida, Y.,
Amenomori, T., Yamada, Y. and Ichimaru, M.
Brit.J.Haematol., 57: 329-336, 1984
346. Detection of adult T-cell leukemia-associated antigen in T-cell malignancies in the Nagasaki district of Japan

- Amagasaki, T., Momita, S., Suzuyama, J., Yamada, Y., Ikeda, S., Kinoshita, K. and Ichimaru, M.
Cancer, 54: 2074-2081, 1984
347. Relationship between fibroblastoid colony-forming units (CFU-f) and hemopoietic precursor cells in normal human bone marrow
Jinnai, I., Bessho, M., Murohashi, I., Nara, N. and Hirashima, K.
Int.J.Cell Cloning, 2: 341-347, 1984
348. Temporal analysis of a dose-response relationship: leukemia mortality in atomic bomb survivors
Brodsky, J.B., Liddell, R., Groer, P.G., Ishimaru, T. and Ichimaru, M.
Radiat.Res., 99: 547-561, 1984
349. IgG heavy chain allotype(Gm), a genetic marker for human chromosome 14q32, and haematopoietic malignancies
Nakao, Y., Matsumoto, H., Tsuji, K., Miyazaki, T., Masaoka, T., Nakayama, S., Kinoshita, K., Shingami, T., Matsui, T. and Fujita, T.
Clin.Exp.Immunol., 56: 628-636, 1984
350. Proceedings of the international round table conference.FAB classification of acute leukemias correlating with response to chemotherapy
Amaki, I., Hattori, K., Bennett, J.M., Yoshida, T., Tomonaga, M., Ogawa, T., Catovsky, D., Shimoyama, M., Ohshima, T., Fugimoto, T. and Kamada, N.
Acta Haematol.Jpn., 47: 206-238, 1984
351. Specific cytolysis of fresh tumor cells by an autologous killer T-cell line derived from an adult T-cell leukemia lymphoma patient
Kannagi, M., Sugimura, K., Kinoshita, K., Uchino, H. and Hinuma, Y.
J.Immunol., 133: 1037-1041, 1984
352. HTLV and the propagation of christianity in Nagasaki
Hino, S., Kinoshita, K. and Kitamura, T.
Lancet, II: 572-573, 1984
353. Transfusion-mediated spread of the human T-cell leukemia virus in chronic hemodialysis patients in a heavily endemic area,Nagasaki
Hino, S., Kawamichi, T., Funakoshi, M., Kanamura, M., Kitamura, T. and Miyamoto, T.
Jpn.J.Cancer Res.(Gann), 75: 1070-1075, 1984
354. Isolation of HTLV derived from Japanese adult T-cell leukemia patients in human diploid fibroblast strain IMR 90 and the biological characters of the infected cells
Yoshikura, H., Nishida, J., Yoshida, M., Kitamura, Y., Takaku, F. and Ikeda, S.
Int.J.Cancer, 33: 745-749, 1984

355. Prognostic importance of cytogenetic abnormalities in patients with chronic lymphocytic leukemia
Han, T., Ozer, H., Sadamori, N., Emrich, L., Gomez, G.A.,
Henderson, E.S., Bloom, M.L. and Sandberg, A.A.
N.Eng.J.Med., 310: 288-292, 1984
356. Benign monoclonal B-cell lymphocytosis—A benign variant of CLL:clinical, immunologic, phenotypic, and cytogenetic studies in 20 patients
Han, T., Ozer, H., Gavigan, M., Gajera, R., Minowada, J., Bloom, M.L.,
Sadamori, N., Sandberg, A.A., Gomez, G.A. and Henderson, E.S.
Blood, 64 : 244-252, 1984
357. Cytogenetic studies in 77 patients with chronic lymphocytic leukemia : correlations with clinical, immunologic, and phenotypic data
Han, T., Sadamori, N., Ozer, H., Gajera, R., Gomez, G.A., Henderson, E.S.,
Bhargava, A., Fitzpatrick, J., Minowada, J., Bloom, M.L. and Sandberg, A.A.
J.Clin.Oncol., 2: 1121-1132, 1984
358. Bone marrow infiltration patterns and their prognostic significance in chronic lymphocytic leukemia: correlation with clinical, immunologic, phenotypic, and cytogenetic data
Han, T., Barcos, M., Emrich, L., Ozer, H., Gajera, R., Gomez, G.A.,
Reese, P.A., Minowada, J., Bloom, M.L., Sadamori, N., Sandberg, A.A.
and Henderson, E.S.
J.Clin.Oncol., 2: 562-570, 1984
359. 放射線と貧血
市丸道人, 松尾辰樹
現代医療, 17:2107-2111, 1985
360. 日和見感染の実態とその対策, 血液疾患合併感染症
市丸道人
医学と薬学, 13:760-765, 1985
361. ATLL(adult T-cell leukemia and lymphoma)の診断と治療
市丸道人
臨床放射線, 30:1201-1212, 1985
362. T細胞性腫瘍
市丸道人
Medical Companion, 5:1525-1529, 1985
363. ATLL(Adult T-cell leukemia and lymphoma)の問題点
市丸道人
臨床血液, 26:1914, 1985

364. 成人 T 細胞白血病の治療
市丸道人, 木下研一郎
内科, 55:864-868, 1985
365. ATL の治療
市丸道人, 木下研一郎, 池田柊一
Current Therapy, 3:67-75, 1985
366. 長崎県内の ATL ウイルスキャリアーからの adult T-cell leukemia-lymphoma(ATLL) の発症率
木下研一郎, 池田柊一, 鈴山純司, 樺田三郎, 市丸道人, 北村 勉, 中島茂宏, 日野茂男, 金村真智子, 太田タキ子
長崎医学会誌, 60:56-60, 1985
367. 前白血病状態とその治療
朝長万左男
Current Therapy, 3:67-74, 1985
368. トロトラスト被注入者から発生し, 骨髓細胞に多彩な染色体異常を示した panmyelosis の 1 剖検例
貞森直樹, 島 正義, 矢野右人, 古賀満明, 川本幹生, 藤井秀治, 宮島純子, 岡島俊三, 森 武三郎, 市丸道人
臨床血液, 26:1641-1646, 1985
369. 酵素抗体法による ATLA 抗体の検索
—蛍光抗体法との比較および ATL 周辺疾患について—
池田柊一, 木下研一郎, 市丸道人, 中島茂宏, 北村 勉, 日野茂男
臨床と研究, 62:283-286, 1985
370. 血液疾患に合併した重症感染症に対するエボセリン(CZX)の有用性の検討
池田柊一, 市丸道人, 上平 憲, 牟田隆也, 草野みゆき, 朝長 優, 樺田三郎
臨床と研究, 62:2017-2022, 1985
371. 血液疾患に合併した重症感染症に対する SN-4300 の使用経験
池田柊一, 市丸道人
Jpn.J.Antibiotics, 38:2559-2563, 1985
372. 当院内科における過去 3 年間の悪性リンパ腫 62 例の臨床的検討
草野みゆき, 早田 央, 跡上 直, 泉川欣一
佐世保市立総合病院医学業績集, 12:43-48, 1985
373. Acute Mixed Leukemia—自験 3 例を中心に—
栗山一孝, 朝長万左男, 野中博章, 陣内逸郎, 松尾辰樹, 吉田善春, 雨森龍彦, 草野みゆき, 田川真須子, 市丸道人
臨床血液, 26:1815-1823, 1985
374. 反復免疫抑制療法に反応した重症再生不良性貧血の 1 例—免疫学的抑制機序に関する一考察—

- 栗山一孝, 朝長万左男, 笹川一平, 池田柊一, 陣内逸郎, 野中博章, 松尾辰樹, 雨森龍彦,
吉田善春, 市丸道人
臨床血液, 26:2032-2037, 1985
375. 白血球の正常値
吉田善春, 栗山一孝, 市丸道人
臨床と研究, 62:698-701, 1985
376. Human T-cell leukemia virus(HTLV)carrier における末梢血リンパ球の形態学的観察
尼崎辰彦, 梶田三郎, 鈴山純司, 山田恭暉, 池田柊一, 木下研一郎, 市丸道人
臨床血液, 26:1430-1435, 1985
377. Evans 症候群を呈し, 抗 P 特異性を欠いた発作性寒冷血色素尿症の 1 症例
森内幸美, 上平 憲
臨床血液, 26:1131-1134, 1985
378. 破傷風治療中に発見された鼻 T 細胞型リンパ腫の 1 例
山野辺滋晴, 中島成人, 隈上秀伯, 木下研一郎, 海江田純彦
耳鼻咽喉科, 57:543-546, 1985
379. 大腸病変を主徴とした Adult T-cell leukemia/lymphoma (ATLL)の一例
田口久雄, 河野健次, 上平 憲, 一瀬忠邦, 入江準二, 棟久龍夫
Gastroenterological Endoscopy, 27:2352-2356, 1985
380. 診断困難であった慢性骨髄性白血病に合併した無反応性粟粒結核の 1 剖検例
増本英男, 松尾 武, 池田高良, 山田恭暉
日本胸部疾患学会雑誌, 23:947-952, 1985
381. Preleukemic state of adult T-cell leukemia: abnormal T lymphocytosis induced by
human adult T cell leukemia-lymphoma virus
Kinoshita, K., Amagasaki, T., Ikeda, S., Suzuyama, J., Toriya, K., Nishino, K.,
Tagawa, M., Ichimaru, M., Kamihira, S., Yamada, Y., Momita, S.,
Kusano, M., Morikawa, T., Fuzita, S., Ueda, Y., Ito, N. and Yoshida, M
Blood, 66: 120-127, 1985
382. Oral infection of a common marmoset with human T-cell leukemia virus type- I
(HTLV- I)by inoculating fresh human milk of HTLV- I carrier mothers
Kinoshita, K., Yamanouchi, K., Ikeda, S., Momita, S., Amagasaki, T.,
Soda, H., Ichimaru, M., Moriuchi, K., Katamine, S., Miyamoto, T. and Hino, S.
Jpn.J.Cancer Res.(Gann), 76: 1147-1153, 1985
383. Association of adult human T-cell leukemia virus(ATLV/HTLV)with mycosis fun-
goides and extranodal cutaneous T-cell malignant lymphoma
Kinoshita, K., Amagasaki, T., Momita, S., Yamada, Y., Ikeda, S., Ichimaru, M.,
Kamihira, S., Sasaoka, K. and Tanaka, M.
J.Kyushu Hematol.Soc., 33: 31-36, 1985

384. Cytochemistry of acute promyelocytic leukemia(M3): leukemic promyelocytes exhibit heterogenous patterns in cellular differentiation
Tomonaga, M., Yoshida, Y., Tagawa, M., Jinnai, I., Kuriyama, K.,
Amenomori, T., Yoshioka, A., Matsuo, T., Nonaka, H. and Ichimaru, M.
Blood, 66: 350-357, 1985
385. Chromosome changes and splenectomy in Ph¹-positive CML.
III. Predictive parameters in the chronic phase
Sadamori, N. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 14: 227-234, 1985
386. Chromosome characteristics of chronic and blastic phases of Ph¹-positive chronic myeloid leukemia
Sadamori, N., Matsunaga, M., Yao, E.,Ichimaru, M. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 15: 17-24, 1985
387. Cell cycle progression of stimulated lymphocytes in various B-cell leukemia
Sadamori, N., Block, A.W., Cohen, E. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 17: 181-183, 1985
388. Cytogenetic studies of stimulated lymphocytes in hairy cell leukemia
Sadamori, N., Han, T., Block, A.W. and Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 17: 69-74, 1985
389. Abnormalities of chromosome #14 at band 14q11 in Japanese patients with adult T-cell leukemia
Sadamori, N., Kusano, M., Nishino, K., Tagawa, M., Yao, E., Yamada, Y.,
Amagasaki, T., Kinoshita, K. and Ichimaru, M.
Cancer Genet.Cytogenet., 17: 297-282, 1985
390. Low-dose cytosine arabinoside regimen induced a complete remission with normal karyotypes in a case with hypoplastic acute myeloid leukemia with No.8-trisomy :in vitro and in vivo evidence for normal haematopoietic recovery.
Tagawa, M., Shibata, J., Tomonaga, M., Amenomori, T., Yoshida, Y.,
Kuriyama, K., Matsuo, T., Sadamori, N. and Ichimaru, M.
Brit.J.Haematol., 60: 449-455, 1985
391. A comparative study of immunological and cytochemical profiles between adult and childhood acute lymphoblastic leukemias (ALLs) :heterogeneity in adult common ALL.
Kuriyama, K., Tomonaga, M., Nonaka, H., Jinnai, I., Matsuo, T., Yoshida, Y.,
Amenomori, T., Tagawa, M., Ichimaru, M., Ohmiya, A. and Tsuji, Y.
Leuk.Res., 9: 1237-1247, 1985
392. Chromosome aberrations in hemopoietic precursor cells

- Amenomori, T. and Tagawa, M.
Acta Haematol.Jpn., 48: 144-153, 1985
393. A micromethod for chromosome preparation from individual hematopoietic colonies cultured in methylcellulose
Amenomori, T., Tomonaga, M., Matsuo, T., Yoshida, Y., Kuriyama, K., Sadamori, N. and Ichimaru, M.
Int.J.Cell Cloning, 3: 133-142, 1985
394. Proliferation, differentiation, and possible radiation-induced chromosome abnormalities in circulating hemopoietic stem cells
Amenomori, T., Honda, T., Matsuo, T., Otake, M., Hazama, R., Tomonaga, Y., Tomonaga, M. and Ichimaru, M.
RERF Tech.Rep., 22-85, 1985
395. Adult T-cell leukemia with atypical surface phenotypes:clinical correlation
Yamada, Y., Kamihira, S., Amagasaki, T., Kinoshita, K., Kusano, M., Chiyoda, S., Yawo, E., Ikeda, S., Suzuyama, J. and Ichimaru, M.
J.Clin.Oncol., 3: 782-788, 1985
396. Effects of atomic bomb radiation on the differentiation of B lymphocytes and on the function of concanavalin A-induced suppressor T lymphocytes
Yamada, Y., Neriishi, S., Ishimaru, T., Shimba, N., Hamilton, H.B., Ohgushi, Y., Koyanagi, M. and Ichimaru, M.
Radiat.Res., 101: 351-355, 1985
397. T lymphomas associated with human T-cell leukemia-lymphoma virus may show phenotypic and functional differences from adult T-cell leukemias
Yamada, Y., Amagasaki, T., Kamihira, S., Kinoshita, K., Ikeda, S., Kusano, M., Suzuyama, J., Toriya, K., Tomonaga, Y. and Ichimaru, M.
Clin.Immunol.Immunopathol., 36: 306-319, 1985
398. Chromosomal abnormalities in lymphoid crisis of chronic myelogenous leukemia
Yao, E.
Cancer Genet.Cytogenet., 16: 235-243, 1985
399. CFU - C abnormalities and cytochemical defects in bone marrow of adult patients during remission of acute leukemia
Matsuo, T., Tomonaga, M., Kuriyama, K., Yoshida, Y., Amenomori, T., Nonaka, H., Jinnai, I. and Ichimaru, M.
Leuk.Res., 9: 613-616, 1985
400. A lymphoproliferative disorder of T γ cells with the phenotype of cytotoxic / suppressor T-cell
Amagasaki, T., Shibata, T., Yao, E., Nishino, K., Yamada, Y., Sadamori, N.,

- Tomonaga, M., Kinoshita, K. and Ichimaru, M.
Am.J.Hematol., 19: 85-93, 1985
401. Adult T-cell leukemia with an unusual phenotype, Leu-2a positive and Leu-3a negative
Amagasaki, T., Tomonaga, Y., Yamada, Y., Suzuyama, J., Ikeda, S.,
Kinoshita, K. and Ichimaru, M.
Blut, 50: 209-211, 1985
402. Lymphoid crisis with T-cell phenotypes in a patient with Philadelphia chromosome negative chronic myeloid leukemia
Soda, H., Kuriyama, K., Tomonaga, M., Yao, E., Amenomori, T., Yoshida, Y.,
Matsuo, T., Jinnai, I., Sadamori, N. and Ichimaru, M.
Brit.J.Haematol., 59: 671-679, 1985
403. Mother-to-child transmission of human T-cell leukemia virus type-I
Hino, S., Yamaguchi, K., Katamine, S., Sugiyama, H., Amagasaki, T.,
Kinoshita, K., Yoshida, Y., Doi, H., Tsuji, Y. and Miyamoto, T.
Jpn.J.Cancer Res.(Gann), 76: 474-480, 1985
404. Oral transmission of human T-cell leukemia virus type-I into a common marmoset (*Callithrix jacchus*) as an experimental model for milk-borne transmission
Yamanouchi, K., Kinoshita, K., Moriuchi, R., Katamine, S., Amagasaki, T.,
Ikeda, S., Ichimaru, M., Miyamoto, T. and Hino, S.
Jpn.J.Cancer Res.(Gann), 76: 481-487, 1985
405. Treatment of acute myelogenous leukemia in adults with N⁴-behenoyl-1- β -D-arabinofuranosylcytosine
Kimura, K., Ohno, R., Amaki, I., Hattori, K., Hirota, Y., Hoshino, A.,
Ichimaru, M., Ito, M., Kimura, I., Maekawa, T., Masaoka, T., Nakamura, T.,
Ogawa, M., Oguro, M., Ohta, K., Osamura, S., Shimoyama, M., Takaku, F.,
Uzuka, Y. and Yamada, K.
Cancer, 56: 1913-1917, 1985
406. 成人T細胞白血病の検査と臨床
市丸道人
Vita, 10:22-24, 1986
407. 成人T細胞白血病の治療
市丸道人, 木下研一郎
医学と薬学, 15:1833-1838, 1986
408. ATLの現状と将来の展望
市丸道人
癌と治療, 8:30-34, 1986

409. 成人 T 細胞白血病と cutaneous T cell lymphoma
市丸道人
Sysmex Journal, 9:39-54, 1986
410. 成人 T 細胞白血病(ATL)と HTLV - I - 臨床の立場からー
市丸道人
治療学, 17:59-63, 1986
411. ヒト白血病とウィルスーATL と HTLV - I -
市丸道人
Pharma Medica, 4:19-24, 1986
412. ATL(HTLV - I)の家族内感染・母子感染
市丸道人
クリニシアン, 33:930-936, 1986
413. 放射線被曝後のヨード投与の意義
市丸道人
日本医事新報, 3251:133, 1986
414. 白血病の臨床ー診断・治療は変わったかー
市丸道人
日本医事新報, 3253:3-9, 1986
415. 輸血と成人 T 細胞白血病ウィルス
市丸道人
Medicina, 23:292-294, 1986
416. Immunopancytopenia (免疫性汎血球減少症)
市丸道人
免疫薬理, 5:16, 1986
417. 輸血と ATL 抗体
市丸道人, 樺田三郎, 北村 勉
臨床成人病, 16:1229-1232, 1986
418. ATL および ATL キャリアーの疫学と臨床統計
市丸道人, 上平 憲, 山田恭暉, 樺田三郎, 尼崎辰彦, 池田修一, 北村 勉, 木下研一郎
日本臨床, 44:2263-2272, 1986
419. 鉄欠乏性貧血
木下研一郎
臨床と研究, 63:2314-2315, 1986
420. 健康相談室, 成人 T 細胞白血病について
木下研一郎
すこやかファミリー, 144:26, 1986
421. 血液学的にみた悪性リンパ腫の病像 3. 治療によるリンパ球の推移と免疫能の回復

木下研一郎, 尼崎辰彦, 樺田三郎, 池田柊一, 市丸道人, 上平 憲
日血会誌, 49:1068-1080, 1986

422. Adult T-cell leukemia-lymphoma(ATLL)の臨床的問題点

(3) Adult T-cell lymphoma の治療について

木下研一郎, 池田柊一, 樺田三郎, 早田 央, 鈴山純司, 市丸道人, 鳥谷和洋, 尼崎辰彦,
上平 憲, 山田恭暉
臨床血液, 27:1-7, 1986

423. 白血病診断のための臨床検査—細胞化学検査—

朝長万左男

臨床成人病, 16:2214-2220, 1986

424. 白血病細胞の自己複製能と分化能—HL-60細胞株をモデルとして—

朝長万左男

Medical Way, 3:76-82, 1986

425. 原爆被爆者における正常および熱傷瘢痕部皮膚培養細胞の細胞遺伝学的研究(予報)

貞森直樹, 本田武夫, 楠美 脩, 藤原直子, 吉田彦太郎, 市丸道人
長崎医学会誌, 61(原爆特集号):373-382, 1986

426. 輸血とATL

上平 憲, 市丸道人

総合臨床, 35:2803-2806, 1986

427. 剖検時B-リンパ腫が確認されたHTLV-I関連T-リンパ腫の1例

上平 憲, 森内幸美, 田川真須子, 松尾健治

臨床血液, 27:238-241, 1986

428. 電顕的に短冊型横紋構造を認めた成人T細胞性白血病の1例

吉岡 朗, 樺田三郎, 木下研一郎, 市丸道人, 上平 憲

臨床血液, 27:432-436, 1986

429. 電顕的に巨大なMembrane Complexを認めた急性好塩基球性白血病の1例

吉岡 朗, 野中博章, 池田柊一, 貞森直樹, 木下研一郎, 市丸道人

臨床血液, 27:784-791, 1986

430. Pre-ATL(Preleukemic State of Adult T cell Leukemia)の病態と意義

池田柊一, 西野健二, 樺田三郎, 尼崎辰彦, 上平 憲, 木下研一郎, 田川真須子,
朝長 優, 草野みゆき, 早田 央, 鳥谷和洋, 市丸道人

臨床血液, 27:677-685, 1986

431. 原爆被爆者におけるATLA抗体と被曝線量の関係について

池田柊一, 木下研一郎, 市丸道人, 巽 純子, 岡島俊三, 日野茂男, 三根真理子

広島医学, 39:462-464, 1986

432. 急性白血病—化学療法を中心に—

栗山一孝, 市丸道人

総合臨床, 35:1779-1782, 1986

433. 急性リンパ性白血病

栗山一孝, 朝長万左男, 市丸道人

臨床と研究, 63:3185-3191, 1986

434. L-10M(Sloan-Kettering)の修正 protocol による成人急性リンパ性白血病の治療

栗山一孝, 前田隆浩, 跡上 直, 糸山貴浩, 塚崎邦弘, 河野友子, 笹川一平, 森内幸美, 中村秀男, 鳥谷和洋, 縦田三郎, 野中博章, 陣内逸郎, 重橋 亨, 尼崎辰彦, 松尾辰樹, 西野健二, 八尾栄一, 吉田善春, 雨森龍彦, 親川幸信, 池田柊一, 貞森直樹, 朝長万左男, 市丸道人, 上平 憲, 早田 央, 草野みゆき, 田川真須子, 朝長 優

臨床血液, 27:2267-2273, 1986

435. 血液疾患にともなった感染症に対する Amikacin 点滴静注の臨床的検討

—主に第3世代セフェム系抗生物質との併用について—

西野健二, 縦田三郎, 中村秀男, 雨森龍彦, 市丸道人

基礎と臨床, 20:3071-3076, 1986

436. 原爆被爆者に発生した白血病の診断と病型の再検討, 第1報:長崎

松尾辰樹, 石丸寅之助, 朝長万左男, 栗山一孝, 市丸道人, 今中文雄, 蔵本 淳, 鎌田七男

広島医学, 39:101-103, 1986

437. 原爆被爆者に発生した白血病の診断と病型分類の再検討

第2報:FAB分類提唱者(Bennett教授)との診断一致率について

松尾辰樹, 今中文雄, 細田 裕, 石丸寅之助, 藤倉敏夫, 朝長万左男, 栗山一孝, 市丸道人, 蔵本 淳, 鎌田七男

長崎医学会誌, 61:512-515, 1986

438. Human T Cell Leukemia Virus Type-I (HTLV-I) Carrierにおける末梢リンパ球形細胞の経時的観察およびHTLV-I Proviral DNAの検索

縦田三郎, 尼崎辰彦, 早田 央, 池田柊一, 上平 憲, 木下研一郎, 市丸道人

臨床血液, 27:1583-1589, 1986

439. 間接蛍光抗体法と粒子凝集法による抗ATLA(Adult T-Cell Leukemia-Cell-Associated Antigen)抗体の検索

縦田三郎, 池田柊一, 上平 憲, 木下研一郎, 市丸道人

臨床血液, 27:2094-2100, 1986

440. 多発性骨髄腫の予後因子

縦田三郎, 中村秀男, 池田柊一, 上平 憲, 吉田善春, 田川真須子, 木下研一郎, 市丸道人

九血会誌, 34:29-39, 1986

441. 当院内科における多発性骨髄腫の臨床的検討

早田 央, 草野みゆき, 前田隆浩, 泉川欣一

佐世保市立総合病院医学業績集, 13:127-137, 1986

442. 剖検時細菌検査からみた造血器腫瘍における感染症の起炎菌の推移
—特に真菌とグラム陽性球菌の増加傾向について—
森内幸美, 上平 憲, 山口恵三, 笹川一平, 中村秀男, 重橋 亨, 野中博章, 梶田三郎,
陣内逸郎, 西野健二, 雨森龍彦, 草野みゆき, 栗山一孝, 親川幸信, 田川真須子,
池田柊一, 朝長 優, 貞森直樹, 朝長万左男, 木下研一郎, 市丸道人
臨床血液, 27:2085-2093, 1986
443. 脾原発血管肉腫の1症例
森内幸美, 上平 憲, 嶋田定嘉, 森 巖, 北村 喬, 前田潤平, 松尾健治, 前田 徹
診断と治療, 74:917-920, 1986
444. 10年間の完全寛解後再発した急性リンパ性白血病の1例
糸山貴浩, 貞森直樹, 西山高志, 笹川一平, 吉岡 朗, 中村秀男, 市丸道人
九血会誌, 34:128-135, 1986
445. 当科で経験したATL剖検例の肝障害についての検討
河野友子, 田川真須子, 今村和之, 森 巖, 北村 喬
臨床と研究, 63:195-198, 1986
446. 上大静脈症候群で発症し, 心タンポナーゼで死亡したIgA, κ 型のM蛋白を伴う縦隔軟部
組織原発と思われる髄外性形質細胞腫の1例
前田隆浩, 草野みゆき, 早田 央, 泉川欣一, 古瀬範之, 池田高良
佐世保市立総合病院医学業績集, 13:161-166, 1986
447. 不応性貧血の診断基準の提唱
内野治人, 吉田弥太郎, 山岸司久, 宮崎 保, 小峰光博, 前川 正, 三浦恭定, 高久史磨,
溝口秀昭, 浦野順文, 野村武夫, 山田英雄, 蔵本 淳, 鎌田七男, 朝長万左男, 市丸道人,
柴田 昭
臨床血液, 27:36-42, 1986
448. 原爆被爆者に発生した白血病の診断と病型分類の再検討, 第3報: 広島
今中文雄, 松尾辰樹, 細田 裕, 石丸寅之助, 蔵本 淳, 鎌田七男, 朝長万左男,
栗山一孝, 市丸道人
長崎医学会誌, 61:516-520, 1986
449. ESR(電子スピン共鳴)法による直接的な被曝線量の推定
巽 純子, 奥村 寛, 三根真理子, 貞森直樹, 岡島俊三
長崎医学会誌, 61(原爆特集号):459-466, 1986
450. Familial disposition of adult T-cell leukemia and lymphoma
Ichimaru, M., Kinoshita, K., Kamihira, S., Ikeda, S., Yamada, Y., Suzuyama, J.,
Momita, S. and Amagasaki, T.
Hematol.Oncol., 4: 21-29, 1986

451. Biosynthetic(Recombinant)human granulocyte-macrophage colony-stimulating factor : effect on normal bone marrow and leukemic cell lines
Tomonaga, M., Golde, D.W. and Gasson, J.C.
Blood, 67: 21-36, 1986
452. Establishment of eosinophilic sublines from human promyelocytic leukemia (HL-60) cells : demonstration of multipotentiality and single-lineage commitment of HL 60 stem cells
Tomonaga, M., Gasson, J.C., Quan, S.G. and Golde, D.W.
Blood, 67:1433-1441, 1986
453. Significance of chromosome 14 anomaly at band 14q11 in Japanese patients with adult T - cell leukemia
Sadamori, N., Nishino, K., Kusano, M., Tomonaga, Y., Tagawa, M., Yao, E., Sasagawa, I., Nakamura, H. and Ichimaru, M.
Cancer, 58: 2244-2250, 1986
454. A translocation between chromosomes 8 and 14 in a Japanese patient with adult T - cell leukemia
Sadamori, N., Kusano, M., Nishino, K., Yamada, Y. and Ichimaru, M.
Cancer Genet.Cytogenet., 20: 179-180, 1986
455. Diagnostic significance of detecting pseudo - Pelger - Huet anomalies and micro - megakaryocytes in myelodysplastic syndrome
Kuriyama, K., Tomonaga, M., Matsuo, T., Jinnai, I. and Ichimaru, M.
Brit.J.Haematol., 63: 665-669, 1986
456. Dual expression of lymphoid/basophil markers on single blast cells transformed from chronic myeloid leukemia
Kuriyama, K., Tomonaga, M., Yao, E., Soda, H., Nonaka, H., Jinnai, I., Matsuo, T., Yoshida, Y., Amenomori, T. and Ichimaru, M.
Leuk.Res., 10: 1015-1024, 1986
457. Cytogenetic evidence for partially committed myeloid progenitor cell origin of chronic myelomonocytic leukaemia and juvenile chronic myeloid leukaemia : both granulocyte-macrophage precursors and erythroid precursors carry identical marker chromosome
Amenomori, T., Tomonaga, M., Yoshida, Y., Kuriyama, K., Matsuo, T., Jinnai, I., Ichimaru, M., Omiya, A. and Tsuji, Y.
Brit.J.Haematol., 64: 539-546, 1986
458. Visualization of the receptor for transferrin on K 562 cells by a rosette-forming assay
Yamada, Y., Jacobsen, D.W. and Green, R.
J.Immunol.Methods, 86: 95-101, 1986

459. A new complex translocation in chronic myelogenous leukemia with monoblastic crisis
Yao, E., Sadamori, N., Tomonaga, Y., Matsunaga, M., Tagawa, M., Kusano, M.,
Nishino, K., Nakamura, H. and Ichimaru, M.
Cancer Genet.Cytogenet., 19: 357-359, 1986
460. In vitro modulation of alkaline phosphatase activity in neutrophils from patients
with chronic myelogenous leukemia by monocyte-derived activity
Matsuo, T.
Blood, 67: 492-497, 1986
461. Prognostic significance of the morphological dysplastic changes in chronic myelogenous leukemia
Matsuo, T., Tomonaga, M., Kuriyama, K., Yao, E., Nonaka, H., Jinnai, I.,
Jubashi, T., Yoshida, Y., Amenomori, T. and Ichimaru, M.
Leuk.Res., 10: 331-337, 1986
462. High-affinity binding of granulocyte-macrophage colony-stimulating factor to
normal and leukemic human myeloid cells
Gasson, J.C., Kaufman, S.E., Weisbart, R.H., Tomonaga, M. and Golde, D.W.
Proc.Natl.Acad.Sci.USA, 83: 669-673, 1986
463. Cytogenetic evidence for clonal evolution in B-cell chronic lymphocytic leukemia
Han, T., Ohtaki, K., Sadamori, N., Block, A.W., Dadey, B., Ozer, H. and
Sandberg, A.A.
Cancer Genet.Cytogenet., 23: 321-328, 1986
464. Adult T-cell leukemia virus(ATLV)-associated lymphoma
Irie, J., Matsuo, K., Fukuda, K., Tsuchiyama, H. and Kamihira, S.
Acta Medica Nagasaki, 31: 314-321, 1986
465. 白血球減少の診断
市丸道人
Modern Physician, 7:599, 1987
466. 輸血とATL
市丸道人, 上平 憲
Immuno - Advance, 15:69-74, 1987
467. 輸血上のトピックス, ATL ウィルス
市丸道人, 上平 憲
臨床成人病, 17:1145-1148, 1987
468. ATLの前白血病状態(Pre-ATL)
市丸道人, 池田終一, 西野健二, 樺田三郎
Modern Physician, 7:233-236, 1987

469. 急性 ATL と慢性 ATL
木下研一郎
Modern Physician, 7:230-232, 1987
470. 古くて新しい疾患－ATL
木下研一郎
長崎県医師会報, 499:14-15, 1987
471. ATL 撲滅の夢
木下研一郎
長崎県医師会報, 502:19-20, 1987
472. 抗 ATLA 抗体の各種測定法の問題点
上平 憲, 中嶋茂宏, 市丸道人, 親川幸信, 森内幸美, 奥田浩人, 金村真智子,
太田タキ子
日輸血会誌, 33:7-11, 1987
473. 輸血用血液製剤の ATLA 抗体スクリーニング後の HTLV - I 感染について
上平 憲, 中嶋茂宏, 深堀由起子, 村岡ナツ子, 森内幸美, 市丸道人, 奥田浩人,
金村真智子, 太田タキ子
日輸血会誌, 33:12-15, 1987
474. 慢性リンパ性白血病 18 例の表面形質
－特に, フローサイトメトリーを用いた表面免疫グロブリンの解析－
上平 憲, 縦田三郎, 尼崎辰彦, 池田柊一, 山田恭暉, 森内幸美, 親川幸信, 市丸道人,
木下研一郎
臨床血液, 28:513-518, 1987
475. T 細胞型リンパ腫の非進展例の問題点
上平 憲, 木下研一郎
最新医学, 92:1540-1541, 1987
476. 健康人 HTLV - I 持続感染者の末梢血リンパ球サブセットと免疫抑制酸性蛋白について
上平 憲, 中嶋茂宏, 親川幸信, 森内幸美, 鳥谷和洋, 縦田三郎, 池田柊一, 市丸道人,
奥田浩人, 金村真智子, 太田タキ子
日輸血会誌, 33:689-694, 1987
477. 血友病患者の Human Immunodeficiency Virus と Human T Lymphotropic Virus Type -
I の二重感染と臨床病態について
上平 憲, 中嶋茂宏, 親川幸信, 森内幸美, 鳥谷和洋, 縦田三郎, 池田柊一, 市丸道人
日輸血会誌, 33:716-721, 1987
478. ATL と AIDS－とくにウィルスと宿主の免疫学的相互関係を中心に－
上平 憲, 朝長万左男
臨床成人病, 17:1797-1802, 1987
479. 頭部外傷後に発症した頭蓋骨原発と思われる B 細胞性悪性リンパ腫の 1 例

- 田川真須子, 樫田三郎, 入江準二
臨床血液, 28:589-593, 1987
480. Myelodysplastic syndrome に対するビタミン D3 治療の試み
田川真須子, 伊藤 一, 栗山一孝, 朝長万左男, 市丸道人
癌と化学療法, 14:3160-3162, 1987
481. 白血病治療時の感染症治療
栗山一孝, 塚崎邦弘, 森内幸美, 市丸道人
Today's Therapy, 11:1-6, 1987
482. 成人 T 細胞白血病 5 例に対する α -型インターフェロン(HLBI)の臨床効果の検討
草野みゆき, 長井一浩, 笹川一平, 早田 央, 泉川欣一
佐世保市立総合病院医学業績集, 14:1-6, 1987
483. Cimetidine によると思われる再生不良性貧血の 1 症例に対する免疫抑制療法の効果
八尾栄一, 塚崎邦弘, 亀井敏昭, 栗山一孝, 市丸道人
臨床血液, 28:100-105, 1987
484. 急性白血病における細胞遺伝学的研究 (第 1 報)
—M₄Eo における inv (1 6) の意義について—
中村秀男, 貞森直樹, 田川真須子, 早田 央, 笹川一平, 糸山貴浩, 草野みゆき,
八尾栄一, 市丸道人
臨床血液, 28:1158-1164, 1987
485. 急性白血病における細胞遺伝学的研究 (第 2 報)
—染色体より見た赤白血病(M6)の臨床的検討—
中村秀男, 貞森直樹, 笹川一平, 糸山貴浩, 八尾栄一, 市丸道人, 北村 勉,
田川真須子, 早田 央, 草野みゆき
臨床血液, 28:1963-1970, 1987
486. 各科領域における高熱の解析—血液内科の立場から—
森内幸美, 市丸道人
化学療法の領域, 3:2036-2041, 1987
487. 表面形質, 染色体および T 細胞受容体遺伝子再構成を検索し得た IBL-like T-cell lymphoma
の 1 症例
笹川一平, 長井一浩, 早田 央, 草野みゆき, 泉川欣一, 松尾 武, 池田修一, 貞森直樹,
上田龍三, 須知泰山
佐世保市立総合病院医学業績集, 14:29-34, 1987
488. 遺伝子組換えインターフェロン γ (S-6810)の Phase I Study
小川一誠, 高久史磨, 前川 正, 太田和雄, 市丸道人, 泉雄 勝, 高倉公朋, 池田重雄,
小磯謙吉, 町田豊平, 加藤 俊
癌と化学療法, 14:446-452, 1987
489. DIC に対する FOY の有効性について

- 青木延雄, 長谷川 淳, 森 和夫, 刈米重夫, 内田立身, 柴田 昭, 高橋芳右, 三浦恭定, 松田道生, 前川 正, 小林紀夫, 阿部 帥, 平嶋邦猛, 猪野裕英, 王 伯銘, 吉田 尚, 大橋辰哉, 三木一正, 高久史磨, 浦部晶夫, 末松 誠, 土屋雅春, 池田康夫, 佐藤邦彦, 安部 英, 風間睦美, 藤巻道男, 森 真由美, 寺田秀夫, 新倉春男, 柴田久雄, 齊藤英彦, 御供泰治, 鯉江捷夫, 松田 保, 朝倉英策, 櫻川信男, 大熊 稔, 吉川敏一, 近藤元治, 中川雅夫, 正岡 徹, 藏本 淳, 市丸道人, 栗山一孝, 佐野雅之
医学と薬学, 18:1877-1890, 1987
490. 腎疾患, 血友病および健常献血者における抗 HTLV - I および抗 HIV 抗体の検討
河野 茂, 増山泰治, 道津安正, 宮崎幸重, 古賀宏延, 横山一章, 田浦幸一, 原田孝司, 山口恵三, 泉川欣一, 広田正毅, 齊藤 厚, 原 耕平, 木下研一郎, 市丸道人, 楊井正紀, 辻 芳郎, 宮本 勉
感染症学雑誌, 61:567-573, 1987
491. Western blot 法による抗 ATLA 抗体検索の基礎研究 ; PAG 法, PAP 法, ABC 法, 間接法の比較検討
奥田浩人, 金村真智子, 太田タキ子, 原口哲之, 上平 憲, 市丸道人
臨床検査, 31:207-210, 1987
492. HTLV - I - associated myelopathy(HAM)の家族内発生
森 正孝, 中尾英人, 伴 信太郎, 木下研一郎
医学のあゆみ, 142:337-338, 1987
493. 10 年におよぶ経過を観察しえた慢性型成人 T 細胞白血病の 1 例
中尾英人, 伴 信太郎, 大塚和生, 森 正孝, 川本幹生, 木下研一郎, 一瀬 允, 藤井秀治
日内会誌, 76:1876-1880, 1987
494. 著明な白血化を呈した染色体異常をともなう悪性組織球症
大西昭彦, 岡村秀樹, 鍵山俊二郎, 朝長万左男
臨床血液, 28:1686-1692, 1987
495. 当科で経験した肝疾患の抗 ATLA 抗体についての検討
森 巖, 田川真須子, 今村和之, 北村 喬, 上平 憲, 太田タキ子, 金村真智子
臨床と研究, 64:855-858, 1987
496. Milk - borne transmission of HTLV - I from carrier mothers to their children
Kinoshita, K., Amagasaki, T., Hino, S., Doi, H., Yamanouchi, K., Ban, N., Momita, S., Ikeda, S., Kamihira, S., Ichimaru, M., Katamine, S., Miyamoto, T., Tsuji, Y., Ishimaru, T., Yamabe, T., Ito, M., Kamura, S. and Tsuda, T.
Jpn.J.Cancer Res.(Gann), 78: 674-680, 1987
497. Leukemic blast cell colony formation in semisolid culture with erythropoietin:a case report of acute poorly differentiated erythroid leukemia
Tomonaga, M., Jinnai, I., Tagawa, M., Amenomori, T., Nishino, K., Yao, E., Nonaka, H., Kuriyama, K., Yoshida, Y., Matsuo, T., Ichimaru, M. and

- Suematsu, T.
Blood, 69: 546-552, 1987
498. Japanese patients with leukaemia following the use of Thorotrast including a patient with marked chromosomal rearrangements
Sadamori, N., Miyajima, J., Okajima, S., Shima, M., Yano, M., Koga, M., Kawamoto, M., Fujii, H., Mori, T. and Ichimaru, M.
Acta Haematol., 77: 11-14, 1987
499. Transmission of human T cell lymphotropic virus type I by blood transfusion before and after mass screening of sera from seropositive donors
Kamihira, S., Nakasima, S., Oyakawa, Y., Moriuti, Y., Ichimaru, M., Okuda, H., Kanamura, M. and Ohta, T.
Vox Sang., 52: 43-44, 1987
500. Cytogenetic and cytochemical studies on progenitor cells of primary acquired sideroblastic anemia(PASA):involvement of multipotent myeloid stem cells in PASA clone and mosaicism with normal clone
Amenomori, T., Tomonaga, M., Jinnai, I., Soda, H., Nonaka, H., Matsuo, T., Yoshida, Y., Kuriyama, K., Ichimaru, M. and Suematsu, T.
Blood, 70: 1367-1372, 1987
501. Lactoferrin binding by leukemia cell lines
Yamada, Y., Amagasaki, T., Jacobsen, D.W. and Green, R.
Blood, 70: 264-270, 1987
502. Dysmegakaryocytopoiesis in acute leukaemias:its predominance in myelomonocytic (M4)leukemia and implication for poor response to chemotherapy
Jinnai, I., Tomonaga, M., Kuriyama, K., Matsuo, T., Nonaka, H., Amenomori, T., Yoshida, Y., Kusano, M., Tagawa, M. and Ichimaru, M.
Brit.J.Haematol., 66: 467-472, 1987
503. Isochromosome 17q in a case of myelofibrosis with myeloid metaplasia terminating in blastic transformation
Nakamura, H., Sadamori, N., Yamada, Y., Yao, E., Tagawa, M., Nishino, K., Sasagawa, I., Kamihira, S., Oyakawa, Y., Tomonaga, M. and Ichimaru, M.
Cancer Genet.Cytogenet., 24: 221-224, 1987
504. Inversion of chromosome 16 in bone marrow eosinophils of acute myelomonocytic leukemia (M4) with eosinophilia
Nakamura, H., Sadamori, N., Tagawa, M., Sasagawa, I., Itoyama, I., Yao, E. and Ichimaru, M.
Cancer Genet.Cytogenet., 29: 327-330, 1987
505. High affinity interleukin 2 receptors in HTLV- I infected T cells can mediate sig-

nals for gene expression

Sakitani, M., Nakamura, M., Fujii, M., Sugamura, K. and Hinuma, Y.

Virus Genes, 1: 35-47, 1987

506. Correlation of chromosome abnormalities with histologic and immunologic characteristics in non-Hodgkin's lymphoma and adult T cell leukemia-lymphoma

The Fifth International Workshop on Chromosomes in Leukemia-lymphoma

Blood, 70: 1554-1564, 1987

507. A fluorescent dye which recognizes mature peripheral erythrocytes of myeloproliferative disorders

Reed, J.A., Green, R., Yamada, Y., Kough, R.H., Williamson, P. and Schlegel, R.A.

Cell Biol.Int.Reports, 11: 55-62, 1987

508. Epidemiological features of HTLV - I carriers and incidence of ATL in an ATL-endemic island: a report of the community-based co-operative study in Tsushima, Japan

Tajima, K., Kamura, S., Ito, S., Ito, M., Nagatomo, M., Kinoshita, K. and Ikeda, S.

Int.J.Cancer, 40: 741-746, 1987

先天異常部門 (原研遺伝)

1. ショウジョウバエの突然変異, 量的形質に関する検出, 分析法

IV. 量的形質の選抜

吉川勲

続実験技術生物物理学講座, 生物学的技術Ⅱ (日本生物物理学会編)

吉岡書店, pp194-206, 1968

2. Hetrozygous effects on viability of spontaneous lethal genes in *Drosophila melanogaster*.

Yoshikawa, I. and Mukai, T.

Jpn. J. Genet., 45: 443-455, 1970

3. 慢性骨髓性白血病の細胞遺伝学的研究

河原田正晴

長崎医学会誌 47:130-158, 1972

4. Spatfolgen atomarer Strahlung.

Shiomi, T

Bild der Wissenschaft (Autorensonderdruck): 466-475, 1972

5. 長崎西山地区住民の放射性降下物の影響調査—染色体について

岡島俊三, 塩見敏男, 法村俊之, 吉永春馬, 竹下健児, 安德重敏, W. J. Russell,

藤田正一郎, 練石昇太郎, 河本定久

原爆後障害研究会 38-43, 1973

6. 長崎西山地区住民の放射性降下物の影響調査—検診結果について—

河本定久, W. J. Russell, 藤田正一郎, 練石昇太郎, 岡島俊三, 塩見敏男, 法村俊之,
吉永春馬, 竹下健児, 安德重敏

原爆後障害研究会 21-31, 1973

7. 長崎西山地区住民にみられる原爆放射性降下物の影響

塩見敏男

京都大学原子炉実験所短期研究会報告 6-8, 1973

8. 放射線晩発障害の基礎的研究 —マウス運動機能と迷路学習による放射線加齢促進現象の解析

青山喬, 吉川勲, 法村俊之, 岡島俊三

第13回原子爆弾後障害研究会講演集 44-48, 1973

9. Relative biological effectiveness of 14.1 MeV neutrons to X-rays for mutation induction in relation to stage sensitivity in *Drosophila melanogaster*.

Shiomi, T., Yoshikawa, I., Ayaki, T.

DIS 51: 115, 1974

10. 長崎における原爆の放射性降下物の影響調査
岡島俊三, 竹下健児, 安德重敏, 塩見敏男, W. J. Russell, 藤田正一郎, 吉永春馬,
練石昇太郎, 河本定久, 法村俊之
国立予防衛生研究所—原爆傷害調査委員会 業績報告書 1-57, 1975
11. 長崎大学における原爆後障害医療研究の現状と展望(2)
西森一正, 市丸道人, 塩見敏男
医学のあゆみ 99:644-649, 1976
12. Effect of single and fractionated X-irradiation on maze learning ability of mice.
Aoyama, T., Norimura, T., Nakamura, T., Yoshikawa, I.
J. Radiat. Res. 17: 82-92, 1976
13. 五島列島集団に関する人類遺伝学的研究 I. 対象地域集団と調査の概要
塩見敏男, 吉川 勲, 大木圭一, 河原田正晴, 井上 晃
長崎医学会誌 52:286-299, 1977
14. 五島列島集団に関する人類遺伝学的研究 II. 近親婚に関する分析
吉川 勲
長崎医学会誌 52:300-316, 1977
15. 五島列島集団における遺伝的構造の解析
塩見敏男
科学研究費補助金 総合(A)研究成果報告書 81-95, 1977
16. Radioactive fallout effects of the atomic bomb
Okajima, S., Takeshita, K., Antoku, S., Shiomi, T., W. J. Russell, Fujita, S.,
Yoshinaga, H., Neriishi, S., Kawamoto, S., Norimura, T.
Health Physics 34:621-633 1977
17. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究
岡島俊三, 小池正彦, 西森一正, 塩見敏男, 山下一邦, 市丸道人, 法村俊之
長崎医学会誌 53:240-243, 1978
18. シンポジウム「被爆後世代をめぐる諸問題」のまとめに代えて
阿波章夫, 塩見敏男
長崎医学会誌 53:452-453, 1978
19. 長崎原爆被爆者集団に関する調査—集団の概要とF1の性比
吉川勲, 井上晃, 塩見敏男
広島医学 31:450-454, 1978
20. 原爆被爆者後代集団における遺伝的障害の推定に関する一考察
吉川勲, 綾木歳一
長崎医学会誌 53:440-449, 1978
21. 原爆被爆者の加齢現象に関する研究
岡島俊三, 法村俊之, 市丸道人, 小池正彦, 山下一邦, 塩見敏男, 中村剛, 森弘行

- 広島医学 33:397-400, 1980
22. 五島集団の近親婚にみられる地理的・社会的影響
塩見敏男
日本体質学誌 44:55-58, 1980
23. Changes with age in swimming performance of X-irradiated mice.
Norimura, T., Aoyama, T., Yoshikawa, I., Okajima S.
Experiment. Gerontol. 15:25-32, 1980
24. FACOM M-80 IIAD (OSIV F4) と IBM5110 (BSC機構) におけるリモートバッチ処理システム
吉川勲
長崎大学情報処理センター「センターレポート」 1: 9-40, 1980
25. 突然変異
塩見敏男
最新医学 37:16-23, 1982
26. 有害遺伝子の被爆者後代における変動に関する研究
吉川勲, 綾木歳一, 塩見敏男
広島医学 35: 293-300, 1982
27. キイロショウジョウバエにおける窒素酸化物とその反応生成物の遺伝的影響
—NOを中心として—
大嶋加代子, 綾木歳一, 吉川勲, 塩見敏男
環境変異原研究 5: 14-17, 1983
28. Genetic studies on human populations in the Goto-islands.
Yoshikawa, I., Shiomi, T.
Acta Med. Nagasaki. 28:142-165, 1983
29. 化学物質の遺伝的影響を検索する系としてのショウジョウバエ生殖細胞
吉川勲, 綾木歳一, 大嶋加代子
トキシコロジーフォーラム 7:409-420, 1984
30. ショウジョウバエ精子および精原細胞におけるエチルニトロソウレアの摂取量と突然変異の関係
吉川勲, 綾木歳一, 大嶋加代子
環境変異原研究 6:171-178, 1984
31. ショウジョウバエ精子および精原細胞におけるエチルニトロソウレアの摂取量と突然変異量の関係
吉川勲, 綾木歳一, 大嶋加代子
環境変異原研究 6: 171-178, 1984
32. The relationship between lethal mutation yield and intake of ethylnitrosourea (ENU) in *Drosophila melanogaster*.

- Ayaki, T., Ohshima, K., Okumura, Y., Yoshikawa, I., Shiomi, T.
Environment. Mutagen. 6:483-488, 1984
33. Comparative studies of dose-response curves for recessive lethal mutations induced by ethylnitrosourea in spermatogonia and in spermatozoa of *Drosophila melanogaster*.
 Yoshikawa, I., Ayaki, T., Ohshima, K.
Environment. Mutagen. 6:489-496, 1984
34. 窒素酸化物およびその反応生成物の遺伝的影響
 吉川勲, 綾木歳一, 大嶋加代子, 塩見敏男
環境と人体 III, 東京大学出版会, pp. 129-144, 1984
35. 全身無汗無痛症
 石切山敏, 新川詔夫, 加我正行, 及川清, 福嶋義光
薬の知識 35:20-21, 1984
36. 無(減)汗性外胚葉形成不全症
 新川詔夫, 石切山敏, 稲川昭, 青柳俊
薬の知識 35:20-21, 1984
37. The origin of mosaic Down syndrome: Four cases with chromosome markers.
 Niikawa, N., Kajii, T.
Am. J. Hum. Genet. 36:123-130, 1984
38. The Prader-Willi syndrome and interstitial deletion of chromosome 15: High-resolution chromosome analyses of 14 patients with the Prader-Willi syndrome and of 5 suspected infants.
 Fukushima, Y., Niikawa, N., Kuroki, Y.
Jpn. J. Hum. Genet. 29: 1-6, 1984
39. Predisposition to autoimmune thyroiditis in ring chromosome 18 syndrome.
 Fukushima, Y., Fukuda, T., Kuroki, Y., Niikawa, N., Matsuura, N., Yamada, Y., Ieshima, A.
Jpn. J. Hum. Genet. 29:127-132, 1984
40. Ph1-positive and Ph1-negative abnormal cell lines in a child with lymphoblastic lymphoma.
 Shikano, T., Kaneko, Y., Ishikawa, Y., Niikawa, N., Tono-oka, T., Takeda, T., Kikuchi, M.
Brit. J. Haematol. 58: 459-464, 1984
41. Self-scratching injuries on the newborn's face.
 Nagata, Y., Suehiro, T., Niikawa, N.
Early Child Develop. Care 17:123-130, 1984
42. Origin of extra chromosome in Patau syndrome.
 Ishikiriyama, S., Niikawa, N.

- Hum. Genet. 68:266-268, 1984
43. 宇宙放射線の遺伝的影響の実験的研究
吉川勲, 綾木歳一, 梁治子, 池永満生
宇宙利用シンポジウム集(宇宙科学研究所編) pp. 94-99, 1985
44. 髪・鼻・指症候群
新川詔夫, 石切山敏
葉の知識 36:20-21, 1985
45. 小児先天性全立腺腺管拡張症の1例
久島貞一, 窪田理裕, 熊谷章, 富樫正樹, 小柳知彦, 新川詔夫
西日本泌尿器科 47:193-197, 1985
46. Saethre-Chotzen症候群
待鳥浩司, 森剛一, 辻芳郎, 新川詔夫
葉の知識 36:20-21, 1985
47. 9pトリソミーの1例
今村重孝, 佐久間和子, 柄崎英明, 塩野寛, 新川詔夫
臨床小児医学 33:251-255, 1985
48. 常染色体異常の特徴的な顔貌
新川詔夫, 石切山敏
小児科Mook「顔貌からみた小児疾患」(馬場一雄, 小林登編)
金原出版 pp. 302-312, 1985
49. ダウン症候群とその病因
新川詔夫
小児医学(馬場一雄編) 医学書院 pp.8-36, 1985
50. Ornithine transcarbamylase 遺伝子のDNA多型を利用した Duchenne muscular dystrophy
の保因者診断の試み
陣野吉広, 渋谷統寿, 亀井勉, 新川詔夫, 金沢一, 長瀧重信
厚生省班会議「筋ジス第3班」昭和60年度研究報告書 108-112, 1985
51. 疫学
新川詔夫
小児科Mook38巻「ダウン症候群」(馬場一雄, 小林登編) pp. 33-45, 1985
52. Comparison of dose-response curves for ENU-induced recessive lethal mutations between spermatogonia and spermatozoa in *Drosophila*.
Proceeding of Symposium on "Dose-Response Relationship for Genetic Effects of Environmental Chemicals with Special Regard to The Problem of Threshold"
pp. 93-97, 1985
53. Linear relationship between lethal mutation yield and intake of ethyl methanesulfonate in *Drosophila melanogaster*.

- Ayaki, T., Ohshima, K., Yoshikawa, I.
 Environment. Mutagen. 7: 147-153, 1985
54. Clinical and cytogenetic studies of the Prader-Willi syndrome: Evidence of phenotype-karyotype correlation.
 Niikawa, N., Ishikiriya, S.
 Hum. Genet. 69:22-27, 1985
55. The "Michelin Tire Baby" syndrome - An autosomal dominant trait.
 Niikawa, N., Ishikiriya, S., Shikinami, T.
 Am. J. Med. Genet. 22:637-638, 1985
56. 脆弱X症候群。(1)ー臨床像を中心にー
 新川詔夫
 医学のあゆみ 137:527-531, 1986
57. 脆弱X症候群。(2)ー細胞遺伝と遺伝ー
 新川詔夫
 医学のあゆみ 137:600-603, 1986
58. 低線量放射線の遺伝的影響検出系として有用なショウジョウバエ翅毛スポットテスト
 綾木歳一, 星正治, 吉川勲, 新川詔夫
 長崎医学会雑誌 61:396-403, 1986
59. 常染色体性劣性の発癌機構
 新川詔夫
 小児科診療 50:814-818, 1986
60. 筋ジストロフィーとその類縁疾患のDNA診断
 松本正, 新川詔夫
 小児科診療 50:850-854, 1986
61. 先天性副腎過形成のDNA分析による出生前診断
 近藤達郎
 小児科診療 50:2479-2484, 1986
62. DNA多型(RFLP)を用いたDuchenne筋ジストロフィー症の保因者・出生前診断
 松本正, 陣野吉広, 近藤達郎, 亀井勉, 松原祐一, 土井知己, 渋谷統寿, 鈴森薫,
 新川詔夫
 医学のあゆみ 139:349-350, 1986
63. 筋ジストロフィー, 副腎低形成を伴う(乳児型)グリセロールキナーゼ欠損症の分子遺伝学的・細胞遺伝学的研究
 新川詔夫, 松本正, 亀井勉, 吉本雅昭, 近藤達郎
 厚生省班会議「筋ジス杉田班」昭和61年度報告書: 135-141, 1986
64. Localization of the human prealbumin gene to 18p11.1-q12.3 by gene dose effect study of Southern blot hybridization.

- Jinno, Y., Matsumoto, T., Kamei, T., Kondoh, T.,
Maeda, S., Araki, S., Shimada, K., Niikawa, N.
Jpn. J. Hum. Genet. 31:243-248, 1986
65. The Sugio-Kajii syndrome, proposed tricho-rhino-phalangeal syndrome type III.
Niikawa, N., Kamei, T.
Am. J. Med. Genet. 24:759-760, 1986
66. The Wiedemann-Beckwith syndrome: Pedigree studies on five families with evidence
for autosomal dominant inheritance with variable expressivity.
Niikawa, N., Ishikiriya, S., Takahashi, S., Inagawa, A., Tonoki, H., Ohta, Y.,
Hase, N., Kamei, T., Kajii, T.
Am. J. Med. Genet. 24:41-55, 1986
67. A further improved method for identifying heteromorphism of acrocentric chromosomes.
Kamei, T., Lee-Okimoto, S., Sohda, M., Niikawa, N.
Hum. Genet. 73:368-371, 1986
68. Restriction fragment length polymorphisms in the 5'end region of the human
argininosuccinate synthetase gene.
Jinno, Y., Niikawa, N., Shimada, K., Matsuda, I.
J. Inher. Metab. Dis. 9:317-320, 1986
69. 口顔指症候群
新川詔夫
日本臨床「広範囲症候群」45:137, 1987
70. Beckwith-Wiedemann 症候群と先天性腫瘍
松本正, 新川詔夫
日本臨床「広範囲症候群」45:7, 1987
71. 先天異常の概念と薬物治療
新川詔夫
「臨床薬物治療学大系」第7巻(砂原茂一編)
情報開発研究所, pp. 345-347, 1987
72. Duchenne 型筋ジストロフィー症のDNA診断法の確立
渋谷統寿, 藤下敏, 松本正, 新川詔夫, 亀尾等, 佐藤元, 山田重明, 三池輝久, 本庶祐,
福山幸雄
厚生省研究班「筋ジストロフィー症の遺伝, 疫学, 臨床及び治療開発に関する研究」昭和62年度報告書, 1987
73. A boy with thanatophoric dysplasia surviving 212 days.
Tonoki, H.
Clin. Genet. 415-416, 1987

74. Direct gene analysis of chorionic villi for prenatal diagnosis of Duchenne muscular dystrophy and 21-hydroxylase deficiency.
Izumi, R., Suzumori, K., Yagami, Y., Niikawa, N.
The Fetus as A Patient (Ed. by Maeda, K.),
Elsevier Science Publ., Amsterdam, pp. 23-28, 1987
75. Primary congenital glaucoma in a patient with trisomy 2q (q33-qter) and monosomy 9p (p24-pter).
Katsushima, H., Soma, K., Ohyanagi, K., Niikawa, N.
Arch Ophthalmol 105:323-324, 1987
76. Biological effects of radiation during space flight.
Ikenaga, M., Yoshikawa, I., Ayaki, T., Ryo, H.
Mutation Res. 47-52, 1987

発症予防部門

(原研生理、原研免疫)

1. Suppression of progestational uterine mucosal activity by anthrarufin
Yamashita, K.
Tohoku J. exp. Med. 99: 19-23, 1969
2. Inhibitory effect of methylenedianiline on testicular 17-oxosteroid secretion produced by pregnant mare serum
Yamashita, K., Nakasone, K. and Kawao, K.
Tohoku J. exp. Med. 97: 175-180, 1969
3. Effect of human chorionic gonadotrophin on the discharge of ascorbic acid from the canine testis
Koba, H., Kawao, K. and Yamashita, K.
Tohoku J. exp. Med. 104: 65-71, 1971
4. Blockade of hypothalamo-hypophyseal-adrenocortical mechanism caused by dexamethasone
Nakasone, K. and Shimizu, T.
Acta Med. Nagasaki. 15: 49-57, 1971
5. Influence of X-irradiation of the adrenal gland on corticoid secretory activity in dogs
Nakasone, K.
Tohoku J. exp. Med. 106: 83-87, 1972
6. Effect of X-irradiation on the endocrine function of the canine testis
Shimizu, T., Yamashita, K., Sugihara, H. and Tsuchiyama, H.
Tohoku J. exp. Med. 106: 125-134, 1972
7. Responsiveness of the X-irradiated adrenal cortex to adrenocorticotrophin in dogs
Yamashita, K. and Shimizu, T.
J. Endocrinol. 52: 199-200, 1972
8. A direct influence of X-irradiation on the secretion of adrenaline and noradrenaline by the canine adrenal
Yamashita, K., Shimizu, T. and Waki, S.
J. Endocrinol. 52: 589-590, 1972
9. Responses of the hypothalamic-pituitary-adrenal and -gonadal systems to head X-irradiation
Shimizu, T., Mieno, M. and Yamashita, K.

- Tohoku J. exp. Med. 109: 155-161, 1973
10. Effects of adenosine-3', 5'-monophosphate and 5-hydroxytryptamine on the secretory activity of the canine testis
Mieno, M., Kawao, K., Shimizu, T. and Yamashita, K.
Tohoku J. exp. Med. 110: 113-117, 1973
 11. The secretory response of the X-irradiated testis to human chorionic gonadotrophin in dogs
Yamashita, K., Mieno, M. and Shimizu, T.
J. Endocrinol. 56: 323-324, 1973
 12. Acute effect of intraventricular injection of catecholamines and indoleamines on the secretion of 17-oxosteroids by the canine testis
Yamashita, K., Shimizu, T., Mieno, M. and kawao, K.
Tohoku J. exp. Med. 111: 372-375, 1973
 13. The susceptibility of the hypothalamic-pituitary-adrenocortical axis to histamine after head X-irradiation
Yamashita, K., Shimizu, T., Mieno, M. and Kawao, K.
Tohoku J. exp. Med. 110: 161-166, 1973
 14. Suppression of release of interstitial cell-stimulating hormone by chronic intraventricular treatment with melatonin in adult male dogs
Yamashita, K., Shimizu, T., Mieno, M. and Kawao, K.
Tohoku J. exp. Med. 111: 387-391, 1973
 15. Interstitial cell-stimulating hormone activities in the pituitary gland and peripheral blood of immature and mature male dogs
Mieno, M., Amano, A., Koba, H. and Shimizu, T.
Acta Med. Nagasaki. 18: 35-37, 1974
 16. Electron microscopic studies on dog testicular interstitial cells
Setoguti, T., Esumi, H. and Shimizu, T.
Arch. Histol. Jap. 37: 97-108, 1974
 17. Specific organization of intracytoplasmic filaments in the dog testicular interstitial cell
Setoguti, T., Esumi, H. and Shimizu, T.
Cell Tiss. Res. 148: 493-497, 1974
 18. Lack of direct effect of pineal extracts on the secretory function of the testis
Shimizu, T., Mieno, M., Amano, A. and Koba, H.
Acta Med. Nagasaki. 18: 38-40, 1974
 19. Effect of oestradiol-17 β on testicular output of ascorbic acid and 17-oxosteroids induced by human chorionic gonadotrophin

- Koba, H., Shimizu, T., Mieno, M., Amano, A. and Yamashita, K.
J. Endocrinol. 66: 291-292, 1975
20. Suppression by metyrapone of the adrenal response to exogenous corticotrophin
Shimizu, T., Mieno, M., Amano, A., Imori, M. and Koba, H.
Acta Med. Nagasaki. 19: 13-18, 1975
21. Effect of metopirone on the secretory response of the testis to human chorionic gonadotrophin
Yamashita, K., Shimizu, T., Mieno, M., Amano, A. and Koba, H.
J. Endocrinol. 66: 133-134, 1975
22. Response of the adrenal medulla to exogenous insulin in head X-irradiated dogs
Yamashita, K., Mieno, M. and Shimizu, T.
J. Endocrinol. 71: 447-448, 1976
23. Prostaglandin involvement in the endocrine activity of the testis
Amano, A.
Acta Med. Nagasaki. 22: 78-97, 1977
24. Effect of head X-irradiation on adrenal medullary secretion
Mieno, M.
Acta Med. Nagasaki. 22: 105-109, 1977
25. Testicular 17-oxosteroid secretion in response to human chorionic gonadotrophin in dogs pretreated with aspirin
Yamashita, K. and Amano, A.
J. Endocrinol. 73: 529-530, 1977
26. An inhibitory effect of melatonin on the luteinizing hormone releasing activity of luteinizing hormone releasing hormone in immature male dogs
Mieno, M., Yamashita, E., Imori, M. and Yamashita, K.
J. Endocrinol. 78: 283-284, 1978
27. Action of prostaglandin E₂ on the release of catecholamines from the canine adrenal gland and its interaction with acetylcholine
Yamashita, K., Mieno, M., Shimizu, T. and Yamashita, E.
J. Endocrinol. 78: 249-254, 1978
28. Inhibition by melatonin of the pituitary response to luteinizing hormone releasing hormone in vivo
Yamashita, K., Mieno, M., Shimizu, T. and Yamashita, E.
J. Endocrinol. 76: 487-491, 1978
29. Effects of exogenous acetylcholine upon adrenal 17-hydroxycorticosteroid secretion of intact and head X-irradiated dogs
Yamashita, K., Shimizu, T., Mieno, M. and Yamashita, E.

Neuroendocrinology 27: 39-45, 1978

30. Suppression of the luteinizing hormone releasing effect of luteinizing hormone releasing hormone by arginine-vasotocin
Yamashita, K., Mieno, M. and Yamashita, E.
J. Endocrinol. 81: 103-108, 1979
31. Arginine-vasotocin inhibition of the canine pituitary response to luteinizing hormone releasing hormone
Mieno, M., Yamashita, E., Koba, H. and Iimori, M.
Acta Med. Nagasaki. 25: 29-34, 1980
32. Evidence that danazol inhibits the secretion of 17-oxosteroids by canine testis stimulated with human chorionic gonadotrophin in vivo
Yamashita, E., Koba, H., Iimori, M. and Mieno, M.
IRCS Med. Sci. 8: 222-223, 1980
33. Combined effects of melatonin and arginine-vasotocin on the canine pituitary response to luteinizing hormone releasing hormone
Mieno, M., Yamashita, E., Koba, H., Iimori, M. and Yamashita, K.
IRCS Med. Sci. 8: 458-459, 1980
34. Melatonin and arginine-vasotocin inhibition on the action of luteinizing hormone releasing hormone in the release of luteinizing hormone
Yamashita, E. and Mieno, M.
IRCS Med. Sci. 8: 652-653, 1980
35. Suppression of the luteinizing hormone releasing effect of luteinizing hormone releasing hormone by arginine-vasotocin in immature male dogs
Yamashita, K., Mieno, M. and Yamashita, E.
J. Endocrinol. 84: 449-452, 1980
36. Effect of 5-methoxytryptophol on the action of luteinizing hormone releasing hormone in the release of luteinizing hormone and its competition with melatonin
Mieno, M., Ogawa, E., Tanaka, R., Iimori, M. and Yamashita, K.
IRCS Med. Sci. 9: 87-88, 1981
37. Pineal factors and gonadotrophin secretion
Yamashita, K.
Jikeikai Med. J. 28 (Suppl. 1): 71-74, 1981

現 有 機 器

* : 共同利用可

[異常代謝部門：原研異常]

分析用超遠心機*
分離用超遠心機
高速冷却遠心機
大容量冷却遠心機
微量高速冷却遠心機
高速液体クロマトグラフ
自記分光光度計
自記蛍光分光光度計
安全キャビネット
凍結乾燥器
多目的自動分析装置*
旋回培養機
コンパレーター
真空蒸着装置
クロマトチャンバー
超低温槽
高圧炉紙電気泳動装置
蛋白質一次構造解析装置*

[放射線生物物理学部門：原研放射]

中性子発生装置*
熱蛍光線量計*
ヒューマンカウンタ*
電離箱*
高圧X線装置*

深部治療X線装置*
ラドコン線量計*
半導体 γ 線スペクトロメータ*
速中性子用線量計線量読取装置*
フロアモニタ
トリチウムガスモニタ
炭酸ガス培養器
パーソナルコンピュータ
顕微鏡写真撮影装置

[病態生理学部門：原研病理]

恒温水槽
ユング型ミクロトーム
包埋センター
パラフィン包埋試料作製装置
樹脂包埋試料作製装置
高速液体クロマトグラフィー
オートサンプラー
小動物血圧測定装置
クリオスタット*
電顕用ミクロトーム*
マイクロプロジェクター*
エックス線発生装置ソフテックス*
落射蛍光装置

[後障害治療部門：原研内科]

フリーザー
コリサグラフ
サイトスピン
コンピューター
電気泳動装置
ダブルビーム分光光度計
自動血球機

[先天異常部門：原研遺伝]

クリーンベンチ
炭酸ガスインキュベーター
透過型暗視野蛍光顕微鏡
培養顕微鏡
接写装置
自動洗浄機*
乾燥型フォトリンター
オートクレープ
乾熱滅菌機
電気天秤
メトラー電気秤
PHメーター
分光光度計
デンスシトメーター
トーマス振盪培養器
高速冷却遠心機
真空オープン
ドラフト
引伸器
電気低温器
製氷機*
電気泳動パワーサプライ
ディープフリーザー縦型

フリーザー縦型
振盪型ウォーターバス
エッペンドルフ遠心器
トランスイルミネーター
ポラロイド接写装置
ローテーター
ポリシーラー
パルスフィールド電気泳動装置
NEC 9801 コンピューター*
プリンター
タイプライター
プリント自動乾燥器（RCペーパー用）
ホモジナイザー
空調装置*
真空ポンプ
器具乾燥器
液体窒素容器

職 員 録

[歴代施設長]

昭和 38 年 9 月 16 日 ～ 41 年 11 月 18 日	後 藤 敏 郎
昭和 41 年 11 月 18 日 ～ 43 年 11 月 30 日	三 谷 靖
昭和 43 年 12 月 1 日 ～ 45 年 11 月 30 日	朝 長 正 允
昭和 45 年 12 月 1 日 ～ 47 年 11 月 30 日	岡 島 俊 三
昭和 47 年 12 月 1 日 ～ 49 年 11 月 30 日	西 森 一 正
昭和 49 年 12 月 1 日 ～ 51 年 11 月 30 日	小 池 正 彦
昭和 51 年 12 月 1 日 ～ 53 年 11 月 30 日	塩 見 敏 男
昭和 53 年 12 月 1 日 ～ 55 年 11 月 30 日	山 下 一 邦
昭和 55 年 12 月 1 日 ～ 57 年 11 月 30 日	市 丸 道 人
昭和 57 年 12 月 1 日 ～ 60 年 3 月 31 日	岡 島 俊 三
昭和 60 年 4 月 1 日 ～ 61 年 3 月 31 日	西 森 一 正
昭和 61 年 4 月 1 日 ～	市 丸 道 人

[異常代謝部門：原研異常]

(現職者)

小 池 正 彦	37. 8 ～	教 授
小 池 吉 子	49. 6 ～ 54. 9	助 手
	54. 10 ～ 59. 12	講 師
	60. 1 ～	助教授
浦 田 芳 重	61. 4 ～	助 手
中 尾 澄 子	42. 4 ～ 44. 5	研究補助員
	44. 6 ～	技 官
椎 木 真理子	60. 4 ～	技能補佐員

(退職・転出者)

早 川 太 郎	38. 4 ～ 46. 9	助手・講師・助教授
平 島 正 泰	38. 3 ～ 45. 3	助 手

福 吉 征 子	43. 4 ~ 44. 9	助 手
小笠原 京 子	46. 1 ~ 50. 12	助 手
濱 田 稔	42. 4 ~ 53. 2	助手・講師・助教授
平 岡 忠 和	52. 4 ~ 55. 7	助 手
竹之内 英 一	56. 3 ~ 57. 1	助 手
辻 明 彦	57. 4 ~ 60. 9	助 手
森 安 真津子	58. 4 ~ 61. 3	助 手
柳 田 豊	61. 6 ~ 62. 7	助 手

(大学院生)

一 瀬 宏	井 手 聰	浦 田 芳 重
大 塚 欽 一	岡 部 桂一郎	神 崎 保
小 池 吉 子	桜 井 征 彦	田 中 信 行
田 辺 雋 一	中 浦 優	濱 田 稔
林 日出喜	平 岡 忠 和	牟 田 博 夫

[放射線生物物理学部門：原研放射]

(現職者)

奥 村 寛	51. 4 ~ 60. 12	助教授
	61. 1 ~	教 授
小 松 賢 志	62. 4 ~	講 師
熱 田 襄	39. 4 ~	助 手
児 玉 靖 司	62. 4 ~	助 手
吉 田 正 博	48. 1 ~ 48. 11	研究補助員
	48. 12 ~	技 官
島 崎 達 也	55. 4 ~	技 官
野 口 三規子	46. 5 ~ 50. 9	研究補助員
	50. 10 ~	技 官
齋 玉 玲	63. 4 ~	大学院生

(退職・転出者)

岡 島 俊 三	38. 9 ~ 60. 3	教 授
青 山 喬	43. 6 ~ 50. 3	助教授
大河原 重 之	39. 1 ~ 42. 10	講 師

法 村 俊 之	43. 4 ~ 54. 3	講 師
異 純 子	54. 4 ~ 62. 3	助 手
高 尾 秀 明	57. 4 ~ 61. 2	助 手

(大学院生)

西 森 久 晋 (旧姓: 鄭 添銓)	榎 本 義 雄
張 金 山	

[病態生理学部門: 原研病理]

(現職者)

関 根 一 郎	50. 10 ~ 54. 1	助 手
	54. 2 ~ 55. 2	講 師
	55. 3 ~ 62. 2	助教授
	62. 3 ~	教 授
七 條 和 子	55. 9 ~	助 手
伊 東 正 博	61. 2 ~ 63. 7	助 手
	63. 7 ~	助教授
川 瀬 義 久	63. 4 ~	助 手
松 本 浩 二	58. 4 ~	大学院生
宿 輪 三 郎	62. 4 ~	大学院生
許 朝 添	63. 4 ~	大学院生
川 田 敏 幸	50. 3 ~	解剖補手
田 口 寿美子	43. 7 ~ 44. 7	研究補助員
	44. 8 ~	技 官
長 石 祐加子	53. 9 ~	研究補助員
深 浦 睦 子	60. 9 ~	研究補助員
深 堀 恭 子	63. 3 ~	研究補助員
松 尾 充	63. 3 ~	研究補助員

(退職・転出者)

西 森 一 正	39. 8 ~ 61. 4	教 授
重 松 授	40. 1 ~ 43. 12	助教授
津 田 暢 夫	40. 4 ~ 54. 1	助教授
松 井 道	40. 4 ~ 44. 8	講 師

藤井秀治	45. 8 ~ 46. 3	講師
宮崎純一	50. 4 ~ 55. 5	講師
早川 滉	40. 4 ~ 42. 3	助手
安田真美	40.11 ~ 45.12	助手
城間盛光	46. 4 ~ 51. 9	助手
深沢俊裕	46. 4 ~ 51. 3	助手
高木敏博	52. 4 ~ 57. 9	助手
高平良二	53. 4 ~ 58. 5	助手
高木芳秀	54. 6 ~ 60. 5	助手
本田 実	56. 4 ~ 63. 3	助手
吉川留美	59. 4 ~ 60. 3	助手
角 千代	60. 4 ~ 61. 4	研究生

(大学院生)

阿保守邦	樋口一郎(故)	木下 勝
中口規彦	下村 旭	岸川正大
森山信男	富田伸一	宮川尚孝
母里正敏	荒木 潤	滝口健郎
清水和宏	新海清人	大井順二

[後障害治療部門：原研内科]

(現職者)

市丸道人	40. 9 ~ 47. 3	助教授
	47. 3 ~	教授
朝長万左男	44. 7 ~ 52. 3	助手
	52. 4 ~ 61. 9	講師
	61.10 ~	助教授
貞森直樹	46.10 ~ 59.12	助手
	60. 1 ~	講師
池田柊一	53.10 ~	助手
栗山一孝	54. 6 ~	助手
山田恭暉	56. 4 ~	助手
雨森龍彦	55.11 ~	助手

吉 田 善 春	57. 7 ～	助 手
陣 内 逸 郎	57. 3 ～	助 手
上 平 憲	51. 7 ～ 60. 3	助 手
	60. 4 ～	輸血部講師
早 田 央	55. 4 ～	医 員
前 田 隆 浩	60. 4 ～	医 員
宮 崎 泰 司	61. 4 ～	研修医
長 井 一 浩	61. 4 ～	研修医
村 田 健	61. 4 ～	研修医
徳 永 清 治	61. 4 ～	研修医
柳 迫 隆 夫	62. 4 ～	研修医
佐 藤 智 子	62. 4 ～	研修医
伊 藤 一	61. 4 ～	大学院生（第一病理）
尼 崎 辰 彦	52. 4 ～	米国留学中
松 尾 辰 樹	52. 4 ～	米国留学中
本 村 祐 子	43. 1 ～	技 官
(出向者)		
樅 田 三 郎	62. 3 ～	八幡市民病院 (54. 4 入局)
重 橋 亨	63. 4 ～	聖フランシスコ病院 (54. 4 入局)
野 中 博 章	63. 4 ～	織田病院 (54. 4 入局)
田 川 真須子	60. 4 ～	長崎市民病院 (48. 5 入局)
鳥 谷 和 洋	62. 12 ～	成人病センター (55. 4 入局)
中 村 秀 男	63. 2 ～	島原温泉病院 (55. 4 入局)
草 野 みゆき	57. 10 ～	佐世保市立総合病院 (49. 6 入局)
崎 谷 満	62. 12 ～	有明保養院 (56. 4 入局)
親 川 幸 信	63. 4 ～	長崎労災病院 (48. 5 入局)
森 内 幸 美	61. 6 ～	五島中央病院 (58. 4 入局)

笹 川 一 平	62. 1 ~	佐世保市立総合病院 (58. 10 入局)
跡 上 直	62. 8 ~	大村市立病院 (59. 4 入局)
塚 崎 邦 弘	63. 1 ~	原爆病院 (59. 4 入局)
糸 山 貴 浩	63. 2 ~	塚崎病院 (59. 4 入局)
河 野 友 子	63. 4 ~	聖フランシスコ病院 (59. 4 入局)

(退職者)

朝 長 正 允	40. 8 ~ 46. 7	教 授
井 上 晃	40. 9 ~ 46. 8	助 手
	46. 9 ~ 48. 3	講 師
檀 野 八 郎	40. 11 ~ 41. 10	助 手
	41. 10 ~ 43. 9	講 師
竹 下 菊 雄	43. 6 ~ 44. 12	助 手
岡 部 信 和	42. 10 ~ 50. 3	助 手
木 下 研一郎	41. 4 ~ 45. 4	助 手
	45. 4 ~ 53. 6	講 師
	53. 7 ~ 61. 6	助教授
高 橋 泰	41. 4 ~ 44. 12	助 手
豊 増 省 三	45. 4 ~ 46. 9	助 手
富 安 孝 則	41. 4 ~ 51. 8	助 手・講 師
野 中 美 紀	41. 4 ~ 43. 7	助 手
松 本 吉 弘	45. 6 ~ 46. 8	助 手
川 本 幹 生	43. 5 ~ 44. 12	助 手
玉 利 久二男	42. 4 ~ 49. 3	助 手
古 賀 庸 之	43. 8 ~ 52. 3	助 手・講 師
北 村 勉	47. 12 ~ 60. 3	助 手・輸血部講師
里 見 公 義	44. 12 ~ 45. 8	助 手
武 藤 一 己	48. 4 ~ 50. 4	助 手
千代田 晨	46. 9 ~ 47. 3	助 手
松 永 マサ子	49. 5 ~ 50. 12	助 手
朝 長 優	51. 1 ~ 57. 8	助 手
山 口 博 志	48. 9 ~ 55. 6	助 手

牟田隆也	52. 9 ~ 57. 6	助 手
吉岡 朗	53. 10 ~ 54. 3	助 手
八尾 栄一	61. 9 ~ 62. 12	助 手
西野 健二	60. 4 ~ 61. 9	助 手
名切 彬	43. 8 ~ 49. 4	助 手
高瀬 敬一	43. 8 ~ 49. 9	医 員
森 頼 隆	50. 12 ~ 56. 5	医 員
崎谷 満	56. 6 ~ 62. 11	医 員
柴田 淳治	57. 12 ~ 60. 3	医 員
河原田 正晴	42. 4 ~ 43. 3	研修医
中川 昇 三	55. 6 ~ 55. 11	研修医
長嶺 勝	55. 6 ~ 56. 9	研修医
森川 利 則	56. 6 ~ 57. 5	研修医
豊田 郁 子	58. 6 ~ 60. 3	研修医
山口 剛	50. 4 ~ 59. 3	医 員

[先天異常部門：原研遺伝]

(現職者)

新川 詔 夫	59. 10 ~	教 授
吉川 勲	42. 1 ~	助教授
綾木 歳 一	47. 4 ~	助 手
陣野 吉 廣	60. 4 ~	助 手 (留学中)
松本 正	61. 2 ~	助 手
亀井 勉	60. 4 ~	大学院生
近藤 達 郎	61. 4 ~	大学院生
濱辺 淳 一	62. 4 ~	大学院生
広田 哲 也	63. 4 ~	大学院生
外木 秀 文	62. 4 ~	研究生
阿部 京 子	62. 4 ~	研究生
沖本 声	59. 10 ~	見學員
原田 直 樹	62. 4 ~	見學員
杉野 茂 人	62. 7 ~	見學員
Martin Wapenaar	63. 1 ~	客員研究員
森 祥 子	41. 11 ~	技 官

(退職・転出者)

塩 見 敏 男	41. 8 ~ 58. 6	教 授
大 木 圭 一	43. 5 ~ 47. 3	助 手
松 村 利 昭	47. 4 ~ 54. 3	助 手

(大学院生)

河原田 正 晴

[発症予防部門：原研生理、原研免疫]

(現職者)

三重野 政 広	46. 4 ~	助 手
草 野 安 子	61. 12 ~	技 官

(退職・転出者)

山 下 一 邦	43. 2 ~ 57. 4	教 授 (逝去)
清 水 武	44. 2 ~ 53. 4	助教授
小 川 英理子	52. 4 ~ 57. 7	助 手
川 尾 邦 彦	43. 2 ~ 61. 12	技 官
藤 田 ヤス子	43. 4 ~ 61. 12	技 官
飯 盛 光 朗	46. 2 ~ 60. 3	研究生
古 場 久 代	44. 4 ~ 48. 3	研究生

(医学部腫瘍医学講座へ配置換)

珠 玖 洋	59. 7 ~ 61. 10	教 授
中 山 睿 一	60. 7 ~ 61. 10	助教授
山 田 恭 暉	61. 9 ~ 61. 10	助 手

(大学院生)

中宗根 恵 俊	天 野 彰 夫	早 田 義 典
野 口 雄 司	鵜 殿 平一郎	柴 田 龍二郎
鈴 木 治 彦		

長崎大学原研創設 25 周年記念誌

1989年2月1日

発行者：長 崎 大 学 医 学 部
原爆後障害医療研究施設
〒852 長崎市坂本町 12 - 4

印刷所：ニ シ キ 印 刷 株 式 会 社
〒852 長崎市平和町 12 - 10
